

大正四年四月十七日印刷
大正四年四月二十日發行

日本害蟲全書（後篇）

定價金貳圓

著者 松村松年

發行者 東京市日本橋區鐵砲町三番地 合資會社 六盟館

右代表者 杉本七百丸

印刷者 東京市京橋區西紺屋町廿七番地 佐久間衡治

發行所 東京市日本橋區鐵砲町三番地 電話特長浪花二七六四番 振替口座東京一二五五〇番 合資會社 六盟館

特約大阪販賣所 大阪市南區心齋橋筋一丁目 電話長南九番 振替口座大阪四三二番 松村文海堂

印刷所 東京市京橋區西紺屋町 株式會社秀英舍

害蟲學名索引

A

D

E

F

G

H

I

J

L

M

R

S

T

U

V

X

Y

Z

和 名 索 引

A

B

I

J

K

L

M

N

O

P

R

S

T

U

W

Y

被害物索引

Akamatsu　あかまつ

Akayezo　あかえぞ

Ai　藍

Akaza　藜

Ama　亞麻

Anzu 杏

Aoi 葵

Aoimo 青芋

Asa 大麻

Asagao 朝顏

Awa 粟

Azami 薊

Azuki 小豆

Bara 薔薇

Biwa 枇杷

Bōfū 防風

Boke 木瓜

Bokusō 牧草

Botan 牡丹

Budō 葡萄

Buna 椈

Buta 豚

Cha 茶

Chisha 萵苣

Chojanoki ちやうじやのき

Choma 苧麻

Chubō-no-chozōhin 厨房ノ貯藏品

Daikon 蘿蔔

Daizu 大豆

Dōbutsu-hyōhon 動物標本

Doro 白楊

Embaku 燕麥

Endō 豌豆

Aphis rumicis L. まめのあぶらむし……………………………… 107 (前)
Mamestra brassicae L. よとうが……………………………… 267 (前)
Mylabris (Bruchus) chinensis L. まめざう ……………………… 188
Mylabris dorsalis F. おほまめざう ……………………………… 189
Gryllodes mitratus Burm. えんまこほろぎ……………………… 86 (前)

Enoki 榎

Diagora (Hestina) japonica Feld. ごまだらてふ ……………………… 29
Lybithea celtis Laich. var. lapita Moor. てんぐてふ ……………… 15
Sasakia (Euripus) charonda Hew. おほむらさき ………………… 27

Fuji 藤

Cifusa locuples Wk. まめどくが ……………………………… 312 (前)
Curetis acuta Moor. うらぎんしゞみ……………………………… 5
Lymantria dispar L. まいまいが……………………………… 300 (前)
Phytodecta rubri; ennis Baly. ふじはむし ……………………… 112

Fujimame 藊

Alucita (Aciptilia) vilis Butl. まだらとりば ……………………… 181 (前)
Lampides boeticus L. うらなみしゞみ……………………………… 3

Fuki 蕗

Eumolpus vitis F. ぶだうさるはむし ……………………………… 117

Fusa-suguri 房須具利

Arctia caja L. ひとりが ……………………………………… 223 (前)
Orgyia gonostigma F. あかもんどくが……………………………… 313 (前)
Orgyia thyellina Butl. しろもんどくが ……………………………… 315 (前)

Fūran ふうらん

Fuyō 芙蓉

Gachō 鵞

Gama 香蒲

Gobō 午蒡

Goma 胡麻

Hachi-mitsu 蜂蜜

Hagi 萩

Haimatsu はいまつ

Hakka 薄荷

Hakuchō 鵠

Han-no-ki 赤楊

Hashibami はしばみ

Haze 櫨

Hashira 柱

Hato 鳩

Hinoki 檜

Hirumo 蛭藻

Hirugao 旋花

Hitsuji 羊

Hiye 稗

Hoshigashi 干菓子

Hoshika 干鰯

Hōzuki 酸漿

Ichigo 苺

Ichii いちゐ

Ichijiku 無花果

Ine 稲

Ingen いんげん

Inu 犬

Irui 衣類

Itaya 楓

Jaga-imo 馬鈴薯

Jinchiku 人畜

Jimma 蕁麻

Jūjika-shokubutsu 十字科植物

Kaba 樺

Kabura 蕪菁

Kaidō 海棠

Kaede 械

Kaiko 蠶兒

Kaki 柿

Kakin　家禽

Kanamugura　葎草

Kankitsu　柑橘

Kanraku 乾酪

Kanran 甘藍

Kansai 甜菜

Kansho 甘蔗

Karasu-bishaku からすびしやく

Kajitsu 果實

Kashi 血櫧

Kashiwa 槲

Katsuo-bushi 鰹節

Kara-matsu 唐松

Katsura 桂

Kaya 萱

Kegawa 毛皮

Keyaki 欅

Kihada 黃蘗木

Kiku 菊

Kiuri 胡瓜

Kobushi 辛夷

Kofii　珈琲(豆)

Kogomebana　珍珠花

Koku-fun　穀粉

Kokurui　穀類

Kokutoka-shokubutsu　殼斗植物

Kōma　黄麻

Konara　枹

Konchū-hyōhon　昆蟲標本

Ko-ume 小梅

Kōzo 楮

Kōji 糀

Kunogi 櫟

Kuri 栗

Kurumi 胡桃

Kusagi くさぎ

Kusu 樟

Kuwa 桑

Kwashi 菓子

Marumero 榲桲

Matsu 松

Minebari みねばり

Miso 味噌

Mizuki みづき

Mokusei 木犀

Mokushuku 苜蓿

Mokuge 槿

Mokuzai 木材

Momi 樅

Momo 桃

Mōsen 毛氈

Mugi 麥

Mugiko 麥粉

Nanakamado ななかまど

Nara 楢

Nashi 梨

Nasu 茄子

Natamame 刀豆

Natane 蕓薹

Natsume 棗

Negi 葱

Neko 猫

Nemunoki 合歡

Nezumi 鼠

Nikurui 肉類

Ninjin 胡蘿蔔

Nindō 忍冬

Nire 楡

Niwatori 鷄

Nōdo 農土

Rakuyosho 落葉松

Rikutō 陸稻

Ran 蘭

Ringo 苹樹

Rō 臘

Roba　驢馬

Rozuku　蘆粟

Saitō　菜豆

Sake　酒

Sakura　櫻

Sakusan 柞蠶

Sanken 蠶繭

Sanzashi さんざし (山樝)

Saru 猿

Satō 砂糖

Satoimo 里芋

Satsumaimo 甘藷

Sawashiba 鵝耳櫪

Sen 刺楸 (一名はりぎり)

Monochammus luxuriosus Bat. せのんかみきり 143

Sen-i-shokubutsu 纖維植物

Arcte coerulea Gn. ふくらすゞめ .... 248 (前)
Pyrameis cardui L. ひめたてば.. 26
Pyrameis indica Herbst. あかたてば 24

Sendan せんだん

Melanauster chinensis Först. くはごまだらかみきり 150

Shakuyaku 芍藥

Megachile japonica Mats. しろをびひめはきりばち 304

Shasō 莎草

Plusia festuca L. いねきんうはば.. 250 (前)

Shibō 脂肪

Aglossa dimidiata Haw. こめのしまめいが................................... 197 (前)
Herculia glaucinalis L. ふたすぢしまめいが .... 195 (前)
Pyralis farinalis L. かしのしまめいが..................................... 196 (前)

Shidekobushi しでこぶし

Scolytoplatypus shogun Blandf. しようぐんこしんくひ 183

Shii 椎

Shina 榛

Shirakaba 白樺

Shōbu 菖蒲

Shōga 生姜

Shokubutsu-hyohon 植物標本

Shokumotsu 食物

Shoseki 書籍

Shōyū 醬油

Shushi 種子

Shiuri しうり

Soba 蕎麥

Soramame 蠶豆

Sosai 蔬菜

Sugi 杉

Suguri すぐり

Suikwa 西瓜

Sumomo 李

Tabako 烟草

Take 竹

Tamanegi 玉葱

Taruki 椽

Teoshinto てをしんと

Todomatsu とどまつ

Tōkwa-shokubutsu 荳科植物

Tōhi たうひ

Tōmorokoshi 玉蜀黍

Tōnasu 南瓜

Tsubaki 椿

Tsuge つげ

Tsutsuji 躑躅

Uma 馬

Ume 梅

Uikyō 茴香

Uri 瓜

Urushi 漆

Ushi 牛

Utsugi うつぎ

Wata 棉

Yachidamo やちだも

Yamanarashi やまならし

Yanagi 柳

Yōgyo 幼魚

Yezo-hagi えぞはぎ

Yezo-matsu えぞまつ

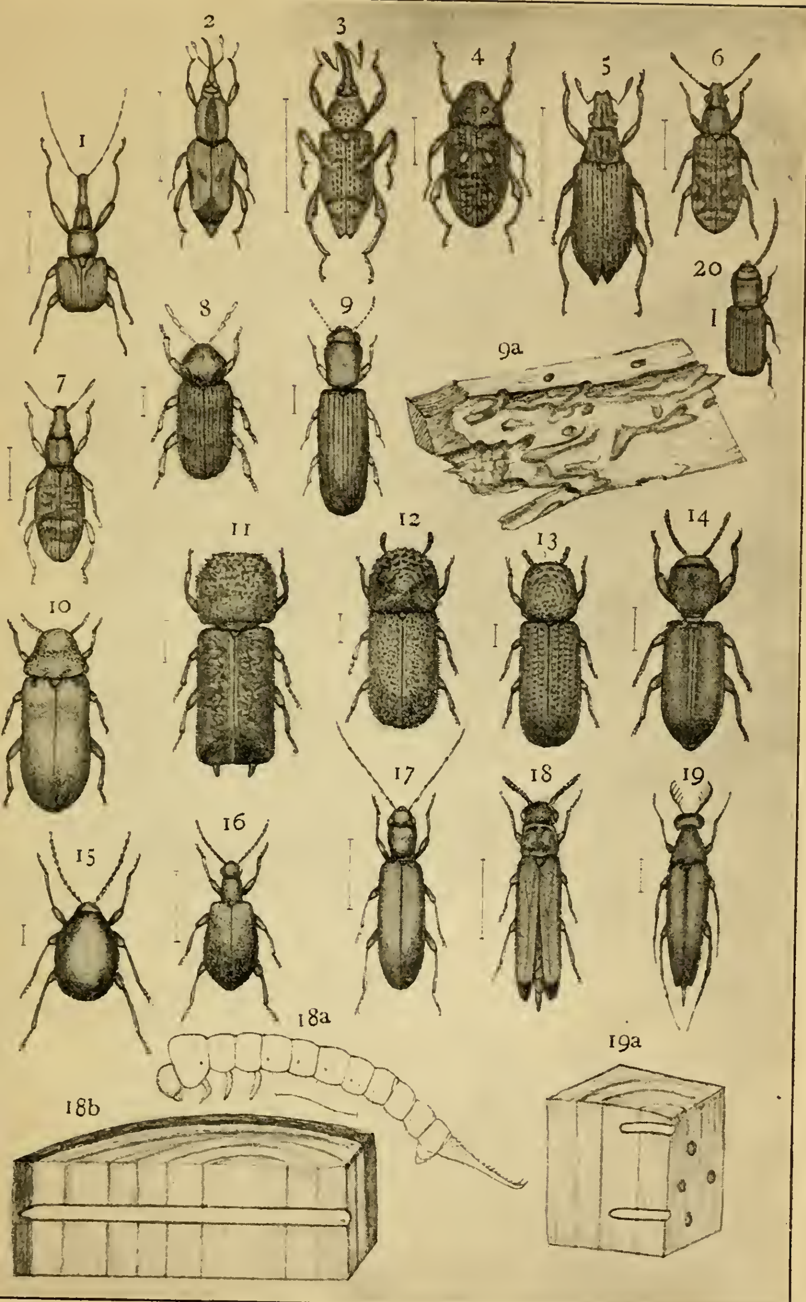
Yōgwashi 洋菓子

Yuzuriha 交譲木

大日本害蟲全書後編終

圃を設け之に集來するものを網にて捕ふべし、椽には石灰若くは「ペンキ」を塗り置くを可とす、但し豫め昇汞を五十倍の水に溶解したるものを塗り然る後「ペンキ」を塗抹すれば更に一層の効あり。

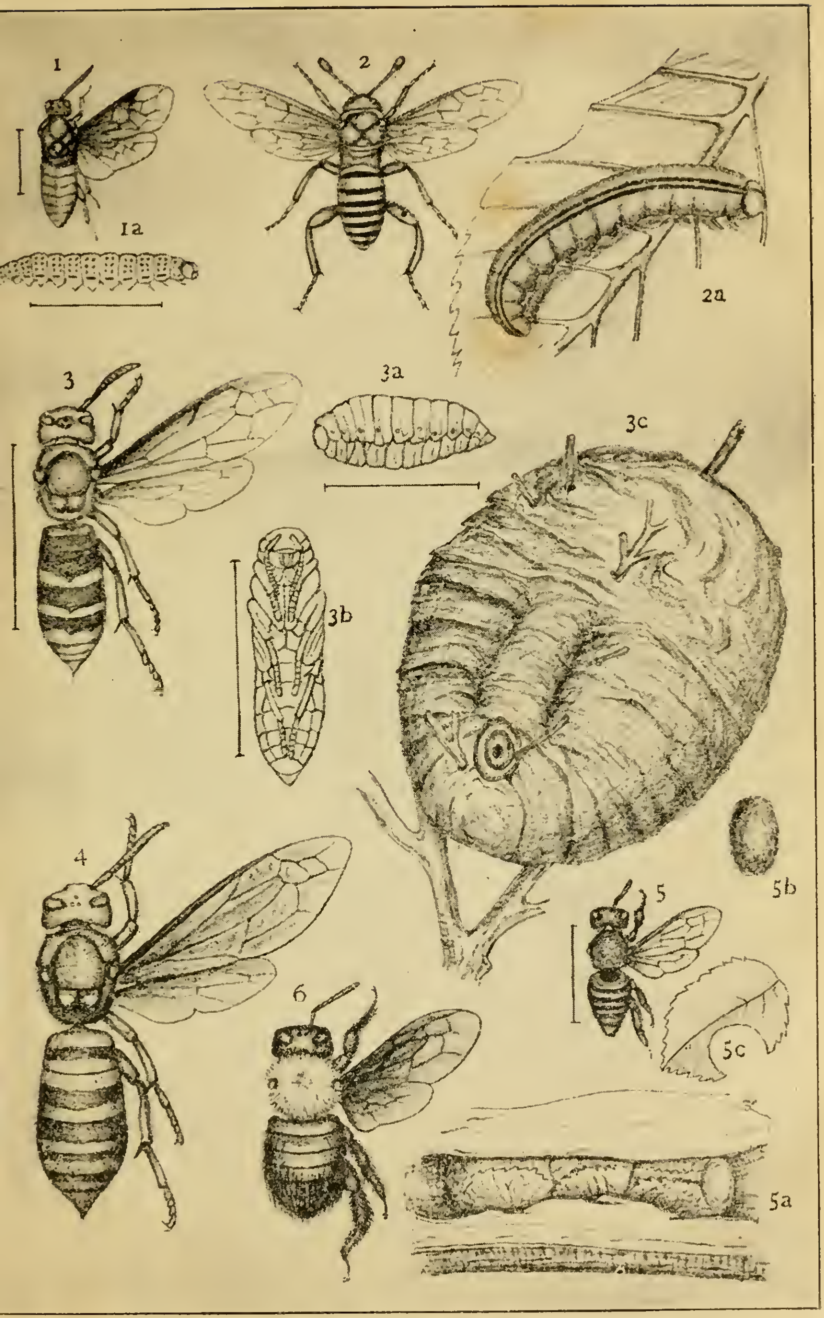
第貳拾八圖



第 貳 拾 八 圖

1. Phialodes rufipennis Roel. あしながざうむし (P. 219)
2. Sphenophorus maculatus Mats. をがさはらざうむし (P. 222)
3. Hylobius macilentus Rohm. くすあなあきざうむし (P. 222)
4. Cryptorrhynchus insidiosus Roel. まつのしらほしざうむし (P. 209)
5. Atmetonychus peregrinus Oliv くすざうむし (P. 221)
6. Polydiusus pini M..ts. まつのとびざうむし (P. 218)
7. Amystax fasciatus Roel. しらふへうたんざうむし (P. 223)
8. Ptilinus marmoratus Reitt. けまだらしばんむし (P. 236)
9. Bothrideres elongatus Mats. ながほそかたむし (P. 270)
   a. 被害ノ有様
10. Ernobius abieti F. もみのしばんむし (P. 238)
11. Sinoxylon japonicum Lesne. ふたつのながしんくひ (P. 185)
12. Dinoderus japonicus Lesne. たけのながしんくひ (P. 184)
13. Rhyzopertha dominica F. むぎながしんくひ (P. 186)
14. Metademius tabacci Mats. たばこかつかうむし (P. 234)
15. Gibbium scotias F. せまるへうほんむし (P. 241)
16. Lagria rubiginea Fairm. おほはむしだまし (P. 229)
17. Xanthochroa ogasawarensis Mats. をがさはらかみきりもどき (P. 227)
18. Hylocoetes cossis Lew. つまぐろつゝしんくひ (P. 235)
   a. 幼蟲　*b.* 被害ノ狀況
19. Pelecotomides japonicum Pic. きくひおほはなのみ (P. 226)
   a. 被害ノ狀況
20. Laemophloeus ferrugineus Steph. かくむねひらたむし (P. 266)

第貳拾七圖



第貳拾七圖

1. Hylotoma (Arge) pagana Panz. ちうれんぢはばち (P. 291)
   a. 幼蟲
2. Cimbex nomurae Marl. なしあしぶとはばち (P. 291)
   a. 幼蟲
3. Vespa crabro L. var. crabroniformis Sm. もんすゞめばち (P. 297)
   a. 幼蟲 b. 蛹 c. 巢
4. Vespa mandarina Sm. すゞめばち (P. 298)
5. Megachile japonica Mats. しろをびひめはきりばち (P. 301)
   a. 幼蟲ノ巢繭 b. 繭 c. 被害葉
6. Xylocopa circumvolans Sm. くまばち (P. 305)

し黑褐色なり、雄にては額狹く、額片は黃色、體長七分乃至八分。

五月乃至八月頃に現はれ何れの花にも普通なれども殊に藤の花に多きを見る、此ものゝ元來は花粉の媒介をなすを以て農家に有益なるが、家屋に入り來り檐下に橫へある椽に圓孔を穿ち、之に花粉・花蜜等を貯へ幼蟲を養ふを以て有害なり、時に桃其他の立木に營巣することもあり。

(六)をきなはくまばち Xylocopa fenestrata F.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども全體黑色にして橙黃毛を有せず、觸角柄節の下面も亦黃色を呈せず、翅は黑紫色にして一層光澤多し、體長七分乃至七分五厘。

(七)たいわんくまばち Xylocopa auripennis St. Farg.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども形細長、翅は黑紫色なれども光線の工合にて金光の色澤を現はす、腹部は長楕圓形、體長七分乃至八分。

一般の驅除豫防法 椽の孔に入れるものには竹竿に鳥黐を塗抹して捕へ、又花

黄褐毛を密生し第五及び第六腹節には黑毛を裝ふ、跗節には黄褐毛あり、體長三分乃至四分五厘。

此は前種より遙かに小形なる種類にして東北地方には普通なり、同じく薔薇の葉を圓形に切取り有害なり。

一般の驅除豫防法　花圃を造りて之に誘引し、或は時々薔薇園を巡視して其飛び來るを待ち網を以て捕殺し、又は巣を搜索して其幼蟲を殺すべし、若し孔深きときは之に石油若くは酢を灌注すべし、但し蜜蜂科に屬するを以て時に花粉の媒介をなし有益なることあり、されば薔薇園を有せざるものには無害なるを以て寧ろ之を放置すべし、嘗て窠に供せられたる孔は石膏若くは漆喰にて閉塞するを要す。

(五)、くまばち　*Xylocopa circumvolans* Sm.（第二十七圖6）

被害物　家屋の柱、椽(タルキ)其他。

特徵　成蟲　體、雌は黑色、顏には黑色の短毛を密生す、複眼は灰黄、觸角柄節の下方は黄色、胸背に橙黄色の軟毛を密生す、翅は黑色、少しく紫藍色を帶び、半透明、腹部は短楕圓、黑毛を尾端に密生す、脚は黑毛を密生す、跗節端は黄褐爪は二分

色、半透明、翅の三分の一白色、體長三分乃至五分。

沖繩及び臺灣地方に普通なれども本邦にては未だ之を捕獲したることなし、

成蟲は前種の如く薔薇其他植物の葉を圓形に切り取りて加害す。

(三)、をきなははきりばち Megachile penetrata Sm.

被害植物 同前。

特徴 體は黃褐、額には金色の短毛を密生す、胸部には黃褐の短毛を密生し、後胸には金色の長毛あり、翅は半透明、翅端は暗色、中央は少しく暗色を帶び、翅底は少しく黃色を帶ぶ、腹部は楕圓形、第一乃至第四腹節に各一條の黃褐毛帶を裝ふ、腹面には二條の黃帶あり、脚は黃色、脛節の上面及び後腿節は暗褐、職蜂にては脚の全部暗褐、體長三分五厘乃至五分五厘。

前種に同じく沖繩及び臺灣に普通なり。

(四)、しろおびひめはきりばち Megachile japonica Mats.（第二十七圖5）

被害植物 同前（但し梨・芍藥・牡丹の葉をも切ることあり）。

特徴 體は黑色、顏の兩側及び胸背の周緣に光澤ある黃白毛を裝ひ、體下には灰白毛を密生す、各腹部には灰白毛帶を具へ、何れも中央にて判然せず、腹面には

は少しく長し、翅は半透明、黄褐、末端の三分の一は暗色を帶ぶ、腹部は稍〻楕圓形を呈し、第二及び第三節の前緣には深き縱溝を裝ひ、其後方の部分には粗大の點刻多し、第一節の兩側には褐色毛密生す、第二及び第三節の後緣の兩側には白毛を裝ひ、腹面には天鵞絨樣の黑毛を密生す、但し初めの三節には褐毛を混ず、脚は黑褐にして短大、體長六分五厘乃至七分。

經過　未だ判然せざるも成蟲は八月上旬より現はれ、薔薇の葉を圓形に切りて大害を加ふ、又豫め栗の樹幹に長孔を穿ちて其切り取りたる葉を其內に藏めて圓形の巢を造り、更に其內に花粉・花蜜等を貯へ、後一粒づゝ卵子を產下す、幼蟲は翌年六七月頃に至りて繭を作りて蛹化し次で八月羽化す、幼蟲は淡黃綠にして體長一寸四五分あり、繭は灰褐にして圓筒形、一端は圓形、他端は平坦なり、常に數個其端を接して相集合す。

(二)、ねじろはきりばち　Megachile thoracica Sm.

被害植物　同前。

特徵　成蟲　體は黑色、顏には黑色と褐色の兩毛あり、後胸の後側、第一腹節及び第二腹節の兩側には白毛を密生し、體下には光澤ある黃白毛を密生す、翅は黑

害を加ふることあり、新らしき昆蟲標本を食害する所より推察せば、必ず自然に於て害蟲を捕食するもの少からざるべし。

一般の驅除豫防法　窠を求めて燒棄すべし、晝間は危險なれば夜間網中に窠を切り落すべし、又夜間袋を以て窠を被捕するも可なり、果樹園には透明なる壜に糖液・酒若くは醋を混じたるものを容れ樹下に垂下し置くべし、然らば蜂は其内に入りて再び出づること能はざるに至るべし(前編37頁を見よ)又糖液を樹間に塗抹し置き之に誘引せらるゝ蜂を網にて捕ふべし、又果實を害する場合には袋掛を行ひ、之を捕ふるには竹竿に鳥黐を附し之に附着せしむべし。

蜜蜂科　Apidae.

(一)、おほはきりばち　Megachile dörderleini Fries.

被害植物　薔薇栗。

特徵　成蟲　體は黑色、額は大にして稍々水平に前方に向ひ、額片の前方は截斷状に終る、大腮は大にして三角形に近く、末端は尖り、其下方に一齒あり、顏は天鵞絨樣の短毛を密生す、前胸は褐色、同色の短毛を密生す、但し後胸背にあるもの

被害植物　同前。

特徴　成蟲　體は黑色、複眼間の三紋・額片（中央の縱紋を除き）・觸角・柄節の下方・複眼の後方・前胸背の後緣及び中央の兩側にある弓狀紋・稜狀部の四紋・胸側片の二紋・各腹節の後緣・腿節端・脛節並に跗節は黃色、翅は半透明にして暗色を帶ぶ、各腹節の黃色帶の前緣には三個の凹所あり（但し第一節には一個の凹所あり）、體長五分五厘乃至六分五厘。

膜翅目

（八）、くろすゞめばち Vespa japonica Sauss.

被害植物　同前、但し室內に入り來り砂糖を食することあり、又新鮮なる昆蟲標本を食害することあり。

特徴　成蟲　體は黑色、雌にありては觸角の基部・額片（中央の矢根樣の黑紋を除き）大腮・複眼の後方・前胸背の後緣・稜狀部の四紋・各腹節の後緣・胸側片の三紋、腿節の末端・脛部の上方並に跗節は黃白、腹面の第二及び第三節に各三個の凹所あり、翅は半透明、暗黃色を帶ぶ、雄は雌よりも遙かに細形、紋は凡て小形もしくは細し、體長五分乃至七分。

窠は土中にあるを以て一に之を地蜂と云ふ、夏日砂糖商の家屋に入り來り大

側に稍〻半圓形に刳られたる二凹所あり、職蜂に限り第三腹節後緣の黃色なるものあり、體長雌雄七分五厘乃至一寸一分、稀に九州地方に產することあれども、臺灣には普通なり、尙之に酷似せる一變種にして沖繩地方に普通なるものあり、var. pulchra Buy. と云ひ、第一腹節の中央に細き黑褐帶ありてこれは中央にて接續せず、第二腹節には黑帶を缺き、前緣の半部は暗黃、第三節の後緣は黃色なり。

（六）ひめもんすゞめばち Vespa mongolica André.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は黑褐、複眼間の三紋及び其後方・顏・大腮・前胸の後緣・稜狀部の四紋・初めの三腹節の後緣・脛節並に蹠節の大部は黃色、前胸後緣の橫線に沿うて赤褐の一紋あり、翅は透明にして黃褐を帶ぶ、第二腹節の後緣にある黃色帶の前緣に三凹所あり、第三節には二黑紋を裝ひ、其中間の黑色部は三角形をなして突出す、第四節には三黑紋あり、第五節には褐色の二紋あり、第六節は黃色、體長六分五厘乃至七分、窠は楕圓形、灰色、紙樣の物質より成り普通樹間にあり。

（七）きおびくろすゞめばち Vespa sibirica André.

の中央に細き縱溝を裝ふ、翅底鱗は暗黃色、翅は脈と共に黃褐色、半透明、前緣脈及び副前緣脈は黑褐色、腹部は黑褐色、第一及び第二腹部の中央並に後緣に各一黃帶を裝ひ、何れも前緣にあるものは短くして兩側に達せず、第三・第四及び第五節の後緣並に第六節は黃色にして黃褐及び暗褐の兩毛を粗生す、脚は黑褐色、腿節及び脛節の末端並に跗節には赤褐の軟毛を密生す、雄は遙かに小形にして、前胸及び稜狀部の中央は黃色、體長雌雄一寸一分乃至一寸四分、此も亦前種に同じく何れの地にも普通にして本邦最大の胡蜂なり、窠は大にして段階より成り、枯木の空洞若くは地中にあり、果樹の外人畜に害あるのみならず、時に蜜蜂をも食して有害なり。

(五)ひめすゞめばち　*Vespa ducalis* Sm.

被害植物　同前。

特徵　成蟲　體は黑褐色、頭・前胸・稜狀部及び第一並に第二腹節は黃色、頭片は稍ゝ五角形を呈し、前緣は淺く弓狀に刳らる、觸角は暗褐色、柄節は黃色、翅は前種に同じく、第一及び第二腹節の中央に各一條の黑褐帶あり、第三・第四・第五及び第六節は黑褐、脚は黃褐、基節は黑褐、第二腹面節の後緣は黃色にして其前緣の兩

(三)こがたのすゞめばち Vespa parallela André.
Vespa japonica Sm. (nec Sauss); Vespa insularis. D. T.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は黑褐色、頭は橙黄色、額片の前緣は弓狀に刳られ、其中央に一小齒を裝ふ、觸角暗褐色、柄節及び鞭節の下方は黄色、前胸の前緣は細くして黄色、翅透明、黄色、脈は濃黄、前緣脈及び副前緣脈(基部にて)は黑褐色、腹部は暗褐色、第一節の中央・後緣・第二・第三・第四及び第五節の後緣並に第六節は黄色、脚は黑褐色、前肢の腿節端・脛節及び跗節は黄色、雌は第二腹節の中央に二黄紋を裝ふ、體長七分乃至一寸、前種に類すれども腹部に黑紋なきを以て容易に區別することを得べし、本邦何れの地方にも普通なり。

(四)すゞめばち Vespa mandarina Sm. (第二十七圖 4)

被害植物 同前。

特徵 成蟲 雌は前種に酷似すれども遙かに大なり、體は黑褐色、頭は橙黄色、額片の前緣は弓形に刳らるれども中央齒を缺き兩側突出す、觸角は暗褐色、柄節は黄色、其上方の基部は暗色、頭の後緣及び單眼の周圍には黑褐毛多し、中胸背

とせず、窠は楕圓形、多くは灰褐色にして木質様の複巣なり、多く人家の軒下にあり、大さ一尺に達す。

(二)もんすゞめばち Vespa crabro L. var. crabroniformis Sm. (第二十七圖3)

被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は黒褐色、後頭・顔・觸角の柄節・前胸の肩部・各腿節の末端・脛節及び跗節は黄褐色、各腹節の末端は黄色、但し第一節の中央には稍〻紅色を帶びたる一横帶を裝ひ、其黒條は波狀をなし三紋を造る、翅は帶黄透明、前縁は赤褐、體長七分乃至一寸、雄にありては頭小、肩部は暗褐にして胸部と同色、各腹節の後縁は廣くして黄色、第五及び第六節に各二個の暗褐紋あり。

經過 同前、但し窠は前者に似れども之を構造する木質様の鱗狀片は常に褐色の二重圈を有せり、大さは其群生の有様によりて異なり、八寸乃至一尺四五寸に達す。

附言、此種類に近き變種あり、之を「こがたもんすゞめばち」var. tartarea Buy. と云ふ、其の前種と異なる所は遙かに小形なること、及び腹斑紋の點紋狀をなせることにあり、體長六分乃至八分。

(一)きいろすゞめばち　*Vespa auraria* Sm.

被害植物　梨・桃・柑橘類。

特徴　成蟲　全體濃黃色にして黑色の短毛を粗生す、頭頂・中胸背・稜狀部・十字溝・後胸背の横線及び縱溝・各腹節の基部並に初めの二腹節の横帶は黑褐色、翅は黃褐色にして透明、前緣脈の過半は黑色、體長七分乃至九分、雄にては腹節の横帶判然し隨つて第二腹節の黃紋は明瞭なり、色は少しく暗色なり。

幼蟲　全體乳白色にして少しく黃色を帶ぶ、頭は黃色、脚を缺き、蛆狀をなして巢房中にあり、十分成長すれば體長一寸に達す。

經過　雌は春季產卵を始め、夏期間は絕えず之を繼續す、卵は一房に一個づゝ產下せられ、凡一週間の後孵化す、幼蟲は働蜂及び雌蜂が果汁・果肉等にて造れる楕圓形の食餌によりて飼はれ、凡そ三週間を經て老熟し自ら絹絲を吐きて蠶樣の繭を作り、房口を閉して其內に蛹化す、蛹期は約八九日、晚秋に至れば雄蜂は多く死し、死せざるものは窠外に放逐せらる、是れ秋期花上に雄蜂の多き所以なり、働蜂は夏日果樹園內を飛翔して果液を吸收し大害を加ふることあり、又巢房の果樹內にある場合には其毒刺を以て園丁を艱めしむること少なし

べく沸騰點を昇せ置き後灌注すべし、但し石灰の如きものを糞混せば更に一層の効あり。

三、地中に造營せるものには青酸加里を湯に溶解して灌注すべし、分量は水一斗に對し五匁の青酸加里を加ふべし、之と同時に利用せらるゝ藥劑は二硫化炭素「べんぞーる」・石炭酸・「てれびん」油・石油・石油乳劑等なりとす。

四、蟻の近接を避くる爲めには石灰の粉末を其周圍に撒布し置くべし。

五、作物間に造巢したる場合は、青酸加里の一片を巢の中央に挿入し置くべし、能く其巢を移轉せしむるに足る。

六、家屋に入り來る場合には空樽に糖液を塗りて之を轉倒し置き、其十分に集まりたる時期を見計ひ熱湯を灌注すべし、尤も糖液に亞砒酸曹達の如き毒藥を糞混し置けば熱湯を注ぐの必要なし。

七、旅行中蟻害の患ある場合には青酸加里の一片を綿に包みて入れ置くべし、殊に熱帶地方に於て採集せる昆蟲標本の如きは其必要を認む。

膜　翅　目

胡蜂科　Vespidae.

ものは爰に記載することを止め、今重要なるものゝ名稱のみを擧げ、併せて一般の驅除豫防法を記すべし。

(一)、おほあり Camponotus ligniperdus Latr. var. obscuripes Mayr.
(二)、くろおほあり Camponotus herculeanus L. var. japonicus Mayr.
(三)、とびいろけあり Lasius niger L.
(四)、あかあり Formica rufa L.
(五)、くろくまあり Formica fusca L. var. nipponensis For.
(六)、おほづあり Pheidole nodus Sm.
(七)、きあり Aphaenogaster (Stenamma) famelica Sm.
(八)、いへあり Leptothorax congruus Sm.
(九)、ひめいへあり Monomorium intrudens Mayr.

一般の驅除豫防法

一、羽化の時期を見計ひ燈火誘殺法を行ふべし。
二、石・朽木又は他物の下に營巢するものなれば豫め潜伏所を造り其造巢を待ち、「あるぼーす」液の十倍液を注ぐべし、熱湯を用ゆる場合には食鹽を入れて成る

幼蟲　橙黃色、亞背線の處には黑紋を縱列す、此等縱列の左右は橙黃色を呈す、氣門は黑色なり、老熟すれば體長一寸四分に達す。

經過　年一回の發生、繭內にありて幼蟲の儘越年すること前種と異ならず、幼蟲は五六月頃より現はれ、櫻・梨の如き葉を食害す、其害大ならず。

驅除法　幼蟲は美色を呈するを以て容易に發見すべく、叉網を以て之を捕獲すべし、成蟲は飛翔速ならざるを以て捕獲すること難からず、四五月頃果樹園を巡視すべし、蛹は地中にあるを以て家禽を放ち啄食せしむべし。

膜翅目

蟻科　Formicidae.

蟻科に屬する昆蟲は、時に害蟲となり時に益蟲となるものなれば、爰に害蟲として記載すること能はず、殊に春期其食物の缺乏する時にありては、蟻は普通蛅蟖(ケムシ)・烏蠋(イモムシ)・螟蛉(アヲムシ)其他の昆蟲を以て食とするものなれば、農家に有益なるは勿論なれども、同時に農土に造巢して大害を加ふることあり、叉秋期果實の熟する時にありては其液汁を吸收して大害を加ふることあり、森林にありては倒木若くは立木に營巢して害を加ふることあり、斯くの如く時に害蟲となり叉時に益蟲となる

被害植物　梨・柳。

特徴　成蟲　體には黄褐色と黒色との兩色あり、頭(單眼の部分及び額片の周縁を除き)前胸の側片・稜狀部及び腹部は黄色、脚(腿節を除き)は褐色、胸片・基節・腿節・觸角の上半部・中後の兩胸背並に初めの四腹節にある斑紋等は黒色、翅は黄褐、末端の半部は黒褐、雄は雌より遙かに細形なり、體長雌雄七分乃至八分。

幼蟲　老熟すれば頭は橙黄色、胸部は黄褐、背線は黒色にして太し、氣門は黒色、全體に横皺多し、體長一寸七分、幼蟲は初め黒色にして白粉を裝ふ、後灰白となり黒紋を有するに至る。

經過　年一回の發生、幼蟲は繭内にありて越年し、翌春四月頃蛹化し、次で五月上旬乃至中旬に至り羽化す、成蟲は一個づゝ葉内に產卵す、幼蟲は常に尾端を下方に卷縮するの性あり、外物之に近接すれば臭液を滲出す。

(10)さくらあしぶとはばち　Cimbex sasakii Mats.

被害植物　櫻・梨・木瓜(ボケ)。

特徴　成蟲　體は黒色、後頭は黒褐色、稜狀部は赤褐色、脛節及び跗節は黄褐色、腹部の後半は灰黄褐色、中央に黒色の背線あり、體長六分内外。

產下す、卵は二週間內外にして孵化し葉綠層を食す、老熟せるものは雜草其他蘆芥下に潛入し其儘越年す、蛹は常に相集合せる所より察すれば同所に集合して越年するものゝ如し。

驅除法 同前。

（八）ちうれんぢはばち Hylotoma (Arge) pagana Panz.（第二十七圖 1）

被害植物 薔薇。

特徵 成蟲 體は黑藍色、腹部·後腿節及び後脛節は黃色、翅は暗色透明、翅脈及び緣紋は黑褐色、緣紋の外方は淡色なるを以て宛も斑紋を有するが如し、前種の如く觸角は三節より成り黑色なり、體長二分五厘。

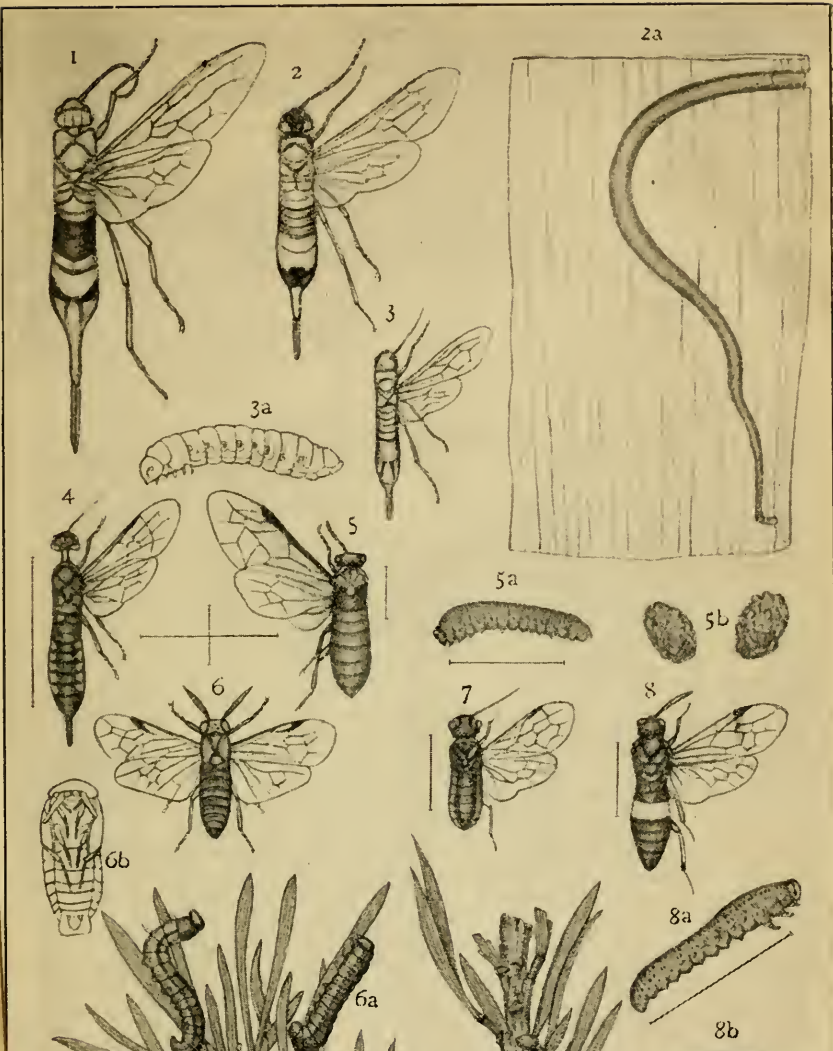
幼蟲 體は光澤ある綠色、背上に黑色の疣狀紋を散在す、體長七分內外。

經過 年二回發生し、蛹の有樣にて越年す、第一回の成蟲は五月、第二回は八月に現はる、莖を切り其內に二列に產卵す、卵は八日乃至十日間にて孵化し、嫩葉を食ひ大害を與ふることあり、老熟すれば地中に潛入し結繭し次て蛹化す。

驅除法 同前。

（九）なしあしぶとはばち Cimbex nomurae Marl.（第二十七圖 2）

第貳拾六圖



第 貳 拾 六 圖

1. Sirex matsumurae Rohw. まつのおほきばち (P. 281)
2. Sirex gigas L. からふときばち (P. 282)
   a. 蝕痕
3. Sirex juvencus L. こるりきばち (P. 282)
   a. 幼蟲
4. Xiphydria eborata Konow. くびながばち (P. 284)
5. Athalia colibri Christ. var. japonense Rohw. かぶらはばち (P. 285)
   a. 幼蟲 *b.* 繭
6. Lophyrus japonicus Marl. まつのはばち (P. 286)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 繭
7. Lyda nigricoxae Mats. まつひらたはばち (P. 289)
   a. 幼蛹
8. Hylotoma (Arge) mali Mats. りんごはばち (P. 290)
   a. 幼蟲 *b.* 繭

經過　前種に同じく經過未だ判然せざれども、幼蟲は五月頃より現はれ絲を吐きて松葉間に粗巢を作り、常に腹面を上となし運行す、六月上旬老熟し、地上に落ち土中に入る、翌春蛹化し次て成蟲となること前種と異ならず。

(七)りんごはばち　Hylotoma (Arge) mali Mats.　(第二十六圖 8)

被害植物　苹樹・梨。

特徵　成蟲　雌は全體黑色、觸角は三節より成り、棍棒狀にして黃褐色を呈し、基部は黑色、翅は透明にして黃色を帶ぶ、翅脈及び緣紋は黑褐、緣紋の直下に暗色の一曇紋あり、第三及び第四腹節は黃色、脚は黑色、脛節は白色、但し後脛節の末端並に跗節は暗褐、雄は全體黑色、脛節は雌の如く白色、體長(雌雄)二分五厘乃至三分。

幼蟲　體は暗綠色、頭は帶黃綠色、兩側に各一黑點を裝ひ、其直上に暗色の一斜條あり、頭頂にて相合し人字形をなす、體の全面に暗色の小斑を散在し、之より黑褐の短毛を生ず、體長七分乃至八分。

經過　年二回の發生、幼蟲の有樣にて越年し翌春蛹化す、第一回の成蟲は六月、第二回は八月中旬に現はれ、產卵管を以て葉を切り破り其內に一個づゝ卵子を

長三分六厘內外。

幼蟲　胴部は灰黃色にして少しく綠色を帶ぶ、第一節の兩側には三角形に近き黑紋を裝ひ、胸脚の基部にも亦黑紋あり、第十二節は平たく、腹面に半圓形の黑紋を裝ふ、頭は黑色にして稍〻球形に近し、體長七分。

經過　未だ判然せざるも、幼蟲は四五月頃より現はれ新葉を綴り纏めて巢を造り之に群居して食害す、幼蟲は六月上旬より漸次老熟し、地上に降り土中に入りて結繭し、翌春踊となり次て羽化し、櫻葉に產卵す。

(六)、まつひらたはばち　Lyda nigricoxae Mats.　(第二十六圖7)

被害植物　松。

特徵　成蟲　體は黑色、觸角・兩鬚・大腮・額片の一紋・複眼の內側にある一紋・翅底鱗・稜狀部・腹部の兩側・尾端及び脚(基節を除き)は黃色、腹部は少しく紫藍色を帶ぶ、脈及び緣紋は褐色、但し緣紋より內方の前緣は黃色、體長三分五厘乃至四分。

幼蟲　頭は橙黃色、胴部は黃綠、背線及び亞背線には赤褐の紋を列ね、氣門上下の線上にも同色の斑紋あり、胸脚は灰黃、腹脚を缺く、尾脚は變じて刺狀突起となる、體長六分。

（四）まつのきはばち　Lophyrus basalis Mats.

被害植物　松。

特徴　成蟲　體は黄色、觸角は櫛齒狀にして黑色、其基部は黄色、單眼及び複眼は黑褐色、稜狀部の前緣・後胸背並に腹基部は黑褐色、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、翅脈及び緣紋は暗褐色、脚は黄色、體長雌三分。

幼蟲　體は黑藍色、頭は黑色、前種の如く十一双の脚を有す、老熟すれば六分餘に達す。

經過　年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春松の新芽を食す、八九月頃に至り老熟し次て蛹化す、成蟲は九月下旬乃至十月下旬現はる。

驅除法　同前。

（五）さくらひらたはばち　Lyda nigricans Mats.

被害植物　櫻。

特徴　成蟲　體は黑色、前頭に於ける三角形の斑紋、大腮（末端の內方は暗褐）・觸角の基部・兩鬚・翅底鱗及び脚（基節及び腿節の一紋は黑色）は黄色、體は平たく、腹部は稍〻切斷狀に終はる、翅は透明にして少しく黄色を帶び、脈及び緣紋は黑褐、體

色の繭を營み蛹化すれども、第二回のものは蘚苔下若くは地中に入りて蛹化す。

驅除法　成蟲の發生する時期を見計ひ網を以て捕殺すべし、幼蟲も亦堅牢なる網框を用ふれば捕殺すること難からず、苗圃に發生する塲合には石油乳劑を用ふることを得べし。

(三)、はこねまつはばち Lophyrus hakonensis Mats.

被害植物　松。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども其異なる所は下の如し。

一、觸角は暗褐、基部は黄色、兩鬚は黄色なること、　二、前胸背の兩緣に黄色の三角紋を具へ稜狀部は黒色なること、　三、腹部の第一節及び各節の後緣は廣くして黄色なること、　四、前翅の中央に暗色の曇を有すること、　五、腿節の末端、脛節及び跗節は黄白なること。　體長(♀)三分。

未だ如何なる害をなすや明ならざれども、余は曾て之を箱根の松林に得たり、前種に同じく松に大害あるものなるべし。

除法　同前。

すべし、物に驚くときは墜落するの性あるを以て、心臓形の受網を以て捕殺すべし、六月及び八月の頃成蟲の出づるを見計ひ蔬菜園に至り飛翔するもの若くは葉上に靜止するものを網を以て捕ふべし、秋期には深く鋤起して蛹を地上に暴露し、家禽を放ち捕食せしむべし。

(二)まつのはばち Lophyrus japonicus Marl. (第二十六圖6)

被害植物 松。

特徵 成蟲 體黑色、大腮の末端は赤褐色、翅底鱗の前方にある前胸部並に稜狀部は白色、腹部は黑褐色、各節の後緣は細くして灰白色、觸角は雌にては櫛齒狀、雄にては羽狀、翅は透明、緣紋及び脈は黑褐色、脚は白色、腿節及び脛節の末端は黑色、體長(雌雄)三分五厘內外。

幼蟲 體は暗綠、頭は褐色、脚は十一双、體長七分內外。

經過 年二回發生す、第一回は五・六・七の三ヶ月に亙り、第二回は九・十の兩月に跨がる、成蟲は松葉に縱溝を穿ち之に十乃至二十個の卵子を産下す、一雌の總産數八十乃至百二十粒二週乃至三週間の後孵化し、初めは葉の中肋を殘し葉緣のみを食するも、後には葉鞘をも食害するに至る、第一回のものは針葉間に褐

前者と共に札幌地方に普通なるものにして、成蟲は家屋に侵入して蠶兒を引き去り、幼蟲は赤楊に蠹入し材質部を食す。

膜翅目

葉蜂科（鋸蜂）Tenthredinidae.

(一)、かぶらはばち Athalia colibri Christ. (*spinarum F.*) var. japonense Rohw. (第二十六圖5)

被害植物 蕪菁・蘿蔔其他十字科植物。

特徴 成蟲 體は濃褐色、頭・觸角・胸背の後方、脛節及び各跗節端は黑色、前胸背には縱溝及び縱隆を裝ふ、腹部の兩端には少しく暗色を帶びたる部分あり、翅は透明にして少しく暗色を帶び、前緣及び緣紋は黑褐、體長二分乃至二分五厘。

幼蟲 體は圓柱形にして天鵞絨樣の黑色を呈す、體長五分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は六月、第二回は八月に現はれ、鋸狀の產卵管を以て葉緣を切り、一葉に產する卵數は二百五十內外、總卵數は二百五十乃至三百粒、幼蟲は凡二十日間にして四回の脫皮を終り後地中に入りて卵形の白繭を造り其內に蛹化し其儘越年す。

驅除法 幼蟲には石油乳劑に二三十倍の水を混じ、如露若くは灌注器にて灌注

角狀突起も亦短く、其末端は黑褐色、頭には黃毛を密生す、體長一寸乃至一寸二分。

此は縱其他松杉科の植物に於て捕獲し得べしと雖も其加害の程度は未だ知るを得ず、本邦にては岐阜及び新潟地方に產するを見る。

(七)くびながばち Xiphydria eborata Konow.（第二十六圖4）

被害物 蠶兒(但し幼蟲は赤楊及び稀に楡の枯木に蠹入して食害す)。

特徵 成蟲 體黑色、腹部は稍〻稜柱狀をなして兩側に白紋を一列に縱列す、頭頂に二白紋を裝ひ、觸角は黑色にして末端の大半は白色前胸背は延長して頸狀を呈し、脚は赤褐、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は褐色、緣毛は黑褐、產卵管は短大、褐色を帶ぶ、體長四分五厘乃至六分。

(八)かはかみくびながばち Xiphydria buyssoni Konow.

被害物 同前。

特徵 前種に酷似すれども觸角は全部黑色頸部の周緣頭頂の二縱紋並に翅底鱗は白色なるを以て容易に前者と區別することを得べし。體長四分五厘乃至七分。

の角狀突起は短く黑色を呈す、雄にては第四乃至第七腹節は黄赤色、體長(雌雄)四分乃至六分。

經過　此も亦樺太に產するものにして、被害の狀況未だ詳ならざれども恐くは歐洲に產するものと同樣の慘害を加へつゝあるものなるべし、歐洲にありては成蟲は六月乃至九月現はれ、主に伐截せる木幹に卵子を藏す、幼蟲出づれば深く蠹入して材質部を食ひ、一方には空氣を通ずる爲め外皮に孔を穿ち蟲糞を以て之を蔽ふ、老熟すれば蟲孔の末端にて蛹化す、一代は數年を要するものゝ如し。

(六)、ひらあしきばち　Tremex similis Marl.

被害植物　松・樅。

特徵　成蟲　雌は體黄色、中胸及び後胸の兩背・第一腹節・第四乃至第七腹節にある細き橫帶・第八腹節の中央にある矢筈樣の一紋並に其兩側の長三角紋・胸片等は黑色、觸角は短く十五節より成り、基部の四節は黄色、殘部は黑色、翅は黄色、脈は濃色、後翅は暗色を帶び殊に翅底は濃色なり、後肢は黑褐、腿節及び脛節の下面並に跗節は黄色、腿節及び脛節は側扁、產卵管は暗黄色にして短く、尾端の

黄色、雄は全體黄色にして後肢の基節・脛節及び跗節の第一節並に尾端の三節は黒褐、體長八分(雄)、一寸(雌)。

(四)、からふときばち Sirex gigas L.（第二十六圖2）

被害植物 「とゞまつ」、蝦夷松・落葉松。

特徴 成蟲　雌は黒色、複眼の後方・觸角・脚(腿節以上は黒色)、初めの二腹節・第七八節及び第九節の兩側にある一大紋並に尾端の角狀突起は黄色、翅は黄色、透明、脈は黄褐、緣紋は黒褐、產卵管は黒色、雄にては腹部黄色、但し初めの一節並に尾節は黒色、體長七分乃至九分。

經過 樺太に普通なる種類なれども、未だ如何なる經過をなすや明ならず、歐洲にありては森林の害蟲なるを以て本邦にありても亦同樣の加害をなすものならん、但し松を害することなしと云ふ。

(五)、こるりきばち Sirex juvencus L.（第二十六圖3）

被害植物 松・樅・椴・「とゞまつ」、蝦夷松。

特徴 成蟲　雌は體黒藍色、觸角基部の大半は黄色、殘部は黒褐、脚は黄色、轉節及び基部は黒藍色、翅は透明、少しく黄色を帶び、翅端は淡く暗色、翅脈は暗褐、尾端

を以て捜索すべし、一度産卵せんが爲め挿入せる産卵管は容易に拔けざるを以て捕獲に容易なり。

（二）まつのおほきばち　Sirex matsumurae Rohw.（第二十六圖1）

被害植物　松・樅・蝦夷松。

特徴　成蟲　雌は體黑色にして、灰褐色の短毛を密生す、頭頂・額片・觸角の過半・各腿節の末端・脛跗兩節の全部・前胸の肩部・腹部の帶狀紋・尾端の劍狀突起及び産卵管鞘は黃色、翅は黃褐透明にして脈は黑褐、産卵管は黑色、體長（尾端の突起を除き）八九分乃至一寸、産卵管七分乃至一寸。

經過　未だ判然せざれども前種と同樣なるべし、札幌地方にありては五月下旬最も多く、樺太地方にも亦産す、成蟲は食肉性なること前種の如し。

（三）まつきばち　Sirex japonicus Sm.

被害植物　松・樅。

特徴　成蟲　雌は體黑色、頭黃色、複眼間は黑色、觸角・前胸及び脚は黃色、但し後肢は少しく暗色を帶ぶ、翅は黃色透明にして翅端少しく暗色を帶ぶ、脈は黃褐、腹部は黑色、第一・第二及び第八節は黃色、但し第八節の後緣は黑色、尾節の突起は

赤色を帶ぶ、觸角は二十二節、第十二節より第十九節迄の七節、複眼の後方に於ける大紋・腹節の基部・第六及び尾節に於ける兩側の小紋・第九節の一帶・各肢の脛節及び跗節の基部は何れも白色、腹端より劍狀突起を出し、下面より約七分五厘程ある產卵管を出す、翅は稍〻黃色にして透明、脈は褐色、體長(尾端の突起を除き)九分、雄は體暗黃色、頭頂の一縱紋・觸角末端の小半・中後の兩胸背・各腹節の後緣並に脚は黑色、但し脛節の基部及び跗節端は暗黃色、脚は側扁にして大なり、體長九分。

幼蟲 白色、圓筒形、割合に大なる頭を具へ、大腮は不等にして右にあるものは扁平、左にあるものは側扁、直角に突出せる銳齒を有す、脚は三双にして疣狀に退化す、尾節に上向せる一端刺を裝ふ、體長一寸三分。

經過 成蟲は六七月の候に現はれ、雌は產卵管を松樹の幹に深く揷入して產卵す、孵化したる幼蟲は木幹內に蠹入し、兩三年間を經て蛹化す、羽化せるものは樹皮に圓孔を穿ち飛去するを常とす、好んで病樹若くは腐朽せんとする幹に寄生す、故に伐木地に集來するの性あり、成蟲は食肉性なり。

驅除法 產卵せんとする成蟲を網にて捕殺すべし、伐木地に集來するの性ある

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども遙かに小に、體は黑色、前胸背の後緣角は稍々褐毛を帶ぶ、脚は黃色、翅鞘に縱溝を具へ、金黃色の細毛を密布す、體長五分五厘。

以上の三種は何れも塵芥下に普通なるものにして其經過未だ判然せざれども、成蟲の有樣にて越年し翌春產卵するもの丶如し、堆積せる麥穗を食害することあれども其害大ならず。

驅除法　同前。

膜翅目　Hymenoptera.

食葉類　Phytophaga.

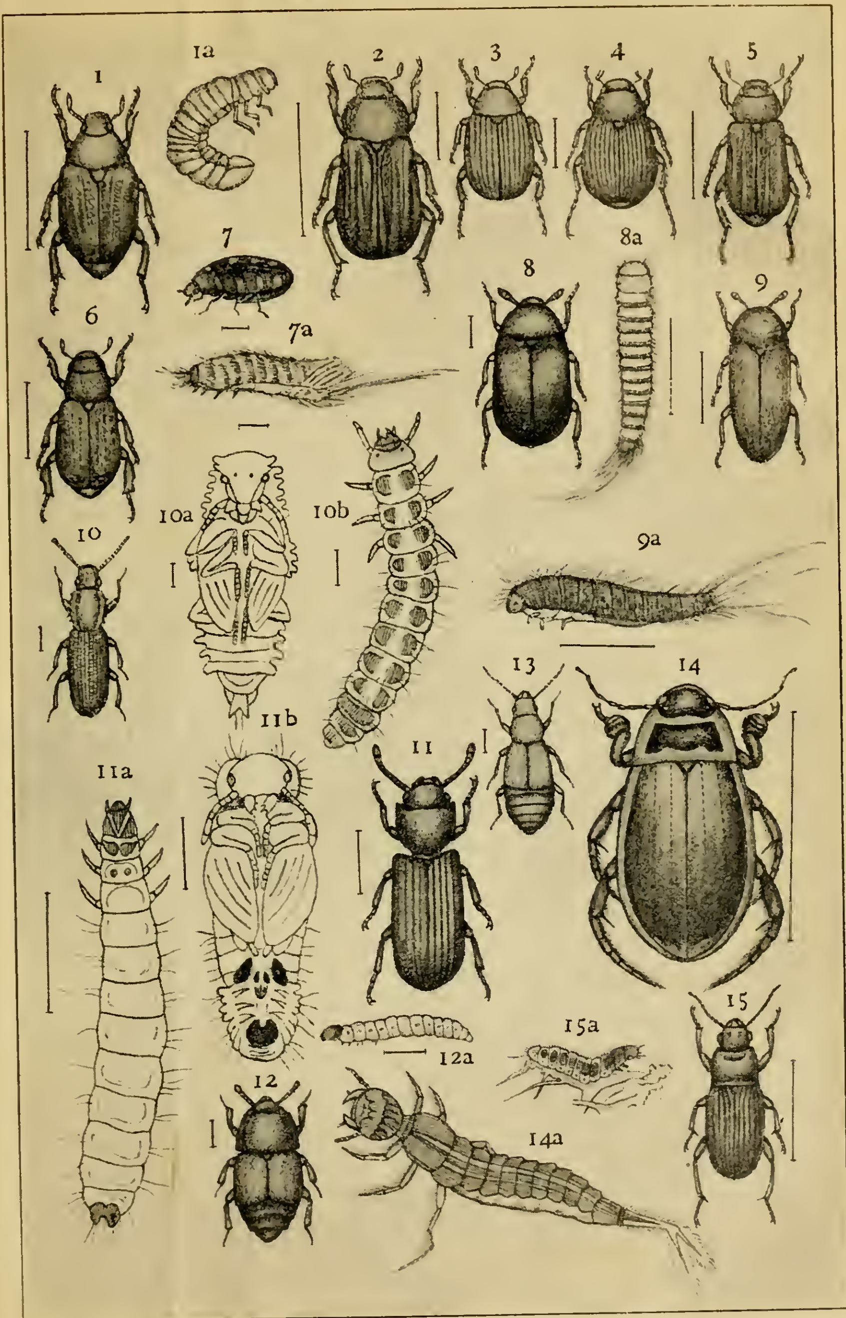
樹蜂科　Siricidae.

(一)くろきばち　Sirex antennatus Marl.

被害植物　松・「とゞまつ」・蝦夷松。

特徴　成蟲　雌は體黑色若くは暗褐色、頭及び胸部には短き黑毛を裝ひ、顏は稍々

第貳拾五圖


1
1a
2
3
4
5
6
7
7a
8
8a
9
9a
10
10a
10b
11
11a
11b
12
12a
13
14
14a
15
15a

第 貳 拾 五 圖

1. Anomala rufocuprea Motsch.　ひめこがね　(P. 250)
   a. 幼蟲
2. Lachnosterna inelegans Lew.　くろこがね　(P. 253)
3. Aserica japonica Water　あかびろうどこがね　(P. 253)
4. Aserica orientalis Motsch.　びろうどこがね　(P. 254)
5. Pollaplonyx flavidus Water.　きこがね　(P. 254)
6. Adoretus umbrosus F.　ちやいろこがね　(P. 255)
7. Anthrenus verbasci L.　ひめまるかつをぶしむし　(P. 260)
   a. 幼蟲
8. Attagenus japonicus Reit.　ひめかつをぶしむし　(P. 262)
   a. 幼蟲
9. Dermestes cadaverinus Oliv.　かつをぶしむし　(P. 263)
   a. 幼蟲
10. Silvanus (Oryzaephilus) surinamensis L.　こなひらたむし　(P. 265)
    a. 幼蟲　b. 蛹
11. Tenebrioides mauritanicus L.　こくぬすと　(P. 271)
    a. 幼蟲　b. 蛹
12. Carpophilus punctissimus Reitt.　くろはなけしきすい　(P. 272)
    a. 幼蟲
13. Anthobium pollens Sharp.　はなむぐりはねかくし　(P. 273)
14. Dytiscus marginalis L.　げんごろうだまし　(P. 274)
    a. 幼蟲
15. Anisodactylus signatus Illig.　ごみむし　(P. 277)
    a. 幼蟲

通なり、幼蟲は禾本科植物の稚根を食ふ、成蟲は晩秋堆積せる麥穗に集まり食害す。

驅除法 成蟲を捕ふるには潜伏所に於てすべし、春暖の候には路上に飛び若くは歩行するものを捕ふべし。

(二)こごもくむし Harpalus tridens Mor.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は光澤ある黑色、觸角・大腮・兩鬚及び脚は黃褐、前胸背は稍〻四角形をなし、前後の兩緣に點刻を有す、翅鞘には判然せる十條の縱溝を裝ふ、體長四分五厘乃至五分。

(三)おほごもくむし Harpalus (Pseudophonus) capito Mor.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は少しく赤色を帶びたる黑色、觸角及び兩鬚は黃褐、脚は黃色、頭は大にして光澤を帶び、前胸背は稍〻四角形にして點刻を散在す、翅鞘は長楕圓形にして縱溝を具へ黃毛を裝ふ、體長六分五厘乃至八分。

(四)ごもくむし Harpalus (Pseudophonus) ruficornis F.

體長一寸三分內外。

（八）こがたのげんごらう　Cybister tripunctatus Oliv.

被害動物　同前。

特徴　成蟲　體黑褐、長楕圓形、「げんごらう」に似れども遙かに小形、腹面の兩側に各三個の黄紋を具へ、前中兩肢は黄色、後肢は黑褐、金色毛を裝ふ、體長九分內外。

步行蟲科　Carabidae.

（一）ごみむし　Anisodactylus signatus Illig.（第二十五圖51）

被害植物　麥（成蟲は堆積せる麥穗を食す）。

特徴　成蟲　體は黑色、頭頂に不明なる黄赤の二紋を裝ふ、前胸背は四角形、後方少しく細し、翅鞘には判然せる縱溝を具へ、末端の兩側は少しく剜らる、體下及び脚は黑色、體長四分五厘乃至五分。

幼蟲　體は扁平、黑色、頭大きく、發達せる大腮を具ふ、脚は三双、腹部末端には刺枝ある二本の角狀突起を裝ふ、體長八分。

經過・習性　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春日光の透通せる路上に普

體長八分內外。

(五)げんごらう Cybister japonicus Sharp.

被害動物 同前。

特徴 成蟲 體は楕圓形、黑褐、少しく青色を帶ぶ、額片・上唇・小腮鬚及び下唇鬚は黃色、前胸の兩側及び翅鞘の前緣は黃褐、雌の背上には橫皺多し、體下は黃褐、胸片は黑褐、前中兩肢は黃褐、體長一寸三分內外。

幼蟲 體は暗黃色、頭は大にして鋭き大腮を具へ、尾端には二個の呼吸絲を有す、體長二寸三分。

(六)まるこがたげんごらう Cybister lewisianus Sharp.

被害動物 同前。

特徴 成蟲 前種よりも遙かに小形にして圓みを帶び、後肢は割合に短し、腹部は暗褐、體長八分乃至九分。

(七)ふちとりげんごらう Cybister limbatus F.

被害動物 同前。

特徴 成蟲 「げんごらう」に酷似すれども、前胸背長く、翅鞘は前者よりも幅廣し、

夜間空中を飛翔す、成蟲の有様にて越年す。

驅除法　早春水網を以て掬ひ捕ふべし、燈火に飛來するの性あるを以て誘殺すべし。

（二）、くろげんごらうだまし　Dytiscus sharpi Wehn.

被害動物　同前。

特徵　成蟲　體黑褐、少しく赤色を帶ぶ、上唇・額片・前胸の兩側及び翅の前緣は黃褐、觸角・兩鬚及び脚は赤褐、雌の翅鞘には各十條の縱溝あり、體長九分內外。

（三）、こげんごらうだまし　Dytiscus validus Reg.

被害動物　同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども、頭は小にして圓みを帶び、上唇は中央を除く外黑色、體長一寸內外。

（四）、くろげんごらう　Cybister brevis Sharp.

被害動物　同前。

特徵　成蟲　體は黑色、短楕圓形、頭頂及び前胸背には點刻多し、前胸背の前緣角は突起し、翅鞘には相隔離せる三條の點刻縱條あれども其中二條は判然せず

經過　未だ判然せざれども、苹樹若くは梨の開花期に當り花中に入りて花粉其他結實に必要なる部分を食害するを以て大害あり、四國地方にありて大害を加ふと云ふ。

驅除法　亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし(前編39頁を見よ)、又誘蟲劑(37頁を見よ)を用ふべし。

龍蝨科　Dytiscidae.

(一)げんごらうだまし　Dytiscus marginalis L.　(第二十五圖14)

被害動物　幼魚。

特徵　成蟲　體は黑褐色にして少しく靑色を帶び、額片・上唇・觸角・前胸背の周圍・翅鞘の前緣・體下並に脚は黃色、中胸片は褐色、頭頂にへ字形の黃赤紋を裝ふ、翅鞘には點線の三縱列あり、雌の翅鞘には普通深き十條の縱溝あり、雄の前肢には吸盤を具ふ、體長一寸二分內外。

經過　未だ判然せざれども、卵子は水中に產下せられ、孵化したる幼蟲は幼魚其他水棲の小動物を食とし生活す、成蟲も亦食肉性にして、池沼等の幼魚を食す、

(二)、くろはなけしきすひ Carpophilus punctissimus Reitt. (第二十五圖12)

被害植物 梨・苹樹(花を食ふ)。

特徴 成蟲 全體光澤ある黑色、頭・前胸背及び翅鞘には點刻及び短毛を密布し、翅鞘は短くして尾端の二節を露出す、跗節の末端及び爪は赤褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せざれども、成蟲は七八月の候に現はれ、梨・苹樹の花中に潛入して食害す、而して此等果樹の開花前は「たんぽぽ」其他野草の花に栖息するものなれば捕殺すべし、一度花中に入りたるものは驅除し難し、幼蟲も同じく花を食するものならん。

隱翅蟲科 Staphylinidae.

(一)、はなむぐりはねかくし Anthobium pollens Sharp. (第二十五圖13)

被害植物 苹樹・梨等の花。

特徴 幼蟲 體翅黄褐、腹部は黑色、觸角基部の大半は黄色、末端は黑色、棍棒狀を呈し、末端節は殊に大なり、翅鞘は長く腹部の半以上に達す、體下は頭及び前胸を除き黑色、白色の短毛を密生す、體長八厘乃至一分二厘。

驅除法　青酸加里を燻蒸すべし、二硫化炭素も亦有効なれども前者に劣れり。

出尾蟲科　Nitidulidae.

(一)くりやけしむし　Carpophilus hemipterus L.

被害物　味噌其他の食物類。

特徴　成蟲　體は黑褐色、長楕圓形にして點刻を密布す、翅鞘は短くして褐色を呈し、肩部及び後緣は廣くして黃色を呈し、前胸は大にして翅鞘と約其の長さを同うし、脚は黃色なり、體長一分。

幼蟲　體は白色、頭の前端は少しく褐色を帶び、單眼は黑色にして四個あり、全體短毛を粗生す、尾端に疣狀の二隆起あり、體長二分。

經過　未だ十分の研究なきも年一回の發生なるべし、成蟲の有樣にて越年し、前記の食物を害するものゝ如し。

驅除法　厨房の棚に蕃殖したる場合には青酸加里の瓦斯燻蒸を行ふべし、味噌に蕃殖したる場合には其棲息せる上層を取り除き、後胡椒若くは蕃椒の粉を散布し置くべし。

べし、建築用の楔は十分乾燥したる後昇汞水(一斗五升の熱湯内に二十匁の昇汞を溶解したるもの)に浸漬して用ふべし、又擔荷の柄其他樫にて造れる器具若くは家材は總て昇汞水を塗り置くべし、「ぺんき」を塗り置くも亦有効なり。

鞘翅目

穀盜科 Trogositidae.

(一)こくぬすと Tenebrioides mauritanicus L. (第二十五圖11)

被害物 穀粉。

成蟲 體は黑色、長楕圓形、腹面、觸角及び脚は赤褐、額に三個の切目を具へ、胸背の前緣は刺狀をなして突出す、後緣は稍ゝ圓形をなして細まる、翅鞘には點刻ある縱溝を裝ひ、前脛節には二刺あり、體長三分。

幼蟲 體は白色、頭、第一節及び尾節の硬皮板は黑褐、尾節に二個の附屬物を有す、體長一寸內外。

經過 年一回の發生をなし幼蟲の儘越年す、其成熟の時期は一定せず、蛹は白色にして粗毛を有す、此害蟲は植物性のものを食するのみならず又動物性のものをも食害す。

一、ほそかたむし Bothrideres elongatus Mats.（第二十八圖9）

被害物 樫（擔荷、建築用の楔其他柄類）

特徴 成蟲 體は赤褐色、頭及び前胸背は暗褐にして、觸角は棍棒狀を呈し、末端の二節は膨大し、末端節は次節よりも二倍長く、稍、卵形を呈す、兩鬚は黄褐、頭及び前胸背に點刻多く、灰黄の短毛を裝ふ、前胸背は長方形にして前後の兩角少しく突出し、兩側は端直にして小齒を列ぬ、翅鞘は前胸背より少しく幅廣く、兩側は相平行し、長は幅の約三倍あり、點刻ある縦溝を備へ、間室は少しく隆起す、但し接合部と第一縦溝との間室は平坦にして之に微小の點刻を密布す、脚は割合に短く、體下は體上に比し少しく淡色なり、體長一分二厘乃至一分五厘。

經過 未だ判然せざれども建築に用ひある樫の部分は之が爲に大害を被ることあり、家屋に用ひある樫の楔は之が爲め蠹入せられて終に其の目的を達せざるに至り往々家屋の倒るゝことあり、又兵營の倉庫にある擔荷の柄の如きは甚だしく被害せらるゝことあり、されど樫の立木に有害なるや否やは未だ明ならず、建築家の大に注意を要する害蟲なり。

驅除法 倉庫内に發生したる場合には之を密閉し、青酸加里瓦斯を以て燻蒸す

び第二節は殊に大にして幅廣く、末端節は遙に小形なり、前胸背は長•幅とも稍〻等しく、翅鞘は長くして幅の二倍半あり、點刻ある縱溝を裝ふ、體長一分乃至一分二厘、元來米國の害蟲なるが「はばな」煙草に附着して傳播せり。

(七)こめのひらたむし Cathartus advena Walb.

體は黃褐色にして前種に酷似すれども、其異なる所は前胸背は長さよりも幅廣く、翅鞘は廣くして幅の二倍よりも短く、觸角棍棒の第一節は第二節よりも小なり、體長七厘乃至八厘、此の蟲は米其他穀物に附着して廣く世界に播布せり。

(八)こたばこひらたむし Cathartus excisus Reitt.

前種に似れども暗褐にして光澤を缺き、觸角及び翅鞘は短く、翅鞘には點刻ある縱溝列なし、體長七厘、「はばな」煙草を害す。

驅除法　穀物には二硫化炭素を用ひ、其他のものには青酸加里の瓦斯を燻蒸すべし、葉捲煙草の如きものゝ害を被りたる場合には堅牢なる箱中に被害物を入れ、青酸加里の數片を綿に包みて一晝夜入れ置くべし。

細堅蟲科　Colydiidae.

(四)、こかくむねひらたむし Laenophloeus furicus Grouv.

被害物 乾燥せる果實。

特徴 成蟲　前二種に酷似すれども「かくむねひらたむし」と異なる點は、頭及び前胸背にある點刻の遙に大なることゝ、並に觸角構造の異なれるのみならず更に一層長きことゝ是なり、又「ちびかくむねひらたむし」と異なる點は、前胸背は細小にして粗大の點刻を有し、翅鞘は長く、觸角は雄にありては少しく、雌にありては遙に長きことゝ是なり、體長五厘乃至七厘。

尙此科に係るものにして其名の知られたる害蟲は左の如し。

(五)、くろをびひらたむし Emporius signatus Frauenf.

體は黃褐色にして翅鞘の中央に黑色の一横帶を具へ、翅端は黑色を帶びて、灰色の短毛多し、觸角末端の三節は膨大す、前胸背の前緣角は突起し、兩側に齒狀突起あり、體長七厘乃至八厘、此蟲は南洋に播布せる「はばな」葉捲煙草の害蟲にして目下世界に傳播するの傾あり、歐米にても普通なりと云ふ。

(六)、たばこひらたむし Cathartus quadricollis Guér.

體は黃褐色を呈し、短毛多し、眼は大にして觸角末端の三節は膨大し、其内第一及

被害物　同前。

特徴　成蟲　體は黃褐色にして灰色の短毛多し、觸角は雄にありては體よりも稍〻長く、基節大にして末端の三節は他節よりも少しく長し、前胸背の兩側に各一條の細き縦隆起を有し、基部の中央には短き横隆起あり、後緣角は稍〻直角をなす、翅鞘は前胸背より少しく廣く、外側に細き縦隆起ありて其中央には四條の縦隆條を備へ、二條づゝ相近接す、黠刻は微小なり、體下及び脚は少しく淡色、腿節は少しく膨大す、體長七厘内外。

經過　未だ判然せざれども加害の狀前種に同じきを以て、其の經過もまた之に似たるものなるべし、然れども此種は本邦にては前種の如く多からず、臺灣・南方支那には最も普通なり。

(三)、ちびかくむねひらたむし Laemophloeus minutus Oliv.

被害物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども其異なる要點は、第一形小さく、第二前胸背並に翅鞘短くして廣く、第三觸角短くして體長の半ばに達することなり、體長五厘内外。

走らし、兩側に各六個の鋸齒をなせる突起あり、翅鞘は粗糙にして長楕圓形を呈し、各三縱隆を具へ、其中間に二條の點刻列あり、雄の腿節に一鋭齒を裝ふ、體長一分。

幼蟲 白色、各節の背上に黑色部あり、頭は褐色、全體粗毛を裝ふ、體長一分五厘。

經過 年數回の發生をなし、成蟲の儘越年す、十分成長すれば膠質物を分泌し自體を箱壁に固着して其内に蛹化す、顆粒狀をなせる食物中にありては幼蟲は其周圍のものを集めて被筒を作り其内にあれども、穀粉を害する場合には被筒を造らず。

附言 此種に酷似せるものにて「おほめこなひらたむし」Silvanus mercator Fauv. と稱するものあり、其異なる要點は、眼の大なること、觸角の短きこと、雄の腿節に鋭齒を有せざること等なり、此蟲は廣く東洋に播布する種類にして殊に穀粉、煙草及び乾燥せる果物に棲息す、臺灣・支那・馬來・印度・亞弗利加等に普通なり。

(二)、かくむねひらたむし Laemophloeus ferrugineus Steph. (第二十八圖20)
(かくむねこくぬすと)

（九）けあかかつをぶしむし　Dermestes tesselatocollis Motsch.

被害物　同前。

特徴　成蟲　體は黒色、頭及び前胸背に黄褐の縮毛を密生し、體下には灰白の短毛を裝ふ、觸角は黄褐、前胸背は其縮毛の爲め恰も網狀斑紋を有するが如し、稜狀部に黄色の長毛を簇生す、體長二分五厘。

（一〇）はらじろかつをぶしむし　Dermestes vulpinus F.

被害物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、觸角は黄褐、頭頂の兩側にある毛塊及び前胸背の兩側にある毛は白色、腹部は凡て白色の短毛を以て被はる、體長三分内外。

幼蟲及び經過　同前。

鞘翅目

扁蟲科　Cucujidae.

（一）こなひらたむし　Silvanus (Oryzaephilus) surinamensis L.（第二十五圖10）

被害物　穀物類・種子・干菓子類。

特徴　成蟲　體は赤褐色若くは黄色、細長にして前胸背の中央に三條の隆起を

ることは未だ判然せず。

驅除法 同前。

(八)とびかつをぶしむし Dermestes coarctatus Har.

被害物 同前。

特徴 成蟲 體は黑色、長楕圓形、全體褐毛を裝ふ、但し稜狀部にあるものは長し、頭は小、翅鞘には小孔を密布し、腹面は灰白の短毛を密生し、各節に黑紋を裝ひ、尾節は黑色、之に白紋あり、脚は黑色、體長三分。

幼蟲 體細長、黑褐にして赤褐の剛毛を裝ふ、頭は割合に大、腹面は淡褐、尾節の背上に二個の棘狀突起を有す、體長四分七厘。

經過 年三四回の發生をなす、成蟲の儘越年し、翌春卵子を食物上に產下す、卵は一週間內外にて孵化し、蠶繭を害する場合には常に死籠・腐繭・薄繭等を侵害す、然れども其蕃殖旺盛なるときは良繭にも亦蠹入することあり、其發生より羽化するまで凡五十日內外を要す、幼蟲の鰹節若くは干鰯を害する場合には食物內に潛入せずして常に外方より食害す。

驅除法 同前。

の如く黄褐毛を密生すれども長短なし、各環節には長短ある黄褐毛を密生し、尾端よりは殆んど體長程の黃色長毛を叢生す、體長約三分五厘。

經過 其一代は凡二ヶ年を要す、幼蟲の儘越年するもの丶如く、五月頃室內に飛來し、六月中旬に至りて其數を減ず、卵子は白色、蛹は裸蛹にして毛多く、蛹期は六日乃至十五日なり。

驅除法 被害物を函中に入れ、其內に二硫化炭素を瓶共に入れて密閉し置くべし、食物の場合の外は青酸加里の一片を綿に包み函中に置くべし。

(七)、かつをぶしむし Dermestes cadaverinus Oliv. (*D. chinensis Motsch.*) (第二十五圖 9)

被害物 同前。

特徵 成蟲 體は黑色、體下は黃褐毛を密生す、口部は赤褐色、觸角は黑褐色、末端の球桿は赤褐色、脚は黑褐色、體長二分六厘乃至二分八厘。

幼蟲 體上は黑色、體下及び脚は淡黃色にして、長短ある黃褐毛を密生す、頭は第一節と略〻其幅を同じうし、前頭・大腮・兩鬚等は黃色、背線は黃色にして、尾節には二個の棘狀突起を裝ふ、體長四分。

經過 年三四回の發生をなし、成蟲若くは幼蟲の狀態にて越年すれども、詳細な

き數毛ありて、其兩側に刷毛狀の黄褐毛を密生し、各末端は鱗狀に膨大す、體一分二厘内外。

經過 年二三回の發生なるべきも未だ詳ならず、主に幼蟲の狀態にて越年し、翌春四五月頃より加害を始む、之に侵されたる昆蟲標本は粉末となりて遂に其形を留めざるに至る、其性甚だ强靱にして縱令食物を供給せざるも身體の脫皮にて生活す、成蟲は物に驚く時は忽ち死狀を擬するを以て注意せざれば見誤ることあり、常に**あざみ**其他繖形科植物の花に集來し花液及び花粉を食す、本邦に最も普通なる種類なり。

驅除法 同前。

(六)、ひめかつをぶしむし Attagenus japonicus Reitt.（第二十五圖8）

被害物 干鰯・鱰繭・鰹節・毛皮・其他動植物性標本。

特徵 幼蟲 體は黑褐色にして褐色の短毛を裝ふ、脚は赤褐色、前揭の「ちびまるかつをぶしむし」に酷似すれども更に大にして長卵形をなす、體長一分四厘内外。

幼蟲 圓柱形にして褐色を呈し、頭は大きく第一節と畧く其幅を同じうし、他節

は大なり、翅鞘には灰黄色の三波狀帶あり、觸角の基部、脛節及び跗節は赤褐色、體長七厘乃至一分。

幼蟲　上面は褐色、下面は灰黄色を呈し、褐色毛多し、尾端には後方に突出せる筆狀毛を有せるは前種と異ならず、體長一分五厘。

經過　同前。

(五)しもふりまるかつをぶしむし　Anthrenus (Helocerus) fuscus Oliv.

被害物　同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども其異なる要點は左の如し。

一、觸角は五節より成り、末端節は長く棍棒狀を呈し、雄にありては他節を合したるものよりも二倍長し、前者にありては觸角は八節より成り、末端の二節は棍棒狀に膨大す。

二、體鱗は細形にして鋭三角形を呈す。

三、體は稍〻小さく六厘乃至八厘。

幼蟲　體は淡黄褐にして褐色の長毛を粗生す、頭は黑褐、各胸節の兩側に黑褐色の一紋を具へ、其中第一節にあるものは最も大なり、尾端の中央に褐色の長

(三)、ひめまるかつをぶしむし Anthrenus verbasci L. (*A. varius F.*) 第二十五圖 7)

被害物 同前（成蟲は花上にあり）。

特徴 成蟲 體は卵形、背面は黑色、黃褐の鱗毛を裝ふ、但し鱗毛は細長なり、腹面は白色若くは黃白、翅鞘には凹陷ある白色の三帶を具へ、前胸背基部の中央に白點を裝ふ、體長七厘乃至一分。

幼蟲 體は細長、褐色にして黑褐の剛毛を粗生し、腹面は灰黃、尾節は黑褐にして長毛塊を有す、體長一分五厘。

經過 年二三回の發生をなす、大概は幼蟲の有樣にて越年す、其性强健、食物を與へざるも長時生息し、自己の脫皮を食とす、老熟すれば最後の幼蟲の脫皮中に蛹化す、成蟲は產卵後野外に出で繖形科植物の花液を吸收す。

驅除法 同前。

(四)、ちびまるかつをぶしむし Anthrenus (Florilinus) museorum L.

被害物 同前。

特徴 成蟲 體は黑色、體下に灰色の鱗毛多く、體には黃色の鱗毛を散在す、前胸背の基部に三個の白紋ありて中央にあるものは小なれども兩側にあるもの

布哇にては大害を加ふと云ふ、但し此害蟲の斑紋は大に變化す。

鰹節蟲科　Dermestidae.

(一)、ちびまるかつをぶしむし　Orphinus (Anthrenus) pedestris Motsch.

被害物　動物性標本。

特徴　成蟲　體黑褐、頭·胸及び翅鞘は光澤ある黑色にして灰色の短毛を裝ふ、脚は黃褐、體長八九厘、本邦の半熱帶地方殊に沖繩に稀ならず。

驅除法　標本箱を密閉して二硫化炭素若くは青酸瓦斯の燻蒸を行ふべし、豫防として那不多林·みるばん油·安息香油·固形ホルマリン等を用ふべし。

(二)、はなまるかつをぶしむし　Anthrenus scrophulariae L.

被害物　同前（成蟲は花上にあり）。

特徴　成蟲　體は卵形にして稍〻扁たく、黑色を呈し、褐色の短毛及び點刻を密布す、前胸背の兩側及び翅鞘の三帶は白色、接合部は赤色、稀に黃色鱗毛を裝ふ、體長一分二厘。

驅除法　同前、但し成蟲は花上にあるを以て網を以て掬捕すべし。

成蟲は七月頃より現はれて越年し、更に翌春五六月頃出てゝ産卵するものゝ如し、北海道及び本州に稀ならず。

(一八)**たいわんかぶとむし** Oryctes rhinocerus L.

體は黒褐色を呈し、雄にありては頭頂に約一分五厘の角狀の一突起を存するを以て容易に區別することを得べし、幼蟲は甘蔗の根を食害す、臺灣に稀ならず。

(一九)**かぶとむし** Xylotrupes dichotomus L.

前種に酷似すれども、頭の中央に其末端に於て二分せる角狀突起を具へ、更に前胸背の中央にも同樣の短き突起あり、幼蟲は前種と同じく甘蔗の根を食害すと云ふ(臺灣)。

(二〇)**せまだらこがね** Anomala orientalis Wat.

體は灰黃色、觸角の葉狀部は大にして黒褐なり、頭は前緣を除きて黒綠色を呈し、前胸背の二大紋も、亦黒綠色をなせり、翅鞘に黒褐の數紋を有するものと有せざるものとあり、明瞭なる十條の點刻ある縱溝列を備へ、間室は少しく隆起し、點刻を粗布す、體は少しく褐色を帶び、後腿節の中央に褐色の一紋を裝ふ、體長三分乃至三分五厘、甘蔗の害蟲にして廣く東洋に播布し本邦にては其害大ならざるも、

は楕圓形にして黄褐なり、胸脚は少しく褐色を帶ぶ、完熟すれば體長八分內外に至る。

經過　未だ判然せざれども年一回の發生なるが如し、成蟲は五月頃より現はれ、幼蟲は前記の作物にありて其根を食ひ大害を與ふ、臺灣にて恐るべき甘蔗の害蟲にして、稻を害する場合には陸稻を侵し、其蕃殖するに至れば出穗せず、縱令穗を出すも稔らざるなり。

尙此科に係る害蟲にして本邦及び臺灣に知られたるものは左の數種なり。

(一六)ひめちやいろびろうどこがね Serica formosana Shiraki.

體は卵形にして黄褐、粗大の點刻を粗布し、黄色毛を粗生す、翅鞘に九條の點刻ある縱溝ありて間室は隆起す、後肢は發達し、腿節及び脛節は側扁にして後者の末端には數本の鋭齒あり、體長二分五厘內外、臺灣にて棉を食害す。

(一七)なへどこあかこがね Sericania mimica Lew.

體は赤褐、後頭は多少黑褐色を呈し、全面に粗大の點刻を密布す、翅鞘には九條の縱隆起ありて、間室には三列の粗大なる點刻を備へ、其內の或ものは相癒合す、體下稍〻淡色、體長三分五厘、此蟲は針葉樹の苗圃に發生し、幼蟲は著しく根を食害す、

被害植物　玉蜀黍・里芋・苧麻。

特徴　成蟲　體は暗褐、全體白色の鱗毛を密生す、額片は稍〻半圓形、顆粒多し、前緣は少しく隆起す、頭頂にも亦顆粒及び點刻あり、觸角及び兩鬚は黄褐、前胸背は短くして淺き點刻を裝ふ、稜狀部は三角形にして小なり、翅鞘に判然せざる三縱隆を裝ひ、間室に點刻多し、體下は黑褐色にして脚と共に數多の灰色短毛を有す、體長三分五厘。

經過　未だ詳ならず、成蟲は六月上旬乃至七月下旬現はれ前記植物の葉を食害すれども其害甚だしからず。本邦には多からざるも臺灣には普通なり。

(五)くろまるこがね　Ligyrus rugiceps L.

被害植物　甘蔗・稻・てをしんと(臺灣)

特徴　成蟲　體は赤褐にして褐色の短毛を粗生す、頭・前胸背及び翅鞘は黑色、頭は小にして頗る粗糙なり、前胸背は半球狀をなし、點刻を散在す、翅鞘は短くして幅廣く、點刻ある縱溝を有し、其間室に點刻を裝ふ、脚は赤褐色にして各腿節は膨大し、脛節には數個の棘刺を有す、體長四分五厘。

幼蟲　體は白色、頭は淡褐にして褐色の微毛を粗生し、胸腹には横皺多く、氣門

を散在す、稜狀部は半圓形を呈し小形の點刻あり、翅鞘は後方に至りて擴大し、四個の縱隆あれども兩端に於て判然せず、兩側及び末端には黃褐の細毛あり、體長三分五厘乃至四分。

幼蟲　灰白、各節に横皺あること何れの蠐螬も同様なり、褐色毛多し、頭は扁平にして濃褐色、胸脚は褐色、第一節の硬皮板は黃褐色、其兩側に三角形の硬板あり、體長八分。

經過　未だ判然せざれども、甲蟲は五六月頃より現はれ、杉其他林樹の苗床に飛び來り土中に產卵す、卵子は孵化して蠐螬となり根を食ひ大害を加ふることあり、二年に一回の發生をなすものゝ如し、六七月ごろ老熟し蛹化し次て羽化す、八月中旬頃地中に入りて產卵す、幼蟲は晩秋及び翌春苗床にありて大害を加ふ。

驅除法　時々苗床を巡視し成蟲を捕殺すべし、幼蟲は兩年に跨りて加害するものなれば輪作を行ふべし、又苗の不時に枯死するものあるは此害蟲の所業なるを以て、根より拔き取りて幼蟲を搜索すべし、又二硫化炭素を用ふべし。

(四)ちやいろこがね　Adoretus umbrosus F.　(第二十五圖6)

特徵　幼蟲　體は黃褐色にして卵形、翅鞘には點刻ある縱條を裝ふ、天鵞絨樣の光澤あるを以て此名あり、體長三分內外。

經過　成蟲は五月中旬頃より現はれ、葉綠を食ひ、時に大害を與ふ、蛹にて越年するもの丶如し、幼蟲の經過は未だ判然せず。

驅除法　同前。

(三)びろうどこがね　Aserica orientalis Motsch　(第二十五圖4)

被害植物　苹樹・梨・李・桑・亞麻・落葉松等。

特徵　成蟲　前者に酷似すれども、小形にして全體天鵞絨樣の黑色を呈す、體長二分五厘乃至三分。

經過　經過は未だ判然せず、兎に角年一回の發生にして、成蟲は五六月頃より現はれ前記植物を食す、而して其幼蟲の食物は未だ明かならず。

驅除法　同前。

(三)きこかね　Pollaplonyx flavidus Wat.　(第二十五圖5)

被害植物　杉・松・羅漢松(苗床)。

特徵　成蟲　體は赤褐、複眼は黑色にして光澤を帶び、頭及び胸背に粗大の點刻

幼蟲　前種に酷似す。

經過　幼蟲は少くも二ヶ年以上土中に棲息するものゝ如しと雖も、未だ其年限を詳にせず、成蟲は八月頃現はれ杉葉を食害す、幼蟲は土中にありて樹根を食とす。

驅除法　同前。

鞘　翅　目

(一〇)くろこがね Lachnosterna inelgans Lew.（第二十五圖2）

被害植物　杉。（苹樹及び梨の根）。

特徵　成蟲　體は黑色若くは黑褐色、頭及び前胸には白色の點刻を密布し、翅鞘には四條の縱隆及び不規則なる點刻を散在す、胸下及び脚に金色の軟毛を裝ふ、跗節は褐色なり、體長六分內外。

經過　經過は未だ判然せず、他の金龜子に同じく幼蟲は地中に三年間の壽命を有するものなるべし、六月頃より現はれ杉の實を食害すること大なり。

驅除法　同前。

(一一)あかびろうどこがね Aserica japonica Wat.（第二十五圖3）

被害植物　桑・苹樹。

幼蟲　前種に酷似す。

經過　幼蟲は少くも二ヶ年以上土中に棲息するものゝ如しと雖も、未だ其年限を詳にせず、成蟲は八月頃現はれ杉葉を食害す、幼蟲は土中にありて樹根を食とす。

驅除法　同前。

鞘翅目

(10)くろこがね　Lachnosterna inelgans Lew.　(第二十五圖2)

被害植物　杉。(苹樹及び梨の根)。

特徴　成蟲　體は黑色若くは黑褐色、頭及び前胸には白色の點刻を密布し、翅鞘には四條の縱隆及び不規則なる點刻を散在す、胸下及び脚に金色の軟毛を裝ふ、跗節は褐色なり、體長六分內外。

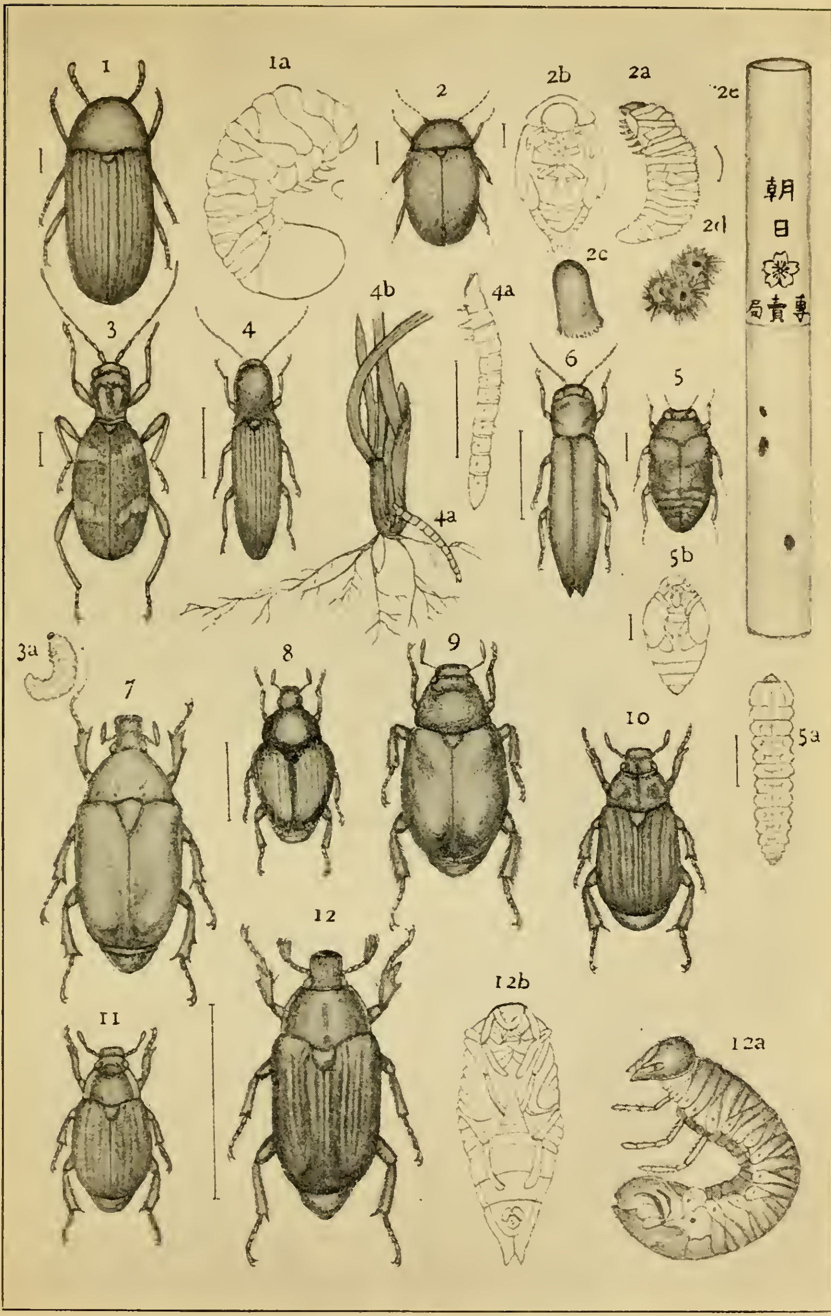
經過　經過は未だ判然せず、他の金龜子に同じく幼蟲は地中に三年間の壽命を有するものなるべし、六月頃より現はれ杉の實を食害すること大なり。

驅除法　同前。

(11)あかびろうどこがね　Aserica japonica Wat.　(第二十五圖3)

被害植物　桑・苹樹。

第貳拾四圖



第 貳 拾 四 圖

1. Sitodrepa panicea L. じんさんしばんむし (人參蟲) (P. 239)
   a. 幼蟲
2. Lasioderma testacea Duft. たばこしばんむし (P. 239)
   a. 幼蟲 b. 蛹 c 卵 (廓大) d. 刻烟草ヲ以テ造レル繭 e. 被害巻煙草
3. Ptynus fur L. へうほんむし (P. 240)
   a. 幼蟲
4. Agriotes sericeus Cand. かばいろこめつき (P. 242)
   a. 幼蟲 b. 加害狀況
5. Tachys griseofasciatus Saund. なみがたちびたまむし (P. 245)
   a. 幼蟲 b. 蛹
6. Agrilus spinipennis L. けやきながたまむし (P. 246)
7. Rhomborrhina unicolor Motsch. あをかなぶん (P. 247)
8. Popilia japonica New. まめこがね (P. 247)
9. Euchlora cuprea Hope. どうがねぶいぶい (P. 248)
10. Anomala costata Hope. おほすぢこがね (P. 249)
11. Anomala geniculata Hope. さくらこがね (P. 249)
12. Melolontha japonica Burm. こふきこがね (P. 252)
    a. 幼蟲 b. 蛹

驅除法 同前。

（八）ならちやいろこがね Anomala pubicollis Wat.

被害植物 楢・櫟。

特徵 成蟲 體は黑紫色、翅鞘及び前胸背の兩側は黃褐色、體下に長白毛を密生す、脚は赤銅色、腿節の內方に一黃紋を裝ふ、雄にては翅鞘の周緣黑綠、前胸背の兩側は黃褐ならず、體長三分乃至三分五厘。

經過 未だ判然せざるも四月中旬より現はれ、櫟・楢及び其他殼斗科植物の葉を食害す、東京以南には普通なれども、東北地方には稀なり、北海道にては未だ之を見ず。

（九）こふきこがね Melolontha japonica Burm.（第二十四圖12）

被害植物 杉・櫟・椅。

特徵 成蟲 體は黑褐、頭及び前胸は少しく紫色を帶び、灰白毛を密生す、翅鞘は茶褐色、各四條の縱隆を有し、其間室に灰白色の短毛を密生するを以て恰も白粉を裝ふが如し、腹面にも亦白毛多く、第一節より第五節に至る腹側には各一個の毛塊紋あり、尾節は翅鞘より長く常に下向す、體長一寸內外。

幼蟲 前種に酷似す。

經過 前種に同じ、成蟲は六月中旬より現はれ、大小豆の葉を網目狀に食害す、時に群生して種々の作物根を截斷することあり、但し北海道にては未だ大小豆を食せしことなしと雖ども野葡萄には普通なり。

驅除法 同前。

(七)、ひめすぎこがね Anomala difficilis Wat.

被害植物 杉(苗床)。

特徵 成蟲 體は黃褐、頭・前胸背並に稜狀部は綠色を帶ぶ、但し稀に前胸背に綠色の二紋を有するものあり、雌にありては綠色部餘り判然せず、光線の工合により翅鞘も亦綠色を帶ぶ、翅鞘には六條の縱溝あれども判然せず、體下は黃褐尾節は綠色を帶ぶ、體長四分乃至五分五厘。

幼蟲 黃褐色、尾端の數節並に腹面は少しく黑藍色を帶ぶ、頭は橙黃色、褐色の長毛を裝ふ、第一節の硬皮板は橙黃色、氣門及び脚は赤褐、體長一寸五六分。

經過 未だ判然せざれども、幼蟲は九・十月頃現はれ、杉の苗床にありて苗根を食害す、二年に一回の發生をなすものなるべしと雖も未詳なり。

特徴　成蟲　體色に黄褐なるものと黄綠なるものとの二樣あり、頭及び前胸は多く綠色、額片に點刻多し、稜狀部は半圓形、少しく綠色を帶ぶ、翅鞘は暗褐のものあれども多くは黄褐、細小にして判然せざる縱溝を裝ふ、各腿節は黄色、體長五分內外。

幼蟲　乳白色、皮膚を透して胃腑の內容を透見し得べし、黄褐の頭を具へ、體に橫皺及び褐毛あること他の金龜子の幼蟲に異ならず。

經過　凡そ三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六七月の候に現はれ櫻の葉を網目狀に食害す、晝間は性活潑にして樹を動搖すれば飛び去れども、朝夕は忽ち落下す、蛹は地中にあり、觸角・翅及び脚は判然す。

驅除法　同前。

(六)、ひめこがね　Anomala rufocuprea Motsch.（第二十五圖1）

被害植物　大小豆・葡萄。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、體色は種々にして、綠色・綠褐色・黑藍色若くは褐色等あり、前者と異なる主點は、其腿節の暗綠色なるにあり、體長四分五厘乃至五分。

金色の短毛を密生す、體長八分內外。

幼蟲 前種に酷似す。

經過 八九月頃現はれ、杉及び葡萄の葉を食害す、經過未だ判然せざるも、他の金龜子に同じく幼蟲は少なくも三年間地中に棲息するものならん。

驅除法 同前。

(四)、おほすぢこがね Anomala costata Hope. (第二十四圖10)

被害植物 杉。

特徵 成蟲 體は綠色稀に黃色を呈す、頭及び前胸背は金綠色、前胸背の中央には一條の縱溝を裝ふ、稜狀部は半圓形、翅鞘は暗色にして各四個の縱隆を有し、紫色を帶ぶ、間室は粗糙なり、脚は黃色、體長五分乃至六分。

經過 成蟲は七月頃現はれ杉葉を食害す、其經過は未だ詳ならざるも前種と同じく地中にありて植物根を食するものならん。

驅除法 同前。

(五)、さくらこがね Anomala geniculata Hope. (第二十四圖10)

被害植物 櫻·苹樹。

被害植物　大小豆・葡萄。

特徴　成蟲　體は暗綠、頭及び前胸背は金綠色、翅鞘は褐色、兩側(前緣)及び翅鞘は黑綠色、點刻ある縱溝を有す、腹部には白毛多く、各節の兩側及び尾節の背上には各二個の白毛塊を裝ふ、脚には長き爪あり、體長四分內外。

幼蟲　體は乳白色にして環狀に彎曲し、各節には橫皺多し、體長六分。

經過　成蟲は六月頃より現はれ九月に至るまで盛に食害す、殊に荳科の雜草に多し、北海道にては野生の葡萄を食害すれども栽培せるものには加害なし、其甚だしきときは植物葉を網狀に食害す。

驅除法　他物に驚くときは脚を縮小して地上に落つるの性あるを以て心臟形の受網を以て捕殺すべし、田圃は春秋兩季に鋤起し、地中に潜伏せる幼蟲を地上に曝露し、後之に家禽を放ちて食はしむべし、烏も亦好みて之を食す。

(三)、**どうがねぶいぶい**　Euchlora cuprea Hope.　(第二十四圖9)

被害植物　杉・葡萄。

特徴　成蟲　體は暗藍色にして金色の光澤を有す、頭及び前胸に點刻を裝ひ、翅鞘の中央は突起す、背上には微小の點刻及び橫皺を散在し、胸・腹及び腹側には

五六分に達す、

經過 二年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次て羽化す、成蟲は五六月頃より現はれ、新伐木若くは立木に一粒づゝ卵子を產下す、幼蟲は樹幹に蛇樣の孔を穿ち之に蟲糞を充たしつゝ食害す。

驅除法 同前。

金龜子科 Scarabaeidae.

(一)、あをかなぶん Rhomborrhina unicolor Motsch. (第二十三圖 7)

被害植物 苹樹・槲・櫟・楡。

特徵 成蟲 體は光澤ある綠色、頭は粗糙にして點刻あり、稍〻長方形をなす、前胸の後緣に二個の凹刻あり、稜狀部は長三角形、翅鞘は略〻長方形をなし、翅端に近く瘤狀の突起あり、尾節は翅端より突出す。

經過 未だ判然せざるも成蟲は七八月頃に現はれ、苹樹の液汁を吸收す、大害をなさず。

(二)、まめこがね Popilia japonica Newman. (第二十四圖 8)

經過 未だ判然せざれども一年一回の發生なるべし、成蟲の有様にて越年するものと幼蟲の有様にて越年するものとあるが如し、成蟲は五六月頃より現はれ、葉綠層を食ひ網狀の纎維を殘留す、幼蟲は葉內にありて食害し、老熟すれば葉內に蛹化す、蛹は楕圓形にして赤褐、形成蟲に酷似す、七月上旬頃其害最も大なり。

驅除法 成蟲の現はるゝ時期を見計ひ網を以て捕ふべし、葉を害するものなれば掬網を以て葉を掬ひ捕ふべし、幼蟲の加害するものには驅除の法なし、又落葉は集めて之を燒棄すべし、

(二)、けやきなかたまむし Agrilus spinipennis Lew. (第二十四圖 6)

被害植物 欅・楡。

特徵 成蟲 體は黑褐、前胸及び頭頂は赤銅色、顏は鶯色にして光澤あり、體下及び脚は光澤ある鶯色、翅鞘は全面小顆粒を密布す、末端に各一個の刺あり、體長三分五厘乃至四分二厘。

幼蟲 白色、前頭は黃褐、第一節大にして廣く次の三節を合したるものと稍〻同長、各節の切目は前種の如く深からず、尾端に赤褐の二附屬物あり、老熟すれば

體は暗黑にして顆粒及び灰黃色の短毛多し、觸角黃褐、前胸背の中央稍〻隆起す、脚は黑色に、各跗節は赤褐なり、體長二分。

以上何れも甘蔗圃にて捕獲したるものにして、其加害の程度は判然せず。

吉丁蟲科 Buprestidae.

(一)、なみがたちびたまむし Trachys griseofasciatus Saund.（第二十四圖5）

被害植物 欅(ケヤキ)。

特徵 成蟲 體は光澤ある黑褐、少しく綠色を帶ぶ、赤褐短毛を密生す、前頭は深く凹陷し、中央に縱溝あり、觸角は黑色、前胸背に點刻あれども微小にして判然せず、稜狀部は微小、翅鞘は前胸よりも廣く、白毛より成れる三橫條ありて中央にある二條は波形をなし、翅端に近き一個は稍〻端直なり、體下は黑色、光線の工合にて腹基部は紫藍色を現はし、尾節は金色を放つ、體長一分二厘。

幼蟲 白色扁平、頭頂に黃褐の三縱條を具へ、前頭及び口部は黃褐、第一節は次ぎの兩節と稍〻同長にして同幅、以下の各節は深き切目を具へ、中央には暗色の一縱條(食道)を透視し得べし、尾端に至りて細まる、體長二分六厘。

縱線及び末端に於ける斑點は黑色なり、體長一分六厘。

(六)かんしよくろけしこめつき Cardiophorus devastans Mats.

體は黑色にして、灰黃の短毛を密生し、頭、前胸背及び翅鞘は少しく金綠色を帶ぶ、觸角は黑色を呈し、前胸背は稍〻圓く頗る光澤あり、脚は黑色、體長一分六厘。

(七)かんしよけしこめつき Cardiophorus frequens Mats.

體は黑褐色を呈し、灰色なる微細の短毛を密生す、頭及び前胸背は黑色、口部並に觸角は黃褐色なり、翅鞘は帶褐黑色にして前緣の基部は稍〻彎曲す、脚は暗黃褐、前肢の脛節は暗褐を帶ぶ、體長二分七厘。

(八)たいわんけしこめつき Cardiophorus formosanus Mats.

體は暗褐、頭及び前胸背は少しく濃色にして、後者の中央は少しく隆起す、翅鞘は褐色にして灰白の短毛を裝ふ、體長三分乃至三分五厘。

(九)たいわんたてじまこめつき Ludius suturalis Mats.

體は黑色、觸角は赤褐色を呈し、翅鞘は暗黃、前緣及び接合部大半は黑色なり、脚は黃褐にして灰色毛を裝ふ、體長三分三厘。

(10)しらきさびきこり Lacon shirakii Mats.

得べし、五六月頃の晴天に田圃を飛翔するもの多きを以て捕殺すべし、又作物の葉間に靜止するものあれば注意して殺すべし。

尙此科に係るものにして、臺灣にありて甘蔗を害するものは左の九種なり。

(二)、かんしよとびこめつき Silesis taiehuensis Mats.

體は暗褐色を呈し、頭·前胸背及び翅鞘は黑色にして、灰白の短毛を粗生し、前胸背の中央は少しく隆起し、脚は黃色なり、體長二分內外。

(三)、かんしよきこめつき Agriotes formosanus Mats.

體は赤褐、頭は黑色にして、灰白の短毛を密生す、前胸背の中央は隆起し、點刻及び灰白毛を散在し、脚は暗黃なり、體長一分六厘。

(四)、かんしよふながたこめつき Agriotes sacchari Mats.

體は橙黃色、頭は暗黑にして、頭頂に灰褐色の旋毛を有す、翅鞘は細長にして其末端は狹小し、脚は灰黃なり、體長二分乃至二分五厘。

(五)、かんしよづぐろこめつき Aeolus vittatus Mats.

體は暗褐、頭は黑色を呈し、觸角は暗褐にして基部の三節は黃色なり、前胸背は黃色にして中央に黑色の一縱條を備へ、後緣に至りて太し、翅鞘にある四條の短き

叩頭蟲科　Elateridae.

(一)かばいろこめつき　Agriotes sericeus Cand.（第二十四圖4）

被害植物　麥類・玉蜀黍・大麻・茄子・大小豆等。

特徴　成蟲　體は黒褐、頭及び前胸は黒色、點刻及び短毛を密布す、胸背は隆起し、後緣角は棘狀に突起す、翅鞘は褐色、灰色毛を裝ふ、細長にして末端稍〻尖小し、縱溝を裝ふ、脚は褐色、體長三分內外。

幼蟲　黃色にして皮膚は硬化し、圓柱形をなす、判然せる十二環節より成り、尾節は圓錐狀に終る、三双の胸脚あり、體長六分餘に達す、俗に「はりがねむし」と云ふ。

經過　四五年に一回發生をなす、幼蟲の儘越年し、早春稚根を切斷するを以て大害あり、成蟲は五月頃現はれ曇天に飛翔す、卵子は根邊に產下せらるゝものなるべしと雖も未だ判然せず、其害四五年に亙るを以て大なり。

驅除法　晝間は陰翳をなせる作物の根際に潜伏するものあるを以て搜索すべし、甘藷・胡蘿蔔・馬鈴薯等の斷片を筵の下に置くときは成蟲及び幼蟲を誘引し

驅除豫防法　標本箱に發生せるものを殺すには硫化炭素若くは青酸加里を燻蒸すべし、之が豫防としては那布篤林若くは「みるばん」油（Nitrobenzol）を用ふべし、但し後者の場合には針附硝子罎を要す、小箱に蕃殖したる場合には青酸加里の一塊を綿に包みて其儘放置し一晝夜の後之を除去すべし、然らざれば標本の褪色若くは針の腐蝕を來し大害を被ることあり。

鞘　翅　目

（二）せまるへうほんむし　Gibbium scotias F.（*G. psylloides Czen.*）（第二十八圖15）

被害物　同前。

特徴　成蟲　栗色にして頗る光澤あり、觸角及び脚に黄褐の短毛を密生す、頭は下方に向ひ、前胸背は短く、稜狀部を缺き、翅鞘は相癒着して稍々圓形に隆起し、末端及び兩側は圓く、後翅を缺く、腹部は兩側より見えず、全面點刻を缺く、形蚤に似たり、體長七厘内外。

經過　前種に酷似す、未だ廣く本邦に播布せず、歐洲地方にありては前種に劣らざる害蟲なりと云ふ。

驅除法　同前。

の何れの種類を問はず小孔を穿ち加害するを以て、商用に供すること能はざるに至る、卵は白色、長楕圓形、蛹は黃色、頭は少しく平たし、體長一分。

驅除法 同前。

標本蟲科 Ptynidae.

(一)へうほんむし Ptynus fur L. (第二十四圖3)

被害物 干鰯・穀粉・衣類(毛物)動植物標本等。

特徵 幼蟲 赤褐若くは黑褐、褐毛を裝ひ、胸部は細く、背上に四個の隆起あり、翅鞘は卵形若くは長楕圓形にして二個若くは四個の白毛の斑紋を裝ひ、脚は割合に長し、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲 體は乳白、圓柱形にして弓狀に彎曲す、三双の脚を具へ、短毛を粗生す、體長一分五厘。

經過 年二回もしくは三回の發生をなす、普通幼蟲の有樣にて越年すれども、時に成蟲にて越年するものあり、一代は凡そ三ヶ月半、蛹期は十三日間なり、蛹は薄繭を被り、標本箱內にあり、成蟲は物に驚くときは死狀を擬す。

(五)じんさんしばんむし(人參蟲) Sitodrepa panicea L. (第二十四圖1)

被害物 干鰯・穀粉・毛皮・其他動植物の標本。

特徵 成蟲 體は長楕圓形にして赤褐黃白の軟毛を密生す、前胸背の中央には一縱隆起を有し、後緣の中央は稍〻隆起す、翅鞘には點刻の縱列を具へ、頭は小にして下向し、觸角は棍棒狀を呈し末端の三節膨大す、體長七厘乃至一分。

幼蟲 常に弓狀に彎曲し、其形蠐螬に似たり、體は白色、頭は褐色、橫皺多し、體長一分三厘。

驅除法 靑酸加里の瓦斯を發散せしむれば根本的に害蟲を撲滅し得べし。

(六)たばこしばんむし Lasioderma testacea Duft. (*L. sericorne* Muls.) (第二十四圖2)

被害物 煙草。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども、形大にして幅廣く、翅鞘には微小の點刻あれども判然せず、黃色の短毛多く、點刻ある縱線を有せず、觸角は絲狀にして割合に長く、末端節は前種の如く膨大せず、體長七八厘。

幼蟲 金龜子の幼蟲に酷似す、體は白色、頭は黃色、體長一分五厘。

經過 年發生の回數は判然せざれども、何れの時季にも此害蟲を見得べし、煙草

(三)、けぶかしばんむし　Nicobium hirtus F.

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども形稍く太く、前胸背及び翅鞘の周圍に灰黄毛を密生し、翅鞘の間室は隆起せざるを以て容易に區別することを得べし、體長一分四厘乃至一分六厘。

(四)、もみのしばんむし　Ernobius abietis F.（第二十八圖10）

被害植物　同前(但し主として樅の如き松柏科植物を害す)。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども翅鞘に黄色の短毛を密生し、點刻ある縱溝列の代りに全面不規則に點刻を密布するを以て容易に區別することを得べし、體長一分二厘乃至二分。

經過　東京地方にては家屋に入り來りて樅・杉其他松柏科植物にて造りたる家材に蠹入して大害を加へ、竹類も亦其害を受くること少なしとせず。

驅除法　倉庫に蕃殖したる場合には靑酸加里を燻蒸すべし、是等害蟲の被害木は多く小孔を穿たるゝを以て其孔に石油もしくは酢を灌注すべし、成蟲の集來するもの、もしくは木材より出で來るものは注意して捕殺すべし。

を現はすを以て斑紋の如き觀あり、前胸背の中央は甚だしく隆起し、其中央に更に一縱溝あり、後緣には二凹陷を有し、翅鞘には點刻ある縱列を缺き、全面粗糙の點刻を密布すれども甚だ判然せず、中央は明に緊縊す、各翅の中央に約三條の縱走せる灰白線あれども判明ならず、體下及び脚に灰白毛多し、體長一分乃至一分五厘。

經過 未だ判然せず、六月より八月頃に至る迄成蟲を見得べし、幼蟲は種々の濶葉樹に寄生し殊に乾枯せる樹幹の皮下に蠹入して食害す、故に伐木の堆積しある場合には注意を要す。

(二)、たけのしばんむし Oligomerus brunneus Oliv.

被害植物 「たけ」・「かしは」・「はしばみ」(老木若くは枯木)。

特徵 成蟲 體は栗色、細長にして圓柱形を呈し、觸角は棍棒狀にして末端の三節は膨大す、前胸背の前緣は圓く細まる、翅鞘には點刻ある縱溝列ありて間室は隆起し、點刻及び毛を缺く、體長一分五厘内外。

經過 未だ判然せず、前種と同じく竹其他の材に蠹入して害を與ふれども、其害甚だ大ならず。

乃至四分。

幼蟲　白色にして頭は少しく褐色を帶び、大腮は暗褐色なり、第一節は大にして隆起し、尾端に長き劍狀の附屬物を具へ、其上面に小齒を列ね、尾節の腹面に三角形に突起せる部分あり、完熟すれば長さ五分以上に達す。

經過　未だ判然せざれども成蟲は六月上旬より現はれ、赤楊・白樺其他濶葉樹の幹に卵子を產附するものゝ如し、幼蟲は深く中軸に直角をなして穿孔し大害を加ふることあり、立木には害をなさゞれども堆積せる樹木は注意を要す、歐洲に於ては此種の幼蟲にて船艦材に穿孔するものありと云ふ。

驅除法　成蟲の出づる時期を見計ひ網を以て捕殺し、蟲孔には石油若くは酢を灌注すべし。

番死蟲科　Anobiidae (*Byrrhidae*).

(一)けまだらしばんむし　Ptilinus marmoratus Reitt.　(第二十八圖8)

被害植物　楡・槲・其他の濶葉樹(老木若くは枯木)。

特徵　成蟲　體は栗色にして灰白毛を密生す、而して其毛の生ぜざる處は地色

驅除豫防法　煙草の箱内に青酸加里の一片塊を綿に包みて入れ置くべし、但し青酸加里は水氣を呼ぶを以て一晝夜以上放置すべからず、若し倉庫内にある煙草に繁殖せる憂あれば青酸加里の瓦斯を燻蒸すべし、二硫化炭素を燻蒸するも有效なれど前者に劣るのみならず不經濟なり、煙草輸入の場合には注意して其害蟲の有無を檢査すべし。

筒蠹蟲科　Lymexylonidae.

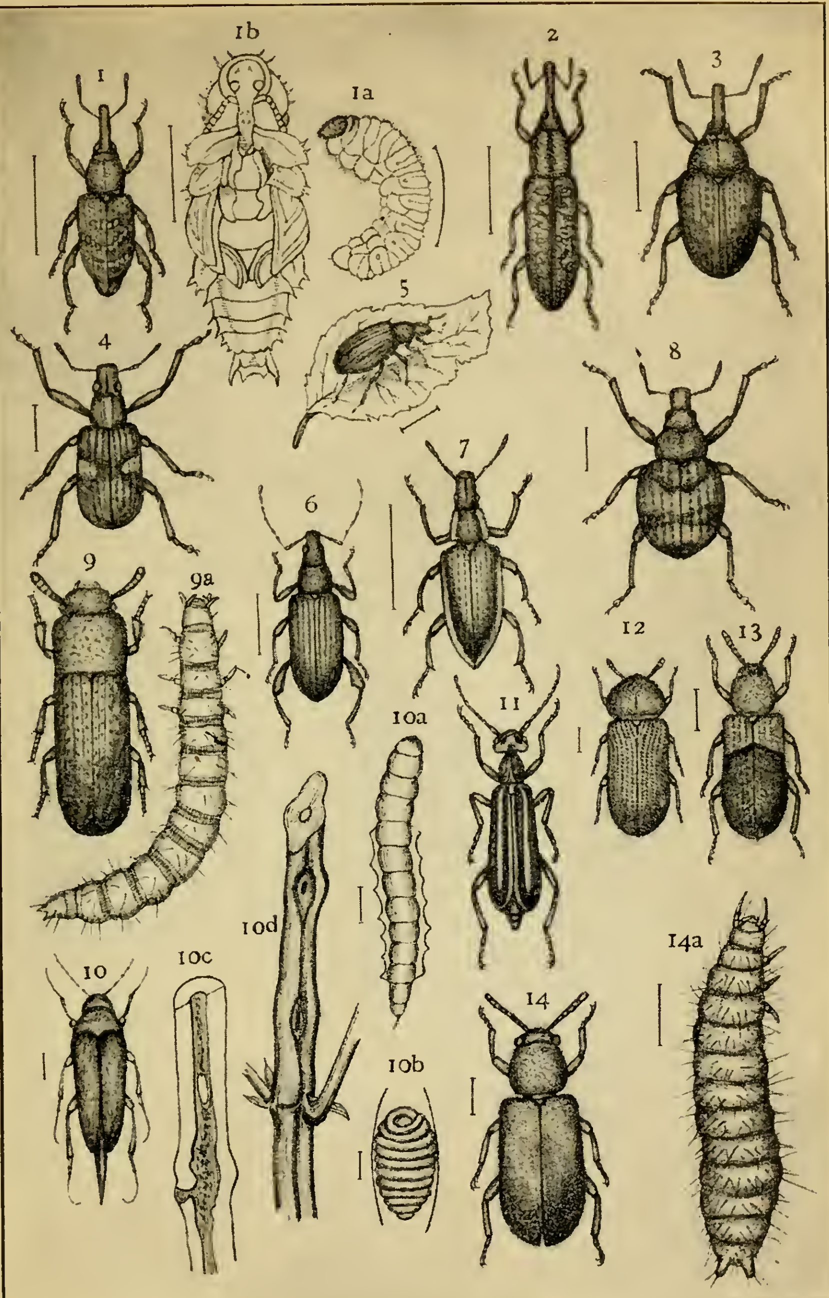
鞘翅目

(一)つまぐろつゝしんくひ　Hylocoetes cossis Lew.　（第二十八圖18）

被害植物　赤楊・白樺。

特徴　成蟲　體黄褐、頭は暗褐色にして粗大の點刻多く、短き黄毛を密生す、觸角は鋸齒狀にして暗褐色、第二及び第三節は黄色、兩鬚は黄色、下唇鬚の末端は暗褐色を呈し、前胸背は稍〻方形にして中央にX字狀の暗色紋を具へ、其後緣の中央は凹陷す、全面に點刻を散布すれども頭部に於けるものよりも粗なり、翅鞘の中央に近く分岐せる一縱隆起を備へ、微小の點刻あれども甚だ判明ならず、末端は暗黑色、胸面及び脚基節は暗褐、腹部及び脚は黄色を呈す、體長三分五厘

第貳拾參圖



第 貳 拾 參 圖

1. Hylobius transversoguttatus Goez. りんござうむし (P. 212)
   a. 幼蟲 b. 蛹
2. Lixus impressiventris Roel. あいのざうむし (P. 212)
3. Larinus griseopilosus Roel. おほごばうざうむし (P. 213)
4. Eugnathus distinctus Roel. こふきざうむし (P. 214)
5. Phpllobius argentatus L. りんごあをざうむし (P. 215)
6. Phyllobius longicornis Roel. りんごひげながあをざうむし (P. 216)
7. Chlorophanus grandis Roel. おほあをざうむし (P. 217)
8. Pseudocneorrhinus bifasciatus Roel. ふさすぐりざうむし (P. 217)
9. Tenebrio obscurus F. こめのごみむしだまし (P. 223)
   a. 幼蟲
10. Mordellistena cannabisi Mats. あさのはなのみ (P. 2-5)
    a. 幼蟲 b. 蛹 c. 被害ノ有樣(內部) d. 被害ノ有樣(外部)
11. Epicauta gorhami Mars. まめはんめう (P. 230)
12. Lyctus (Xylotrogus) brunneus Steph. たけのしんくひ (P. 231)
13. Coryneter ruficollis F. あかくびほしかむし (P. 232)
14. Corynetes rufipes Deg. あかあしほしかむし (P. 233)
    a. 幼蟲

特徴　成蟲　前種に酷似すれども脚は黑綠なり、體長一分五厘内外。

(四)たばこかつかうむし　Metademius tabacci Mats.　(第二十八圖14)

被害物　煙草(葉捲)。

特徴　成蟲　體は赤褐乃至暗褐色を呈し、前胸背及び翅鞘には少しく前方に向へる黃褐毛を粗生す、頭には點刻を密布し、大腮の末端は黑色、觸角末端の三節は膨大し、末端節は短き卵形狀を呈す、前胸背の中央に一縱溝を具へ、更に兩側に淺き一凹陷あり、刻點は頭部に於けるものより大にして且深く、後方に至りて細く恰も頸狀をなす、兩側に龍骨狀の一隆起あり、翅鞘は前胸背より少しく廣く、深き點刻の縱列あれども溝をなさず、後方は少しく廣し、脚は赤褐にして腿節は太く、跗節は五節より成れども四節なるが如し、第五跗節は長く他節を合したるものと其長さ同じ。體長一分七厘。

經過　未だ判然せざれども臺灣地方にありては葉捲煙草に普通なる種類なり、幼蟲は同じく煙草に棲息するものならんも未だ發見せしものなし、余の所有せる標本は十月中旬に捕獲せるものなるが、四期何れの時期にも捕獲し得べしと云ふ。

繭内に蛹化す、蛹は白色、二週間内外にて羽化す、成蟲は卵子を干鰯の上に産下し、卵子は數日後に至りて孵化す、又豚の燻腿を害することあり、此場合は重に其脂肪組織を食す、相集合するの性あり。人之に觸るれば死狀を擬す。

驅除豫防法　干鰯百斤に對し八匁程の二硫化炭素を一樣に撒布し、其上より發散を防ぐ爲め毛布若くは筵を蓋ひ、大凡三時間其儘に放置すべし、倉庫の壁側は石灰に石炭酸を混じて塗抹し置くべし。

(二)あかあしほしかむし Corynetes rufipes Deg.（第二十三圖14）

被害物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、頭、前胸及び翅鞘は皆暗綠色、脚は赤褐、體長一分六七厘。

幼蟲　體は細長にして平たく、初めは白色にして次第に灰色となる、頭及び尾節に二個の褐色の突起あり、全體割合に長き軟毛を粗生す、體長三分に達す。

經過　同前。

(三)るりほしかむし Corynetes violacea L.

被害物　同前。

室は隆起す、體長一分二三厘。

幼蟲　體黄白色にして、蠐螬の如き狀をなす、體長三分。

經過　未だ判然せざれども之に蠹入せられたる竹類若くは藤黄の如きは粉末狀の蝕屑を出すを以て容易に其存在を認め得べし。

驅除法　成蟲の現はるゝ時期を見計ひ捕殺すべし、一度竹の內部に蠹入すれば驅除困難なり、竹若くは藤黄の小片なれば箱中に入れ青酸加里にて燻蒸すべし、二硫化炭素を用ふるも其の効同じ。

郭公蟲科　Cleridae.

(一)、あかくびほしかむし　Corynetes ruficollis F.（第二十三圖13）

被害物　干鰯・其他動物性の標本。

特徵　成蟲　體は暗綠、褐毛多し、前胸・翅底及び脚は赤褐、其形狀葉蟲に似たれども、跗節は常に五節にして、翅鞘に毛を有するにより容易に區別し得べし、體長一分七厘。

經過　年數回の發生をなし幼蟲の有樣にて越年す、翌春四五月頃老熟し、紙樣の

し、即ち成蟲は花上(若くは地膽の如く地上に產下せらるゝことあり)に卵を產下す、孵化すれば所謂三爪類(Triungulin)と稱し三爪を具へ、頭には大なる大腮を有し、長き三双の脚幷に二本の尾毛を有するものとなる、花上に蜂の來るものあれば之に縋りて蜂巢に至り爰に蜂蜜を食す、後退化して異形變態をなす、幼蟲は常に蜂巢に住するを以て農家に害なし、成蟲は葉を網狀に食ひ大害を加ふることあり。

驅除法　同前。

五節類　Pentamera.

竹蠹蟲科　Lyctidae.

(一)たけのしんくひ　Lyctus (Xylotrogus) brunneus Steph.　(第二十三圖12)

被害植物　竹・藤・黃。

特徵　成蟲　體は赤褐色にして圓柱形を呈し、灰色毛を密生し、黠刻を密布す、觸角は十一節より成り、末端の二節は膨大す、前胸背の兩側は突出し、之に鋸齒狀の小突起を列ね、中央に細き一縱溝を具ふ、翅鞘には黠刻ある縱線を併列し、間

く、翅鞘は大にして長卵形を呈し、頭・胸よりも更に一層大なる點刻を密布す、灰色の短毛多く、腹部は稍褐色なり、體長三分五厘内外。

經過 未だ判然せざるも前種と同じく幼蟲は地中に棲息するものならん、成蟲は桑の葉を食すれども其害大ならず、臺灣及び支那に普通なり。

驅除法 心臟形の受網を用ひ其中に打ち落すべし、亞砒酸の如き毒藥は有効なれども石油の如き劇藥は奏効著しからず。

地膽科 Meloidae.

(一)、まめはんめう Epicauta gorhami Mars.（第二十三圖11）

被害植物 大小豆。

特徴 成蟲 體は黑色、頭は赤褐、頭頂の一紋、複眼の内方にある各一縱紋並に口部は黑色、前胸背の中央に黄色の一條を縱走す、翅鞘の周圍幷に中央の一縱條は黄色、胸片に灰色の短毛を密生す、各腹節の後緣にも亦同樣の灰色毛あり、體長雌雄五分乃至七分五厘。

經過 未だ判然せざるも歐米に於けるものと同樣なる經過をなすものなるべ

僞葉蟲科 Lagriidae.

(一)はむしだまし Lagria rufipennis Mars.

被害植物 荳科植物

特徴 成蟲 體は黑色、翅鞘は赤褐乃至黃褐にして、黃色及び黃褐の長毛を密生す、觸角は棍棒狀を呈し其末端節は甚だ長く次の三節を合したるものと略〻同長なり、頭は粗糙にして點刻及び顆粒あり、前胸背は四角形をなして頭より少しく廣く、中央に縱溝あり、點刻多し、翅鞘は長卵形にして粗大の點刻を密布し、直立せる黃毛多し、此蟲は金花蟲科に酷似すれども前肢の五節なるによりて容易に區別することを得べし、體長二分五厘乃至三分。

經過 未だ判然せざれども幼蟲は地下にありて植物根若くは朽木根を食するもの丶如し、六七月の頃何れの地にも普通なり、甚だしき害なし。

(二)おほはむしだまし Lagria rubiginea Fairm. (第二十八圖16)

被害植物 桑。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭・觸角及び脚は黑褐なり、頭及び前胸背に粗大の點刻多

被害者 人類。

特徴 成蟲 體は暗褐、觸角及び兩鬚は黃褐にして全體黃褐の短毛多し、前胸背の前後兩緣は少しく淡色、翅鞘に小點刻を密布し、二個の縱隆起あれども餘り判明ならず、脚は黃褐、腿節は暗褐、體長三分五厘內外。

經過 未だ判然せざれども成蟲は日中は花蜜を吸ひ夜間燈火を慕ひて家室に入り來り、其尾端より滲出する液汁人の皮膚に觸るれば一種の水腫を生ず、芫菁と同一の毒を有するものゝ如し、幼蟲は朽木を以て食となすものゝ如く、余は未だ幼蟲を見ざれども、玆に共一的の形態を述べんに、幼蟲は長形にして前方は廣く、後方に至りて細狹となれり、頭は稍〻角質にして兩側に二個の單眼あり（稀に之を缺くものあり）、四節の觸角と五節の脚とを具へ、第四腹面部に一双の瘤狀突起を有し、尾節は稍〻三角形をなす。

驅除法 燈火に飛來するの性あれば其發生時期を見計ひ燈火誘殺法を行ふべし、其尾端より滲出する液汁は酸性なるを以て五十倍の「あんもにや」液を局部に塗抹すべし、晝間は花に集るの性あるが故に豫め花圃を設けて其來集せるものを捕殺すべし。

黄褐、體長一分三厘乃至一分五厘。

經過 未だ判然せざれども成蟲は七月下旬乃至八月上旬に現はれ、古き柱に直角をなして横孔を穿ち其內に產卵するものゝ如し、柱は之が爲め無數の孔を穿たれ、其基部に木屑の堆積することありて、恐るべき害蟲なり、札幌地方に稀ならず。

驅除法 此害蟲に罹りたる家柱は小孔を穿たれ居るを以て、其孔より灌注器若しくは「すぽいと」にて酢若くは石油の如きものを注入すべし、又舊孔に入りて產卵するの憂あれば之に石膏若くは漆喰の如きものを塡め置くべし、殊に「ぶな」は此害に罹り易きを以て此害蟲の多き地方には用ひざるを可とす、松「とゞまつ」の如きは被害なきが如し、又家屋內に侵來するものを禦ぐには成るべく障子を開かざる樣なすべし、若し寒冷紗の如きものを用ひて障子を張るときは全く其侵入を禦ぎ得べし、成蟲は注意して捕殺するを要す。

擬天牛科 Oedemeridae.

(一、)をがさはらかみきりもどき Xanthochroa ogasawarensis Mats. (第二十八圖17)

の長產卵管を具ふ、體長一分內外。

幼蟲　全體黃色、頭は赤褐、脚は短小、尾端に圓錐狀の突起を有し、第四節より第十節までの兩側に各一個の肉樣突起を具ふ、體長二分。

經過　幼蟲の儘越年し、翌春蛹化し次で羽化するものゝ如し、幼蟲は大麻の莖中に蠹入するを常とす。

驅除法　繖形科植物の花にある成蟲を捕殺すべし、瘤狀に膨大せる莖は其存在を示すものなれば採りて燒棄すべし。

大花蚤科　Rhipiphoridae.

(一)きくひおほはなのみ　Pelecotomides japonicus Pic.（第二十八圖19）

被害植物　しなのき・えんじゆ。

特徵　成蟲　體は黑色、翅鞘は暗褐、全體灰白の短毛を生じ、絹の如き光澤を現はす、觸角は雄にありては櫛齒狀、雌にありては鋸齒狀を呈し、基節の三節は黃色、他は褐色、兩鬚は黃色、前胸背は三角形にして前緣細く、翅鞘は細長にして小點刻を密布し、末端は細小となれり、雌の尾端及び產卵管は黃色、脚は黑褐、跗節は

特徴 成蟲 體は赤褐若くは黄褐にして扁平なり、額には點刻多く、觸角末端の三節は膨大す、胸部は稍〻四角形、翅鞘には圓孔ある縱溝ありて、列間には更に點刻を裝ふ、體長一分五厘。

幼蟲 形細長、黄褐にして關節部は淡色、尾節に三個の突起を具ふ、體長二分内外。

經過 少くも年四回の發生をなす、其早きは二十四日間にて一代を終るものなれども、寒冷若くは食物缺乏の場合には二ヶ月餘に亙ることあり、多くは幼蟲の儘越年す、卵子は食物上に産附せられ約六日間にて孵化す、蛹は裸蛹なり。

驅除法 同前。

花蚤科 Mordellidae.

(一)、あさのはなのみ Mordellistena cannabisi Mats. (第二十三圖)

被害植物 大麻。

特徴 成蟲 全體黒色、灰白の短毛を裝ふ、頭は下向し、眼は卵形、前胸及び翅鞘は弓狀に膨大し恰も西瓜の斷片の如し、後腿節は膨大し、跳躍に適す、雌は圓錐形

幼蟲　全體黄色、細長にして硬化せる皮膚を有す、十二の判然せる環節より成り、發達せる大腮及び脚を具ふ、體長一寸内外。

驅除法　倉庫内に發生せる場合には硫黄を燻蒸すべし、又二硫化炭素を用ふるも宜し、幼蟲は篩にて分離すべし、倉庫内の壁は可成白色となし成蟲の存在を顯著ならしむべし。

(二)くわしのごみむしだまし Hypophloeus floricola Mars.

被害物　穀粉、菓子。

特徴　成蟲　體は赤褐若くは黄褐、細長にして頭は稍ゝ隆起し、小點刻を密布す、觸角末端の三節は膨大す、前胸背には小點刻を密布し、其前緣角は棘狀をなして突出し、後緣は圓く中央に濃色の二縱列あり、翅鞘は前胸背よりも約二倍半廣く、約八個の點刻ある縱條を裝ふ、體長一分。

經過　未だ判然せざるも成蟲は夏日現はれ穀粉・干菓子等に稀ならず。

驅除法　同前。

(三)こくぬすともどき Tribolium ferrugineum F.

被害物　同前。

點刻も亦遙かに小さく、翅鞘の中央には暗褐の二紋を具へ、兩側及び翅端は暗褐、腿節末端の內側に暗褐の大紋あり、體長三分五厘、口吻一分、小笠原島にては甘蔗を害すること大なりと云ふ。

(五〇)しらふへうたんざうむし Amystax fasciatus Roel. (第二十八圖7)

暗褐、頭及び前胸背の兩側に灰色の鱗毛を密布す、前胸背に疣狀の突起多し、翅鞘は長卵形にして灰白の小紋を散在し、中央より少しく後方に當りて灰白の二紋あり、且末端も灰白なり、脚は黃褐、灰白の鱗毛多し、體長二分五厘內外、伊豫地方にて梨を害すること大なりと云ふ、又松をも害すといふ。

異節類 Heteromera.

僞步行蟲科 Tenebrionidae.

(一)こめのごみむしだまし Tenebrio obscurus F. (第二十三圖9)

被害植物 穀粉。

特徵 成蟲 體は赤褐にして稍扁たく、頭・前胸背及び翅鞘は黑褐、微小の點刻を密布し、翅鞘には八條の點刻ある縱溝を裝ふ、脚は赤褐、體長五分五厘內外。

に種々の稚苗を食害す、臺灣には最も普通なり。

(四七)**くすあなあきざうむし** Hylobius macilentus Bohem. (第二十八圖3) 赤褐乃至暗褐にして、前胸背に疣状の小突起を散在し、中央には後緣に達せざる一縱隆起あり、翅鞘には點刻列ありて、尾端に近き兩側に疣狀の一突起あり、金色の鱗毛多し、體長五分內外、沖繩地方に普通なる樟の害蟲なり、目下東京地方にも産するに至れり。

(四八)**かんしよざうむし** Sphenophorus obscurus Boisd. 黃褐にして、頭・觸角及び口吻は暗褐色を呈し、前胸背上は稍〻平たく、中央に短き黑褐の一縱條あり、中央にある點刻は少しく且小形にして兩側には二個の暗褐紋あり、翅鞘には八個の深き縱溝列ありて之に點刻を有し、間室は隆起し、之に點列を連ぬ、兩側に褐色の一縱條あり、體下は光澤ある黑色にして黃褐紋を裝ふ、脚は黃褐、腿節端及び跗節は暗褐なり、體長四分、口吻一分五厘、甘蔗苗に附着し布哇より臺灣に輸入せられたる大害蟲なり。

(四九)**をがさはらざうむし** Sphenophorus maculatus Mats. (第二十八圖2) 前種に酷似すれども形小にして短く、口吻は褐黃にして其點刻小なり、胸背上の

(四二)あらげざうむし Phytoscaphus formosanus Mats. 赤褐、灰白の鱗毛多し、翅鞘には暗褐の短毛及び鱗毛を密生するを以て不規則の斑紋を現はす、體長二分、甘蔗の葉を食す、臺灣に產す。

(四三)はいいろざうむし Tanymecus rusticus Gyll. 黑色なれども灰黃の鱗毛を密布するを以て一見灰色を呈す、翅鞘には點刻ある縱溝を備へ、前緣は濃厚の灰白色を呈す、體長四分乃至六分、甘蔗の恐るべき大害蟲にして、臺灣に普通なり。

(四四)くすざうむし Atmetonychus peregrinus Oliv. (第二十八圖5) 黑色にして光澤あり、頭頂及び前胸背に三縱溝ありて後者の兩側には縮刻あり、翅鞘には八條の點刻列ありて間室は平滑、翅鞘端には短き黃毛多し、體長五分內外、臺灣に於ける有名なる害蟲にして樟の苗を食す。

(四五)わたざうむし Atmetonychus gossypi Mats. 前種に酷似すれども全面に灰色の鱗毛を密生し、又灰色の毛塊紋あり、且灰白の短毛を裝ふを以て容易に區別することを得べし、體長五分內外、臺灣にて棉の苗を食害すること大なり。

(四六)たいわんおほあをざうむし Hypomeces squamosus F. 黑色にして、金綠色の鱗毛を密布す、頭は金色、脚及び體下は帶紅金色の鱗毛を密布す、體長五分內外、前種同樣

經過 成蟲は五六月頃より現はれ材部に眞直なる孔を穿ちて產卵し、幼蟲は其上下に不規則なる長孔を造りて食害す、成蟲の狀態にて越年するものと幼蟲の儘越年するものとあり、成蟲は小蠹蟲科の種類に酷似せるものにして、從來小蠹蟲科に編入せられたるものなり。

尙此科に屬し有害なるものは左の如し。

(三八)**ちやいろこふきざうむし** Myllocerus brunneus Mats.赤褐色にして、口吻の末端は黑褐、體長二分七厘、甘蔗の葉を食害す、臺灣に普通なり。

(三九)**うすあをこふきざうむし** Myllocerus guttulus Mats. 黑色、帶綠灰色の鱗毛を以て被はれ、翅鞘に暗色紋を散在す、體長二分五厘、甘蔗の葉を食害す、臺灣に普通なり。

(四〇)**しろこなざうむし** Erisomus albinus Mats.灰白にして、粗大の點刻多し、前胸背に三條の黑斑を備へ、其中央にあるものは最も判明なり、翅鞘には二個の黑紋を裝ふ、體長二分、甘蔗の葉を食害す、臺灣に產す。

(四一)**しらほしまるざうむし** Cneorrhinus albiguttatus Mats. 灰褐にして、白色の鱗毛多し、前胸背に粗大の橫皺を有し、縱走せる白色條あり、翅鞘に數個の灰白紋を散在す、體長四分、甘蔗の葉を食す、臺灣に普通なり。

針葉を食す九州地方にては三月頃より現はる、千葉・熊本地方に多し。

(三六)**あしながざうむし** Phialodes rufipennis Roel.（第二十八圖1）

被害植物　「くぬぎ」・「なら」。

特徴　成蟲　光澤ある黑色を有し、翅鞘は赤褐にして其基部に瘤狀の二突起を備へ、粗大の點刻及び縱列溝あり、稜狀部は黑色にして其中央凹陷す、脚は黑色にして長く、殊に前肢に於て然りとす、體長二分五厘内外。

經過　成蟲は五六月より現はれ、樹葉を筒狀に卷縮し其内部に一個宛白色球形の卵子を藏す、幼蟲孵化すれば其内容を食し、完熟する頃には卷葉地上に落つるを以て同時に地中に入り次て蛹化し、翌春に至りて成蟲となること前述の如し。

(三七)**れいすざうむし** Hyorrhynchus lewisi Blandf.

被害植物　「はるにれ」・「いたや」・「はんのき」・「ぶな」。

特徴　成蟲　灰褐色を呈し雄にありては頭部少しく長く口吻狀をなし、雌にありては圓形なり、眼は各中央にて二分す、翅鞘の肩部と中央より後方に向ひ不規則なる帶狀部ありて、末端には短き黄毛を裝ふ、體長一分五厘。

を具へ、又金屬性の光澤ある灰黃若くは淡綠の鱗毛を裝ふ、眼は黑色、觸角の基節溝は黑色にして長く、眼底に達す、前胸は頭より廣く、背上及び側面に暗色の縱線を有するものあり、翅鞘は甚だしく膨起し殆んど球形をなす、深き點刻の縱列あり、全面圓形の鱗片にて被はれ、二條の暗褐帶あり、脚にも亦金色の鱗毛を裝ふ、體長二分內外。

經過　未だ判然せざれども幼蟲は地下に棲息するものゝ如し、成蟲は六七月頃現はれ、「ふさすぐり」の葉を食ひて大害を加ふることあり。

(三五)まつのとびざうむし　Polydrusus pini Mats.（第廿八圖6）

被害植物　松。

特徵　成蟲　黃褐色にして上面に黃褐毛、下面に少しく紅色を混ぜる灰白毛を密生す、口部は暗褐、觸角は黃褐、末端の球桿は褐色を呈し、前胸背の兩側には灰白毛ありて縱紋をなす、翅鞘は前胸より遙かに廣く、灰白にして翅底及び全面に散在せる斑紋は黃褐なり、脚黃褐、腿節は太く、其膨大せる部分は灰白毛を密生す、體長二分五厘內外。

經過　未だ判明せざるも成蟲は四五月頃より發生し、松の新芽に小孔を穿ち、又

被害植物　同前。

特徴　成蟲「りんごあをざうむし」に酷似すれども地色は黃褐にして綠色鱗を密生す、觸角は長くして黃色、膝狀をなし、末端は膨大し、後肢の基節を越ゆ、脚は黃褐、腿節は著しく膨大す、體長二分五厘內外(口吻共)。

經過　同前。

鞘翅目

(三三)おほあをざうむし　Chlorophanus grandis Roel.（第二十三圖7）

被害植物　苹樹・柳。

特徴　成蟲　體は鑛物性の黃綠色、觸角の末端及び基部は黑褐色、口吻は前胸より短く、中央に一縱溝あり、前胸背には縮紋を具へ、兩側に黃色の縱條あり、稜狀部は黃色、翅鞘に點刻ある縱溝を具へ、兩側に黃色の縱條を裝ふ、體下に黃毛を有する部分あり、體長(雌雄)四分乃至五分。

經過　不明なり、青森地方にては苹樹の葉を食することあれども其害大ならず。

(三四)ふさすぐりざうむし　Pseudocneorrhinus bifasciatus Roel.（第二十三圖8）

被害植物　ふさすぐり。

特徴　成蟲　體は暗灰色、口吻は短く、末端二分し、其中間は黑色、之に數箇の剛毛

(二〇)りんごあをざうむし Phyllobius argentatus L.（第二十三圖5）

被害植物　苹樹。

特徴　成蟲　體は黑色にして灰黃毛を裝ふ、頭、胸及び翅鞘には金綠色の鱗毛あり、複眼は黑色にして大、口吻は短く、中央に縱溝を裝ふ、觸角の基節溝は口吻の上方にありて相接近す、前胸背の中央は稍〻隆起し、翅鞘には縱溝ありて之に白毛を裝ふ、脚は黃色、腿節には棘刺あり、體長一分八厘、口吻五厘。

經過　成蟲は六七月頃現はれ、苹樹の新芽及び軟葉を食害すれども其經過未だ判然せず、幼蟲は地下にありて食害するものなるべし。

(二一)りんごこふきあをざうむし Phyllobius armatus Roel.

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前者に酷似すれども觸角の基節溝は口吻の兩側にありて廣く分離す、脚は黑色、稀に黑褐のものあり、體長(雄)一分五厘(口吻共)乃至(雌)二分、口吻五厘內外。

經過　同前。

(二二)りんごひげながあをざうむし Phyllobius longicornis Roel.（第二十三圖6）

を呈す口吻短く、中央に一縦溝あり、觸角は細くして黑褐、前胸背の前後は同徑にして圓柱形を呈し、翅鞘は卵形に近く、八條の點刻ある縱溝を裝ふ、體長一分五厘。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は七月より現はれ、大小豆の圃に集まり來り其葉を食害す、幼蟲は根部を食するものなるべしと雖も未だ判然せず。

(元)、ちびあをざうむし *Phyllobius pruni* Mats.

被害植物 苹樹・桃・櫻・栗。

特徵 成蟲 體は褐色、黃綠の鱗毛を密生す、觸角及び脚は黃褐、但し後者には金綠毛あり、口吻は褐色、頭及び前胸背は稍〻同幅、翅鞘には八個の點刻より成れる縱溝列ありて、間室には點刻あれども鱗毛の爲め判然せず、體は暗褐、體長七厘乃至一分。

經過 未だ判然せざるも熊本地方にては大害を加ふる種類なり、成蟲は六月より現はれ、葉の裏面を食ひ表皮及び纖維を殘留す、幼蟲は地中にありて根を害するものなるべし。

び後緣に一個の凹陷あり、翅鞘には粗大なる點刻の縱條を裝ひ、白色の毛塊多きを以て恰も白紋を散在せるが如し、體下及び脚には灰白毛を裝ふ、體長三分五厘乃至四分。

經過　未だ判然せざれども成蟲の有樣にて越年するものゝ如く、五六月頃より現はれ、野生の山牛蒡を食ひ、次て栽培植物に移り來り加害するものゝ如し。

(七)ごばうざうむし Larinus latissimus Roel.

被害植物　牛蒡。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども少しく小にして卵形、頭は小、點刻を密布す、口吻は大にして下向す、翅鞘には點刻列ありて白色の毛塊を散在す、前胸と共に腹部に粗大の深き點刻を裝ひ、又短毛を粗生す。

經過　未だ判然せざれども牛蒡の種實中に入りて食害し、遂に其內部を空虛ならしむ。

(八)こふきざうむし Eugnathus distinctus Roel.（第二十三圖4）

被害植物　大小豆。

特徵　成蟲　體は黑褐、綠色鱗を裝ひ、光線の工合にて白粉を密布せるが如き觀

に似たるを以て「かつをむし」の稱あり、體長三分内外、口吻一分三厘。

經過　年三回の發生をなす、卵子は晩秋蓼大黃の如き野草に産下せられ、其儘越年す、翌春第一回の發生を終へ、成蟲は五月下旬藍苗移植後に現はれ藍葉を食ひ、一個乃至四個の卵子を莖節に藏す、一頭の産卵數多きは二十三四個、卵は白色圓形、一週間以内に孵化し、莖中に蠹入して三週間餘にて老熟す、蛹は褐色、第二回の成蟲は七月上旬、第三回は八月下旬現はる、朝夕は葉下に潛み、晝間出て食害す、幼蟲は莖中に蠹入して大害を加ふ。

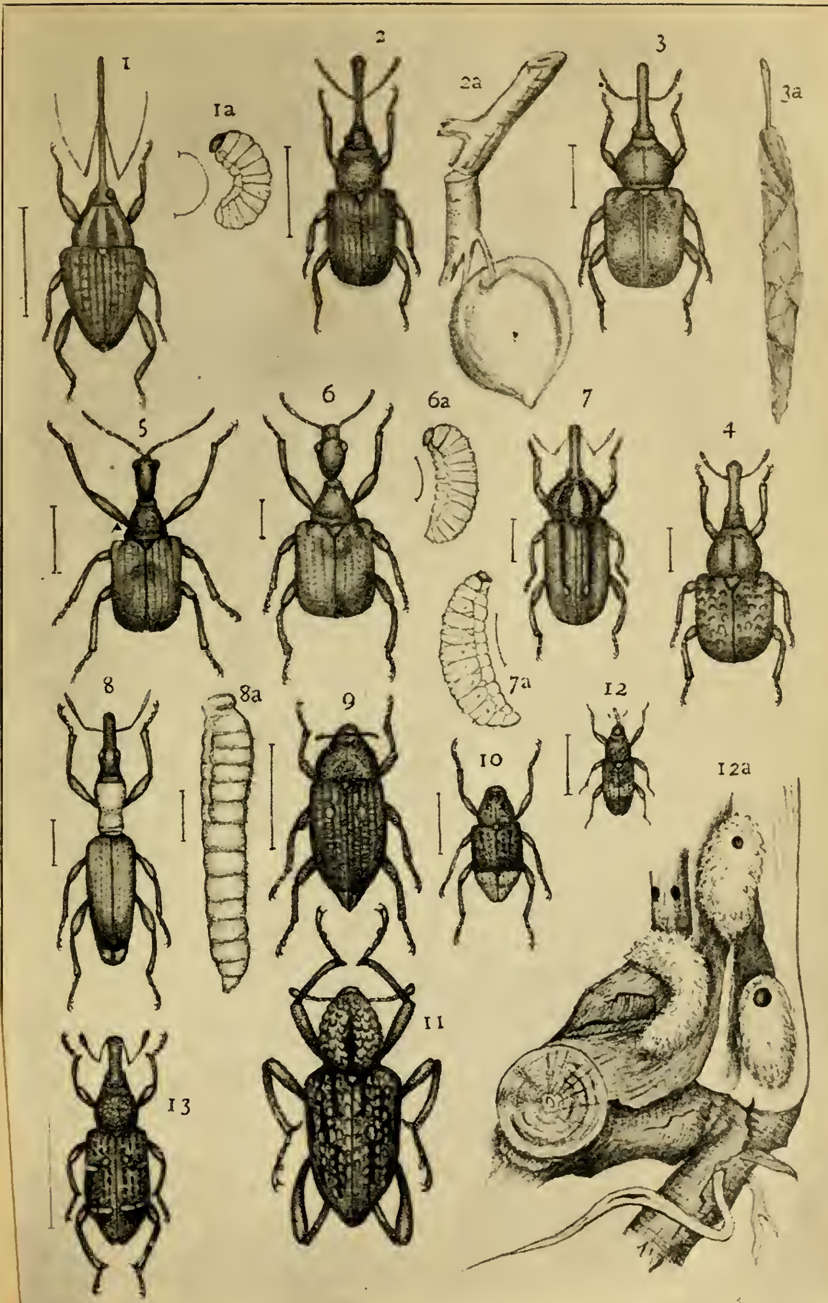
此屬に係るものにして**かむちやほそざうむし** Lixus vetula F. と稱するものあり、體は黑色、觸角は赤褐、頭頂には一縱條を有し、前胸には顆粒多し、翅鞘は前胸の約二倍ありて後方に至りて少しく擴がる、判然せざれども灰白の毛塊紋を散在す、體長三分、臺灣にては甘蔗の葉を食して有害なり、幼蟲は其根を食とするものならんも不明なり。

(三六)**おほごばうざうむし**　Larinus griseopilosus Roel.（第二十三圖 3）

被害植物　牛蒡。

特徵　成蟲　體は光澤ある黑色、口吻は胸部より長く、前胸背に縮刻多く、兩側及

第貳拾貳圖



第 貳 拾 貳 圖

1. Balaninus dentipes Roel. くりしぎざうむし (P. 198)
   a. 幼蟲
2. Rhynchites heros Roel. なしのちよつきりざうむし (P. 199)
   d. 被害ノ有様
3. Rhynchites betuleti F. var. motschulskyi Lew. いたやはまきざうむし (P. 201) a. 卷葉
4. Byctiscus lacunipennis Jekel ぶだうめざうむし (P. 202)
5. Attelabus jekeli Roel. おとしぶみ (P.202)
6 Attelabus rufiventris Roel. ひめくろおとしぶみ (P. 203)
   a. 幼蟲
7. Echinocnemus bipunctatus Roel. いねざうむし (P. 204)
   a. 幼蟲
8. Cylas formicarius Tryon. ありもどきざうむし (P. 207)
   a. 幼蟲
9. Cechania eremita Pasc. おほくちかくしざうむし (P. 208)
10. Cryptorrhynchus lapathi L. やなぎしりじろざうむし (P. 208)
11. Sipalus gigas L. おほざうむし (P. 210)
12. Pissodes nitidus Roel. まつのきぼしざうむし (P. 210)
    a. 被害ノ松樹
13. Hylobius abietis L. まつのおほざうむし (P. 211)

ことあり、成蟲は老樹又は倒木に產卵するの性あり、幼蟲は根際を害すること多し、成蟲は幼樹の皮を食し、黄白色にして無脚、頭は褐色、老熟すれば四分餘に達す、形成層を食するを以て樹木を枯死せしむ。

(二四)りんござうむし Hylobius transversoguttatus Goez. (第二十三圖1)

被害植物 苹樹。

特徴 成蟲 前種に酷似す、全體粗糙にして殊に翅鞘には粗き凹陷ありて網目狀を呈し、前胸に黄褐色の毛塊紋を有す、翅鞘は急に細小し、肩部は突起す、體長四分七厘、口吻一分五厘內外。

經過 未だ判然せざれども幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し次で羽化するものゝ如し、成蟲は樹皮を輪食し大害を加ふ、恐くは根際に產卵するものなるべし。

(二五)あゐのざうむし Lixus impressiventris Roel. (第二十三圖2)

被害植物 藍。

特徴 成蟲 體は細長にして黒褐、口吻は細くして前胸より長し、觸角は赤褐、前胸背には顆粒狀の點刻多し、翅鞘は略〻圓柱形、縱溝を具へ白毛を裝ふ、全體鰹節

被害植物　松・椵・えぞまつ・落葉松。

特徴　成蟲　體は黑褐、白鱗を裝ふ、頭・口吻・前胸及び翅鞘は赤褐、口吻は短大にして末端黑色、前胸には點刻を密布し、中央に二個の白紋を裝ふ、翅鞘には點刻の縱列を有し、末端は急に細小す、翅端に近く白鱗を密生し恰も斑紋の如し、脚は赤褐色にして少しく黑色を帶ぶ、棱狀部は黃白色、體長二分五厘、口吻六厘。

經過　成蟲は樹幹に卵子を產下す、幼蟲は皮下に鳥巢の如きものを造り其內にありて食害す、老熟すれば靭皮部に入りて蛹化す、羽化すれば小圓孔を穿ち外界に出づ、年一回の發生をなすものゝ如し。

(亖)まつのおほぞうむし　Hylobius abietis L.（第二十二圖13）

被害植物　同前。

特徴　成蟲　體は黑褐、口吻は短大にして少しく赤色を帶び、淺き點刻を密布す、前胸は不正なる球形をなし、顆粒狀の隆起及び點刻多し、翅鞘は前胸より少しく幅廣く、深き點刻列を有し、黃白色の毛塊紋ありて約二列に排置せらる、腹面には黃白色の短毛を粗生す、體長四分五厘、口吻一分。

經過　二年に一回の發生をなせども、時に一年若くは一年半にして成蟲を出す

厘内外、幼蟲は松の衰弱せる樹幹或は全く枯死せる部分に寄生し、八九月の頃主として樹皮下に沿うて孔を造り、又淺く材部に蠹入して材質を損す、冬期は木屑を以て造りたる繭内にて越年す、九州地方に多し。

(三)、おほぞうむし Sipalus gigas L. (第二十二圖11)

被害植物 楡・柳・櫸・栗・枹・楢等。

特徴 成蟲 體は灰色若くは暗灰色、口吻の末端は黒色、觸角暗色、前胸背には粗大の顆粒突起多く、中央に黒色の一縦條を裝ふ、翅鞘には三個の黒縦條ありて相斷續し、其斷間に灰色の疣狀突起あり、粗大の點刻ある縦溝を裝ひ、尾端には小顆粒の點刻多し、脚に顆粒突起を散在し、各之に一個の鋭鈎を裝ふ、頗る堅牢の翅鞘を具へ、爲めに針を貫くこと困難なり、體長五分乃至一寸。

經過 年一回發生す、幼蟲は多分根部に近き幹を食するならんか、未だ發見したることなし、而して成蟲は口吻を以て樹皮を破り之より滲出する液汁を吸收するものにして、爲めに其局部は畸形を呈す、成蟲は六月より八月に亙りて出づ、幼蟲の有樣にて越年し、翌年蛹化し次て羽化するもの丶如し。

(三)、まつのきぼしぞうむし Pissodes nitidus Roel. (第二十二圖12)

特徴　成蟲　體は暗黑、前胸背の兩側並に翅鞘の末端は灰白、形前種に酷似す、前胸背に五個の黑褐の毛塊を裝ひ、白色及び黃色の鱗毛を散生す、粗大の點刻多し、翅鞘は其翅底に近く各二個の黑褐毛塊を具へ、粗大の點刻ある縱溝を裝ふ、尾端の三分の一は灰白、其中に淡褐の斑紋あり、腿節基部の大半は白毛を密生す、體長三分五厘乃至四分。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年するものと、幼蟲の有樣にて越年するものとあり、翌春蛹化し次て羽化す、成蟲は五月中旬頃より現はれ、重に柳の樹皮を食ひ、又之より出づる液汁を吸收す、八月頃迄食害し、後交尾して根際に產卵す、卵は二週間位にて孵化し、深く材質部に入り下方より上方に向ひて孔を穿ち食害す、一樹幹に十五乃至二十匹あるを常とす、暴風の際其被害部より折れ倒るゝことあり、北海道には普通なり。

尙此屬に係るものにして**まつのしらほしざうむし**Cryptorrhynchus insidiosus Roel.（第二十八圖4）と稱するものあり、體は暗褐にして翅鞘の中央より少しく上方に當り二個の白點と尙後方に小なる二白點を具へ、前胸背にも四小白點ありて橫置せらるれども甚だ判然せず、脚には灰白鱗を生じ斑をなす、體長二分二

灣・小笠原島及び沖繩地方には普通なり。

(一九)おほくちかくしぞうむし Cechania eremita Pasc.(第二十二圖9)

被害植物　柳・白楊・榆・槲。

特徴　成蟲　體は黑色若くは黑褐色、觸角は赤褐、柄節は短く、複眼は發達せず、頭球形、口吻は下方に向ひ少しく弓狀に曲り、前胸より少しく長し、前胸は黃鱗を散在し、前緣は著しく縊れて頸狀を呈す、顆粒狀の突起多く、其內に大形の點刻を散布す、翅鞘に八個の深き縱溝を裝ひ、其中或ものは遮斷せられて點刻となる、中央に各一個の黃色鱗毛塊を裝ひ、全面に同色の小紋を散在す、體長三分五厘乃至四分五厘。

經過　未だ判然せざるも、幼蟲は榆・柳其他樹木の根を食するものならんか、成蟲は五月頃より現はれ、柳・榆・槲其他樹幹に穴を穿ち、之より出で來る汁液を吸收すれども大害をなさゞるが如し、廣く本邦に播布し殊に北海道地方に普通なり。

(二〇)やなぎしりじろぞうむし Cryptorrhynchus lapathi L.(第二十二圖10)

被害植物　白楊・柳・赤楊・樺。

中には幼蟲・蛹の混ぜるを以て見れば、經過は必ずしも一定せるものと云ふべからず、要するに成長の度の異なるに隨ひ越年の狀態を異にするものならん。

驅除法　六月初旬より稻の莖葉に靜止する成蟲を掬取すべし、早春融雪後刈株雜草を集め悉く燒き拂ふべし。

(八)ありもどきざうむし Cylas formicarius Tryon. (第二十二圖8)

被害植物　甘藷。

特徵　成蟲　頭は黑色、後頭は黑褐、口部・觸角・前胸及び脚は黃褐、口吻は前胸より少しく長く、觸角は雌にては末端節甚だ長大にして全長の三分の二を占む、前胸は中央にて縊る、翅は綠色にして長楕圓形を呈し頗る光澤あり、點刻は小にして粗なるを以て判然せず、脚は頗る長し、其外觀蟻に似たる所あるを以て此名あり。

經過　年發生の回數は、臺灣にては七回なれども、沖繩にては未だ明かならず、成蟲は甘藷塊根の表皮を破りて一粒づゝ產卵す、一頭の總產數三四十粒、幼蟲は不規則に內部を食ひ、老熟すれば表皮下二三分の下に蛹化し、次で羽化す、此害を被りたる甘藷は苦味を生ず、成蟲の有樣にて越年す、本邦に產せざれども、臺

此屬に係るものにして臺灣に**たいわんいねざうむし** Echinocnemus squameus Billb. と稱するものあり「いねざうむし」に酷似すれども其の重要なる差異を擧ぐれば、體は黑色にして黃褐鱗を缺き、翅鞘の後方に灰黃の二點を有せざること是なり、體長一分五厘、稻及び甘蔗の根を食害す。

(一七)いねのあかざうむし Erirhinus oryzae Mats.

被害植物 稻。

特徴 成蟲 體暗黑、頭は小、口吻は弓狀をなし黃褐毛を裝ふ、觸角は其末端に附着し褐色なり、前胸は稍々圓く點刻及び黃褐の粗毛を散在す、翅鞘には點刻の縱列を有し、翅端に近く黃白の毛塊ありて二個の斑紋の如き觀をなす、腹面及び脚には粗糙の點刻を密布し、各脛節以下は褐色なり、體長二分、口吻六厘内外。

幼蟲 體は乳白色、弓形に彎曲す、褐色の細毛を粗生し、頭は褐色、口部は發達し大顋は大なり、背に疣狀突起の二列あり、體長二分五六厘。

經過 未だ判然せざれども、多くは成蟲にて越年するものゝ如く、翌春産卵し、八月下旬には幼蟲二分内外に成長し、盛に稻根を食害し、次て蛹化し、九月頃羽化して稻の刈株又は附近の雜草間に越年するものゝ如し、但し越年せるものゝ

鞘翅目

被害植物　稻。

特徴　成蟲　體は暗色、灰黄の鱗毛多し、觸角は口吻の前端に位し赤褐なり、前胸には點刻多く、側面には黄色の鱗毛を密生す、翅鞘は前胸と略〻同幅、兩側には鱗毛より成れる灰色の太き縱線を有し、中央の鱗毛には黒色のものあり、縱溝を并列し、末端に近く鱗毛より成れる二個の白色紋あり、腿節には突起なく、脛節端には太き爪様の突起あり、體下に灰黄の鱗毛を密生す、體長一分六厘、口吻五厘。

幼蟲　黄白色、頭は淡褐にして小、第一節の硬皮板は二個に分離し黄色なり、體には横皺多く、黄褐の短毛を裝ひ、氣門は赤褐にして少しく隆起す、體長二分八厘内外。

經過　東京地方にては年一回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春五六月頃苗代に集まり産卵す、根邊の莖髓を食ひ、七八月頃に至り稈の内に蛹化し、九月頃に至りて羽化す、甚だしき時は稻を枯死せしむることあり。

驅除法　五六月頃稻葉にある成蟲を捕殺すべし、白枯せる稻莖を採集して其内の幼蟲を殺すべし。

被害植物　薔薇。

特徴　成蟲　體は黄褐、頭・胸及び翅鞘は光澤ある黒藍色、雌雄共に頸短く、複眼の中間に暗褐紋あり、觸角の基部及び大腮は赤褐、翅鞘には點刻列を列ね、其基部凹陷す、脚は黄褐、體長一分七八厘。

以上四種の經過　年二回の發生をなし蛹の有樣にて地中に越年す、成蟲は翌春現はれ、一葉の中肋より折半し巧に二個の卷葉を作り、其内に一個若くは二個の卵子を藏す、卵は淡黄にして球形を呈す、幼蟲は白色にして肥大し、頭部は淡褐にして横皺多く、少しく黄毛を裝ひ、脚を缺く、幼蟲にては種類を區別し難し、幼蟲は七月頃老熟す、卷葉は初めより萎凋すれども落下することなく、幼蟲十分成長するに至りて地上に落ち、地中に入りて蛹化す、八月上旬二回の甲蟲現はれ、産卵すること前の如く、之より成長したるものは蛹となりて地中に越年す。

驅除法　五六月及び八月頃現はれたる成蟲は打落法にて捕殺すべし、卵子は筒狀の枯葉内にあるを以て摘殺すべし。

(六)いねざうむし　Echinocnemus bipunctatus Roel.（第二十二圖7）

の口部は發達し、頸短く胸部に接する部分甚だしく緊縊す、前胸背は凹凸を有し、翅鞘には點刻線を幷列し、四條の隆線を具へ、稜狀部は黑色なり、體下に點刻を密布す、體長三分乃至三分五厘。

(三)、りんごひめおとしぶみ Attelabus minimus Roel.

被害植物 苹樹。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども形遙かに小に、雄の前胸は赤褐、頸は頗る長く殆んど腹部と同長なり、觸角は赤褐、體長(雌)一分五厘(雄)一分七厘、頭部一分五厘。

(四)、ひめおとしぶみ Attelabus montanus Roel.

被害植物 栗・「はしばみ」・「つゝじ」等。

特徵 成蟲 體は赤褐、頭は胸部に直角をなして下向し、光澤ある黑色、但し雌にありては咽喉赤褐、腿節端は黑褐なり、雄の頭部は甚だしく延長し、觸角及び脚は褐色、前胸は細く、前後の兩緣は縊れ微小の點刻を散在す、雄の兩側に暗色條あり、翅鞘は方形にして縱隆及び點刻線を列ぬ、體下に點刻多く側面に黃白毛あり、體長二分五厘乃至三分。

(五)、ひめくろおとしぶみ Attelabus rufiventris Roel. (第二十二圖6)

普通白楊に多し、歐洲にありては葡萄を害すること大なりと云ふ。

(二)ぶだうめざうむし Byctiscus lacunipennis Jekel. (第二十二圖4)

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體は光澤ある褐銅色、光線の工合にて少しく紫色を帶ぶ、頭は前胸背より少しく長く、口吻端は少しく太し、前胸背の中央に一縱溝あり、點刻及び縮刻多し、翅鞘は稍〻正方形、粗大の點刻ありて縱列をなす、間室には前胸背と同樣の點刻を裝ふ、脛節赤褐、體長一分五厘乃至一分七厘(口吻共)。

經過 年二回の發生をなす、第一回は五・六月頃現はれ、第二回は九・十月に出づ、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化す、成蟲は葡萄の新芽に口吻を挿入し、液汁を吸收し同時に食害す、幼蟲は恐くは管狀に卷きたる巢中にあるべしと雖も未だ實見したることなし。

(三)おとしぶみ Attelabus jekeli Roel. (第二十二圖5)

被害植物 栗。

特徴 成蟲 體は光澤ある黑色、前胸背の基部及び翅鞘は赤褐、口吻は短小、雄の頸は甚だ長く胸部の方細小す、眼は割合に大にして黑褐、觸角の基部は短し、雌

位のもの)を注射すべし、其臭氣は產卵を防ぎ得る効あり、苹樹の如き止むなくんば袋掛を行ふべし。

(10)いたやはまきぞうむし Rhynchites betuleti F. var. motschuleskyi Lew.（第廿二圖3）

被害植物　楲・白楊・樺・葡萄・苹樹。

特徵　成蟲　體は綠色若くは赤銅色、但し後者は光線の工合にて綠色を帶ぶ、脚及び體下は黑藍色、觸角は黑色にして少しく藍色を帶ぶ、複眼間に長楕圓形の凹陷あり、後頭は黑紫色にして橫皺多く、前胸背の前方は縊れ中央に一縱溝ありて綠色を帶ぶ、雌には兩側に各〻一齒ありて前方に突出す、兩側に點刻を密布す、稜狀部は黑紫色、翅鞘は稍〻四角形、稜狀部の下方に當り各一個の凹陷あり、點刻を密布し、縱溝あれども餘り判然せず、體長二分乃至二分五厘、口吻九厘。

經過　年二回發生、第一回は五六月、第二回は八九月、成蟲は葉の一端を切り之れを管狀に縱に卷き其內に一個の卵子を產下す、幼蟲は苹樹の葉を食とし成長す、往々全葉をして褐色の卷葉となさしむることあり、卵子より成蟲となるには約二ヶ月を要す、早春にありては新芽に口吻を貫き液汁を吸收す、幼蟲の有樣にて地中に越年し、翌春蛹化し次で成蟲となるものゝ如し、本邦にありては

特徴 成蟲 體は光澤ある赤紫色、口吻は長く、大腮は鋭し、前胸は稍〻圓筒形、點刻及び細毛多し、翅鞘は稍〻正方形にして點刻の縦列を具へ、點刻の多くは金色なり、暗褐の短毛を簇生す、體長三分、幅一分五厘。

幼蟲 體は圓柱形にして兩端細く、白色半透明なるを以て胃中の内容をも透見し得べし、頭は少しく黄色を帶び、口部は赤褐なり、體節は太く何れも腫起し、背面には横皺、側面には縱皺多し、各節の後半には短小の粗毛ありて横列す、體長四分。

經過 成蟲は六七月頃現はれ、長吻を以て果實に孔を穿ち、後尾端を其孔に當て一個の卵子を產下し、後一種の膠質液を以て孔を閉塞す、雌蟲の旣に產卵し終りたる頃、雄來りて其枝の半周を咬み切るを以て、時の經過と共に其局部折れて垂下し、幼蟲の蛹化せる頃地上に落下するに至る、幼蟲は斯くて果外に出で、土中に入り土塊を纏めて球形の繭を營み、其内に越年す、翌春蛹化し、五六月頃羽化すること前述の如し。

驅除法 五六月頃樹上にある成蟲を打落法によりて捕殺すべし、晩秋樹下に土二三寸位まで攪拌して越年せる幼蟲を殺すべし、六七月頃石油乳劑(三四十倍

は赤褐にして頗る長し、各腿節の末端は膨大し、之に一個の棘狀突起あり、體長二分乃至三分、口吻二分。

幼蟲　全體黄白にして小形なる褐色の頭を有し、體には横皺多く、短毛多し、體長四分。

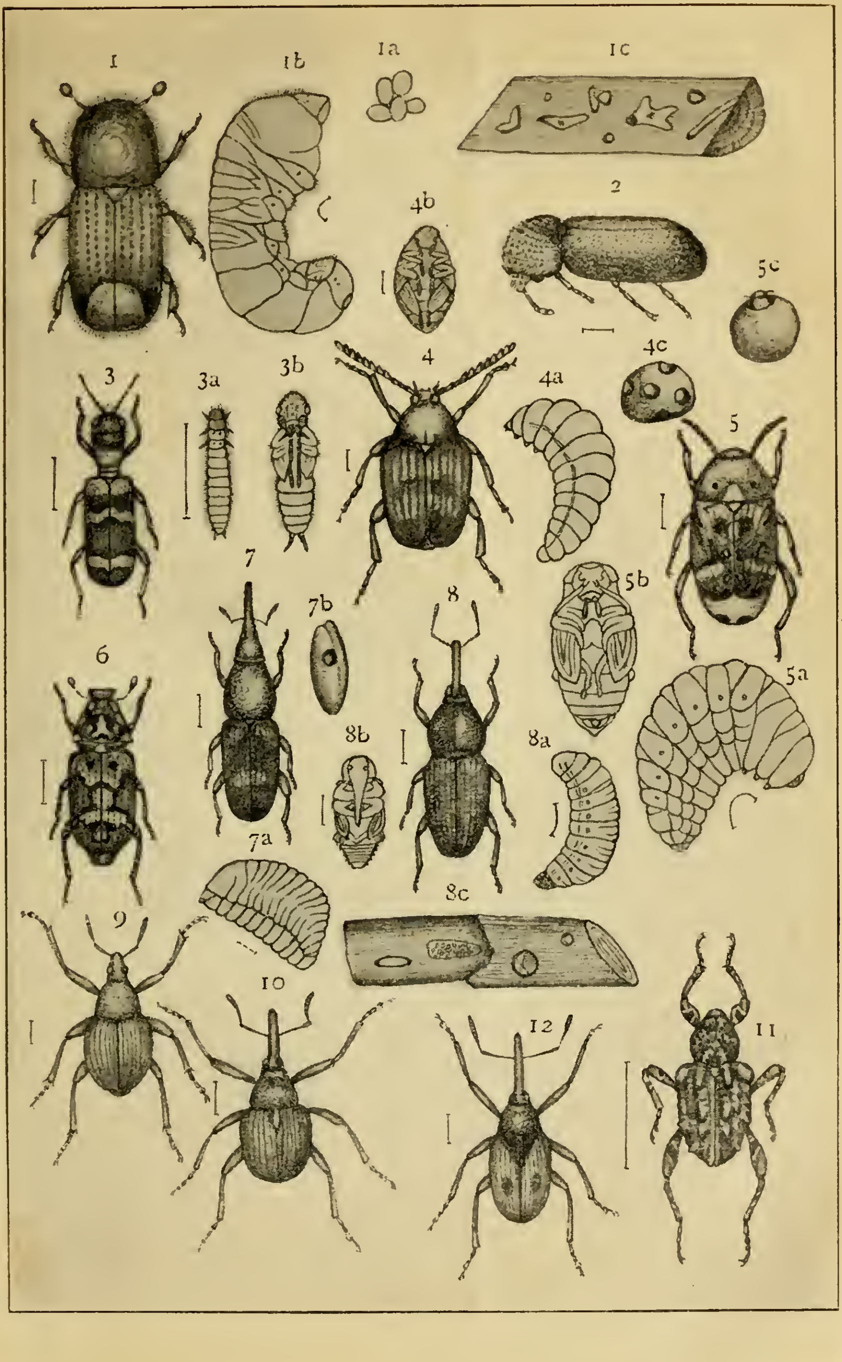
經過　成蟲は六七月頃現はれ、長き口吻を以て稚果に孔を穿ち、口吻にて一顆宛卵子を深く其内に納む、果實の成長後は其孔口は閉塞せられて單に黑點を留むるに過ぎず、蟲害に罹りたる栗果は熟すること早きを以て、地上に落つるや老熟せるものは孔を穿ちて果外に出で深く地中に入りて越年す、翌春蛹化し次て羽化す、其未だ老熟せざるものが果內に殘り坊間に販賣するものゝ內に存在することあるは人のよく知る所なり。

驅除法　被害の爲め落下せるものは燒棄すべし、小木にして貴重なる種類には三四十倍の石油乳劑に煙草浸汁劑二合を加へ、園藝用喞筒にて成蟲發生の時期を見計ひ灌注すべし、成蟲死せざるも之が爲めに驅除せらるべし。

(九)、なしのちよっきりざうむし　Rhynchites heros Roel.　(第二十二圖2)

被害植物　梨・苹樹・枇杷。

第貳拾壹圖



第貳拾壹圖

1. Xyleborus atratus Eich. くはまるこしんくひ (P. 179)
   a. 卵 *b.* 幼蟲 *c.* 被害ノ有様
2. Dinoderus tsugae Mats. つがながしんくひ (P. 184)
3. Clerus formicarius L ありもどきかつから (P. 187)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
4. Mylabris (Bruchus) chinensis L. まめざう (P. 188)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 被害ノ有様
5. Mylabris dorsalis F. おほまめざう (P. 189)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 被害ノ有様
6. Tropideres nodulosus Sharp. ひめひげながざうむし (P. 19[illegible])
7. Calandra oryzae L. こくざう (P. 192)
   a. 幼蟲 *b.* 被害ノ有様
8. Baris deplanata Roel. ひめざうむし (P. 193)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 卵
9. Rhinoncus pericarpius L. あさのざうむし (P. 196)
10. Centorrhynchus asper Roel. さるざうむし (P. 196)
11. Ectatorrhinus adamsi Roel. まだらあしざうむし (P. 197)
12. Minyrus japonicus Roel. いちござうむし (P. 198)

り、幼蟲は材質部を食するものならん。

(七)、いちござうむし Minyrus japonicus Roel.（第二十一圖12）

被害植物 西洋苺。

特徴 成蟲 體は赤褐、多少光澤を有す、灰白の短毛多し、觸角は十二節にして前胸より長し、口吻は弓狀をなして少しく下方に向ひ、大腮は發達す、頭及び前胸は黑褐、灰白毛多く又點刻を密布す、翅鞘は前胸より遙かに廣く縱溝列ありて其内に點刻を列ね、灰白毛多し、翅底の大部及び接合部は黑褐、脚は赤褐、前腿節には三個の棘狀突起あり、體長一分。

經過 未だ判然せざれども、早春より現はれ、西洋苺の葉を食害す、幼蟲は「ひらたあぶ」の幼蟲に酷似し、葉・花・稚果を食害す。

驅除法 受網を以て捕殺すべし。

(八)、くりしぎざうむし Balaninus dentipes Roel.（第二十二圖1）

被害植物 栗・楢。

特徴 成蟲 體は暗黃色、翅鞘は殆んど圓柱狀をなし、黑褐の斑紋を散在す、其縱溝は黑色なり、前胸背に不明なる三黃線あり、全部黃色の細毛にて被はる、口吻

經過 移植後藍畑に集まり二十乃至三十顆の白色卵子を藍莖に藏す、幼蟲は黄色にして藍莖の一節に二三頭乃至五六頭あり、二週間內外にて老熟し、次て褐色なる繭樣の被內に蛹化す、成蟲は甚だ活潑にして藍葉に無數の小孔を穿ち網狀脈を殘留す、其害の猖獗なるときは一兩日にして藍畑の全面を枯死せしむることあり。

附言 拙者日本害蟲編に學名を Coelosternus sulcatostriatus Roel. とせるは誤なり、爰に訂正す。

(六)、まだらあしざうむし Ectatorrhinus adamsi Roel.（第二十一圖 11）

被害植物 漆樹。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭は灰黄褐、複眼は黑色、口吻は基部を除き光澤ある黑色、觸角の第二節以下は灰色、前胸背に陷刻多く、中央に漆黑の一隆條を縱走す、翅鞘は頗る粗糙にして凹凸に富み、數個の棘狀突起を具ふ、其中肩部のものは最も大にして灰黄褐なり、各腿節の末端は膨大し、白輪を具へ、跗節に灰黄毛を裝ふ、體長三分五厘乃至五分五厘（口吻を除く）。

經過 未だ判然せざるも、早春漆樹に集まりて新芽を食ひ大害を加ふることあ

(四)あさのざうむし Rhinoncus pericarpius L.（第二十一圖9）

被害植物　大麻。

特徴　成蟲　體は卵形にして肥大し、地色は黑色、體下部は白色の鱗毛を密布す、口吻は割合に長く、彎曲して殆んど胸片に接す、頭は小、前胸には點刻多く、前方に横溝、兩側に棘狀突起を有す、翅鞘は粗糙にして前胸より廣く、點刻を有する縱溝を連ね、稜狀部は凹陷し、其下方に一白紋あり、脚及び觸角は赤褐、灰白の短毛を密生す、體長一分餘。

經過　未だ判然せず、早春より大麻及び甘菜の葉を食害す、其害甚だ大ならず。

(五)さるざうむし Centorrhynchus asper Roel.（第二十一圖10）

被害植物　藍。

特徴　成蟲　體は黑色、口吻は長く、中央に黑褐の觸角ありて基節端に刺あり、前胸背に粗糙の點刻多く、兩端に各一個の突起あり、翅鞘は前胸より遙かに廣く、翅端に至り細小す、鞘上には深き縱溝を幷列し、更に其內に點刻を列す、稜狀部は甚だしく凹陷し、其胸部に白鱗多し、體下に黃白の鱗毛多く、脚に白毛の短毛あり、體長一分五厘。

此屬に係るものにして臺灣に**ほうじろかむちやざうむし** Baris sacharivora Mats. と稱するものあり、體は黑色にして黃色の鱗毛を裝へども、口吻、前胸背の中央及び翅鞘の基部に之を缺く、前胸背の中央には顆粒狀の點刻多く、其兩側には黃色鱗を密布す、翅鞘は長楕圓形にして細き縱溝を有し、中央にある鱗毛は判明にして八字形を呈す、翅端は截斷狀に終り、腹端を露出す、體長二分、臺灣にては甘蔗の根を食害す。

(三)だいこんざうむし Rhinoncus bruchoides Herbst.

被害植物　蘿蔔・蕪菁。

特徵　成蟲　光澤ある黑色なれども、全體灰白の鱗毛にて被はるゝを以て一見暗灰色を呈す、口吻の末端及び脚は赤褐、觸角は黑褐、脚には白鱗多し、前胸背の上方には三個の凹陷を有し、後緣に近き兩側には疣狀突起あり、翅鞘には縱溝多く、其間に黃色及び白色の鱗毛列あり、稜狀部は凹陷す、體長七厘內外。

經過　不明なれども、五月上旬より田圃に現はれ、殆んど何れの植物をも食害するものゝ如し。

驅除法　打落法によりて殺すべし、又掬網を以て捕殺し得べし。

特徴　成蟲　長楕圓形にして色黑く、少しく光澤を帶び、觸角・脛節並に跗節は赤褐なり、觸角は口吻の中央より少しく前方に位し、刺毛と黃色の微毛とあり、口吻は弓狀に彎曲す、翅鞘には縱溝列ありて其內に更に點刻を具へ、列間には大なる點刻列あり、腿節には凹陷せる部分ありて、脛節端には一爪を裝ひ、體下には點刻を密布す、體長一分三厘。

幼蟲　黃白色にして淡褐の頭部を有し、硬皮板は黃色、體は圓錐形にして少しく弓狀に曲り、橫皺多く、黃色の光澤ある短毛を粗生す、體長一分五六厘。

經過　年一回の發生をなし、成蟲若くは蛹の有樣にて樹枝內に越年す、翌春圓形の孔を穿ちて外部に出て、桑の新芽を食し、又其內に蠹入して大害を加ふ、交尾後口吻を以て樹枝に孔を穿ち、其內に長楕圓形の白色卵子を產下す、幼蟲孵化すれば材質部に入りて食害す、晚夏に至り蛹化し其儘越年するものと、羽化して後越年するものとあるは前述の如し。

驅除法　新芽に集まりて蠹入せんとするものを受網に打ち落し殺すべし、成蟲の蠹入する前に砒石劑を灌注すべし、石油乳劑も亦効あり、象鼻蟲を殺し得ざるも其臭氣の爲めに之を驅除し得べし。

眼及び脚を缺如す、體長一分五厘。

經過 年二回發生し、成蟲の儘越年す、翌春穀粒の發芽點に白色の卵子を一個宛產下す、卵は十日乃至十二日にて孵化し、內部に蠶入して食害す、穀蛾の幼蟲の如く粒より粒に移轉することなく、大概は一粒にて成長し終り其內に蛹化す、蛹は裸蛹にして脚・口吻及び翅鞘判然せり。

驅除豫防法 穀物を貯藏する前にはなるべく乾燥し、少量の胡椒を混じ置くべし、又食鹽を混ずるも可なれども後者は水分を呼ぶを以て劣れり、倘萆草（ホップ）及び胡桃の葉を入れ置くも有効なり、倉庫の中央に二三斗の穀物を圓錐形に積み、其周圍のものを掻き擴げ置くときは、害蟲は其中央にのみ集まるを以て、之に熱湯若くは二硫化炭素を注ぎ殺すべし、倉庫は可成寒冷に保ち置くべし、華氏の四十五六度位の溫度にありては食害することなし、此目的を以て歐米にては種々の通風器を製造し堆積せる穀物中に冷氣を通ずることあり、硫黃を燻蒸するも効あり。

鞘翅目

(二)ひめぞうむし Baris deplanata Roel. （第二十一圖8）

被害植物 桑。

經過　未だ判然せざれども成蟲・幼蟲共に珈琲豆に蕃殖して大害を加ふ、又粃を食害することあり、珈琲豆を害する塲合には恰も豆象と同様なる狀態を呈す、支那にありては最も普通なる害蟲なれども、目下本邦にも少なからず。

驅除法　被害物を堅牢なる箱に入れ(箱の大さにより分量は異なれども)箱の大さ若し三尺四方内外なるときは青酸加里の數片(大片)を綿に包みて其中に入れて一晝夜間放置すべし、但し青酸加里は種子の抵抗力を失ふものなれば種子用に供する塲合は二硫化炭素を用ふべし

象鼻蟲科　Curculionidae.

(一)こくざう　Calandra oryzae L.　(第二十一圖7)

被害植物　穀類(貯藏品)。

特徵　成蟲　若きものは赤褐、老いたるものは黑褐、頭は小、口吻は細長、前胸背には顆粒多し、翅鞘は前胸と同幅、點刻の縱溝列を具へ、脚は短大、細毛を有す、腿節は太し、體長一分一厘乃至一分四厘。

幼蟲　體は灰白、頭は黃褐、圓柱形にして常に弓狀に彎曲し、橫皺多し、觸角短、單

吻は扁大にして頭に直角をなして下向し、顏は白色、前胸の前方は細まり、灰白の斑紋を裝ふ、翅鞘に黑色の點刻縱列を具へ、工字形の灰白斑紋を裝ふ、其上方の一横線は太く之れに二個の黑點あり、體長一分七厘。

經過　未だ判然せざるも、札幌地方にありては最も普通なり、但し老木にあるを以て其害大ならず、成蟲は材質部に蠧入して産卵するものゝ如し。

驅除法　時々巡視して成蟲を捕殺すべし、外物に驚く時は脚を縮小して落下するが故に、樹下に蓆若くは白布を敷き其上に落すをよしとす。

翅鞘目

(二)、こひーひげながざうむし Araecerus fasciculatus Deg.

被害物　珈琲(豆)、糀。

特徵　成蟲　體は黃褐にして灰色の短毛を密生す、微小の點刻を密布すれども判明ならず、翅鞘には黑褐紋を散在し、點刻ある縱溝を有すれども判然せず、尾節露出し、體下は暗褐、脚及び尾端は黃褐にして腿節の中央は少しく暗色を帶ぶ、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲　黃白色にして頭は少しく濃色、大腮は暗褐、體側には瘤狀の突起及び横皺多し、完熟すれば一分七厘餘に達す。

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は黑色にして灰色の短毛を密生す、前種に似たれども遙かに大なり、觸角は黑色、基部の四節は赤褐色、前胸背・後緣の中央及び稜狀部には灰色の旋毛を裝ふ、翅鞘に暗色を帶びたるものと灰褐色を帶びたるものとの二種あり、何れも縱溝を有し其間室に細毛を裝ふ、細毛は點々白毛を混ずるを以て恰も白斑を散在するの觀あり、殊に褐色なるものに於て然りとす、尾節には灰藍色の毛塊を有するを以て恰も斑紋の如くに見ゆ、體長一分二厘。

幼蟲 前種に酷似す。

經過 略前種に似たり。

驅除法 同前。

長角象鼻蟲科 Anthribidae.

(一)ひめひげながざうむし Tropideres nodulosus Sharp. (第二十一圖 6)

被害植物 桑・苹樹・楡(老木)。

特徵 成蟲 體は黑色にして灰白毛を裝ふ、頭は小、複眼は黑色にして大なり、口

灰色の二毛塊あり、翅鞘は稍〻四角形にして赤褐の縱條を裝ふ、跗節は一見四節なれども其實五節なり、體長約七厘。

幼蟲　全體乳白にして肥大し、橫皺多く、無脚なり、頭は小、黃色にして鱗片の如き銳利の大腮を具へ、體の兩側に判然せる九双の氣門を有す、體長一分二三厘。

經過　年一回の發生をなす、處によりて幼蟲の有樣にて豆の中に越年し、翌春蛹化し次で羽化すれども、或は成蟲或は蛹にて越年することもありて一定せず、甲蟲は野外に出て豆圃に至りて茲に交尾し、夜間若くは曇天に產卵す、產卵の場所は莢の膨大したる部即ち豆粒の上に當る所にして一粒宛に過ぎず、豆の收穫後は倉庫內にありて食害す。

驅除豫防法　二硫化炭素を小皿に盛り室を密閉して其儘數時間放置すべし、豆中の害蟲を殺滅するの効あり、夏日曇天の時豆圃に產卵せんとする成蟲を捕殺すべし、倉庫內を搜索して成蟲及び幼蟲を殺すべし。又倉庫の窓には金網を張りて害蟲の飛去を防ぐべく、其根本的の驅除を計るには青酸加里の瓦斯を燻蒸するにあり。

(二)おほまめざう　Mylabris dorsalis. F.（第二十一圖 5）

褐、第二及び第三節には各二個の淡褐紋あり、蛹は白色、樹皮下若くは樹幹の空隙にあり、尚此他小蠹蟲科の昆蟲を食するものには「おほこくぬすと」ありて其形大なれば其之を食ふも亦大なり、此の學名をTemnochila japonica Reittと稱し黑色にして光澤を帶び、頭長く、前方に一個の縱溝あり、翅鞘に九條の判然せる點刻列ありて、其間室に小點刻の一列あり、跗節は褐色、爪は赤褐、體長四分五厘乃至五分、「べにひらたむし」Cupes coccinatus Lew. も亦樹皮下にありて小蠹蟲其他小蟲の幼蟲を食す、體は黑色扁平、翅鞘は朱色、體長三分五厘乃至四分五厘、幼蟲は黃色にして頭及び第一節は淡褐を帶び、體は頗る扁平なり。

豆象科　Mylabridae(Bruchidae)

(一)、まめざう　Mylabris (Bruchus) chinensis L.（第二十一圖４）

被害植物　大小豆・豌豆(貯藏品)。

特徵　成蟲　體は赤褐、灰色の短毛多し、頭は小にして常に下方に向ひ、大なる複眼を有す、觸角は長くして櫛齒狀、口吻は突出するも象鼻蟲の如く甚だしからず、前胸は前方狹まりて下向し、後方は廣くして其中央隆起す、稜狀部の直上に

三、此害蟲は水氣を忌むものなれば、可成樹木の成長を旺盛ならしむべし、瘠地に生ずるもの若くは老木は被害の虞あるを以て注意すべし、雌蟲の樹幹に蠧入するに當り汁液を多量に滲出するときは其木を去て他に行くものゝ如し、故に小刀を以て樹皮を搔くときは大に液汁の滲出を促し其蠧入を防ぐのみならず、既に內部に入れるものも之が爲めに死すべし、要するに肥料を施し樹木の成長を盛ならしむるは最も有効なる豫防法なり。

四、被害木は切りて燒棄すべく、若くは成蟲の出でざる前燃料に供すべし。

五、伐木地に集來するの性あるを以て注意して捕ふべし、伐採後株木を掘り取ることは必要なれども甚だ困難なり、故に少なくも皮を剝ぐべし、火災を受けたる場合は可成早く伐採すべし。

六、果樹其他材木の何れを問はず、枯枝を生ずるときは伐りて燒棄すべし。

七、郭公蟲は小蠧蟲を食するものなれば頗る有益なり、(第二十一圖3)は郭公蟲科に屬する「ありもどきかつかう」Clerus formicarius L. と稱するものにして、體は赤色、頭・觸角・前胸の前緣、翅鞘及び脚は黑色、翅鞘の翅底は赤色、其後方に波狀をなせる白毛塊の橫紋あり、體長二分五厘乃至三分、幼蟲は白色、頭及び第一節は淡

四、こながしんくひ　Rhyzopertha dominica F.（第二十八圖13）

被害物　麥粉・洋菓子。

特徵　成蟲　體の上面は暗褐、下面は赤褐、觸角は黃褐、基部の二節は暗褐、後頭は頗る光澤を帶び滑澤なり、前胸背渦狀をなして顆粒突起列を備へ、後方には小顆粒を散在す、翅鞘は粗大の點刻ある縱溝を備へ、間室は平滑、縱に稍〻隆起せる部分あり、後方には灰黃色の短毛を粗生し、斜面部に異狀なし、脚は暗褐、跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過　未だ判然せざれども、臺灣には普通なる害蟲にして、大小麥粉其他「びすけつと」等を食し、殊に後者の如きは小孔を穿たれ大害を被ること少なからず、世界共有の害蟲にて、特に印度支那地方に最も多く、米國にも少なからず。

小蠹蟲科及び長蠹蟲科一般の驅除法

一、成蟲の發生期を見計ひ、樹幹に石油乳劑の十倍液を灌注すべし、死せざるも他に飛び去るべし。

二、一度內部に蠹入せば驅除の道なし、然れども小孔を穿てるを以て其孔より灌注器を以て石油・酢の如きものを注入すべし。

三、翅鞘は黒褐、點刻は遙に大にして深し、末端に裝へる粗毛は少しく短く、稍〻淡色なり、翅鞘明に短し。體長一分一厘。

經過 未だ判然せざれども、竹稈の內部に孔を穿ちて大害を加ふることあり、前種に酷似せるを以て兩者を混ずるの記事多く、未だ共に加害の狀判然せず、「もみ」「すぎ」「ひのき」をも害するものとせらるれども甚だ疑はし、又鉛管をも穿つといふ。

〈三〉、ふたつのながしんくひ Sinoxylon japonicum Lesne.（第二十八圖2）

被害植物 柿・樫。

特徵 成蟲 體は黒褐にして翅鞘は赤褐、觸角は黃褐を呈す、前胸背の前半には後方に向へる齒狀突起を散在し、其內前線にある二三は鈎狀に曲り、後半は小顆粒多く、兩側に灰白の軟毛を裝ふ、翅鞘には顆粒及び粗大の點刻多く、或ものは相癒合す、斜面部に各一個の栓狀突起あり、全面に黃白の軟毛多し、脚は栗色、爪は黃褐、體長一分七厘內外。

經過 不明、四國九州に普通なる種類にして常綠「かし」幷に柿の材部に穿入して大害を加ふることあり。

被害植物 つが・もみ・ひのき・すぎ。

特徴 成蟲 黑褐乃至黑色、觸角は黃褐、末端の三節は甚だしく膨大す、上唇は黃褐にして其の中央は凹陷す、前胸背の前方には粗大の顆粒多く、後半には小顆粒を密布し、兩側には點刻あり、翅鞘は赤褐、粗大の點刻を密布し、縱溝を有せず、尾端は圓く、基部は明に後方よりも狹し、黃褐の短毛を裝ふ、脚は黑褐、脛節及び跗節は赤褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せざれども、「つが」の材部に蠹入して大害を加ふと云ふ、成蟲は六月上旬現はる、和歌山地方に多し、小蠹蟲科の昆蟲に酷似すれども、觸角の末端三節は棍棒狀を呈し、翅鞘は縱溝を缺けるを以て容易に之を區別することを得べし。

(二)、たけのながしんくひ Dinoderus japonicus Lesne. (第二十八圖12)

被害植物 竹。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども其重要なる差異は左の如し。

一、形短く、翅鞘の前半は後半より狹細ならず。

二、觸角及び上唇は暗褐、但し前者は其基部に於て少しく黃褐を帶ぶ。

末端に近く黄褐色の細毛を生ず、間室にある點刻と點刻線にある點刻と同大なれども前者は淺し、體長一分「いたや」の材部に穿孔す。

みかどこしんくひ Scolytoplatypus mikado Blandf. 黑褐にして翅鞘に深き縱隆を有す、脚黃色、體長一分二厘乃至一分六厘、槭・黃蘗・楡等を害す。

だいめうこしんくひ Scolytoplatypus daimio Blandf. 前種よりも少しく小にして黑色なり、槲・「みづき」等を害す。

しようぐんこしんくひ Scolytoplatypus shogun Blandf. 暗褐なる種類にして體長一分二厘あり、「いたや」・「こぶし」・「してこぶし」等を害す。

やちたもながこしんくひ Crossotarsus niponicus Blandf. 赤褐にして二分內外、「やちたも」を害す。

しなのながこしんくひ Platypus severini Blandf. 前種よりも少しく小なり、赤褐・黃毛あり、「しな」、槲・赤楊等を食害す。

鞘翅目

長蠹蟲科 Bostrychidae. （五節亞目に編入せらるべきものなるも便宜上此處に入る）

（一）つがながしんくひ Dinoderus tsugae Mats. （第二十一圖11）

たうひねこしんくひ Dryocoetes autographus Ratz. 暗褐色にして前胸背は前後狹く、全面に鱗狀の隆起あり、翅鞘に粗大の點刻を有す、體一分乃至一分五厘、「たうひ」・「えぞまつ」の根株に寄生す。

れゐすまるこしんくひ Xyleborus lewisi Blandf. 雌雄大に其形狀を異にし、黑色にして長毛多し、前胸背に鱗狀の小突起を密布す、雌は體長一分五厘、雄は楕圓形にして體長六厘、「さくら」の樹幹に穿孔して之を枯死せしむ。

かつらまるこしんくひ Xyleborus saxeseni Ratz. 黑色にして細長く七厘ばかりあり、「かつら」・「かし」・「ぶな」・「かば」・「いたや」・「しな」・「やまならし」等の諸木に寄生す。

はんのおほまるこしんくひ Xyleborus alni Niis. 前種に似たれども形少しく大にして(八厘)赤楊を害す。

さいほくまるこしんくひ Xyleborus septentrionalis Niis. 黃褐の種類にして體長一分あり、「あかえぞ」・松等を害す。

かしはこしんくひ Xyloterus quercus Eichh. var. niponicus Blandf. 黃褐にして黑縱條あり、體長一分乃至一分三厘、槲・楡を害す。

いたやこしんくひ Xyloterus aceris Niis. 黑色にして光澤あり、翅鞘眞黑にして

被害植物 松・椴。

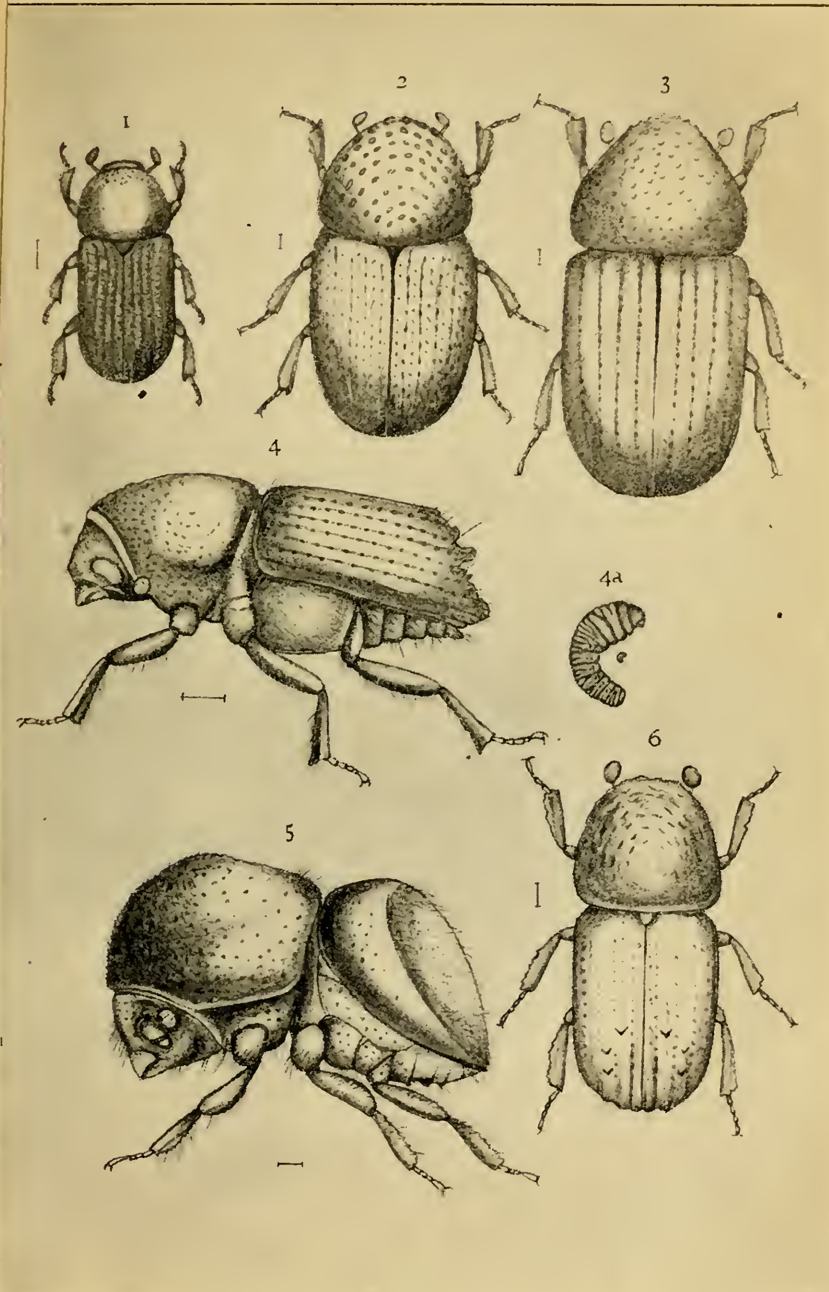
特徴 成蟲 體は黑色光澤を帶び黃毛を裝ふ、頭は點刻を密布し、前頭に短き一縱隆あり、前胸背の前方に顆粒突起多し、後半は滑澤、翅鞘の縱溝は淺き點刻を裝ひ、間室には顆粒あり、傾斜面にある縱溝は深く間室の顆粒は大なり、翅鞘に黃色の長毛を裝ふを以て他と容易に區別することを得べし、脚及び觸角は黃色、體長一分三厘。

經過 年一回の發生をなし成蟲の有樣にて越年す、四五月頃より現はれ樹幹に蠹入す、其蝕道は徑約六厘ありて初めは樹幹に直角に蠹入し、三四の枝道を造りて食害す、九月頃出づるものは樹幹に入りて越年す、廣く本邦に播布する種類にして沖繩地方にも產す。

此他尙此科に屬する害蟲の種類を擧ぐれば左の如し。

ほしがたこしんくひ Pityogenus chalcographus L. 黑褐色にして光澤あり、雄は頭の前緣に瘤狀の一小隆起を備へ、雌にありては圓き凹陷を存す、翅鞘の斜面部の兩側に各三個の小隆起を有すれども雌にありては著しく小なり、體長六七厘、「えぞまつ」・「はいまつ」・「たうひ」・「もみ」・「からまつ」等に寄生す。

第貳拾圖



第 貳 拾 圖

1. Hylastes alni Niis.　はんのこしんくひ　(P. 170)
2. Cryphalus laricis Niis.　からまつちびこしんくひ　(P. 172)
3. Cryphalus malus Niis.　りんごちびこしんくひ　(P. 173)
4. Ips japonicus Niis.　やつばこしんくひ　(P. 175)
5. Xyleborus mutilatus Blandf.　くすまるこしんくひ　(P. 178)
6. Xyleborus apicalis Blandf.　りんごまるこしんくひ　(P. 178)

點刻ある縱溝を裝ひ、第一溝の點刻は第二の其れよりは小なり、間室は廣く小點刻を具へ灰色毛あり、前種に酷似すれども翅鞘末端に突起なく、色は少しく褐色を帶び、前胸背にある顆粒は小なり、體長八厘乃至一分。

經過 前種に酷似す、廣く本邦に播布する種類にして桑樹を枯死せしむることと少なからず。

(三)はんのまるこしんくひ Xyleborus germanus Blandf.

被害植物 桑、赤楊。

特徵 成蟲 體は黑色、翅鞘は赤褐、光澤あり、前胸背の前半には顆粒多し、後半は滑澤にして後緣に少しく點刻あり、翅鞘は前胸と同幅なれども少しく長し、點刻ある縱溝を具へ、間室は廣く小點刻あり、尾端は次第に傾斜し、其傾斜面にある點刻は大なり、脚は黃褐、體長六七厘。

經過 未だ判然せざるも穿孔は材部に造られ、少しく厚き共同孔をなす、同處に二個或は三個が細孔によりて連續せられて存することあり、丹波地方に於て桑樹の幹枝に蠹入して大害を加ふ、本邦普通の害蟲なり。

(三)まつまるこしんくひ Xyleborus validus Eichh.

は明瞭なる點刻ある縱溝を備へ間室に小點刻あり、末端は斜に截斷狀に終り第二間室の終る處に各一突起あり、體長八厘乃至一分。

經過　年一回發生す、成蟲は五月下旬より七月に亘りて現はれ樹枝及び樹幹に蠹入し八月下旬に至りて産卵す、之より孵化する幼蟲は九・十月に至りて殆んど老熟し其儘越年するものと、又既に蛹化して越年するものとあり、卵子は白色半透明にして、楕圓形をなし、普通四五個相集合せり、母孔は星形若くは不正形なり、幼蟲孔も亦一定せず、成蟲の蠹入する場所は普通樹枝にして皮下養分の上昇する部分を輪食し、又髓部に入りて上下に横行するを以て爲めに其局部は枯死す、枯木若くは衰弱せる樹に多しと雖も亦旺盛なる樹を食害することあり、本邦に於ける恐るべき害蟲の一なり。

附言　拙著害蟲編に X. defensus Blandf. となせるは誤なり。

(三〇)、くはまるこしんくひ　Xyleborus atratus Eichh.　(第二十一圖1)

被害植物　桑・楡・赤楊。

特徴　成蟲　黑褐、頭は黑色、灰色毛あり、前胸背の前方は少しく淡色、小顆粒を散在す、後方には點刻を具へ、中央には判然せざる一縱滑線あり、翅鞘は判然たる

まがりばこしんくひ Ips curvidens Germ. 赤褐色にして翅鞘の斜面部は黄色を呈し光澤あり、其兩側に各三齒を備へ、上部にあるものは最小にして上方に向ひ、中央にあるものは下方に屈曲し最大なり、體長九厘「とどまつ」に寄生す。

(二八)**くすまるこしんくひ** Xyleborus mutilatus Blandf. (第二十圖5)

被害植物 樟。

特徴 成蟲 黑色、觸角及び脚は黄褐、褐毛を裝ふ、頭には淺き點刻あり、前胸は翅鞘よりも長大にして前緣に顆粒多く、後方には點刻あり、翅鞘には縱溝ありて其間室廣く數多の點刻列あり、後方は斜に切斷せられたる觀を呈し、褐毛多し、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、九州及び沖繩地方にありては樟の樹幹に蠧入して大害を加ふ。

(二九)**りんごまるこしんくひ** Xyleborus apicalis Blandf. (第二十圖6)

被害植物 苹樹・葡萄・赤楊・楡。

特徴 成蟲 光澤ある黑色、頭の中央に一縱隆起あり、其兩側に點刻を粗布す、前胸背の前方には顆粒突起多く、後方には微小の點刻あれども判然せず、翅鞘に

伊豫地方にありて松を害すること大なりと云ふ。

(三七)からまつこしんくひ Ips laricis F.

被害植物　落葉松「えぞまつ」松。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども翅鞘末端の第二及び第三歯間は前種のそれよりも廣く、脚は黄褐なり、體長一分乃至一分三厘。

經過　成蟲の有様にて越年し、翌春四五月頃現はれ樹幹に蠹入して産卵す、母孔は星形、枝狀若くは多枝形にして一定せず、卵子は集合して産下せらる、幼蟲孔は一定せず、年二回の發生をなす。

尙此屬に係るものにして本邦に産するもの左の三種あり。

まつのおほしんくひ Ips cembrae Heer. 黑色にして翅鞘の間室には上面に於て一列の小點刻を存し、斜面部には四個の歯狀突起あり、此蟲は「あかまつ」に寄生す、體長一分七厘。

まつのむつばこしんくひ Ips acuminatus Gyll. 赤褐色にして翅鞘の間室に縱列せる點刻を有す、斜面部には各三個の歯狀突起あり、其内最下にあるもの最大なり、體長一分餘、「あかまつ」に寄生す。

へ、間室は少しく隆起し、微小の點刻あれども判然せず、脚黄褐、脛節黑褐、體長一分五厘。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、四五月頃現はれ樹幹に產卵す、母孔は八分乃至四寸、幅六厘乃至八厘あり、幼蟲孔は長くも二寸內外にして母孔に直角をなして出づ、普通形成層にあり、九月頃に至りて蛹化す、成蟲は九十月現はれ、其儘樹幹に蠶入して越年す。

(三六)まつかはこしんくひ Ips proximus Eichh.

被害植物 松・えぞまつ。

特徵 成蟲 光澤ある黑褐若くは黑色、前頭緣に橙黃色の短毛あり、頭には點刻粗布す、觸角の球桿は黃褐、前胸は幅よりも長く、前方には粗大、後方には微細の點刻あり、兩側に黃褐の長毛を裝ふ、翅鞘は前胸よりも遙かに長く、縱溝に點刻を具へ、間室は隆起し、之に微小の點刻を粗布す、翅鞘は卵形に刳られ、其緣に三四個の齒狀突起あり、脚は黑褐、跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過 未だ判然せざるも、年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年す、翌春四五月より現はれ樹幹に蠶入して產卵す、第二回の成蟲は八月現はる、

經過　松の害蟲なれども其經過は未だ判然せず、成蟲は八月中旬現はる、中國及び四國地方に稀ならず。

(二四)ひのきちびこしんくひ　Cryphalus chamaecypariae Niis.

被害植物　ひのき。

成蟲　黑色、光澤を帶ぶ、前頭に横溝あり、頭頂は隆起す、前胸背には顆粒突起多く、粗大の點刻あり、翅鞘は前胸の約二倍ありて縱溝に粗大の點刻あり、間室には顆粒を裝ふ、後方に白色鱗狀毛を裝ふ、脚は黃褐、體長四厘弱。

經過　未だ判然せざれども「ひのき」の樹幹に蠹入して大害を加ふ、成蟲は八月中旬現はる。

(二五)やつばこしんくひ　Ips japonicus Niis.（第二十圖4）

被害植物　えぞまつ・あかえぞ・とどまつ。

特徵　成蟲　黑色、光澤を有し、頭及び前胸の前方に黃褐の長毛を密生す、前頭に一突起あり、前胸には點刻多く、前方に顆粒多く、明に幅よりも長し、後方には毛を帶びず、翅鞘は前胸よりも少しく長く稍〻褐色を帶ぶ、後端は深く卵形に刳られ、其兩側に四個の齒狀突起を具へ黃褐毛を裝ふ、縱溝には判然せる點刻を具

死す。

(三)すぎちびこしんくひ Cryphalus cryptomeriae Niis.

被害植物 杉。

特徴 成蟲 黒色、光澤あり、前頭の中央に一個の凹縦條ありて其兩側に點刻を密布す、褐毛を裝ふ、觸角は黄褐、前胸背の前縁に四個の小突起を具へ、中央には稍〻三角形に排列せる顆粒あり、後方には點刻を裝ひ、灰色毛あり、翅鞘は前胸背よりも約二倍長く、縱溝にある點刻は圓形にして深し、間室に微小の點刻を具へ灰色の鱗毛あり、體長六厘乃至七厘。

經過 未だ判然せざるも、若き杉樹を害するものにして、森林大害蟲の一なるべし、熊本地方に產す。

(三)きいろちびこしんくひ Cryphalus fulvus Niis.

被害植物 松。

特徴 成蟲 暗黄色、灰色毛を裝ふ、雄にては前頭に一橫隆あり、眼は黒色、前胸は長さよりも廣く、點刻多く黄毛を裝ひ鱗狀毛あり、前縁より中央に至るまでに小顆粒あり、縱溝に點刻を具へ、間室は狹く鱗毛及び細毛あり。

經過　年一回の發生をなすもの丶如し、母孔は星形若くは不正形にして幼蟲孔も亦一定せず、靭皮部を食害するが爲め樹を枯死せしむ、本邦恐るべき害蟲の一種にして、之に罹りたる桑樹は年内に枯死するに至る、成蟲の有樣にて越年し、翌春樹幹に蠹入す、余は五月十日を以て之を捕獲せり、是れ越年したるものにして、大抵九月頃に現はるゝものは越年するものゝ如し。

(三)、りんごちびこしんくひ Cryphalus malus Niis.（第二十圖 3）

被害植物　苹樹・櫻。

特徴　成蟲　黑色、光澤なし、頭は兩側に點刻を密布し、前頭の中央に一縱隆あり、前胸背は黑色、點刻を密布し、褐色毛を裝ふ、前縁に近く中央に六個の小突起ありて中央にあるもの最も大なり、尙顆粒突起多く後縁に近きものは稍〻列をなす、翅鞘は前胸よりも廣く點刻ある縱溝を具へ、間室には褐色の鱗狀毛を裝ひ、末端には褐毛あり、體長五厘乃至七厘。

經過　年一回の發生をなす、成蟲の有樣にて樹幹內に越年す、北海道にありては四五月頃より現はれ產卵す、母孔は不正形にして一定せず、集合して產卵す、幼蟲孔も亦一定せず、北海道にありては恐るべき害蟲にして、樹は之が爲めに枯

なからず。

(一九)からまつちびこしんくひ (Cryphalus laricis Niis.)(第二十圖2)

被害植物 落葉松。

特徴 成蟲 黒色、光澤なし、頭には點刻あり、灰色毛を帶ぶ、前頭には凹陷あり、前胸は長さより少しく廣く、剛毛を裝ひ、大小ある顆粒突起多し、翅鞘は黒褐、前胸よりも廣く、褐色の短き鱗毛あり、末端にある點刻ある縱溝は深くして判然す、間室に顆粒の一列を具へ、褐色の剛毛列を裝ふ、體長八厘。

經過 前種に酷似す、母孔は形成層にあり、幼蟲孔は皮下にあり。

(二〇)くはちびこしんくひ Cryphalus exiguus Blandf.

被害植物 桑。

特徴 成蟲 黒色、光澤を缺き灰色毛を裝ふ、頭の兩側に黠色を具へ、額の中央に橫隆起あり、(六)觸角は黄色、球桿は褐色、前胸は幅よりも短く、前方細し、微毛を密生す、前方の中央に二顆粒を具へ、其後方には小顆粒あり、脚は黄褐、跗節は淡色、翅鞘は前胸と同幅、縱溝の點刻は小、間室に小點刻を具へ、灰色の鱗狀毛あり、體長四厘餘。

發生なるが如し。

此屬に係るものにて本邦に產するものは左の二種なり。

まつのねくひこしんくひ Hylastes interstitialis Chap. 體黑色にして長形、前胸背に大小二種の點刻を密布す、體長一分五厘「あかまつ」の切株に穿孔を造るものにして大害を加ふることなし。

まつのかばいろこしんくひ Hylastes glabratus Zett. 褐色にして形前種に似たれども前胸背にある點刻は一樣なり、其中央に滑なる縱線を有す、體長九厘内外、あかまつに寄生す。

(八)とどちびこしんくひ Cryphalus piceae Ratz.

被害植物　とどまつ・えぞまつ・あかえぞ。

特徵　成蟲　黑褐、全面淡褐毛を生ず、觸角黃褐、前胸は球狀にして顆粒散在す、翅鞘は淡色、縱溝は判然せる點刻を具へ、間室には短き鱗毛ありて灰色の長毛は更に列をなして存す、脚は黃褐、體長六厘。

經過　成蟲の有樣にて越年す、翌春樹幹に母孔を造り產卵す、母孔は星形若くは枝狀にして之より不正形の幼蟲孔を出す、普通枝を侵害すれども幹にも亦少

く形成層にありて靱皮層には稀なり。

此他此屬に係るものにして本邦に産するものは左の二種あり。

さくらのこしんくひ Polygraphus ssiori Niis. 褐色にして光澤あり、翅鞘に鱗毛を缺き、間室には不規則に三列をなせる小點あり、體長一分、「しうり」「さくら」の樹皮下に寄生す。

もみのこしんくひ Polygraphus oblongus Blandf. は「とどまつこしんくひ」に酷似すれども、翅鞘は黑色にして前胸背の縱溝判明ならず、全面に小點刻を密布す、體長八厘「もみ」の樹皮下に寄生す。

(二七)はんのこしんくひ Hylastes alni Niis.（第二十圖1）

被害植物 赤楊。

特徵 成蟲 黑色、光澤なし、頭には粗大の點刻あり、觸角は赤褐、球桿は圓錐形をなす、前胸は長さよりも廣く、前方にては粗大、中央にては微小の顆粒突起を具へ、又點刻及び短毛あり、翅鞘は前胸よりも廣く、縱溝の點刻は粗大、基部にては稍、微小、間室には顆粒と鱗毛あり、脚は黑色、跗節は赤褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、成蟲の有樣にて樹幹に越年し、成蟲は九月現はる、年一回の

被害植物　あかえぞ・えぞまつ。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども少しく大なり、體は黑褐、前頭は圓く、額は光澤を缺き、點刻を裝ふ、前胸は長さよりも廣く、點刻を密布す、翅鞘の點刻列は判然し、間室にある點刻は小なり、腹面は突起し、短毛を密生す、雄は尾端に長毛を生ず、體長八厘乃至一分。

經過　前種と同樣なるが如し、母孔は四分乃至一寸二分五厘、幼蟲孔は一定せずと雖も前種に酷似したる所あり、但し母孔の一端は前種の如く彎曲せず、前種よりも普通なる種類にして隨つて其害も亦大なり。

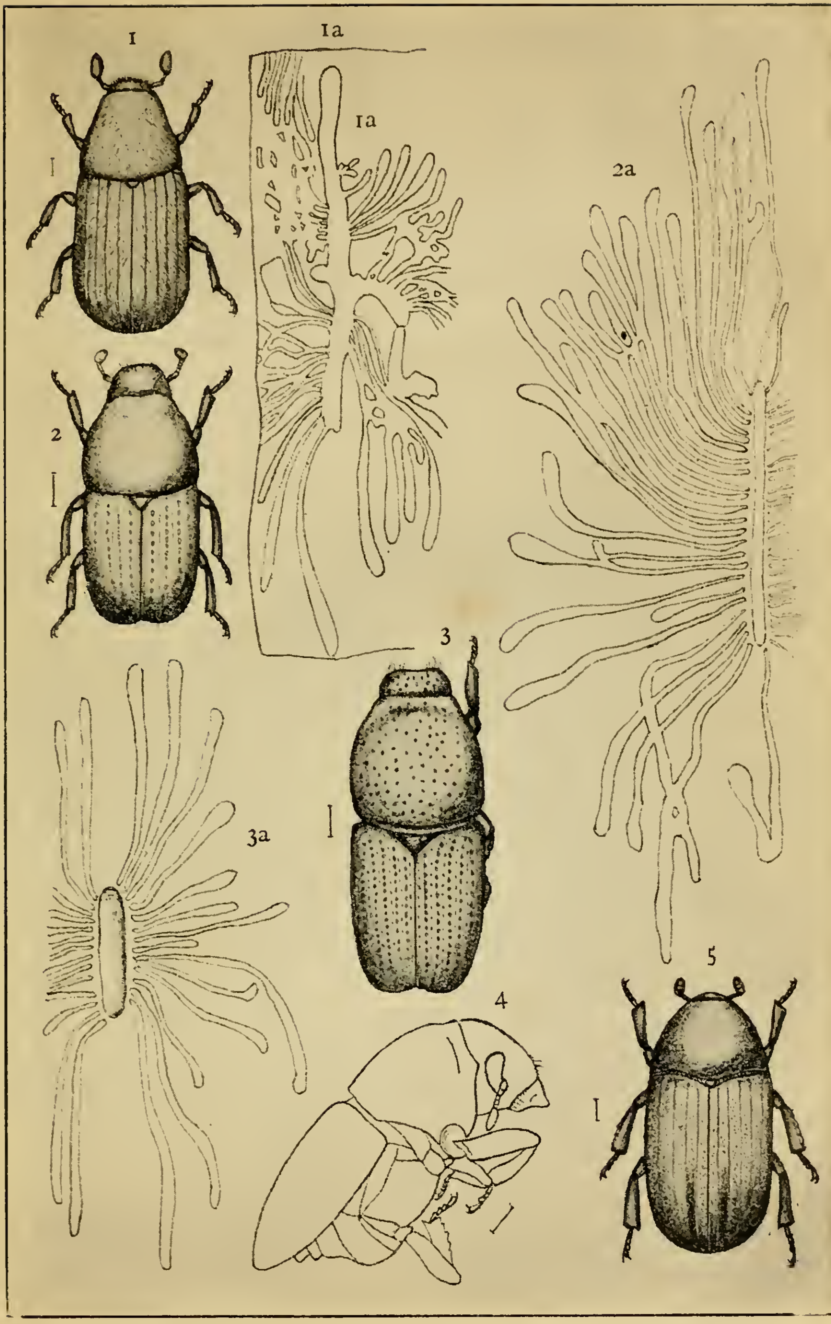
(六)ひめあかえぞこしんくひ Polygraphus gracilis Niis.

被害植物　あかえぞ・とどまつ。

特徴　成蟲　細長にして黑色、頭は光澤を帶び、雄の前頭には二個の小突起あり、觸角は黃色、球桿は卵形にして末端尖る、翅鞘は黑色、末端褐色、前胸よりも廣し、點刻ある縱溝列を具へ、間室には灰色の鱗毛を裝ひ、顆粒突起なし、前種に似れども形細長にして小なるを以て容易に區別し得べし、體長七厘乃至八厘餘。

經過　「あかえぞこしんくひ」に酷似すれども幹よりも枝を害するものゝ如し、多

第拾九圖



第 拾 九 圖

1. Polygraphus proximus Blandf. とどまつこしんくひ (P. 168)
   a. 蝕痕
2. Scolytus esuriens Blandf.. にれのおほこしんくひ (P. 162)
   a. 蝕痕
3. Scolytus chikisanii Niis. にれのこしんくひ (P. 163)
   a. 蝕痕
4. Scolytus curviventralis Niis. ゆみばりこしんくひ (P. 163)
5. Phloeosinus perlatus Chap. ひばのこしんくひ (P. 165)

體長は八厘乃至一分一厘、觸角及び脚は赤褐、翅鞘に灰黄帶あり。

(一四)とどまつこしんくひ Polygraphus proximus Blandf.（第十九圖1）

被害植物　椴。

特徴　成蟲　黑色若くは黑褐色にして灰色の鱗毛を裝ふ、頭は黑色、光澤ありて點刻多し、雌には前頭に二小突起あり、觸角は黄褐色にして前胸幅よりも長く、前方甚だしく細小す、灰色の鱗毛及び短毛多し、中央に判然せる縱條あり、翅鞘は黑色、末端は赤褐、點刻ある縱溝列を具へ、間室には粗大の點刻と灰色の鱗毛あり、體長八厘。

幼蟲　白色にして少しく黄色を帶び、頭は褐色なり。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、四五月頃より樹幹に蠹入し母孔を開きて産卵す、母孔には三個乃至四個の枝を具へたるものありて、靭皮層にあり、幼蟲孔は不正にして稍々羽狀をなす、强壯なる樹木を侵害せざるも老木若くは枯死せんとするものに蠹入して木材の腐朽を速かならしむ、九月下旬成蟲となる。

(一五)あかえぞこしんくひ Polygraphus jesoensis Niis.

しく突出し光澤あり、觸角は赤褐にして球桿は末端にて尖る、前胸は前方にて細まり、小點刻を密布し短毛を密生す、稜狀部の前方には一小凹陷あり、翅鞘の點刻列は大、間室には顆粒多し、體長二分。

經過 母孔は一分二三厘の圓孔にして普通皮にありて靭皮層を侵害せず、幼蟲孔は放線狀をなして不定の方向に走る、成蟲の出でたる孔は徑一分あり、經過不明。

鞘　翅　目

左の三種は同じく「やちたも」を害す。

やちたもこしんくひ Hylesinus laticollis Blandf.

被害植物 やちたも。

體長一分乃至一分三厘、卵形、黑色、光澤なし、翅鞘は腹面よりも隆起す。

やちたもくろこしんくひ Hylesinus tristis Blandf.

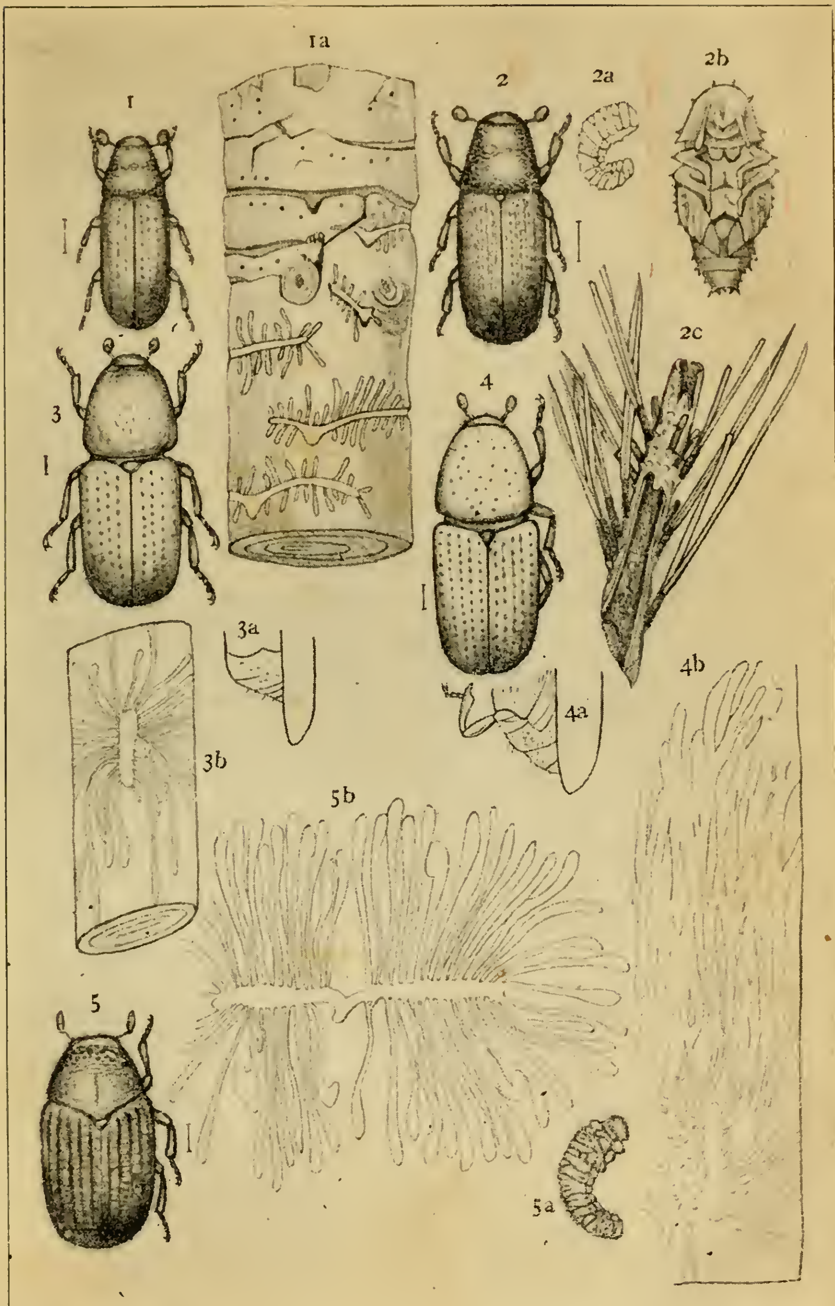
被害植物 やちたも。

體長九厘乃至一分三厘、前種に似たれども腹面は翅鞘よりも隆起せり。

しらおびこしんくひ Hylesinus cingulatus Blandf.

被害植物 やちたも。

第拾八圖



第　拾　八　圖

1. Myelophilus (Blastophagus) minor Hartig.　まつのひめこしんくひ　(P. 159)
   a. 穿孔
2. Myelophilus (Blastophagus) piniperda L.　まつのこしんくひ　(P. 160)
   a. 幼蟲　b. 蛹　c. 蝕痕
3. Scolytus japonicus Chap.　すもものこしんくひ　(P. 161)
   a. 尾端　b. 蝕痕
4. Scolytus aratus Blandf.　うめのこしんくひ　(P. 161)
   a. 尾端　b. 蝕痕
5. Hylesinus costatus Blandf.　やちだもこしんくひ　(P. 166)
   a. 幼蟲　b. 蝕痕

此屬に係るものにして本邦に產するものは左の一種なり。

ひばのこしんくひ Phloeosinus lewisi Chap. 翅鞘黑色、間室は同幅、不規則なる一列の小瘤起を具へ、灰色の鱗毛を生ず、體長六厘、「ひば」、「ひのき」に寄生す。

(三)やちたもこしんくひ Hylesinus costatus Blandf. (第十八圖5)

被害植物 やちたも。

特徵 成蟲 黑色若くは黑褐、頭の前方は平たくして點刻多し、中央に光澤ある縱隆あり、前胸は黑色、前方は少しく淡色、兩側は圓し、翅鞘の末端に黃色の鱗狀毛あり、縱溝列は深く、第一、第三、第五、第七及び第九間室は中央より廣幅となる、顆粒多し、體長一分二厘。

經過 母孔は長さ三分乃至八分ありて常に樹幹に橫置せらる、普通形成層にあり、幼蟲孔は甚だ不正にして長さ一寸三分乃至三寸五分あり、年發生の回數は未だ判然せず。

(三)おほやちたもこしんくひ Hylesinus nobilis Blandf.

被害植物 やちたも。

特徵 成蟲 體卵形に近く、黑色にして光澤を缺く、頭に小點刻を密布す、額は少

皮下に寄生す、

（10）ひのきのこしんくひ　Phloeosinus rudis Blandf.

被害植物　ひのき。

特徴　成蟲　黑色、雄は翅鞘の第一及び第二間室部に五六個の强き刺狀突起を備へ、第二及び第四間室は平滑にして末端に近く一二個の突起あり、雌は第一及び第二間室に小瘤列を裝ふ、體長八厘。

經過　未だ分明ならざるも、母孔は單縱孔或は複縱孔をなせり「ひのき」の樹皮下に寄生す。

（11）ひばのこしんくひ　Phloeosinus perlatus Chap.（第十九圖5）

被害植物　あすなろ（ひば）。

特徴　成蟲　體は黑色、少しく褐色を帶ぶ、翅鞘赤褐を呈し、間室には顆粒突起列を備へ、又黃色の小鱗毛を密布す、第二間室は少しく窪み、末端にて細狹となる、體長一分餘。

經過　母孔は單縱孔にして一端に交尾孔を有す、靭皮層よりも寧ろ形成層を侵害す。

室にある點刻の小なるにあり、體長一分三厘。

經過 同前。

(九)、にれのひめこしんくひ Scolytus frontalis Blandf.

被害植物 楡。

特徴 成蟲 黑色にして少しく光澤を帶ぶ、頭に點刻を密布す、黃色の短毛を裝ふ、翅鞘は前胸背よりも廣く、縱溝は餘り判然せず、間室は狹く小點刻列あり、第一、第三及び第五間室には二列の點刻列あり。

尙此種に係るものにして本邦に產するものは左の二種なり。

しらかばこしんくひ Scolytus agnatus Blandf. **にれのこしんくひ**に酷似すれども第二腹節は凹陷せず、翅鞘の末端は圓く、接合部に近く細かき鋸狀齒を有し、間室には不規則なる一列の點刻を有す、「しからば」の枯木に寄生す、體長一分二厘―一分五厘。

さはしばこしんくひ Scolytus claviger Blandf. **にれのおほこしんくひ**に酷似すれども、第二腹節の中央に當り雄にては後方に向へる稍〻長き長形の隆起を備へ、雌にては同位置に小瘤を有することなり、體長一分乃至一分八厘、此は「さはしば」の樹

被害植物　楡。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども少しく小形、尾端に赤褐の三刺を裝ふを以て容易に區別することを得べし、體長一分二厘乃至一分五厘。

經過　前種と同時に現はれ同樣の害をなす、母孔は前種よりも少しく短し。

(七)にれのこしんくひ　Scolytus chikisanii Niis.　(第十九圖 3)

被害植物　楡。

特徴　成蟲　黑色、形は前種に比し稍〻長形なり、翅鞘は前胸よりも長く尾端細し、點刻ある縱列ありて其間室には小なる一列の點刻あり、第二腹節は少しく凹陷し、第二、第三及び第四腹節の後緣は隆起す、體長一分二厘乃至一分六厘。

經過　年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月及び八月現はる、母孔は長さ七分乃至一寸六分、幅七厘、上端にて傾斜するもの多し、幼蟲孔は相接近して出て末端にて交叉す、多くは枝を害すれども又幹にあることもあり。

(八)ゆみばらこしんくひ　Scolytus curviventralis Niis.　(第十九圖 4)

被害植物　楡。

特徴　成蟲　前種に酷似す、其差異は前胸背點刻の密なること及び翅鞘上の間

小顆粒あり、腹面は黑色、黃色の長毛あり、體長七厘。

經過 年二回の發生をなすものゝ如し、余の所藏標本は九月八日捕獲したるものなれば、定めて第二回の發生なるべし、母孔は長さ六分乃至一寸、幅四厘、其一端は分叉す、靱皮層にあり、幼蟲孔は母孔に稍〻直角をなして互に相平行す。

(五)、にれのおほこしんくひ Scolytus esuriens Blandf.（第十九圖2）

被害植物 楡。

特徵 成蟲 黑色、光澤あり、頭は雄にては前方扁たくして短毛を裝ひ、雌にては稍〻隆起し、細き縱溝多し、前胸背は前緣小となり、赤褐色にして頗る光澤を帶び、點刻は中央にては小にして粗、前緣及び兩側に於ては大にして密なり、翅鞘は黑色乃至赤褐色、腹部は黑色、基部隆起す、體一分一厘乃至一分八厘。

經過 年二回の發生をなす、第一回は五六月、第二回は八九月、幼蟲の有樣にて越年す、母孔は單縱孔にして深く靱皮層に達す、幼蟲孔は直角をなして上方に向ふ、普通樹幹及び大枝を害す、札幌地方にありては普通なる種類にして樹は之が爲めに枯死す。

(六)、みつとげこしんくひ Scolytus trispinosus Strohm.

食物を得んが爲めにして常に長さ一二寸の孔を上方に向ひて穿ち、其部を枯死せしむ。

(三)、すもものこしんくひ Scolytus japonicus Chap. (第十八圖3)

被害植物 李・苹樹・梅・櫻・楡。

特徴 成蟲 黑色、前胸は大にして體の半を占む、翅鞘に縱條多く翅鞘の接合部は少しく凹陷す、尾端は斜に切斷せられたるの觀を呈す、腹面に黃毛を密生す、體長八厘。

經過 年二回の發生をなす、母孔は四分乃至一寸幅六厘にして其一端は彎曲す、韌皮層にあり、幼蟲孔は三寸三四分に達す、初めは放線狀をなせども次第に不規則となる、楡の枝に普通なる種類にして直徑一寸位の枝を最も嗜むもの丶如し、八月中旬二回の成蟲を生ず。

(四)、うめのこしんくひ Scolytus aratus Blandf. (第十八圖4)

被害植物 梅・苹樹・櫻・楡。

特徴 成蟲 黑褐、頭は黑色、中央に一縱隆あり、前胸背は點刻を密布し、灰色毛を裝ひ、中央に一縱隆あり、翅鞘は黃褐、明瞭なる縱溝列を具へ、間室に黃毛を裝ひ、

終れば其處に蛹化す、八月乃至九月に至り更に甲蟲を見るは即ち第二回のものなり、幼蟲孔の長さは六七寸とす、母孔は複横孔なり、此害に罹りたる樹は年内に枯死することあり、廣く本邦に播布す。

(二)まつのこしんくひ Myelophilus (Blastophagus) piniperda L. (第十八圖 2)

被害植物 松・樅・落葉松。

特徵 成蟲 體は黑色、翅鞘は少しく褐色を帶ぶ、胸部は前方幅狹く後方廣し、翅鞘には縱列せる小瘤あり、瘤上には細毛を生ず、末端は截斷狀に終る、體長一分三厘乃至一分七厘。

幼蟲 白色無肢、第一節は大にして少しく黃色を帶ぶ、體長二分。

經過 年二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、三四月頃現はれ、前種同樣に產卵す、幼蟲は十日內外にして孵化し、母孔と直角に幼蟲孔を穿つ、六月若くは七月上旬蛹化す、其害の甚だしきは「あかまつ」にして三十五年乃至四十年を經たるもの最も害を被り易し、其特に恐るべきは樹の新芽を穿つにあり、晩秋越年せんが爲め樹幹二寸以上の深さに蠹入するの性あるを以て其害少なからず、母孔は單縱孔にして、幼蟲孔は割合に變形なり、成蟲の新芽に蠹入するは其

を捕獲すべし而して晝間は樹上に静止するを以て急に動搖して之を落下せしむるを得べし、又被害の患ある樹幹は時々巡視して其有無を檢すべし。

三、卵子の所在は樹皮浮上し看破し得るが故に常に其搜索に心掛くべし。

小蠹蟲科 Scolytidae.

(一)、まつのひめこしんくひ Myelophilus (Blastophagus) minor Hartig. （第十八圖 1）

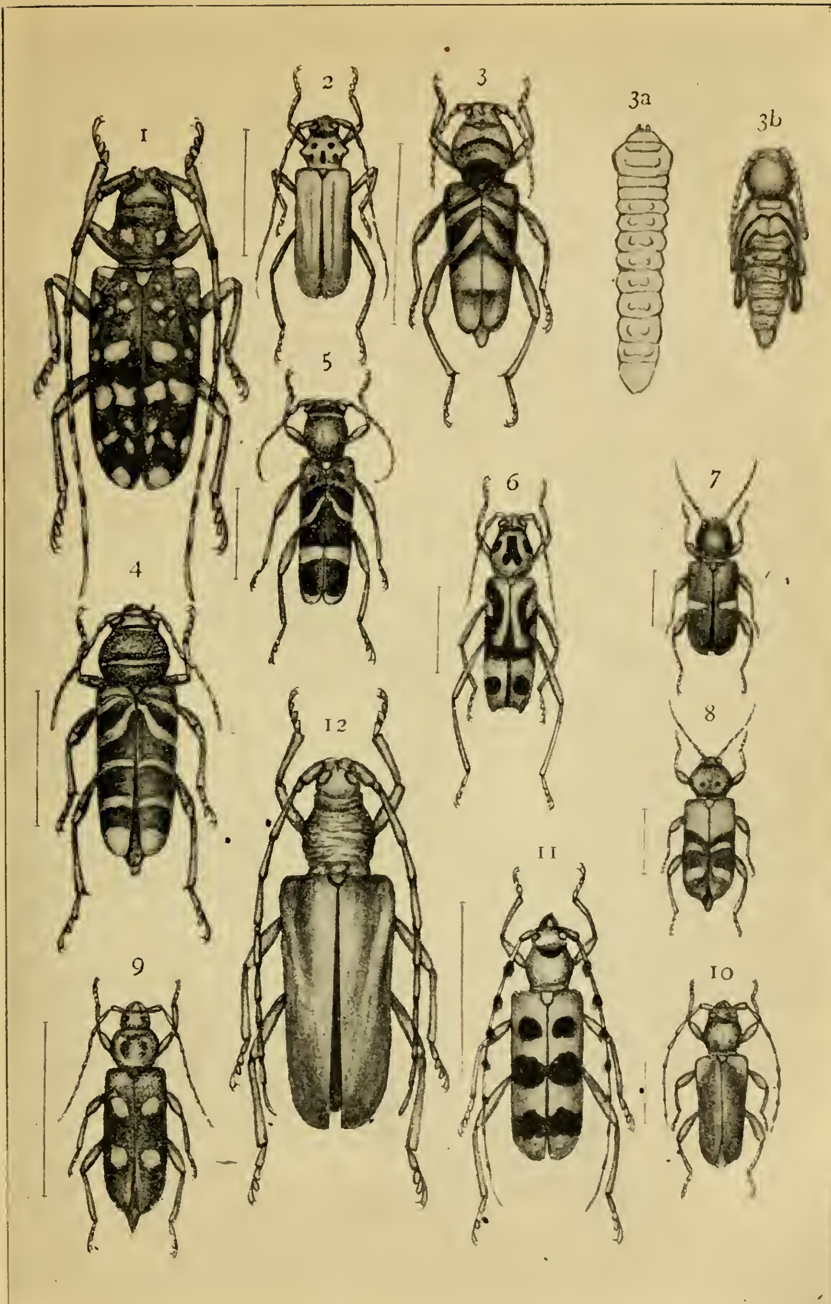
被害植物 松・椵・樅・えぞまつ・落葉松。

特徴 成蟲 體黑色、圓柱形をなし、頭は下向して見えず、前胸は長く體の約三分の一を占め、前方は微細の小點を密布す、翅鞘は黑色にして縱條を有し、其間室に點刻を列ぬ、前方は少しく細小なり、體長一分。

幼蟲 白色にして象鼻蟲の幼蟲に酷似す、脚は判然せず、體長一分二三厘。

經過 成蟲の有樣にて越年す、翌春潜伏處より出て樹幹に穿入して產卵す、卵子は白色楕圓形にして十日內外にて孵化し、產附せられたる場所より食ひ始め、各自其欲する方面に向て食進す、幼蟲孔は概ね母孔の直角にして放線狀をなし相交叉することは稀なり、斯くて普通六月下旬乃至七月上旬に至り成長し

第拾七圖



第 拾 七 圖

1. Melanauster chinensis Först. くはごまだらかみきり (P. 150)
2. Purpuricenus temmickii Guer. べにかみきり (P. 151)
3. Xylotrechus chinensis Chevr. くはとらかみきり (P. 151)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
4. Xylotrechus grayi Whit. ことらかみきり (P. 153)
5. Clytus caproides Bat. きすぢとらかみきり (P. 154)
6. Clytanthus annularis F. たけのとらかみきり (P. 155)
7. Callidium albicinctum Bat. しろをびかみきり (P. 156)
8. Callidium maacki Kraatz. あかねかみきり (P. 156)
9. Sympiezocera japonica Jac. すぎかみきり (P. 156)
10. Semanotus rufipennis Motsch. ひめすぎかみきり (P. 157)
11. Rosalia batesi Har. るりぼしかみきり (P.157)
12. Mallambyx japonicus Bat. やまかみきり (P. 157)

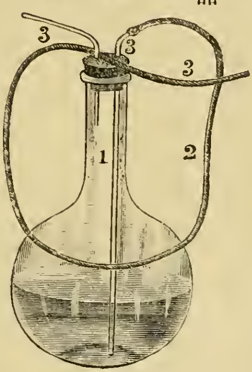
大腮は大にして突出す、觸角は黒色、體より長し、前胸は扁たく、横皺多し、翅鞘は細長にして肩部稍〻隆起す、跗節の下部は扁たくして黄色、體長一寸六分。

幼蟲 「くはかみきり」の幼蟲に酷似す、完熟すれば二寸餘に達す。

經過 三年に一回の發生を爲すものゝ如し、成蟲は七八月の頃現はれ、卵子を樹幹に殘す、幼蟲は材質部に大縱孔を穿ち食害するを以て、樹木の枯死を見ること稀ならず。

天牛一般の驅除法

一、上圖の如き灌注器にて蟲孔より石油・石油乳劑若しくは酢を注入すべし、此器を用ふる時は鐵砲蟲が如何なる場處にあるも汁液を之に達せしむることを得べし、又鋭刀にて蟲孔を破り其内にある幼蟲を殺すべし、此蟲は常に蟲孔より蟲糞を出せるを以て容易に之を發見し得べし。



石油注射器
(1) 硝子瓶
(2) ゴム管
(3) 硝子管

二、成蟲は幾分か燈火に飛來するの性あるを以て之を利用すべく、又新伐木地及び白布に集來するの性あるが故に、伐木地に至りて黄昏白布を樹幹に張り之

さ體より短し、翅鞘には各二個の黃褐紋を裝ふ、體長六分乃至七分二厘。

（四九）**ひめすぎかみきり**　Semanotus rufipennis Motsch.（第十七圖10）

被害植物　杉、松。

特徴　成蟲　體は赤褐にして扁平、觸角は體より短くして黑褐、頭及び前胸は黑褐にして點刻を密布し、前胸背の兩側に近く黑紋を裝ふ、翅鞘は赤褐、點刻を密布す、體長三分。

（五〇）**るりぼしかみきり**　Rosalia batesi Har.（第十七圖11）

被害植物　胡桃。

特徴　成蟲　體は青色、觸角は體に約二倍し、柄節及び梗節は黑色、第三・第四及び第五節の末端に黑色の毛塊あり、前胸背の前緣及び中央の橫紋は黑色、翅鞘は青藍色、三個の黑紋ありて末端に近きものは不正形をなす、體下は絹絲樣の青白毛を密生す、腿節及び脛節の兩端は黑色、體長五分五厘乃至一寸。

（五一）**やまかみきり**　Mallambyx japonicus Bat.（第十七圖12）

被害植物　栗。

特徴　成蟲　體は灰黑にして灰黃色の短毛を密生す、頭細長、中央に縱溝を有し、

經過 年一回の發生をなす、蛹の有樣にて越年し、翌春五月下旬乃至六月上旬に羽化す、成蟲は莖皮を破り其内に卵子を藏す、一雌の卵數は四五十内外、卵は白色、長楕圓形にして一端少しく尖る、幼蟲は初めは皮層に止まりて食害すれども、成長するに隨ひ木質部に蠹入す、蛹は綿樣の繭内にあり、之が爲め葡萄の枯死すること稀ならず。

驅除法 成蟲は五月下旬乃至六月上旬孵化するものなれば注意して捕獲すべし、萎凋せる莖枝は切りて燒き拂ふべし。

(四七)、あかねかみきり Callidium maacki Kraatz. (第十七圖8)

被害植物 葡萄。

特徵 成蟲 體は暗褐、頭及び前胸は黑色にして黑褐の細毛を粗生す、翅鞘の基部約三分の一は褐色、他は暗黑色、少しく褐色を帶び、之に二條の白色帶を裝ふ、後腿節は著しく膨大す、體長二分三厘乃至二分五厘。

(四八)、すぎかみきり Sympiezocera japonica Lac. (第十七圖9)

被害植物 杉。

特徵 成蟲 體は黑褐にして扁平、細毛及び點刻を密布す、觸角は赤褐にして長

すれども北海道には稀なり。

(四五)たけのとらかみきり Clytanthus annularis F.（第十七圖6）

被害植物　竹（竹細工物其他竹柱等を食害す）。

特徴　成蟲　體は灰褐、頭は小、觸角は褐色にして中肢の基部に達す、前胸は球形、中央に二個の黑紋を裝ふ、中央にあるものは大にして叉状をなす、翅鞘は暗黄、肩部に近く長楕圓形の黑輪を有し、其後方に一黑横線あり、又翅端に沿ひて大なる黑紋を具ふ、脚は暗褐、後腿節は稍〻黑色を帶ぶ、腹部は灰白の細毛を裝ふ、體長四分五厘内外。

(四六)しろおびかみきり Callidium albicinctum Bat.（第十七圖7）

被害植物　葡萄・櫻等。

特徴　成蟲　體は黑色、褐色若くは灰白の短毛を裝ひ、頭には小點刻あり、觸角は體より少しく短し、前胸は球形をなし小點刻を密布す、翅鞘には褐毛を裝ひ、中央に一白帶あり、腿節は棍棒状に膨大す、體長二分乃至二分三厘。

幼蟲　體は黄白、他の天牛の幼蟲と異なるなし、但し大腮は大にして他の種類よりも突出せる傾あり、體長二分。

體長五分乃至六分。

經過 年一回發生す、成蟲は六月上旬乃至八月現はれ、新伐木地に集まり爰に産卵す、又薪積場に集まるの性あり、被害樹は多く老木なるを以て左程害なきものゝ如し、幼蟲の有樣にて越年し翌春蛹化し次で羽化す、札幌地方にありては普通の種類なれども東京地方には稀なり。

(四)きすぢとらかみきり Clytus caproides Bat.（第十七圖5）

被害植物 柿。

特徵 成蟲 體は黑褐、觸角・翅底の斑紋及び脚は黃褐、頭の中央にある二紋・後緣・前胸背の前後兩緣・稜狀部・翅鞘の二橫條・腹面節の後緣並に翅端は鮮黃色、雄にては翅鞘の褐色部の下方に更に黃色の一斜條あれども餘り判然せず、中央の橫條は兩者相合して人字形をなし、外半にある廣帶は端直なり、體長四分乃至六分。

經過 年一回の發生、成蟲は六月中旬乃至七月下旬現はれ、柿其他柿樹科植物の樹幹に産卵す、幼蟲は縱溝を穿ちて材質部を食ひ、一端に小孔を開きて之より蟲糞を排出す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、廣く本邦に播布

特徴 成蟲 體は黑色、前胸背は赤褐にして稍〻球形に近く、網狀の點刻を具へ、黑毛を粗生す、翅鞘は黑色、稜狀部に近く黃褐と黃色の二横帶ありて、前方にあるものは細くして斜走し、後方にあるものは横走して太し、體長三分五厘乃至四分五厘。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲は黃白、大腮は黑色、口部は褐色、第一節には粗大の點刻を粗布し、硬皮板は黃白にして滑澤なり、蛹は尾端に齒狀突突を群生し、其末端は黑褐、老熟したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で孵化するものゝ如し、東北地方殊に岩手地方に多し、北海道には未だ產するものあるを見ず。

(四三)ことらふかみきり Xylotrechus grayi Whit.（第十七圖4）

被害植物 棆。

特徴 成蟲 體は黑褐、前頭・觸角・翅鞘の基部・腹面並に脚は黃褐、觸角後方に黑褐の一横條あり、後頭は黃毛を密生す、前胸は稍〻球形にして中央に細き黃色の横條あり、翅鞘の基部黃褐、其下方にある斜條、中央の彎曲せる二横條並に翅端は黃色、中胸並に第一・第二腹節の兩側に各一個黃色の毛塊あり、腿節の中央黑褐、

は短くして僅かに中肢の基部に達す、前胸は球形にして中央に斷續せる一縱條を具へ、約三分の二の前方に黑色の一横條ありて之れより前方は黃色、後方は赤褐、更に其後方は黑色を呈す、翅鞘は前方廣く後方狹く、基部は黑色、次で黑・黃の兩色交互に斜條をなして翅の半ばに達す、其後半は黃色にして其內に褐色の横帶あり、故に翅を接合するときは前半の斜條は恰も人字形を現はす、胸腹は總て黑色、後胸の側片に黑色の環紋を裝ふ、各腹節の基部は褐色、脚は黃色、基節と腿節の半は黑色、轉節は褐色、體長七分乃至八分。

幼蟲　「くはごまだらかみきり」の幼蟲に酷似すれども小形なり。

經過　幼蟲期は約一ヶ年、八九月頃產下せられたる卵子は二週間前後にして孵化す、樹皮下の軟質部を食ひ其儘越年す、翌春材質部に入りて食害したる後七八月頃に至りて老熟し、次で蛹化し、八九月頃羽化す、幼蟲は下方より上方に迂曲せる隧道を造りて食害するの傾あり、枝皮を害する場合には枝はために著しく膨大し、數年の後大に異狀を呈し、遂に枯死するに至る。

(四三)**ぶだうとらかみきり**　*Xylotrechus pyrrhoderus* Bat.

被害植物　葡萄。

鞘の基部に顆粒多く、鞘上に四十餘個の白紋を裝ふ、腹部及び脚は灰藍色、體長九分乃至一寸二分。

幼蟲　「くはかみきり」の幼蟲に酷似し形稍々小なり。

經過　同前。

驅除法　「くはかみきり」に同じ、但し幹を害するを以て該樹を搜索して母蟲を捕殺すべし。

(四〇)べにかみきり　Purpuricenus temmickii Guér.　(第十七圖 2)

被害植物　棗(ナツメ)・竹。

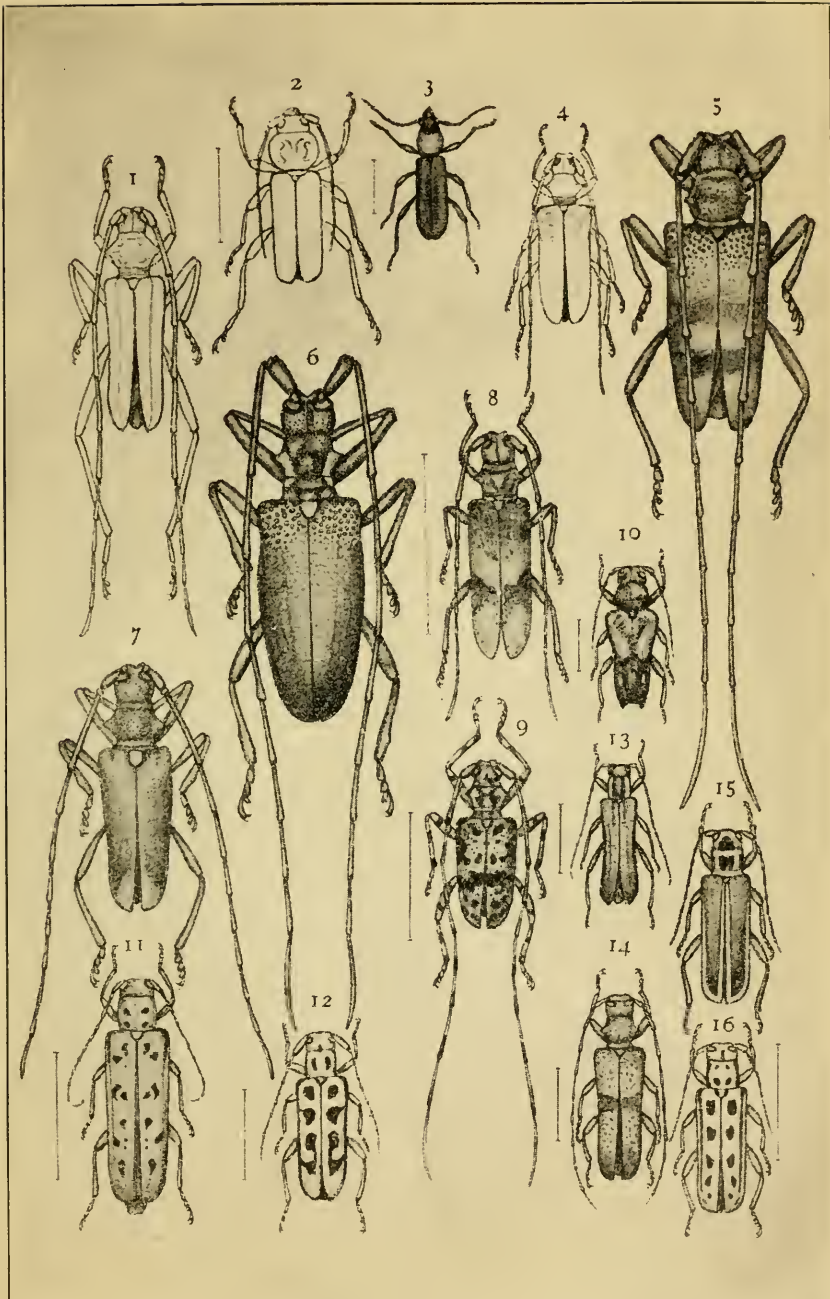
特徴　成蟲　體は黑色、頭の中央に一縱溝を有し、觸角は黑色にして體と略く同長、前胸背は朱色、後緣は突起し、側面に各一個の棘狀突起を有し、中央に五個の黑紋を裝ふ、翅鞘は濃朱色、接合部は黑色、點刻を密布す、脚は黑色、褐色の短毛を密生す、體長六分。

(四一)くはとらかみきり　Xylotrechus chinensis Chevr.　(第十七圖 3)

被害植物　桑。

特徴　成蟲　體は黃色、頭は割合に小、中央の縱條・複眼・觸角及び後頭は褐色、觸角

第拾六圖



第 拾 六 圖

1. Chloridolum thaliodes Bat. おほあをかみきり (P. 139)
2. Semanotus chlorizans Solsky. くろひらたかみかり (P. 140)
3. Dere thoracica White. ほたるかみきり (P. 141)
4. Monochammus fraudator Bat. びろうどかみきり (P. 142)
5. Monochammus luxuriosus Bat. せんのかみきり (P. 142)
6. Monochammus grandis White. ひげながかみきり (P. 143)
7. Monochammus sartor F. var. 4--maculatus Motsch. よつぼしひげながかみきり (P. 144)
8. Mecynippus pubicornis Bat. いたやかみきり (P.145)
9. Apalimna liturata Bat. ひげながごまだらかみきり (P. 145)
10. Pogonochaerus seminiveus Bat. ねじろかみきり (P. 146)
11. Eutetrapha varicornis Bat. しなかみきり (P. 147)
12. Eutetrapha chrysargyrea Bat. はんのあをかみきり (P. 148)
13. Glenea fortunei Saund. かつらかみきり (P. 148)
14. Asaperda agapanthina Bat. しなのくろふかみきり (P. 149)
15. Saperda sanguinolenta Thoms. はんのかみきり (P. 149)
16. Saperda decempunctata Gebl. とほしかみきり (P. 150)

粗糙の點刻多し、體下及び脚は黑色、體長六分乃至七分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次で羽化す。成蟲は三四月現はれ、樹幹に產卵す、幼蟲は材質部を食し、老熟すれば一寸餘に達す、頭は淡褐、其前緣は黑色、第一節は扁平にして褐紋を裝ふ、本州には稀ならざれども北海道には少なし。

(二八)とほしかみきり Saperda decempunctata Gebl.（第十六圖16）

被害植物 しなのき。

特徵 成蟲 體は暗黃にして少しく綠色を帶ぶ「しなかみきり」に酷似すれども翅鞘の斑紋は大にして十個あり、稀に翅底の斑紋二個なることあり、翅鞘の兩側に縱隆を缺くを以て容易に識別することを得べし、體長六分內外。

經過 不明「しなかみきり」と同時に發生し同樣の經過をなすものならんか。

(二九)くはごまだらかみきり Melanauster chinensis Först.（第十七圖1）

被害植物 桑・柑橘・苹樹・柳・楝(センダン)。

特徵 成蟲 體は光澤ある黑色、觸角は體より長く、各節の基部は灰藍色、前胸背に橫皺及び棘刺を有し、二個の灰藍色紋を裝ふ、稜狀部及び胸部は稍々藍色、翅

經過　未だ判然せず、四月中旬乃至五月下旬現はれ、樹幹に産卵するものゝ如し。

(三六)しなのくろふかみきり　Asaperda agapanthina Bat.（第十六圖14）

被害植物　しなのき。

特徴　成蟲　體は灰褐色、少しく綠色を帶ぶ、觸角は體よりも長く、黃褐にして長毛を裝ひ、第一節及び第二節並に各節の末端は黑褐、前胸背の兩側に低き棘狀突起あり、翅には小黑褐紋を散在し、中央に大黑褐紋を裝ふ、脚は黃褐、腿節の基部は黑色、體長三分乃至四分。

經過　未だ判然せず、五月中旬より現はれ、「しなの木」に普通なり、「しなかみきり」と同樣の經過をなすものゝ如し、札幌地方には極めて普通の種類なれども、本州には稀なるが如し。

(三七)はんのかみきり　Saperda sanguinolenta Thoms.（第十六圖15）

被害植物　赤楊。

特徴　成蟲　體は黑色、頭は赤黃、頭頂の一紋及び頭の三角紋は黑色、觸角は各節基部に於て灰白、前胸は赤黃、中央の二紋及び兩側の一紋は黑色、圓柱形にして兩側に棘刺なし、稜狀部赤黃、其兩側、翅鞘の前端及び後緣は赤黃、顆粒突起及び

したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次て羽化す、札幌地方には極めて普通なれども、本州には産せざるが如し。

(三四)、はんのあをかみきり Entetrapha chrysargyrea Bat. (第十六圖12)

被害植物 赤楊・しなのき。

特徴 成蟲 體は光澤ある鑛物性の淡綠、觸角、前頭の一紋、前胸背の四紋、稜狀部、翅鞘の前緣及び縱列せる四大紋は黑色、觸角は體より少しく長し、稜狀部の中央に綠紋あり、翅鞘の黑紋には網目樣の點刻あり、脚は黑色、中後の腿節は綠色を帶ぶ、腹部は黑色、尾端の兩側は綠色、體長四分乃至五分。

經過 前種と同時に現はれ同樣の經過をなすものゝ如し。

(三五)、かつらかみきり Glenea fortunei Saund. (第十六圖13)

被害植物 桂。

特徴 成蟲 體は黑色、灰白の短毛を密生す、觸角は雌にては體より少しく短、雄にては長し、前胸背の兩側に各一個の灰白色縱條あり、稜狀部は灰白、翅鞘は暗灰色、兩側に黑縱條あれども翅端に達せず、脚及び體下に灰白毛多きを以て暗灰色の觀あり、體長三分乃至四分。

り、稜狀部黑色にして其中央は白色、翅底は白色にして中央に灰色紋を備へ、其前方は瘤狀に隆起す、翅鞘の後半は黑色、二個の縱隆を具へ、黑色の毛塊二個あり、翅端は黃色にして刺を裝ふ、脚は黑色にして長短二種の灰白毛あり、體長二分乃至二分五厘。

經過　未だ判然せざれども、成蟲は四月下旬より現はれ樹枝に產卵するものゝ如し、年一回の發生にして、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化す、北海道地方には普通なれども、未だ他地方にて發見せることなし。

(三)、しなかみきり　*Eutetrapha varicornis* Bat.（第十六圖11）

被害植物　しなのき。

特徵　成蟲　體は灰黃、觸角は灰白にして少しく藍色を帶び、第一及び第二節の全體幷に以上五節の末端は黑色、額片は黃褐、前胸背は圓柱形にして中央に四個の小黑紋を裝ひ、兩側に各一條の黑線あり、翅鞘は約七個の黑紋を裝ひ、肩部より翅端に達する黑線ありて其中央に平行せる縱隆起あり、稜狀部の兩側にも亦黑紋あり、體及び脚に短毛を密生す、體長五分五厘乃至六分。

經過　年一回の發生、成蟲は六月乃至八月現はれ「しなのき」の樹幹に產卵す、老熟

被害植物　楲。

特徴　成蟲　體は灰白色にして黑色の斑紋多し、觸角は體の約四倍餘ありて各節の末端は黑色、後頭に三個の黑紋を備へ、兩側及び前頭にも亦黑紋あり、翅鞘は圓柱形にして兩側に棘狀突起を具へ、其下方に黑縱條あり、前緣中央に二個の黑縱條を具へ、其後緣に三錐狀の黑紋あり、翅鞘には大小の黑紋を撒布し、前緣の大部は黑色なり、腿節及び脛節の中央・末端並に跗節の末端は黑色、脚及び體下は灰白毛を密生す、體長五分五厘乃至六分五厘。

經過　兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲は樹幹に縱溝を穿ちて材質部を食するが故に、水の上昇を遮りて樹を枯死せしむることあり、成蟲は七月下旬乃至八月中旬現はれ樹幹に產卵す、其數甚だ多からず、廣く本邦に播布す。

(三)、ねじろかみきり　Pogonochaerus seminiveus Bat.（第十六圖10）

被害植物　しなのき・楡。

特徴　成蟲　體は黑色、翅底の大半は白色、觸角は體と稍ゝ同長にして基部は褐色、各節の基部は白色にして少しく藍色を帶び、下面に黑色の長毛を粗生す、頭及び前胸背は暗褐、後者は中央に二個の瘤狀突起を具へ、兩側に低き棘狀突起あ

生せるを以て斑紋を有する觀あり、判然せざる二三の縱隆あり。

四、後胸片の兩側に灰白紋を缺く。

五、雌にては翅鞘に普通四白紋を裝ふ、時に二個なることあり。

經過 前種と同時に現はれ同樣の害をなす、北海道及び樺太地方に普通なれども經過未だ判然せず、歐洲にありても亦根類に大害を加ふ。

鞘翅目

(三〇)、いたやかみきり Mecynippus pubicornis Bat. (第十六圖8)

被害植物 槭。

特徵 成蟲 體は暗褐色にして、黃褐の短毛を密生す、觸角は體よりも遙に長く、赤褐を呈し、灰白毛を密生す、前胸背の兩側に棘狀突起あり、翅鞘の基部には深き點刻を粗布し、中央には廣き灰白の斜帶を走らし、翅端も亦廣くして灰白なり、兩者何れも褐色紋を散在す、脚及び體下は褐色の短毛を密生す、雄にありては翅鞘の灰白帶小にして判然せず、體長六分乃至九分。

經過 未だ判然せざれども、成蟲は七月中旬現はれ槭に產卵するを見る、廣く本邦に播布し、特に九州に多し。

(三一)、ひげながごまだらかみきり Apalimna liturata Bat. (第十六圖9)

に灰白毛の縱紋あり、稜狀部には灰白毛を密生す、翅鞘の基部には顆粒を密布し、翅端の三分の二は光澤を帶び、點刻を粗布す、後胸片の兩側に各一個の灰白紋あり、雌にありては觸角は體より少しく長く、第二節乃至第五節の基部は灰色にして少しく藍色を帶ぶ、翅鞘には灰白毛紋を散在す、體長一寸一分乃至一寸六分。

經過　年一回の發生をなすものゝ如し、北海道地方には普通なる種類なれども、深山にあらざれば捕獲し難し、新伐木地に稀ならず、成蟲は樹幹に產卵管を挿入して產卵す、幼蟲は幹內に縱孔を穿ち、食害す、其經過未だ全く判然せざれども、大形の種類なれば大害を加ふるものなるべし。

(元)よつぼしひげながかみきり　Monochammus sartor F. var. pellio Germ.（第十六圖7）

被害植物　椴(トド)・えぞまつ、樅。

特徵　成蟲　前種に類似すれども、其差異は左の如し。

一、遙に小形なること、體長七分乃至一寸一分。

二、前胸背の兩側に白條を有せず。

三、翅鞘の前半部には粗糙の縮刻及び點刻を裝ひ、翅端には灰黃色の短毛を密

被害植物　刺楸（一名はりぎり）
特徴　成蟲　體は黑褐、觸角は體の二倍以上ありて黃褐、基部は黑褐、前胸背は兩側に大なる棘狀突起を具へ、粗大の點刻あり、翅鞘は廣くして灰毛を密生し、其基部に顆粒を密布す、二個の判然せざる黑褐の大紋あり（灰色毛の多からざる部分）、脚は赤褐、體長七分五厘乃至一寸三分。
經過　兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は八月下旬乃至九月中旬現はれ、樹幹に產卵管を挿入して產卵す、幼蟲は縦孔を穿ち材質部を食害す、幼蟲の有樣にて越年し翌春蛹化す、其成長の度異なるを以て、夏期に於ては殆んど何れの時にても捕獲し得べし、廣く本邦に播布せる種類にして、沖繩地方にも產し、札幌地方には普通なり。

（六）ひげながかみきり　Monochammus grandis Whit.（第十六圖 6）
被害植物　椴・えぞまつ・樅。
特徴　成蟲　體は黑色にして灰色毛あるを以て暗色を呈す、觸角基部の內側に各一個の短き角狀突起あり、頭の中央には縦溝を具へ、縮刻多し、觸角は雄にありては體長の二倍半あり、前胸背には縮刻多く、兩側に棘狀突起ありて、其後方

は樹幹に產卵管を插入して產卵す、年一回の發生なるが如し、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次て羽化す、其數甚だ多からざるを以て、隨て加害少なし、中國・九州地方に多けれども、北海道には產せず。

(三六)びろうどかみきり Monochammus fraudator Bat.（第十六圖4）

被害植物 交讓木（ユヅリハ）、其他大戟科植物。

特徵 成蟲 體は褐色、天鵞絨樣の光澤あり、額片及び上唇の末端は黃色、頭に點刻を粗布す、觸角は黃褐、各節の末端は少しく濃色、體長の二倍餘あり、前胸背の兩側に上向せる棘狀突起あり、中央に點刻を粗布す、翅鞘には深き點刻を粗布し、灰褐の短毛を密生す、脚短く、腿節太し、體長六分乃至七分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月頃より現はれ、樹幹に產卵す、幼蟲は幹內を縱橫に食害す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化す、幼蟲は黃白色にして、頭は褐色、第一節は大にして平たく、中央にコ字形褐紋を裝ひ、其兩側に更に各一個の褐紋あり、老熟すれば一寸一二分に達す、被害樹は常に蟲孔より蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし。

(三七)せんのかみきり Monochammus luxuriosus Bat.（第十六圖5）

胸背は粗糙にして凹凸多く、後緣の兩側は縊る、翅鞘には顆粒突起を散在し、翅底に於て現明なり、腿節は稍〻球桿狀に膨大す、體下及び跗節は黑褐、體長四分乃至六分。

經過　未だ判然せず、成蟲は六月上旬より現はれ楡の樹幹に產卵す、殊に新伐木地に集來す、兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化すること他の天牛に異ならず。

附言　拙著千蟲圖解第三卷第百四十七頁に記載せる學名 Callidium violaceum L. は誤なるを以て爰に訂正す。

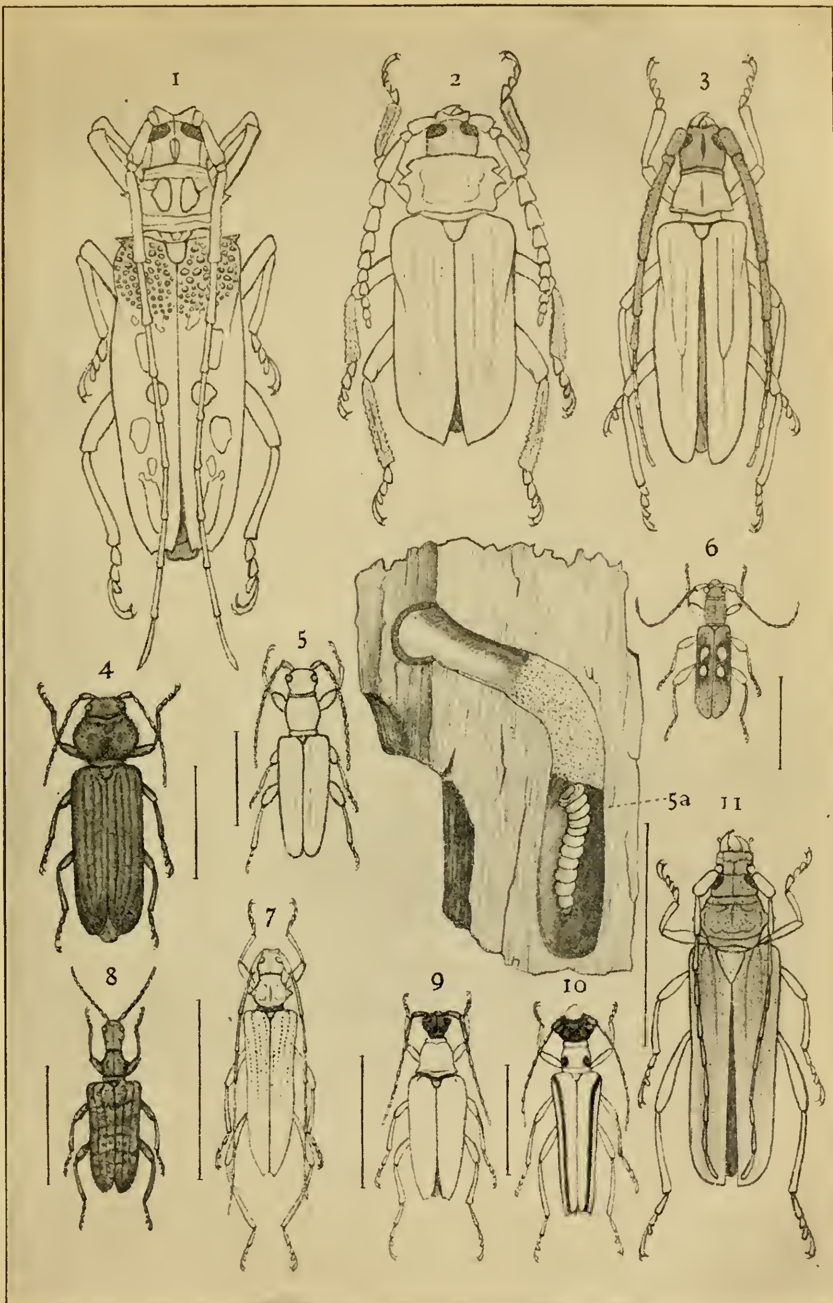
(三五)ほたるかみきり　Dere thoracica Whit.　(第十五圖3)

被害植物　血樕(カシネム)・合歡。

特徴　成蟲　體は黑藍色、觸角は棍棒狀にして黑色、頭に顆粒多し、前胸背は前後の兩端を除き赤色、中央膨起す、翅鞘に顆粒多く、中央は平坦なり、末端は少しく刳られ、其外側に一刺あり、腿節は甚だしく膨大す、各腹節の後緣は細くして黃色、體長三分內外。

經過　未だ判然せず、成蟲は四五月頃より現はれ、花上に集來する性あり、交尾後

第拾五圖



第 拾 五 圖

1 Batocera lineolata Chevr. しろすぢかみきり (P. 128)
2. Prionus insularis Motsch. のこぎりかみきり (P. 129)
3. Aegosoma sinicum Whit. うすばかみきり (P. 130)
4. Asemum amurense Kraatz. まるくびひらたかみきり (P. 133)
5. Tetropium luridum L. ゑぞまつかみきり (P. 134)
   a. 幼蟲
6. Stenygrinum 4—notatum Bat. よつぼしかみきり (P. 135)
7. Distenia gracilis Bless. ほそかみきり (P. 136)
8. Allorhagium inquisitor L. はいいろかみきり (P, 136)
9. Leptura succedanea Lew. あかはなかみきり (P. 137)
10. Eustrangalia distenoides Bat. くろすぢはなかみきり (P. 138)
11. Aromia moschata L. var. ambrosiaca Stev. くびあかかみきり (P. 138)

被害植物 械・ちやうじやのき・みねばり。

特徴 成蟲 體は綠色、觸角・脚及び眼は黑藍色、頭及び前胸背は金光の色澤を帶ぶ、觸角は雌にては體長より少しく短けれども雄にては少しく長し、前胸背の兩側に各一突起を具へ、中央に一縱溝を裝ひ、其兩側に縮刻多し、翅鞘は末端に至るに隨ひ細く且少しく暗色を帶ぶ、二個の縱隆あれども判然せず、腿節は棍棒狀に膨大し、後腿節は側扁、體下は金光色を帶ぶ、個種により全體黑藍色なるものあり、體長七分乃至九分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如しと雖も未だ判然せず、幼蟲は械科植物の幹內にありて縱孔を穿ち食害す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次て羽化す、成蟲は普通六月上旬乃至七月現はる、常に樹幹に蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし、幼蟲老熟すれば一寸六分に達す、大腮は黑色、第一節は稍〻方形をなし、其前半には三個の褐紋を具へ、後半は桃色を帶ぶ。

(四)、**くろひらたかみきり** Semanotus chlorizans Solsky.（第十六圖2）

被害植物 樅・赤楊。

特徴 成蟲 體は扁平、黑色にして少しく紺色を帶ぶ、觸角は體より遙に長し、前

を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘に二縱隆あれども翅端にては判然せず、全面縮刻多し、體下は帶黑綠色、後脛節は腿節より短し、體長八分乃至九分。

經過　幼蟲の壽命は未だ判然せざれども、略〻三四年なるが如し、完熟したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、七月乃至八月羽化す、兩三年に一回の發生をなすものなれば、年により更に成蟲を見ざることあり、幼蟲は老熟すれば一寸五六分に達す、成蟲は一種固有の香氣を有す。

(三)おほあをかみきり　Chloridolum thaliodes Bat.（第十六圖1）

被害植物　柳・白楊。

特徵　成蟲　體は黑綠、前胸背は少しく藍色を帶ぶ、觸角及び脚は黑藍色、前者は絲狀にして體よりも長く、柄節大なり、兩鬚は赤褐乃至黑褐前胸背に點刻多く、中央に四個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は雌にては腹部より少しく短く、顆粒を密布す、體下は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、後肢頗る長く、脛節は扁平にして少しく彎曲す、體長八分乃至九分。

經過　同前、前種より多し。

(三)あをかみきり　Chelidonium quadricolle Bat.

經過　未だ判然せず、成蟲は八月上旬乃至下旬現はる、幼蟲の他の天牛と異なる所は後頭部の頸狀を呈するにあり、年一回の發生をなすものゝ如し、廣く本邦に播布す、樺太地方にも亦稀ならず。

（二〇）**くろすぢはなかみきり** Eustrangalia distenoides Bat.（第十五圖10）

被害植物　楲。

特徵　成蟲　體は黄色、頭頂・觸角・前胸背の二紋、翅鞘の二縱條及び尾節は黑色、跗節は黑褐、翅端は斜に剡られ、外側に一鋭刺あり、粗大の點刻を散在す、體長四分五厘乃至五分。

經過　未だ判然せず、楲の伐木地に普通なり、雌は產卵管を樹幹に挿入して產卵し、幼蟲は深く材質部に侵入して蝕害す、二年に一回の發生をなすものならんか、甚だ多からざる種類なり。

（二一）**くびあかかみきり** Aromia moschata L. var. ambrosiaca Stev.（第十五圖11）

被害植物　柳・白楊。

特徵　成蟲　體は黑綠、觸角及び脚は黑藍色、前胸背は赤黄、前後の兩端は紺色、觸角は體より遙に長く、頭頂に大なる點刻多し、前胸背の後緣に二個の瘤狀突起

密生す、體下は黒褐、脚は赤褐、腿節末端は褐色、腹面の中央に一個の縦隆あり、體長五分乃至六分。

經過　未だ判然せざるも年一回發生するものゝ如し、成蟲發生の時期は一ならず、五月より十月に至る間何時にても捕獲し得べし、幼蟲は普通樹皮下にありて食害す、老熟するまでには少なくも一尺乃至一尺四寸の蝕孔を生ず、蝕孔は木屑及び蟲糞を以て常に充實せり、幼蟲の他の天牛と異なる所は頭の一層扁平なること、頭緣の截斷狀なること及び硬皮板後緣の中央三角形に刳られあることなり。

(一九)あかはなかみきり　Leptura succedanea Lew.（第十五圖9）

被害植物　赤楊。

特徴　成蟲　體は黒色、前胸背・翅鞘及び脚の一部は赤褐、觸角は鋸齒狀にして體より少しく短く、額片は赤黄、後頭は延長して頸狀をなす、前胸背の前後に各一個の黒紋あり、稜狀部は黒色にして黄毛を裝ふ、翅鞘は粗大の點刻を密布し、黄毛を密生す、末端は斜に截斷せられ、其外側に刺あり、前腿節の下方及び前脛節の大部は赤褐、體下は黒褐、黄白の絹樣毛を密生す、體長五分五厘乃至七分。

色にして、形狀他の天牛の幼蟲に異ならず、成蟲は栗の開花期に現はれ、其花粉を以て食とするものゝ如し。

(一七)ほそかみきり Distenia gracilis Bless.（第十五圖7）

被害植物　とどまつ・松。

特徵　成蟲　體は暗褐、細長、頭頂に一縱溝あり、觸角黃褐、體より遙に長く、柄節大なり、前胸背の兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は深き點刻列を縱走し、中央より末端に至るまで點刻なし、灰黑の短毛密生す、脚長し、體長七分乃至八分。

經過　成蟲の發生する時期は一定せず、七月上旬乃至十月現はれ、松柏科の植物幹に蠧入して食害す、其數多からず。

(一八)はひいろかみきり Allorhagium inquisitor L.（第十五圖8）

被害植物　松・とどまつ・えぞまつ。

特徵　成蟲　體は灰色、觸角は短くして翅底に達するに過ぎず、基部の大半は黃褐、末端は黑褐、前胸背の中央に黑褐の縱條を備へ、兩側に一個の棘狀突起ありて少しく上方に向ふ、翅鞘は前胸背より甚だ廣く、三個の縱隆ありて黑褐色を呈す、其內に黃色の部分あり、間室には黑褐の隆紋を散在す、全體灰色の短毛を

經過　七月上旬より現はれ、新伐木地に集まり來りて爰に産卵す、樺太地方にありては七月中旬現はる、前種と同時なるが如し、其數甚だ多からず、歐洲にては落葉松及び普通松を害す、其加害の甚だしき樹木は六十年乃至百年の星霜を經たるものにして、材質部に一尺六寸乃至二尺餘の蝕痕を有するものあり、年一回の發生にして、幼蟲は晩秋稍〻成長を終り、翌春蛹化し、次て羽化するものゝ如し。

（一六）よつぼしかみきり　Stenygrinum 4-notatum Bat.（第十五圖6）

被害植物　栗・櫟・楢。

特徴　成蟲　體は黃褐、翅鞘の末端は淡色にして鼈甲様の光澤を有す、觸角は體より少しく長く、頭及び前胸背に顆粒及び點刻多く、前胸背は稍〻圓柱形にして中央少しく大なり、翅鞘の中央に各二個の黃白紋あり、點刻を粗布し、光澤あり腿節は頗る大に、稍〻球桿狀をなす、體長三分乃至四分。

經過　成蟲　は六月乃至八月現はれ、栗其他殼斗科植物の樹幹に産卵す、幼蟲は材質部を食ひて縱孔を穿ち、一方に蟲糞を排出する口を開くを以て容易に其存在を認め得べし、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化す、幼蟲は黃白

特徴　成蟲　前種に酷似すれども形遙かに大なるを以て容易に區別することを得べし、前胸背には顆粒狀の小突起多く、中央に廣き一縱溝あり、觸角は黑色、翅鞘に五條の判然せる縱隆あり、間室は網目樣の縮刻をなす、個種により翅鞘の黃褐なるものあり、體長四分五厘乃至六分。

經過　不明、成蟲は六月下旬現はれ、新伐木地に集來して之に產卵す、內地にては稀なる種類なれども、樺太には普通なるが如し、同地にありては七月中旬現はる、年一回の發生をなすものゝ如し。

(一五)えぞまつかみきり Tetropium luridum L.（第十五圖5）

被害植物　とどまつ・えぞまつ。

特徴　成蟲　體は黑色にして、黑毛多し、頭及び前胸背は頗る光澤を帶ぶ、觸角は割合に大にして體の半以上に達す、柄節大に、次の三節は小、末端の節は黃褐、頭及び前胸背には點刻を粗布す、前胸背の中央は最も廣く、中央に一縱溝を備へ、後緣には一橫溝あり、翅鞘は光澤を缺ぎ、二縱隆を具へ、短毛を密生す、腿節は大なる棍棒狀をなす、第三跗節及び爪は黃褐、個種により翅鞘・觸角及び跗節の黃褐なるものあり、體長三分三厘乃至四分五厘。

上旬に亘りて現はれ「とゞまつ」「えぞまつ」の樹幹に蠹入して材質部を食す、多く新伐木に産卵するの性あり、「くろかみきり」に酷似すれども、前胸背に大なる凹陷あるを以て容易に識別することを得べし。

(三)まるくびひらたかみきり　Asemum amurense Kraatz.（第十五圖4）

被害植物　とゞまつ・えぞまつ・松。

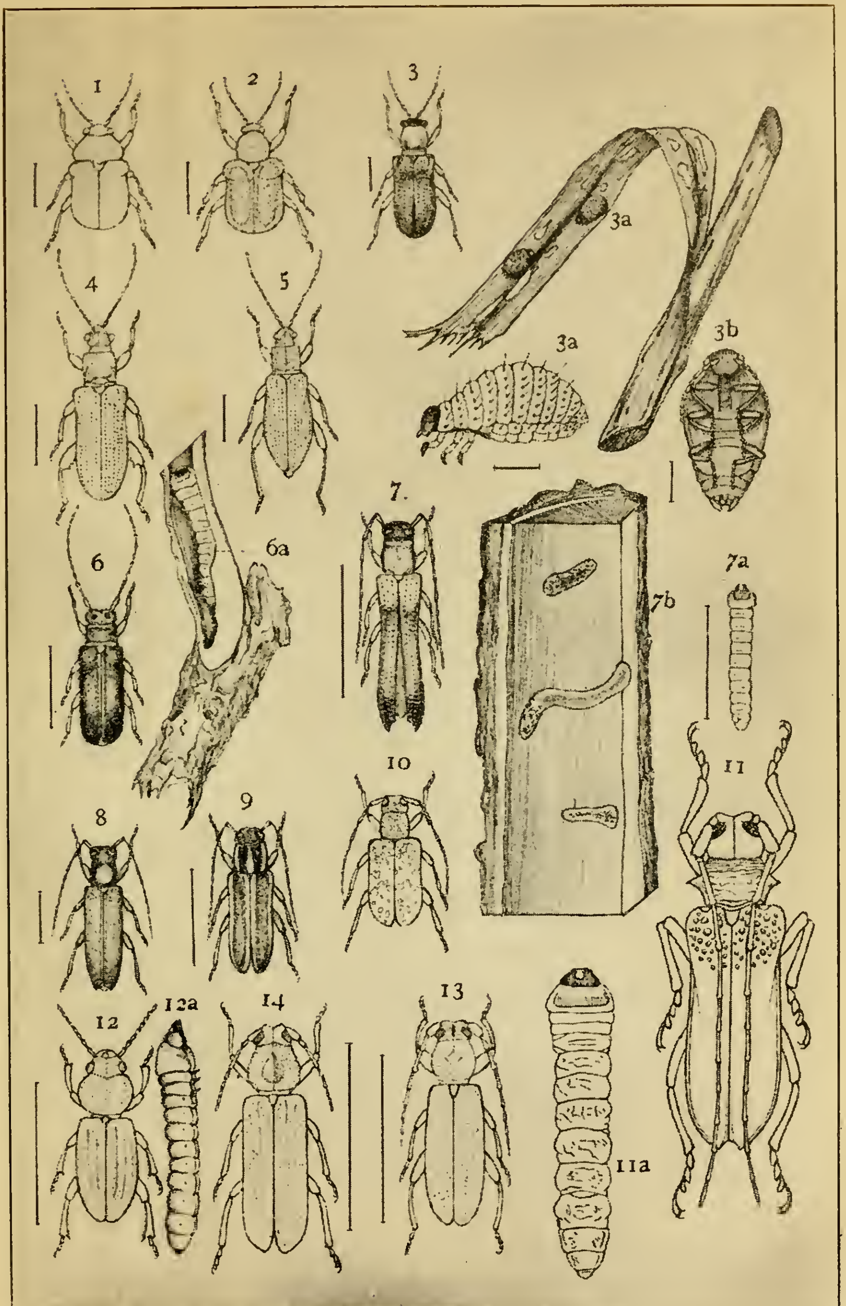
特徵　成蟲　體は黑褐色にして灰白毛を密生す、翅鞘は暗黃褐、觸角は短くして纔かに體の半に達し、末端は黃褐、頭頂は圓く凹陷す、前胸背は稍々圓形にして中央少しく凹陷す、稜狀部は長くして黑褐、翅鞘に判明なる廣き五縱溝ありて其間室は縱隆をなす、前緣に近く橫皺あり、脚は短く、尾端は暗褐なり、體長三分五厘乃至四分。

經過　六月上旬乃至七月中旬頃現はれ、新伐木に蠹入す、其數多からず、小形にして觸角短きが爲め一見叩頭蟲の觀あり、札幌地方にては定山溪に普通なり、年一回の發生をなすものゝ如し。

(四)おほまるくびかみきり　Asemum striatum L.

被害植物　同前。

第拾四圖



第　拾　四　圖

1. Chrysochus chinensis Baly.　いもさるはむし　(P. 119)
2. Acrothinium gaschkewitschi Motsch.　あかがねさるはむし　(P. 120)
3. Lema tristis Herbst. (*Lema flavipes* Suff).　いねどろはむし　(P. 121)
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
4. Donacia simplex F.　すげはむし　(P. 122)
5. 〃　lenzi Schöf.　ねくひはむし　(P. 123)
6. Chreonoma fortunei Thoms.　るりかみきり　(P. 124)
   a. 幼蟲
7. Oberea japonica Thunb.　りんごかみきり　(P. 125)
   a. 幼蟲　*b.* 被害樹斷面
8. Phytoecia ventralis Chevr.　きくすひかみきり　(P. 126)
9. Thyestes gebleri Fald.　あさかみきり　(P. 126)
10. Mesosa japonica Bat.　ごまだらかみきり　(P. 127)
11. Apriona rugicollis Chevr.　くはかみきり　(P. 127)
    a. 幼蟲
12. Spondylis buprestoides L.　くろかみきり　(P. 131)
    a. 幼蟲
13. Criocephalus rusticus L.　さびかみきり　(P. 132)
14. Megasemum quadricostulatum Kraatz.　おほくろかみきり　(P. 132)

(二)さびかみきり Crioceplalus rusticus L. (第十四圖13)

被害植物 松・杉・檜。

特徵 成蟲 體は暗褐、少しく平たし、黄色の短毛を密生す、觸角は體より短く、柄節は大にして棍棒狀をなす、兩鬚は黄色、頭の中央に細き縱溝を具へ、前胸背は稍々圓形、中央に一縱溝を裝ひ、二三個の凹陷あれども甚だしく判然せず、翅鞘には二條の縱隆あり、點刻を密布す、體下は赤褐、體長七分乃至八分。

經過 未だ判然せず、成蟲は松の樹幹に蠹入して材質部を食す、老木若くは新しき倒木に產卵する性あり。

(三)おほくろかみきり Megasemum quadricostulatum Kraatz. (第十四圖14)

被害植物 樅・えぞまつ・とどまつ。

特徵 成蟲 體は黑褐、觸角は雄にては略々體と同長、雌にては纔かに體の半に達するに過ぎず、前胸背は稍々球狀、中央は淺く凹陷し、其中央に更に一個の縱溝あり、顆粒及び點刻多し、翅鞘は各二個の縱隆を裝ひ、其間室は粗糙にして縮刻多く、灰色の微小毛あり、體長六分乃至一寸。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、札幌地方にありては七月下旬より八月

の如し、成蟲は七月下旬乃至八月上旬に發生するもの多し、白楊の樹幹に蠶入し其材質部を食害すること他の天牛と異ならず、其數多きを以て大害を加ふ、廣く本邦に播布す。

(10)くろかみきり Spondylis buprestoides L.（第十四圖12）

被害植物 松・杉・檜・樅等。

特徵 成蟲 體は黑色、長楕圓形、大腮は發達して大なり、觸角は短くして纔かに翅底に達するに過ぎず、前胸背は稍ゝ球形にして相癒合せる粗大の點刻及び縮刻を粗布す、翅鞘にも亦同樣の縮刻あり、何れも光澤を帶ぶ、後者には二條の判然せる縱條あり、體下は黑褐、體長六分乃至七分。

經過 未だ判然せざれども「のこぎりかみきり」と同樣の經過をなすものゝ如し、其數多からざるを以て甚だしく有害ならざるべし、形狀は一見吉丁蟲に似たる所より其學名あり、九州地方にありては十月上旬發生するもの多し、此幼蟲の他の天牛の幼蟲と異なる所は、頭の突出（大腮の突出）せると、脚割合に長きとにあり、前硬皮板には點刻多く、後硬皮板には顆粒多し、尾節には稍ゝ圓錐形の二突起あり。

に點刻を装ふ、稜狀部稍〻五角形、亦少しく點刻あり、翅鞘は粗糙にして三個の判然せざる大なる縦溝を具へ、縮刻多し、胸下に黃褐の短毛を密生す、體長八分乃至一寸三分。

經過　未だ判然せず、三四年を經て一回の發生をなすものゝ如し、樹幹に產卵せる幼蟲は孵化して材質部に蠶入し食害す、幼蟲は他の天牛と異ならず、黃白にして第一二節は甚だしく膨大し稍〻平たし、頭には褐色の鋭齒を装ふ、其數多しと雖も、多く朽木を食するを以て大害なし、廣く本邦に分布す。

(九)うすばかみきり　Aegosoma sinicum Whit.（第十五圖3）

被害植物　白楊・柳。

特徴　成蟲　體は暗褐、頭は中央にて深く凹陷す、上唇に金色毛を密生す、觸角は絲狀にして大に、雌にては體の三分の二に達す、前胸背は廣底四角形にして顆粒多く、兩側に棘刺なし、翅鞘に四條の縦隆を具へ、初めの二條は末端に近く合して一條となり、外側の一條は中央より分岐して二條となり、末端に至りて更に相合す、體下及び脚は赤褐、體長一寸一分乃至一寸四分。

經過　此も亦前種の如く經過判然せず、兩三年を經て一回の成蟲を生ずるもの

被害植物　枇杷・櫟・椎。

特徴　成蟲　體は灰黑、微細の黃毛を以て被はる、頭頂は膨起し、其中央より顏に亘りて細き一縱溝あり、觸角間は凹陷す、複眼は黑色、額片の下部は瑪瑙色、上唇には四個の剛毛塊を有す、大腮は大にして光澤ある黑色、複眼の後方に一條の太き白條あり、前胸には横皺多く、中央に微細の一縱線を具へ、其兩側に各一個の白斑と棘狀突起とを裝ひ、其下方に各一條の白線あり、稜狀部は白色、翅鞘の基部に黑色の顆粒を密布し、肩部に一刺を出だし、中央には不正の白斑を散在す、中・後の兩胸側は白色、各脛節の末端には天鵞絨樣の毛塊あり、體長一寸七分。

幼蟲　前種に酷似すれども遙に大なり、完熟したるものは長さ二寸四分餘、脚は細長にして三節より成る、一本の褐色爪を裝ふ。

經過　同前。

(八)のこぎりかみきり　Prionus insularis Motsch.（第十五圖2）

被害植物　松・杉・檜・樅。

特徴　成蟲　體は黑褐、觸角・兩鬚・體下及び脚は黃褐、觸角は兩鋸齒狀にして第三節最も長大、前胸兩側に各三個の齒狀突起ありて中央にあるものは大なり、粗

幼蟲　體は乳白色、少しく黄色を帶ぶ、頭は略ぼ長方形にして平たく、前頭の周圍は黑褐、黑褐の鋭き大腮を有す（第一節は膨大し其氣門は殊に大なり、第二及び第三節は短く、尾節に至るに隨ひ長さを增す、第五節以下の背腹節に瘤狀二突起ありて樹幹の隧道を上下するに便ならしむ、全體黄褐の短毛を粗生す、體長二寸六分内外。

經過　成蟲は八月頃現はれ、樹枝樹幹に孔を穿ちて其內に卵子を藏む、一孔に產下する卵數は七八個を普通とす、一雌の總產卵數は百數十、卵子は白色、長楕圓にして、長徑七八厘、孔は樹皮を以て被はるれども容易に看破することを得べし、其性濕氣を忌むを以て、可成樹液少なき老木を好むの傾あり、產卵の際は其個所より二三寸下方を切斷し樹液の上昇を防ぐ、幼蟲期は約三ヶ年、孵化當時は樹皮下の形成層を食害し、翌年に至り材質部に入る、卵形の大孔を穿ち、之より褐色の蟲糞を排泄す、常に上方に向ひ縱孔を造りて食害す、全く老熟すれば孔內に木屑を集め其內に蛹化す、蛹は黄白、既に成蟲の具有せる觸角及び脚を認め得べし。

（七）しろすぢかみきり　Batocera lineolata Chevr.（第十五圖1）

（五）ごまだらかみきり　Mesosa japonica Bat.（第十四圖10）
被害植物　苹樹・漆・楡。
特徴　成蟲　體は黑色、顆粒狀の點刻を密布す、頭頂に一縱溝あり、其兩側に各一列の黃色毛を列す、觸角の第一節は大にして黑色、第二節は小にして葡萄色を呈す、以下の各節は灰白と葡萄色との斑をなす、前胸背は稍〻正方形、中央に一縱溝と其兩側に黃色斑を有す、翅鞘は前胸よりも遙に廣く、顆粒及び黃斑を散在し、其中後方に近き黃斑は波狀をなす、脚は黑色、各脛節に二個の黃色紋を裝ふ、體長雄四分、雌四分五厘内外。

（六）くはかみきり　Apriona rugicollis Chevr.（第十四圖11）
被害植物　桑・柑橘類・無花果。
特徴　成蟲　體は暗綠、黃毛を裝ふ、頭頂は隆起し、中央に一縱溝あり、複眼は腎臟形、黑色にして少しく紫赤色の光澤を帶ぶ、觸角は體より長く、基節及び各節の末端は黑色、前胸背に横皺多く、兩側に各一個の棘狀突起あり、翅鞘の基部には黑色の顆粒多く、肩部は突起す、翅端は截斷狀をなし、之より二小刺を出だす、脚は細長、灰白毛を裝ひ、腹部に黃褐毛を密生す、體長雄一寸二分、雌一寸六分。

(三)きくすゐかみきり Phytoecia ventralis Chevr.（第十四圖8）

被害植物 菊。

特徴 成蟲　全體暗黑、少しく藍色を混ず、頭・胸及び翅鞘に點刻及び短毛を密布す、觸角は暗黑にして體長を越ゆ、頭頂に一縱溝あれども判然せず、前胸背には赤色の楕圓紋あり、各腿節は濃黃色、末端の數腹節は黃色、體長三分內外。

幼蟲　體は黃白、前種の幼蟲に酷似す、體長五六分。

經過 五六月頃菊科植物の莖幹を切斷して大害を加ふ、白色長楕圓形の卵子を一個宛縱に莖中に產下し、之より孵化せる幼蟲は莖中を上下するがため植物を枯死せしむ、秋季老熟し、次で蛹化して其儘越年し翌春羽化す。

(四)あさかみきり Thyestes gebleri Fald.（第十四圖9）

被害植物 大麻。

特徴 成蟲　體は暗色、灰白の微毛を密生す、頭頂に一縱溝あり、觸角は體と同長、第三節以下の各節端は黑色、前胸は圓柱形、背上に灰黃の三縱條を裝ひ、稜狀部は灰黃、翅鞘の基部に點刻を有し、他部に短毛を密生す、其接合部及び前緣の大半は灰黃、體長雄四分、雌四分五厘乃至五分。

(二)りんごかみきり　Oberea japonica Thunb.（第十四圖7）

被害植物　苹樹。

特徴　成蟲　體は橙黃色、頭・觸角及び腹部の末端は黑色、頭部に粗糙の點刻を散在し、中央に一縱溝あり、前胸に微細の點刻と軟毛を密布す、翅鞘は細長にして、翅底は橙黃色、其他は暗色、中央少しく黃色を帶び、黑色の點刻縱列を具へ、後脛節の末端は稍〻暗色を呈す、體長五分五厘乃至六分。

幼蟲　初めは淡黃にして光澤を有し、成長すれば淡褐となる、頭は長方形にして鋭き大腮を具へ、第一節は大にして平たく、尾端に至るに隨ひて細小す、體長一寸。

經過　成蟲は六七月頃現はれ、嫩枝の外皮を破り木質部に穿孔し、各一個の長楕圓卵子を其內に納め、後前の外皮を以て巧に之を覆ふ、幼蟲は數日の後孵化し、下部より梢上に向ふて食害するの傾あり、嫩枝の髓部を食ふを以て、其局部は枯死し大害を被ることあり、八月下旬に老熟し、次て蛹化す、蛹は淡黃、其儘越年し、翌春羽化す、被害樹枝は褐色の蟲糞を直下の葉上に堆積するを以て容易に其存在を認め得べし。

となく蛭藻の葉を食ふ、日中は性活潑にして、人之に近づけば忽ち飛散す。

驅除法 同前。

天牛科 (Cerambycidae.

(一)るりかみきり Chreonoma fortunei Thoms. (第十四圖6)

被害植物 梅・杏・李。

特徵 成蟲 體は橙黄色、頭は前胸より稍ゝ幅廣く、複眼及び觸角は黑色、後者は少しく褐色を帶び、其長さ體長に等し、第一節は長く、第二節は短し、前胸は圓柱形、前緣及び後緣に各一條の横溝あり、翅鞘は光澤ある黑藍色にして不規則の點刻を密布す、脚は短かくして橙黄色暗色の軟毛を裝ふ、體長三分四厘内外。

幼蟲 黄色、頭は黄褐、老熟すれば四五分に達す。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化するものゝ如し、成蟲は五月下旬乃至六月上旬現出す、初めは葉裏の中肋を食ひ、交尾後は幹に孔を穿ち其内に一粒の卵子を產下す、卵は黄白、長さ五厘、數日の後孵化す、初めは表皮を食ひ、次第に皮下に侵入す。

特徴　成蟲　體細長、頭は小、頭頂に一個の縱溝を有す、複眼は黑色にして割合に大、觸角は黑色にして絲狀、前胸は長方形にして中央に一縱溝あり、翅鞘は金綠色にして胸部より廣く、點刻列を縱走す、腹部は銀白の短毛を以て被はれ、後腿節には微小なる突起を有す、體長二分五厘。

驅除法　成蟲は莎草・蛭藻に棲息するを以て網を以て捕ふべし、又產卵せんが爲め苗代又は本田に來る成蟲を搜索すべし。

(四七)、ねくひはむし　Donacia lenzi Schönf.（第十四圖5）

被害植物　稻・蛭藻・莎草。

特徴　成蟲　體綠褐、頭小、頭頂に一縱溝あり、複眼は黑色、前胸背は稍〻正方形、中央に一縱溝あり、其前緣角は少しく突起す、翅鞘の背面は平坦にして小點刻を縱列し、肩部は尖り、翅端は切斷狀をなして終り尾節を蔽はず、腹部は銀白色、脚は黃色、後腿節に一突起あり、其外側に黑斑を有す、體長二分內外。

幼蟲　體は長形にして兩端細小す、體上は球狀に膨起し、體下は稍〻平たし、頭は小、尾端に爪樣の附屬物あり、地色は灰白、暗黑の短毛を粗生す、體長二分。

經過　幼蟲は六月より八月に亘りて稻根を食害すれども、成蟲は稻葉に來るこ

然腹背に集まり、其葉上にあるときは恰も小土塊の觀をなす、各節には六個乃至二十二個の黑色の疣狀突起ありて、初めの三節にあるものは一列をなせども第四節以下にあるものは二列に横走す、何れも一本の短毛を生ず、脚は三双にして黑褐なり、體長二分内外。

經過 年二三回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春五六月出でゝ苗代に集まり産卵す、卵子は二週間内外にて孵化す、幼蟲は葉脈に沿ひて縱に葉綠層を食ひ表皮を殘留するを以て、被害葉は平行せる數條の白線となる、六月下旬葉上に綿様の灰白楕圓形の繭を作り其内に蛹化す、蛹は黃色、楕圓形にして兩端細小す、觸角・翅鞘等判然せり、七月上旬乃至中旬羽化す、第二回より其經過不規則にして、或ものは八月中旬に出で、或ものは九月上旬現はる、第三回は九月下旬乃至十月上旬なり、但し札幌地方にては年二回の發生をなす。

驅除法 稻葉の表裏に附着せる土塊様のものは多くは其幼蟲なるを以て、掬網を以て捕殺すべし、其繭も亦發見するに難からず、成蟲も亦網にて捕殺すべし。

(哭)**すげはむし**(一名おほねくひはむし) Donacia simplex F. (第十四圖4)

被害植物 稻・莎草。

に入りて唯前頭のみを見得べし、前胸背は稍〻圓柱形をなし、黠刻を粗布し、灰白の短毛を粗生す、翅鞘は光澤ある赤銅色にして周圍綠色、大なる黠刻の縱列あれども溝は判然せず、脚は黑色、腿節は黑藍色、前肢は發達して長し、體長二分五厘。

經過　未だ判然せず、成蟲は五月上旬より現はれ葡萄の葉を食害す、新潟地方にありては其害大なりと云ふ、臺灣地方にありては三四月頃より現はる、幼蟲は地中に棲息するもの丶如し。

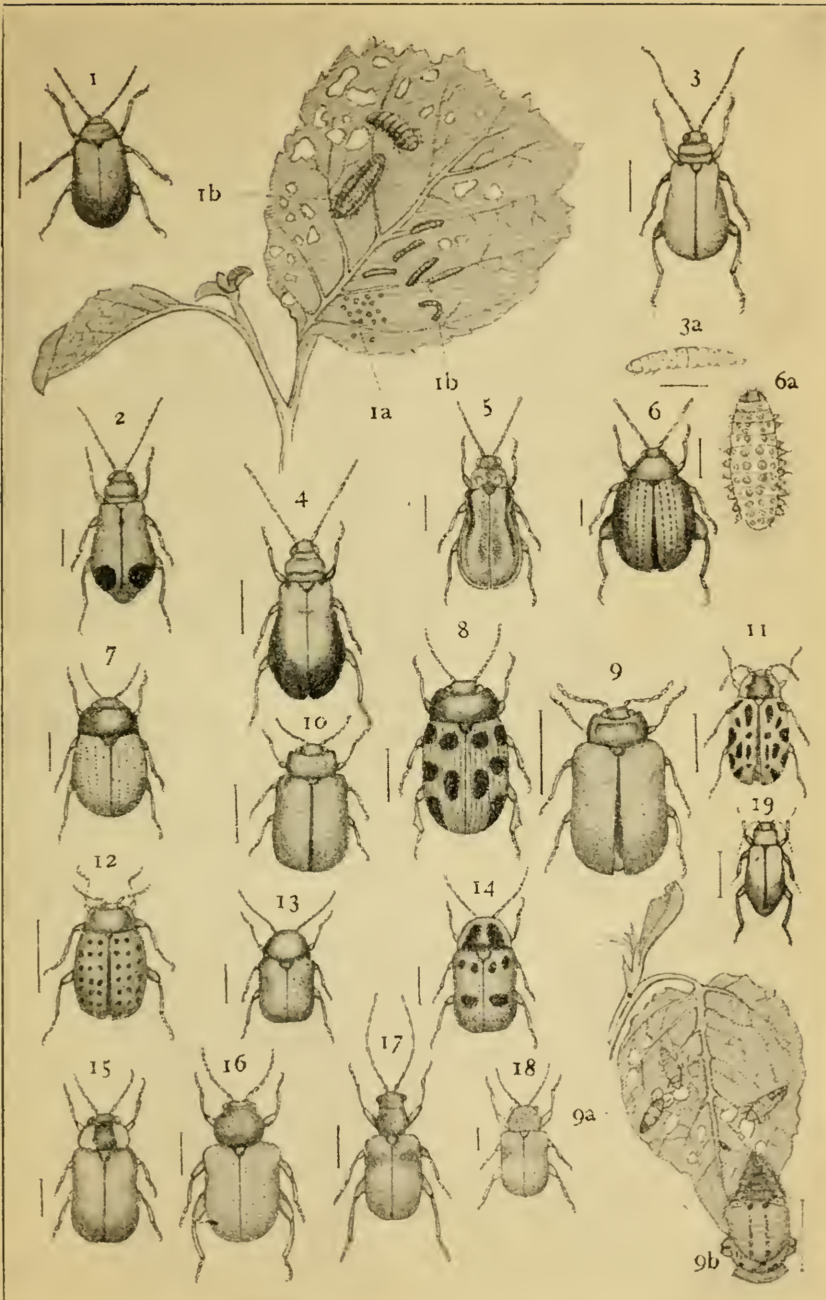
(四)**いねどろはむし**(泥負蟲)　*Lema tristis* Herbst. (*Lema flavipes* Suff.)　(第十四圖4)

被害植物　稻。

特徵　成蟲　形細長、頭・觸角及び眼は黑色頭は光澤を帶び、觸角の基節は黃褐、胸部は黃色或は黃褐、稍〻圓柱形をなし、後方少しく縊る、翅鞘は青藍色にして黠刻を縱列す、肩部には各一個の深き切目あり、體下黑色、脚黃色、又は黃褐、脛節の一部及び跗節は暗色、體長一分五厘乃至一分八厘。

幼蟲　體暗黃褐、稍〻西洋梨形をなし、第五・第六節最も膨起す、頭は黑色、體上に蟲糞を負ふ、此蟲の肛門は殆んど腹背と平行せるを以て之より出づる蟲糞は自

第拾参圖



第 拾 參 圖

1. Agelastica alni L. var. coerulea Motsch. りんごはむし (P. 105)
   a. 卵 b. 幼蟲
2. Aulacophora angulicollis Motsch. あとぼしはむし (P. 107)
3. Aulacophora femoralis Motsch. うりはむし (瓜守) (P. 107)
   a. 幼蟲
4. Aulacophora nigripennis Motsch. くろうりはむし (P. 108)
5. Galerucella distincta Baly. いちごはむし (P. 109)
6. Phaedon brassicae Baly. だいこはむし (P. 110)
   a. 幼蟲
7. Phytodecta rubripennis Baly. ふぢはむし (P. 112)
8. Phytodecta gracilicornis Kraatz. とほしはむし (P. 112)
9. Melasoma populi L. どろのきはむし (P. 113)
   a. 幼蟲 b. 蛹
10. Melasoma aenea L. るりはむし (P. 113)
11. Melasoma vigintipunctata Scop. やなぎはむし (P. 114)
12. Chrysomela guttata Gebl. はくかはむし (P. 114)
13. Cryptocephalus approximatus Baly. ばらるりはむし (P. 115)
14. Cryptocephalus 6—punctata L. くろぼしはむし (P. 116)
15. Gynandrophthalma aurita F. きぼしるりはむし (P. 117)
16. Eumolpus vitis F. ぶだうさるはむし (P. 117)
17. Leprotes pulverulentus Jac. りんごのこふきはむし (P. 11)
18. Demotina decorata Baly. かさはらはむし (P. 118)
19. Luperodes discrepens Baly. うりはむしもどき (P. 107)

幼蟲　白色、頭は淡褐、横皺多く、細毛を粗生す、脚の爪は黑褐、體長三分。

經過　年一回發生、幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化し、次て成蟲となる、成蟲は沖繩及び臺灣地方にては五月中旬より七月下旬に亙りて現はる、葉莖を食ひ大害を加ふることあり、幼蟲は土中にありて球根の表面に寄食す、老熟すれば土中五寸乃至一尺の處に蛹化す、沖繩及び臺灣地方に普通なるものにして、時に大害を加ふることあり。

(四三)こいもさるはむし　Chrysochus pretiosus F.

被害植物　甘藷。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども其異なる要點は第一、形少しく小なること、第二、色澤に青色、青藍色、黑銅色の諸色あること、第三、前胸背の小なること、第四、前胸背の點刻遙に小形なること等なり、體長一分六厘乃至二分。

經過　同前。

(四四)あかがねさるはむし　Acrothinium gaschkewitschi Motsch.　(第十四圖2)

被害植物　葡萄。

特徵　成蟲　體は光澤ある金綠色、觸角は黑色、基部の一二節は黃褐、頭は前胸下

特徵　成蟲　體は黄褐、頭は光澤あり、眼は黑くして突出し、觸角は長く、末端の四節少しく膨大す、前胸は圓柱形、前後の兩緣細く、背上には小刻點を散在し、中央に隆條を裝ふ、翅鞘は長方形にして前胸より廣く、肩部は少しく隆起し、點刻の縱線を並行す、全面灰白の短毛を裝ふ、脚は割合に長くして黄色、爪は少しく赤色を帶ぶ、體長一分二厘。

經過　判然せざれども六月上旬より現はれて桑芽を食ひ大害を加ふることあり、之に抵觸するときは脚を縮小して落下す。

驅除法　同前。

附言　從來此の害蟲に Xanthonia placida の學名を用ひ來りたれども、誤謬なるを以て玆に訂正す。

(四三)いもさるはむし　Chrysochus chinensis Baly. 第十四圖1）

被害植物　甘藷。

特徵　成蟲　黑銅色、頭は下方に向ひ、觸角は體の半以上に達し、初めの三四節は暗褐、頭及び前胸背の點刻は翅鞘にあるものよりも遙に相近接す、腿節は何れも棍棒狀に膨大す、體長(雌雄)二分內外。

は長く、末端の四節大にして、基部は赤褐、前胸は稍〻球形にして黑色、小黑點を密布す、翅鞘は赤褐、前胸より廣く、肩部突出し、鞘上は少しく凹陷し、十六條の暗色縦線を有し、全面小點刻を裝ふ、脛節の全部及び腿節は赤褐、體長一分六厘。

經過　未だ分明ならざれども、幼蟲は地中にありて根を食害するものゝ如し、成蟲は六月頃現はる、葡萄の新芽及び嫩葉を食ひ大害を加ふることあり。

驅除法　同前。

四〇、りんごのこふきはむし Leprotes pulverulentus Jac. （第十三圖17）

被害植物　苹樹。

特徵　成蟲　體は暗黑、觸角は長くして暗褐、基部の三節は黃色、上唇及び兩鬚は黃色、頭には顆粒を密布し、中央に一縦溝あり、前胸背は圓柱形にして細く、頭に同じく顆粒を密布す、翅鞘は廣くして點刻列を縦走す、各翅に二條の縦溝あり、灰色の短毛を密生す、脚は黑褐、脛節端及び跗節は黃褐、體に白鱗を裝ふ、體長二分五厘。

四一、かさはらはむし Demotina decorata Baly. （第十三圖18）

被害植物　桑。

脚は黒色、腿節末端は内方に黄白の一紋を裝ふ、體長二分五厘乃至三分。

經過 前種に同じく未だ判然せず、成蟲は四月下旬より現はれ、薔薇科及び殼斗科植物の葉を食害す、中國・九州地方には普通なれども、東北地方及び北海道には産せざるが如し。

(三八)きぼしるりはむし Gynandrophthalma aurita F. (第十三圖15)

被害植物 柳・樺。

特徴 成蟲 體は黒色、脚及び前胸背の兩側は黄色、觸角は黒褐、基部の四節は黄色、頭は光澤ある黒綠色、複眼間に一凹陷を裝ひ縮刻を有す、前胸背は黒色、點刻を缺く、稜狀部は光澤ある黒色、點刻を有せずして少しく膨起す、翅鞘は暗青色、光澤を帶び、點刻を密布す、體長二分乃至三分。

經過 未だ判然せず、五月乃至六月頃より現はれ、柳・樺等の葉を食害す、其數甚だ多からず。

(三九)ぶだうさるはむし Eumolpus obscurus L. (*E. vitis F.*) (第十三圖16)

被害植物 葡萄・蕗。

特徴 成蟲 暗黒、頭は平たくして前胸下に隱れ上方より見ること能はず、觸角

特徴　成蟲　體は光澤ある黑藍色、觸角は體より遙かに長くして黑色、基部の四節は黄色、頭は下方に向ひ、前頭は黄色、顆粒多し、頭頂は黑色にして少しく藍色を帶ぶ、前胸背は穹狀に膨起し頗る光澤を存し、點刻は微小なるを以て判然せず、稜狀部は少しく突出し、點刻なし、翅鞘は粗大の點刻縱列を裝ひ、之は稍〻溝をなせども判然せず、脚は黑褐、腿節の基部及び前脛節は黄色、前肢は發達して長し、體長一分五厘内外。

經過　未だ判然せざれども成蟲は五月上旬より現はれ、薔薇及び其他同科植物の葉を食害す、靑森以南には普通なれども、未だ北海道に於て捕獲したることなし。

(三七)、くろぼしはむし　*Cryptocephalus 6-punctata* L.（第十三圖14）

被害植物　苹樹・薔薇・楢・櫟。

特徴　成蟲　體は黄褐、體下及び頭は黑色、頭の中央にある一點は黄褐、觸角は黑色、基部の三四節は黄色、前胸背は雄にては大部黑色、前緣及び兩側は黄褐、雌にては黄褐、兩側にある括弧樣の紋及び稜狀部上の短縱線は黑色、翅鞘に六個の黑紋あり、其中四個は一列をなして前列に位し、二個は稍〻大にして後列にあり、

端は暗黑にして棍棒狀をなし、少しく平たし、前胸背は略々四角形、前緣及び後緣角は鋭角をなして突出す、翅鞘は穹狀に膨起し、之に平滑なる十條の點紋列を裝ひ、全面に小點刻を密布す、腹面には短き灰白毛を粗生し、跗節には灰褐の軟毛を密生す、體長三分五厘乃至四分。

(三五)よもぎはむし Chrysomela aurichalcea Gebl.

被害植物　菊・其他の菊科植物。

特徵　成蟲　體は黑藍色、觸角・體下及び脚は黑綠、觸角は體の半以上に達し、棍棒狀をなす、頭及び前胸背に少しく點刻を密布す、前胸背は稍々穹狀に膨大し、前緣角は鋭角をなす、稜狀部割合大にして、其基部に點刻を裝ひ、末端は褐色、翅鞘は點刻を密布すれども判然せる縱列をなさず、溝を缺き、間室は平滑なり、體長二分內外。

經過　未だ明ならず、恐くは菊科植物殊に艾(ヨモギ)の根部を食するものなるべし、成蟲の有樣にて越年し、翌春艾に普通なれども亦菊の葉を食害することあり。

(三六)ばらるりはむし Cryptocephalus approximatus Baly. (第十三圖13)

被害植物　薔薇・苹樹・梨及び其他薔薇科植物・はしばみ。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春交尾後葉下に黃白の卵子を產下す、一雌の總產數は約百四五十、凡一週間にして孵化す、幼蟲は黃白にして黑色の疣狀突起を裝ふ、約三週間にして老熟し次で葉上に蛹化す、第一回の成蟲は八月下旬乃至九月上旬現はる。

(三三)やなぎはむし　Melasoma vigintipunctata Scop.（第十三圖11）

被害植物　柳、白楊。

特徵　成蟲　體は黑藍色、觸角は胸部より少しく長く、棍棒狀にして尖端の半部は黑褐、殘部は黃色、頭は黑色、中央少しく凹陷す、前胸背は少しく黑色にして平たく、兩側は黃色、各翅鞘に十個乃至十一個黑色の縱紋を裝ひ、其中或ものは縱に相癒合す、接合部は細くして黑色、脚は黃色、腿節端は黑藍色、尤も種類により腿節の大部黑藍色なるものあり、體長二分六厘。

經過　未だ判然せず、成蟲は七月上旬發生す、其數多からず。

(三四)はくかはむし　Chrysomela guttata Gebl.（第十三圖12）

被害植物　薄荷。

特徵　成蟲　體上は黑紫色、體下及び脚は光澤ある紫藍色、觸角は割合に短く、末

ども判然せず、觸角は割合に細く、基部の大半は黄色、脚は黑色、腿節端は黑褐、脛節の大部及び跗節は黄褐、雌は黄色、斑紋は判然す、體長二分乃至二分五厘。

經過 五月下旬より現はれ、柳・白楊・赤楊等の葉を網狀に食害す、經過未だ判然せず。

鞘翅目

(三)どろのきはむし(どろはむし) Melasoma populi L. (第十三圖9)

被害植物 白楊・柳。

特徴 成蟲 體は光澤ある黑藍色、觸角及び兩鬚は黑色、前胸背は兩側に各一條の縱溝を具へ、粗大の點刻を裝ふ、翅鞘は赤黄、點刻を密布し、四五條の縱溝あれども判然せず、體下及び脚は黑藍色、跗節は黑色、體長三分五厘。

(三)るりはむし Melasoma aenea L. (第十三圖10)

被害植物 柳・白楊・赤楊・榛。

特徴 成蟲 體は光澤ある金綠色若くは黑藍色、觸角は黑色、前胸背より少しく長し、頭及び前胸背に點刻を裝ひ、後者は四角形に近く、稍〻平たし、翅鞘には點刻多く、三四條の縱溝あれども判然せず、脚は黑色、光線の工合にて綠色を現はす、體長二分五厘。

ること等なり、但し雌にありては稜狀部に殆んど黠刻なし、體長一分乃至一分四厘。

幼蟲　前種と異ならず。

經過　同前。

驅除法　同前。

(元)ふぢはむし Phytodecta rubripennis Baly.（第十三圖7）

被害植物　藤。

特徴　成蟲　形前種に似たれども、頭・胸は黑色、黠刻を密布す、翅鞘赤褐にして膨起し、九條の黠刻列を縱走す、稜狀部、體下及び脚は黑色、體長一分五厘乃至二分。

驅除法　同前。

(三)とほしはむし Phytodecta gracilicornis Kraatz.（第十三圖8）

被害植物　柳・白楊・赤楊。

特徴　成蟲　雄にては體は光澤ある黑色、前胸背は稍〻四角形、兩側に大なる黠刻を粗布す、翅鞘は黃色乃至赤色、各翅に五個の黑紋を裝ひ、尾端に近き二紋は普通相癒着して鈎狀をなす、九條の黠刻ある縱溝あり、間室には微小の黠刻あれ

幼蟲　體細長扁平にして黑色、各節に六個乃至八個の疣狀紋あり、背上にあるものは長くして横置せられ、之より各褐色の剛毛一、二本を生ず、各節の左右は膨起し、環節の縱皺は多少緊縮す、脚は黑色、體下は灰黃、體長二分內外。

經過　年三四回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春出でゝ蔬菜類の葉を網狀に食害す、卵は黃色楕圓形、成蟲は葉柄若くは葉面の表皮を破りて一顆宛産卵し、後巧に其上を被ふも表面乾枯するため其局部黑色を呈す、幼蟲の孵化したるものゝ初めは灰色なれども脫皮する每に黑色を增す、三回の脫皮を終へ老熟すれば地中に入り土窩を造り其內に蛹化す、蛹は淡黃、頭・觸角・脚翅等は判然せり。

驅除法　同前。

(六)、**ひめだいこはむし**　Phaedon incertum Baly.

被害植物　同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども、其異なる所は第一着色の綠藍なること、第二前胸背に於ける點刻の小なることおよび其中央に於ける點刻數の少きこと、第三、前胸後緣角の前種より鋭角をなせること、第四、稜狀部の半楕圓形をなせ

被害植物　草棉・白楊・赤楊。

特徴　成蟲　體は綠藍色、觸角は暗褐、基部は黄褐、脚は暗綠、腿節及び脛節の末端並に跗節は褐色、爪は黄色、前胸背に點刻を缺く、翅鞘には點刻を密布すれども縱溝を有せず、肩部に瘤樣の突起ありて其外方に縱溝あり、體長一分五厘。「だいこはむし」に酷似すれども、後腿節の膨大せざること及び翅鞘にある點刻の縱列をなさゞること等によりて容易に區別するを得べし。

經過　未だ判然せず、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は五六月、第二回は七八月、第三回は九十月、幼蟲は黄色にして黑色の疣狀突起を裝ふ、成蟲幼蟲共に葉を食ひ網狀の纖維を殘留す。

(三七)だいこはむし　Phaedon brassicae Baly.（第十三圖6）

被害植物　蘿蔔・蕪菁・蕓薹其他十字科植物。

特徴　成蟲　體は略〻半球狀、頭は小、前胸背と共に點刻を密布す、觸角は黑色、額片は五角形をなす、前胸は少しく膨起し、幅は其長さの約二倍あり、後緣は廣し、翅鞘は隆起し、之に十六條の點刻縱線を並列す、尾節に黄色の部分あり、體長一分二厘乃至一分四厘。

は光澤ある黑藍色、體長二分三厘乃至二分五厘。

經過 前種と同じく地中にありて幼蟲期を經過するものゝ如し、成蟲は前種より遲鈍にして其數少く隨つて其害も亦大ならず。

驅除法 同前。

(三五)いちごはむし Galerucella distincta Baly. (第十三圖5)

被害植物 西洋苺。

特徴 成蟲 暗黃にして短き灰毛を密生す、形は長楕圓形、腹部・頭頂・觸角(基部を除く)及び稜狀部は黑色、脚は黃褐、跗節は暗色を帶ぶ、前胸背の中央は三角形に隆起し、其兩側は凹陷す、尙其前緣及び後緣角に各一個の疣狀突起あり、翅鞘は稍〻長方形にして前胸より廣く、之に小點刻を密布す、其兩側に暗色の一縦線ありて基節より起り殆んど翅端に達す、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過 未だ判然せざれども五月中旬より苺園に出で其葉面を食害す、其害大ならず。

驅除法 同前。

(三六)やなぎるりはむし Plagiodera distincta Baly.

び前肢の脛節並びに跗節は暗褐なり、觸角絲狀、眼は割合に大にして突出し前胸背は略正方形にして横溝を有す、翅鞘は前胸より廣く後方に至るに隨ひ膨大す、全面微小の點刻を密布す、雌は黑色の產卵管を具へ、雄の尾節は黃色なり、體長二分四厘乃至二分六厘。

幼蟲　黃色、頭は褐色、圓柱形にして長く、短毛を粗生す、尾端は圓錐形をなして細小なり、脚は三双、體長三分五厘。

經過　年一回發生し、成蟲の有樣にて越年す、幼蟲は地中に在りて根を食害し、翌春出でて葉を網狀に蠶食す、性甚だ活潑にして、外敵に遇へば直ちに飛翔す、日中は地上に落ちて死狀を擬すること少し、七月頃最も猖獗を極む、卵は圓形橙黃色にして根邊若くは地表に產せられ、約三週間にして孵化す、幼蟲期は一ヶ月乃至二ヶ月、廣く全國に分布す。

驅除法　同前。

(㈣)くろうりはむし(くろうりばい)　Aulacophora nigripennis Motsch.　(第十三圖4)

被害植物　同前。

特徵　成蟲　頭及び前胸は黃色、前胸背には横溝あり、眼、胸片及び脚は黑色、翅鞘

はむしもどき Luperodes discrepens Baly.（第十三圖19）は定めて前種と同種なるべし、試驗の結果によれば暗黃色の翅鞘を有するものと黑色の翅鞘を有するものとあり、而して黑色の翅鞘を有するものは「くろうりはむしもどき」と毫も異なる所あるを見ず、拙著害蟲目錄第六十三頁に Luperodes pallidulus Baly.（たいこのとびはむし）とあるは「うりはむしもどき」の誤なれば爰に訂正す。

（三）あとぼしはむし Aulacophora angulicollis Motsch.（第十三圖2）

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は淡黃、頭は小にして黃褐、複眼は黑色、前胸背は方形に近く、後緣に接して一條の横溝を有す、翅鞘は淡黃にして小點刻を密布す、翅底內緣に沿うて左右各一個の黑紋を有し、翅を疊むときは合して一紋となる、前緣は黑色、前外緣に近く各一個の大なる黑紋を有す、此紋は外緣の黑線と相接合す、體長一分八厘。

（三）うりはむし 瓜守（ウリバイ） Aulacophora femoralis Motsch.（第十三圖3）

被害植物 西瓜・南瓜・胡瓜等。

特徵 成蟲 黃褐にして光澤を有し、眼・上唇・腹部及び中後の兩肢は黑色、觸角及

尾後は雌の腹部膨大し尾節は翅鞘端より露出するに至る、卵子は黄色、長楕圓にして二十八星に同じく一塊をなし葉上に産下せらる、幼蟲は網狀に葉を食害す、札幌地方にて其最も食害する時期は八月上旬なり、四週間内外にして老熟し、食葉を辭して地中に入り、繭樣の土窩を造りて其内に蛹化す、蛹は淡黄、大凡二週間にして羽化す、羽化せしものは再び食害を始め、降霜と共に潛伏處を求め爰に越年す、其性遲鈍なり。

驅除法　同前。

三)くろうりはむしもどき Luperodes nigripennis Motsch.

被害植物　十字科植物・荳科植物・薄荷。

特徵　成蟲　黑色、頭及び前胸背は暗黄、雄にては翅鞘の基部稍々圓形をなして暗黄、雌にては翅鞘の全部黑色、觸角の基部は暗黄、體長一分六厘乃至二分五厘。

經過　未だ判然せざれども年一回の發生をなし、卵の有樣にて越年するものゝ如し、幼蟲は五月中旬頃より現はれ葉を食害す、老熟すれば地中に入り土窩を造り其内に蛹化す、蛹は約一週間を經て羽化す、成蟲は幼蟲と同じく葉を食ひ大害を加ふ、樺太地方にありては十字科植物を害すること大なりと云ふ、うり

驅除法　同前。

鞘翅目

(二〇)りんごはむし(はんのきはむし)　Agelastica alni L. var. coerulea Motsch.(第十三圖1)

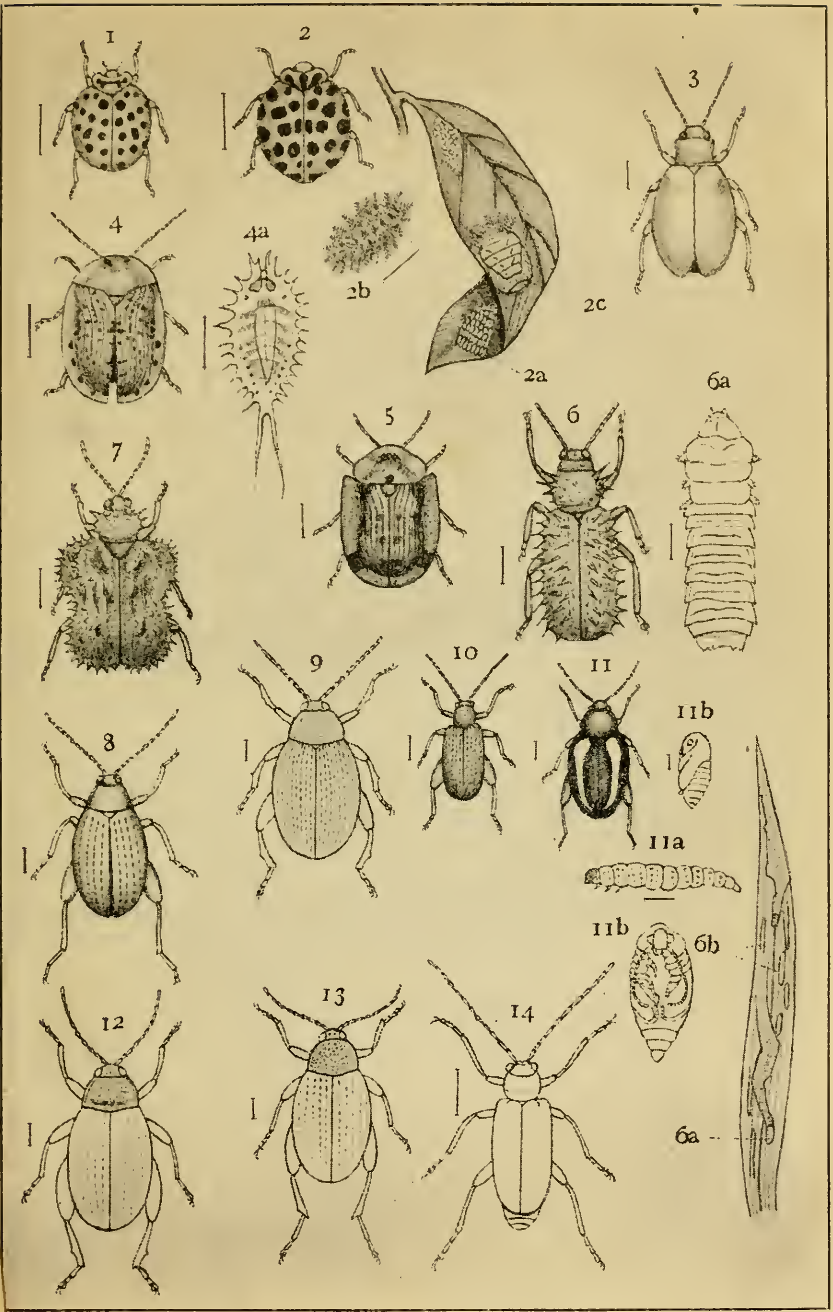
被害植物　苹樹・梨・櫻・桑・赤楊。

特徴　成蟲　地色は紫藍色若くは綠藍色、觸角、稜狀部・脛節及び跗節は黑色、頭頂には圓形の凹陷せる部分あり、觸角は長くして體の半に達す、前胸背は稍〻隆起す、稜狀部は三角形、翅鞘は前胸より廣く、尾端に至るに隨ひ增大す、脚及び觸角には灰黃の短毛を密生す、爪の兩內側に太き疣狀突起あり、體長二分三厘乃至二分五厘。

幼蟲　黑色、長楕圓形にして扁く、光線の工合にて少しく綠色を帶ぶ、體下は灰黃、頭及び第一節の硬皮板幷に各節に於ける疣狀突起は光澤ある黑色、各背上の突起は長くして橫置せらる、胸部は他節より大きく其兩側膨起し、之に黃色の剛毛數本を生ず、各腹節の兩側も亦膨起し其中央には各橫溝を具へ、尾端は截斷狀に終る、全體黃色の剛毛多し、脚は三双、黑色にして割合に長く、爪は赤褐にして彎曲す。

經過　年二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、早春出でゝ稚葉を食害す、交

第拾貳圖



第 拾 貳 圖

1. Epilachna 28—maculata Motsch. にじゆうやほし (P. 89)
2. Epilachna 28--punctata F. おほにじゆうやほし (P. 90)
   a. 卵 *b* 幼蟲 *b.* 蛹
3. Saula japonica Gorh. きいろてんとうむしだまし (P. 90)
4. Cassida nebulosa L. かめのこはむし (P. 91)
   a. 幼蟲
5. Cassida nigroguttata Gorh. ひめかめのこはむし (P. 92)
6. Hispa callicantha Bates. いねのとげとげ (一名鐵甲龜) (P. 93)
   a. 幼蟲 *b.* 成蟲加害の狀況
7. Hispa subquadrata Baly. かたびろとげとげ (P. 94)
8. Psylliodes punctifrons Baly. おほだいこのみはむし (P. 96)
9. Chaetocnema cylindrica Baly. むぎのみはむし (P. 96)
10. Phyllotreta funesta Baly. くはのみはむし (P. 97)
11. Phyllotreta sinuata Redt. きすぢのみはむし (P. 98)
    a. 幼蟲 *b.* 蛹
12. Crepidodera chloris Fondr. あいのみはむし (P. 99)
13. Haltica flavicornis Baly. あさのみはむし (P. 100)
14. Aenidia armata Baly. くははむし (P. 102)

經過　未だ判然せざれども早春荳科植物殊に大豆の子葉を出せる頃より現はれ、葉面に圓形の孔を穿ちて食害す、臺灣地方にありて稻・甘蔗を害することあれども、其害大ならず、札幌地方に稀なれども東北地方には多し。

(兀)ほたるはむし（一名あゐのうらむし） Monolepta dichroa Har.

被害植物　藍・草棉・蔬菜。

特徴　成蟲　體は光澤ある黑色、口部は褐色、頭・前胸背及び觸角の基部は黃色、觸角は暗褐、翅鞘は隆起し微小の點刻あれども判明ならず且つ縱列をなさず、脚は暗褐、腿節の末端及び脛節の基部は黃色、體長一分二厘乃至一分五厘。之に變種ありて var. apicipennis Jac. と云ふ、原種と異なる所は翅鞘端の黃色を呈するにあり、本邦にては變種の方多し。

經過　年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年す、第一回は六月中旬乃至下旬、第二回は九月乃至十月、蔬菜其他作物の葉を食ひ、葉面に多數の小孔を穿つ。

幼蟲は常に葉の裏面にあるを以て「うらむし」の名あり、五月下旬蛹となり、次で羽化す、第二回の幼蟲は七月中旬に至りて蛹化す、廣く本邦に播布す。

背は光澤ある黑藍色、中央に横溝を具へ、別に短淺の縱溝ありて前者と十字形をなす、翅鞘は長方形、稜狀部は黑色、肩部には少しく瘤狀をなせる部分あり、其成熟せるものにありては雌の腹部膨大し尾節を翅鞘端より露出す、體長二分乃至二分三厘。

經過　未だ分明ならざれども蛹の有樣にて地中に越年し、翌春五六月に至り羽化するものゝ如し、其害甚だしからず、性遲鈍にして動搖すれば脚を縮小して地上に落つ、

驅除法　朝露の未だ乾かざる早朝、樹上の成蟲を受網内に落して殺すべし。

附言　拙著害蟲目錄に此學名を Luperus impressicollis Motsch. となせるは誤なり、爰に之を訂正す。

(八)、ふたすぢひめはむし　Monolepta nigrobilineata Motsch.

被害植物　荳科植物・稻・甘蔗。

特徵　成蟲　體黃色、頭は黃褐大點刻を裝ふ、觸角は黃褐、絲狀にして體長の半を超え、前胸背は稍卵形に近く、翅鞘は胸背より遙に廣く、中央に各一條の黑線を縱走すれども翅端に達せず、體長一分乃至一分二厘。

三、觸角第一節の兩端は黃褐ならず。
四、少しく小形なり、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過　未だ判然せざれども、前種と同樣なるべし、臺灣及び沖繩に產せず、本邦には普通にして前種よりも一層多し。

(六)こかみなりはむし　*Haltica viridicyanea* Baly.

被害植物　同前。

特徵　成蟲　體は藍色、觸角・稜狀部・脚及び體下は黑色、但し個種により前胸背の黑色なるものあり、翅鞘の點刻は「かみなりはむし」に酷似すれども一層小形なり、體長一分二厘。

經過　不明なれども柳に普通なる種類にして、五月頃より十月迄加害あり、跳躍する性は前種と異ならず。

(七)くははむし　*Aenidia armata* Baly.（第十二圖14）

被害植物　桑・苹樹。

特徵　成蟲　形細長、體は黑色、翅鞘は光澤ある黑綠、顏・觸角・其基部の下面・前肢の腿節端・脛節及び跗節は暗黃、觸角は長くして體長の半を超え、暗色を帶ぶ、前胸

被害植物 赤楊・柳・白楊・楉。
特徴 成蟲 體は黑藍色、頭及び觸角は黑色、第一觸角節の兩端は黃褐、前胸背には點刻を缺き、頗る光澤を有し、後緣に近く一橫溝を裝ふ、翅鞘には點刻多し、然れども劃然たる縱列をなさず脚及び體下は黑色、後腿節は肥大し跳躍に適す、體長一分五厘乃至二分。
經過 未だ判然せざれども、年三回の發生をなすものヽ如し、第一回は六月上旬、第二回は八月、第三回は九月、臺灣及び沖繩地方にありては年數回の發生をなすものヽ如し、沖繩にありては三月頃より現はれ幼蟲は葉上にありて葉を食ひ、老熟すれば地中に入りて蛹化す、葉上にありて跳躍する音盛なるを以て此名あり。

(一五)**すぢかみなりはむし** *Haltica lateriocosta* Jac.
被害植物 同前。
特徴 成蟲 前種に酷似すれども其異なる主點を擧ぐれば左の如し。
一、翅鞘上にある點刻は微小にして甚だしく判然せず。
二、翅鞘の兩側(前緣)に各一條の縱隆ありて其末端は稍〻翅端に達す。

被害植物　麥類。

特徴　成蟲　體は長楕圓形にして光澤ある黑綠、觸角は黑色にして基部の三四節は黃褐、頭及び前胸背には黠刻多く、後者基部の兩側は凹陷し、更に其兩側に短縱溝あり、翅鞘は前胸より少しく廣く殆ど相平行し、黠刻を縱列す、脚は黑褐、脛節及び跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過　早春麥圃に現はれ、稚葉を食し、時に大害を加ふることあり。

驅除法　同前。

(三)あさのみはむし　Haltica flavicornis Baly.（第十二圖13）

被害植物　大麻。

特徴　成蟲　體は長卵形にして黑色、少しく綠色を帶ぶ、觸角は黃白、末端は黃褐頭は小にして黠刻なく、前胸背には黠刻多く、基部には淺溝を橫走す、翅鞘は前胸より廣く、之に不規則なる黠刻列あり、體長七厘。

經過　未だ判然せざれども、恐らくは他の植物に卵子を產下するものならんか。

驅除法　同前。

(四)かみなりはむし　Haltica coerulescens Baly.

は葉下の脈に沿うて產附せらる、卵期十日內外、幼蟲は孵化後葉下に潜入して葉綠層を食ふ、凡一週間にて老熟し、地下一寸七八分の處に入りて蛹化す、蛹は裸蛹にして暗黃、蛹期は凡十五日間、普通一代の經過に凡一ヶ月を要す、幼蟲は加害甚だしからざるも成蟲は稚葉を食害すること猖獗なり、殊に旱天に於て然りとす、其性雨露を嫌忌し、日中は性活潑にして盛に跳躍す。

驅除法　同前。

鞘翅目

(二)あゐのみはむし Crepidodera chloris Foudr.（第十二圖12）

被害植物　藍・甘菜。

特徵　成蟲　體は長卵形、光澤ある黑色、觸角黑色、基部の二三節は黃褐、頭は褐色、點刻を有せず、但だ複眼の內側に二三個の小點刻を有す、前胸背には點刻多く、基部には橫溝ありて其終末に各一條の縱溝あり、翅鞘は前胸より廣く、點刻の縱列を連ね、脚は黑色、脛節及び跗節は黃褐、體長七厘乃至九厘。

經過　未だ判然せざるも早春甘菜及び藍畑に現はれ稚葉を食害す。

驅除法　同前。

(三)むぎながのみはむし Crepidodera japonica Baly.

にありて其害大なり、「じやうかいぼん」は好んで之を捕食す。

驅除法 同前。

(10)きすぢのみはむし Phyllotreta sinuata Redt.（第十二圖2）

被害植物 蘿蔔・蕪菁・蕓薹・其他の十字科植物。

特徴 成蟲 體は光澤ある黑色、頭は前胸よりも小、頭頂に點刻なく額には少數の點刻を具ふ、觸角は絲狀、基節の二三節は暗黃褐、末端は大なり、翅鞘の兩側に各一條の廣き黃色線を裝ひ、其翅底に近き一端は稍々靴形をなして膨大し、他の一端は少しく內方に曲る、後腿節は膨大す、脛節の基部及び跗節は黃褐、何れも灰白の短毛を粗生す、體長八厘。

幼蟲 形細長にして稍々圓柱形、尾端細し、色は黃白、頭・第一節及び尾節の硬皮板は暗褐、各節に瘤狀の小突起ありて之より各一本の短毛を生ず、脚は三双、尾脚あれども小なり。

經過 年四五回の發生をなす、成蟲の有樣にて土塊若くは落葉下に越年し、翌春野生十字科植物の葉下に一個宛の卵子を產下す、之より孵化せる幼蟲は其處に一代を終りて成蟲となり、直ちに培養植物に來りて食害するものゝ如し、卵

驅除法　同前。

（八）むぎのるりのみはむし　Chaetocnema japonicum Jac.

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども翅鞘は美麗なる青藍色觸角は暗黑にして其基節の三四節は黄色頭及び前胸背に點刻多し脚は黄色にして腿節は黑褐體長八厘。

經過　未だ判然せざれども前種に混じて麥の稚葉を食害す、其害甚だしからず。

驅除法　同前。

鞘翅目

（九）くはのみはむし　Phyllotreta funesta Baly.（第十二圖10）

被害植物　桑。

特徴　成蟲　體は光澤ある黑色脚は黑褐觸角の基部に於ける三節及び跗節は赤褐眼大前胸背の中央に顆粒狀の小突起と小點刻とあり兩側にも亦各一個の小突起を裝ふ翅鞘は前胸より少しく廣く兩側は稍〻平行し、小點刻を散在す、體長一分乃至一分三厘。

經過　未だ判然せざるも、早春より現はれ稚葉を食害すること大なり秋田地方

油を混煮せるものを用ひて捕ふべし、早朝夜露の未だ乾かざる前心臓形の受網の内に落し適宜に殺すべし、亞砒酸銅(綠色砒石)或は亞砒酸鉛に百倍の澱粉を混じ、散粉器を以て撒布すれば甚だ有効なり。

(六)、おほだいこのみはむし Psylliodes punctifrons Baly. (第十二圖8)

被害植物 蔬菜類律草(カナムグラ)。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども稍々大にして色は濃綠、頭小さく、觸角は暗黄、基節及び脚は黄色、翅鞘の點刻列間に小點刻を密布す、後腿節は甚だしく膨大し黑色を帶ぶ、體長一分。

經過 前種に同じ。

驅除法 同前。

(七)、むぎのみはむし Chaetocnema cylindrica Baly. (第十二圖9)

被害植物 麥類。

特徴 成蟲 體卵形に近く、光澤ある黑綠色を帶ぶ、觸角暗黑、其基部にある四節及び脚は黄褐、後肢の腿節は甚だ膨大し、黑褐なり、體長八厘乃至九厘。

經過 未だ判然せざれども、早春麥類を害すること大なり。

經過　未だ判然せざれども、成蟲は五六月頃より現はれ櫟・楢其他の殼斗科植物の葉綠層を食す、白色にして稍〻平たし、老熟すれば葉組織內に蛹化すること前種の如し、此害に罹りたるときは葉の表裏共に褐色に變色す、中國及び九州に普通なれども東北地方には稀なり、北海道に產せず。

(五)、だいこのみはむし Psylliodes angusticollis Baly.

被害植物　蔬菜類。

特徵　成蟲　體長卵形にして膨起し、地色は黑綠、觸角は暗褐にして體の半に達す、翅鞘には二十餘條の點刻列を縱列し、其列間は殆ど平滑、各脛節は黃褐、後腿節は黑色、體長六厘乃至七厘。

經過　發生の回數未だ判然せざるも、或者は幼蟲の儘越年し、翌春四五月に至りて成蟲となる、植物の稚葉を食ひ、老熟して地中に蛹化す、蛹期は八日乃至十四日間、成蟲は卵子を一個宛葉下に產附し、之より孵化せる幼蟲は葉柄若くは葉脈に潛入して食害す、性甚だ活潑にして、旱天に於て其害殊に甚だしく、人之に近づけば忽ち跳躍す。

驅除法　日中は殊に跳躍するの性盛なるを以て、鳥黐に四五割の魚油若くは種

葉の裏面に止まり葉皮を殘して食す、一個宛葉肉内に卵を産下し、其の孵化せる幼蟲は葉肉を食して更に下方に下り約二寸内外に及ぶ頃老熟す、蛹は黃色にして長楕圓形を呈し、前胸背の兩側に短き指樣の四刺あり、又腹部の兩側に小刺を列ね、第五節にあるもの最も大なり、長さ一分六厘、常に稻葉の皮下にあり、臺灣にては有名なる害蟲の一なり。

驅除法　捕網を以て稻葉を捕ひ捕ふべし、幼蟲及び蛹は葉皮下にあるを以て如何なる藥劑を用ふるも効なし、故に一匹宛手にて捕ふるの外なし、但し其幼蟲若くは蛹のある處は白枯せるを以て容易に識別するを得べし。

(四)、かたびろとげどげ　Hispa subquadrata Baly.（第十二圖7）

被害植物　櫟・楢及び其他の殼斗科植物。

特徵　成蟲　暗黑色、頭・觸角・前胸背の兩側・翅鞘下半部の側緣並に後緣・脚・腹面等は黃色乃至黃褐、前胸背の棘狀突起は黃色にして其突端は黑色、翅鞘には黃褐の斑紋ありて稜狀部の下方にあるものは稍〻X字形をなす、肩部は弓狀に膨脹し、中央の側緣は弓狀に刳らる、側緣の棘狀突起は鋭尖なり、鞘上には瘤狀突起及び縱隆起あり、體長一分六七厘。

る部分ありて其上に弓狀の太き黑紋及び小黑紋を散在す、縱隆は高く、點刻は大にして深し、脚は黃色、體下は黑色、體長(雌・雄)一分七厘乃至二分。

幼蟲　前種に酷似すれども小形なり。

經過　同前。

(三)いねのとげどげ（一名鐵甲龜）Hispa callicantha Bates.（第十二圖6）

被害植物　稻・甘蔗・粟・稗等。

特徵　成蟲　體は黑藍色、眼・觸角・脚及び體下は黑色、觸角は體の半より長く、末端の棍棒狀をなせる六節は黑褐、前胸背に四分せる指樣の棘狀突起あり、尚其後方に一棘刺あり、翅鞘には點刻多く、各二十內外の棘刺を裝ふ、脚は割合に長く、腿節の末端は赤褐、體長(雌・雄)一分五厘內外。

幼蟲　扁平長楕圓形にして白色を呈し、少しく綠色を帶ぶ、淡黃色の太き且低き縱隆起を有し、其兩側には細き數條の縱皺を有す、頭部は細小、第一、二、三の三節は其兩側圓く、他は皆突起を出し、尾節の背上には二つの刺狀突起あり、體長二分內外。

經過　年五回の發生をなし、成蟲の狀態にて越年す、三月上旬より苗代に飛來し

幼蟲　體は黃綠にして平たく、各節の兩側に各一本の太き肉刺を具へ、之に六七個の小刺を裝ふ、小枝には關節を有するものあり、尾端には長き尾狀の附屬物を有し、平時は之を上方に擧げて蟲糞を附着せしめ、以て外患を免るゝものゝ如し、體長三分內外。

經過　年一回の發生をなす、稀に二回の發生をなすことあり、成蟲の儘越年し、翌春甘菜、藜の如き植物に集まりて之を食ひ同時に產卵す、卵子は黃色、長楕圓形にして葉下にありて塊をなす、其成長不整にして大小の幼蟲を混ずるを常とす、數回の脫皮後、葉下に懸垂して蛹化す、蛹は嘗て幼蟲の裝へる脫皮を尾端に附着す、形成蟲に似るも體側に肉樣の突起を有す、前胸背は大、前緣に三個の切目ありて其緣に小刺を列ぬ、蛹期八日內外、甚だしき大害をなさゞ。

驅除法　同前。

(二)、ひめかめのこはむし　Cassida nigroguttata Gorh.（第十二圖5

被害植物　同前。

特徵　成蟲　前者に酷似すれども遙に小形なり、前胸背及び翅鞘の兩側は鼈甲樣の黃色、前者の中央にX字形の黑紋を具へ、後者の兩側には甚だしく凹陷せ

被害植物　樟。

特徴　成蟲　體は黃色乃至黃褐、觸角黑色、基部の三節暗黃、末端の三節太し、頭及び前胸背は黃褐、後者の後兩側は鋭角をなして突出す、兩側に灰色の短毛あり、翅鞘は少しく弓狀に膨起し、灰色の軟毛多く、點刻は細微なるを以て判然せず、脚は黑褐、脛節の基部並に爪は黃褐、體長一分二厘。

經過　未だ判然せず、年二三回の發生をなすものゝ如し、九州地方にありては四月上旬より現はれ、樟樹の葉を食害す、第二回の成蟲は七月中旬、第三回は八九月出づるものゝ如し、其害甚だしからず。

驅除法　同前。

鞘翅目

金花蟲科　Chrysomeridae.

(一)、かめのこはむし　Cassida nebulosa L.（第十二圖 4）

特徴　成蟲　體は楕圓形、體上は少しく穹狀に膨起し、若きものは灰白、老いたるものは黃褐、體下は光澤ある黑色、前胸背は横楕圓形にして斑紋を缺き、翅鞘には多數の小黑點を散在す、脚は黃色、體長（雌、雄）二分五厘內外。

狀の纖維を殘留す、約三週間にて蛹化す、蛹は黄白色にして頭部に黑紋を裝ふ、物に驚くときは脚の關節より黄色の液汁を滲出す、晩秋に至り軒下・朽木下等に入りて越年す。

驅除法 物に驚くときは脚を縮小して地上に落つる性あるを以て、心臟形の網内に拂ひ落すべし、幼蟲には十五倍の石油乳劑を用ふ。

(二)おほにじゆうやほし Epilachna 28-punctata F.（第十二圖2）

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は體の大にして總べて斑紋の遙に大なること、前胸背の三紋は縱に長きこと、體は黑褐なること等なり。體長（雌・雄）三分乃至三分五厘。

幼蟲 前種に酷似すれども少しく大なり。

經過 同前。

擬瓢蟲科 Endomycidae.

(一)きいろてんたうむしだまし Saula japonica Gorh.（第十二圖3）

普通蚤よりは遙に大なり。

鞘翅目 Coleoptera.

瓢蟲科 Coccinellidae.

(一)にじゆうやほし(一名てんたうむしだまし) Epilachna 28-maculata Motsch. (第十二圖1)

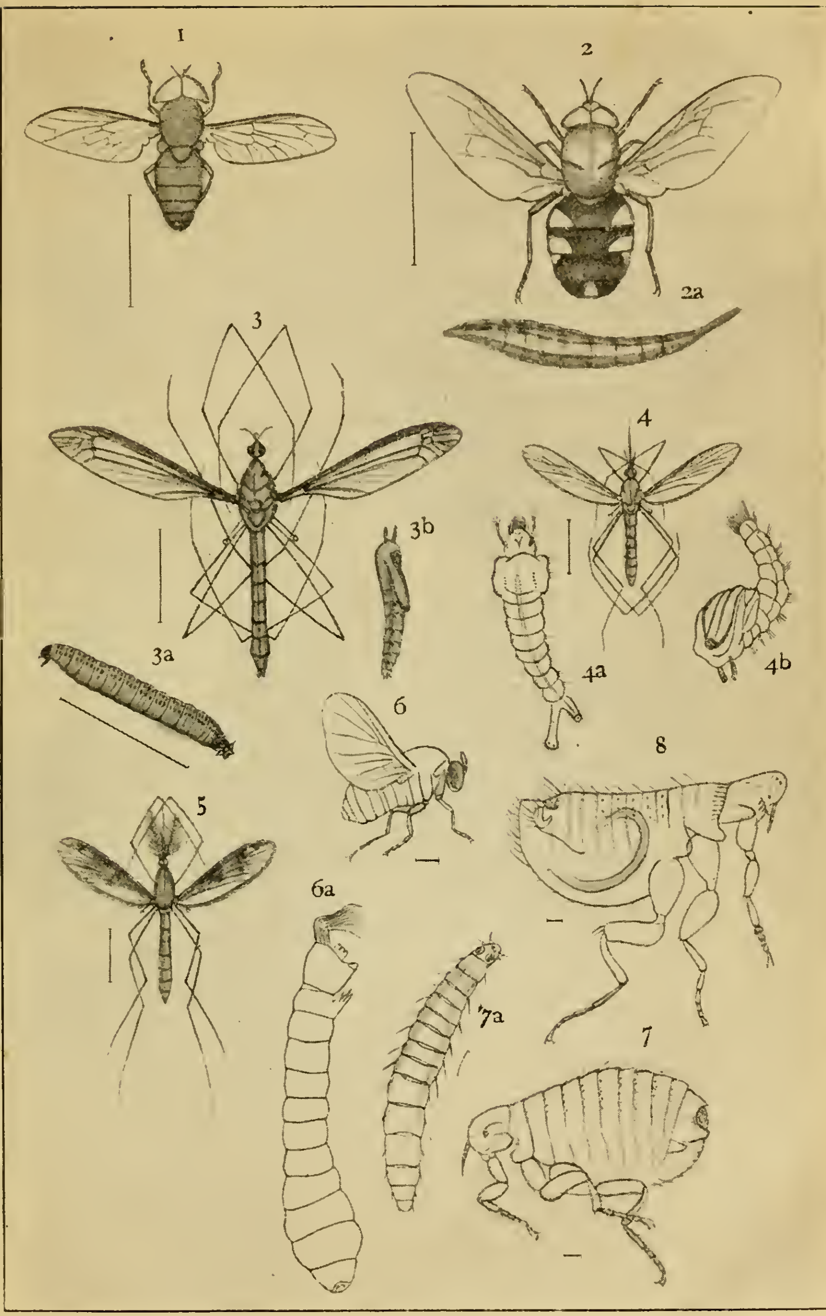
被害植物　茄子・馬鈴薯・南瓜・西瓜等。

特徴　成蟲　黄褐、前胸の三紋及び翅鞘の二十八紋は黒色、即ち各翅鞘には2・3・3・3・2・1の六列に排列す、脚及び體下は少しく淡色なり、體長(雌、雄)二分五厘。

幼蟲　灰白、各節に四個乃至六個の分岐せる黒色の刺毛を横列し、其一刺に約十二三の分刺を裝ひ、其分刺には關節あり、頭は灰黒、脚は割合に長く、一個の爪あり。

經過　年一回、稀に二回の發生をなす、成蟲の有様にて越年す、翌春軟葉を食ひ之に産卵す、卵は黄色、長楕圓形にして兩端細小す、十二三日にて孵化す、一雌の總産卵數は二百內外、卵子より出でたる當時は黄白色、葉綠層を食するを以て網

第拾壹圖



第 拾 壹 圖

1. Tabanus pyrrhus Wk.　きいろあぶ (P. 73)
2. Stratiomyia barca Wk.　ひげながみづあぶ (P. 74)
    - a. 幼蟲
3. Tipula parva Loew.　ひめきりうじかゞんぼ (P. 75)
    - a. 幼蟲　b. 蛹
4. Culex pallens Coq.　うすか (P. 77)
    - a. 幼蟲　b. 蛹
5. Myzorhynchus (Anopheles) sinensis Wied.　はまだらか (P. 79)
6. Simulium crassitarsis Macq.　きあしぶゆ (P. 83)
    - a. 幼蟲
7. Pulex irritans L.　のみ (P. 85)
    - a. 幼蟲
8. Ctenopsyllus musculi Dug.　いんどのみ (P. 87)

被害動物　人・猫・犬・馬・家禽等。

特徵　成蟲　普通蚤よりも遙に小形にして形短く、殊に胸部は甚だしく短縮し緊縮あり、下唇鬚及び觸角の第三節に副節なし、小腮鬚は長し、體長五厘。

經過　未だ判然せず、家禽に普通なる種類なれども、時に人畜に移り來り加害することあり、此他左の二種は鼠に寄生するものなるも、往々人類に寄生することあり。

驅除法　油紙若くは油布にて袋を造り、其内に家禽若くは家畜を入れ、後更に青酸加里の二三片を其中に入れ置くべし、然るときは數時間の後全體の蚤を驅除し得べし、但し此袋は頸に縛る樣になすべく、頸以上にある蚤には二硫化炭素若くは除蟲菊「アルボース石鹼水」を加へたるものを塗抹すべし。

(五)、ねづみのみ　*Pulex cheopis* Roth.

被害動物　人・鼠。

(六)、おほねずみのみ　*Ceratopsyllus fasciatus* Bosc.

普通蚤よりは遙に短小なり

被害動物　人・鼠。

經過　同前、但し普通蚤の如く甚だしく跳躍せず、猫蚤は從來別種の如く思考せられたれども、近時其同種なること判然せり、此種は又鼠に寄生することあり。

驅除豫防法　除蟲菊をアルボース石鹼水に浸漬し、之を以て洗淨すべし。

(三)、いんどのみ　Ctenopsyllus musculi Dug.（第十一圖８）

被害動物　人・鼠。

特徵　成蟲　普通蚤と異なる所は、體甚だしく側扁にして細長きことなり、而して後脛節の刺は一列にして相近接し、頭は稍〻圓錐形に近く、眼を缺き、色は少しく淡色なり、體長六厘乃至七厘五毛。

幼蟲　未だ判然せざるも、普通蚤と同じく塵埃を食するものならん。

經過　未だ充分の經過を知るを得ざれども、鼠の死後人類に移り來り加害す、若し死鼠より移り來りたるものとせば其病菌を人類に移植するや明なり、彼のペスト菌の如きは多くは此蚤によりて傳播せらるゝものなり。

驅除法　鼠を驅除すべし、人類に移り來りたるものは、普通の蚤と同じく除蟲菊を用ゆべし。

(四)、とりのみ　Xestopsylla gallinacea West.

幼蟲　細長なる圓柱形にして白色、剛毛を粗生す、觸角は短くして二節より成り、口は咀嚼に適す、頭を除き十三節より成り、尾端に二個の尾狀突起を裝ふ、體長一分二厘。

經過　年數回の發生をなす、幼蟲の有樣にて疊下に越年し、翌春蛹化し、次て成蟲となる、蛹は側扁にして尾端に二個の突起を裝ふ、前方の脚鞘は判然す、幼蟲は初めは白色、次第に暗色となり、甚だ活潑なり、塵埃を集めて巢を造り、其內に蛹化す、寒帶及び熱帶には稀なれども、溫帶地方には普通なり。

驅除豫防法　除蟲菊を撒布すべし、疊の下には除蟲菊又は胡桃の葉を挿入し置くべし、疊下は可成清潔になし置くべし。

(二)いぬのみ　Ceratopsyllus canis Deg.

被害動物　人・犬・猫・鼠。（*C. felis Bouch..*）

特徵　成蟲　前種に酷似すれども後頭及び前胸背の前緣に各七個乃至九個の齒狀刺毛を有す、脚は長く、前跗節にては第五節、後跗節にては第一節最も長し、體長八厘乃至一分一厘。

幼蟲　同前。

の短毛を粗生す、光線の工合により前縁及び兩側は白色、翅は透明にして基部は黄色、平均棍は鮮黄色、腹部に暗黄帶あり、脚は黒色、基節、轉節及び腿節の基部は暗黄、脛節及び第一跗節は末端を除き白色、體長一分四厘、九州熊本地方に普通なる種類なり。

（四）、ひめぶゆ　Simulium arakawae Mats.

特徴　成蟲　體は黒色、觸角は短大、脚は黒褐、跗節は暗黄、翅は透明にして前縁の太き脈は暗黄、體長五厘、札幌地方に稀ならざる種類なり。

微翅目 Aphaniptera.

蚤科 Pulicidae.

（一）、のみ（蚤）　Pulex irritans L.（第十一圖７）

被害動物　人・猿。

特徴　成蟲　體は側扁にして赤褐、頗る光澤あり、觸角・口吻及び脚は淡色、體は後方に傾斜せる剛毛を粗生す、脚は側扁にして大に、後肢は甚だしく發達して跳躍に適す、剛毛多し、體長（雌、雄）三厘五毛乃至九厘。

ども、他の脈は淡色にして判然せず、脚は黃褐、雄にては脛節及び跗節膨大す、體長九厘乃至一分二厘。

驅除豫防法 林間を行く場合には西洋蚊帳布を以て袋を造り覆面すべし、火繩を携帶するも亦有効なり、又小川に魚を放ち幼蟲を捕食せしむべく、刺螫せられたる場合には「ぬかが」と同樣に石炭酸の五十倍液を塗抹すべし、釣魚家は手袋を用ふるか若しくは蓖麻子油を塗抹するを良しとす。

(二)、あしまだらぶゆ Simulium colobatezensis Schin.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黑色、黃色の短毛を裝ふ、觸角の基部は黃色、轉節・腿節の基部・脛節の大部(末端を除く)並に第一跗節の基部は白色、平均棍は黃白、他は前種の如し、體長八厘乃至一分。本邦最も普通なる種類にして、何れの地に至るも其發生を見ざるなし、殊に北海道及び樺太に普通なる種類にして、農家に大害を加ふ。

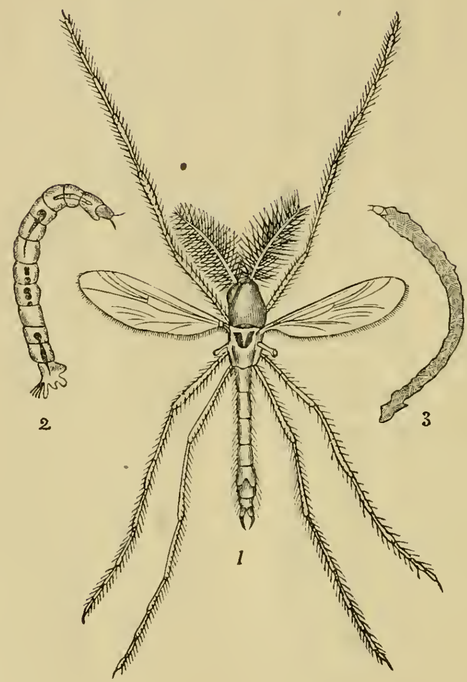
(三)、おほぶゆ Simulium kawamurae Mats.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黑色、觸角の基部は黃色、前胸背前緣の兩側は黃褐、胸背には金

ることあり。

驅除法　蚊の發生する時期を見計ひ網を以て捕ふべし、但し群生するの性あるを以て捕殺し易し、幼蟲には石油を用ふべし（一反歩に付苗代なれば八合、本田には一升位の割合）。



第二百七十一圖　**いねゆすりか**
(1) 成蟲　(2) 幼蟲　(3) 泥筒中にある幼蟲

蚋科　Simuliidae.

（一）きあしぶゆ（ぶよ）　Simulium crassitarsis Macq.
（第十一圖 6）

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は暗色、金色の短毛多し、觸角は短くして黑色、紡錘狀にして十節より成り、前胸は稍〻球形に膨起す、翅は透明、前緣の三脈は暗黃にして判然すれ

るものゝ如し(四國地方にありて)、稚鷄に大害を加ふ。

驅除豫防法 室內にありて除蟲菊を燻烟すること、網を以て捕ふること、靜止するものにはアルボース液に五十倍の水を混じて灌注すること、幼蟲は鷄糞中にあるを以て掃除すべし。

(三)、いねゆすりか(いねつとか) Chironomus oryzae Mats. (第二百七十一圖1・2・3)

被害植物 稻。

特徵 成蟲 體は黑色、雌にては觸角は絲狀をなせども、雄にありては甚だしく羽狀を呈す、翅は暗黃色、體長七厘。

幼蟲 初めは灰色、老熟すれば淡き血色を呈す、頭は褐色にして大腮は甚だしく發達し、四齒あり、尾節(第十二節)に袋狀の四附屬物を具へ、其背上には二本の小突起ありて之より長き硬毛を生ず、體長八厘、常に一分餘の泥筒中に住す。

經過 年四回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春四五月頃水上其他泥地に產卵するものゝ如し、第二回の蚊は六月中旬より七月に亙り、第三回は八月上旬乃至九月、第四回は九月下旬乃至十月下旬、雌の產卵數は百內外、蛹は泥筒中にありて黃色、尾端に長毛を裝ふ、苗代に發生し時に大害を加ふ

幼蟲　未だ判然せざれども、歐洲産のものと同じく樹皮下若くは腐蝕植物下に栖息するものゝ如し。

經過　不明なれども、山間に普通にして、其甚だ微小なるに係らず之に刺螫せらるゝときは甚だしき腫傷を生ず、札幌地方にありては九月頃最も多し。

驅除豫防法　障子には寒冷紗を張り其侵來を防ぐべし、一度室内に入りたるものは除蟲菊の粉末を燻して殺すべし、微小にして認識に苦しめども亦網を以て捕獲し得べし、刺螫せられたる場合は前同樣石炭酸五十倍液を用ふべし、又無臭沃度フォルムを塗抹するも有効なり、燈火に飛來するの性あるを以て誘殺すべし。

(二)おほぬかが　Ceratopogon arakawae Mats.

被害動物　鷄（人畜？）。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、形大にして翅は暗色、之に十三四個の白紋あるを以て容易に區別することを得べし、體長五厘。

幼蟲　黄白色、十一節より成り、前半次第に細小し、尾端切斷狀をなす、體長五厘。

經過　未だ判然せざれども、幼蟲は鷄糞中に栖息し、凡二週間位に一代を經過す

得べし、此蚊の涎液線中に「プラスモデウム」と稱する下等動物を宿し、其刺螫の都度人類の血液に移り「マラリア」熱病を起す。

驅除豫防法 普通蚊と異なりて、靜止のときは口吻を下方に斜出し、腹端を上方に擧ぐるを以て、容易に區別するを得べし、(播州高砂附近に發生する蚊は大部之なり)普通蚊と同じく黄昏軒下等に群集する時期を見計ひ網を以て捕獲すべく、幼蟲は普通蚊の幼蟲と異なり、流水に棲息するを以て、注意して掬ひ捕ふべし、又魚を放ちて之れを捕食せしむるも可なり。蜻蛉の幼蟲は好みて之を食す、刺螫せられし場合には、針端にて其局部に穴を穿ち之に石炭酸の五十倍液を注ぐべし。

揺蚊科 Chironomidae.

(一)、ぬかが Ceratopogon jezoensis Mats.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗灰色、觸角黄色、翅は灰白、半透明、縁紋は褐色、其兩側は白色、平均棍は白色、腹面は黄色、體長(雌雄)三厘内外。

後腿節基部の大半は白色、夏日東京地方に普通なり、體長(雌雄)一分七厘乃至二分。

經過 同前。

(三)はまだらか Myzorhynchus (Anopheles) sinensis Wied. (第十一圖5)

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は暗灰色、頭小、觸角は細くして暗褐、太さ小腮より短し、胸背には褐色の五縱條を走らし、最も外側にあるものは太し、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黃色にして黑褐及び黃色の鱗毛を有し、中央部に近く黑褐色をなせる四五個の鱗毛紋あり、平均棍は灰白、雌の腹部は暗黃、背線は黑褐、雄にては暗褐、金色の長毛及び短毛を混生す、脚は暗黃、蹠節の各接合部は黃白なり、體長(雌雄)二分內外。

幼蟲 普通蚊の幼蟲は垂直に浮べども、此類にありては水平に游泳す。

經過 年數回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、其經過普通蚊と異なることなし、卵子は普通一個宛產下せられ、稍〻紡錘狀をなす、色は灰黑なり、成蟲の靜止するときは、口吻を前方に突出し、尾端を擧ぐるを以て、容易に識別することを

溜水若くは潭水に産下す、卵子は罎狀を呈し、互に相固着して船形をなす、數日の後孵化す、幼蟲は動植物性の腐敗物を食ひ、三週間にして約三回の脫皮を終り蛹化す、蛹は活潑にして二個の判然せる角狀突起を裝ひ、其末端に氣門あり、幼蟲の運動する狀恰も棒を振るの觀あるを以て俗に「ぼうふり」と云ふ。

驅除豫防法　幼蟲を驅除するには石油を用ゆ、成蟲の黄昏軒下等に群集せる時期を見計ひ網を以て捕獲するか、又は除蟲菊の粉末を燻蒸すべし、蜻蛉は蚊を食餌となすが故に保護すべし、其幼蟲も亦「ぼうふり」を食とす、「テレビン」油を廣口の罎に入れ、開口したる儘之を室内に置くも効あり。潭水の腐敗する場合には幼蟲の蕃殖する患あるを以て、成るべく新鮮なるものを入れ代ゆるか、然らざれば常に金魚などを入れ置くべし。

(二)くろか　Desvoidyia obturbans Wk. (*Culex subalbatus* Coq.)

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は暗褐、複眼の後方及び觸角の基部は暗黄、胸背の中央に褐色毛を裝ひ、兩側に白毛を混ず、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は暗褐、同色の鱗狀毛を並列す、平均棍は淡黄、末端は少しく暗色を帶ぶ、腹部は暗褐、脚は暗黑、

色、腿節及び脛節の末端並に跗節は黑褐、體長(雌雄)六分五厘乃至八分。

經過 同前。

長角亞目

蚊科 Culicidae.

(一)、うすか Culex pallens Coq. (第十一圖4)

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 雌の頭は黃褐、口吻黃色、觸角褐色、第一節及び第二節の基部は黃色、胸背は黃褐、側片及び後胸は黃色、稜狀部は灰白、平均棍、腹部及び脚は黃色、但し平均棍の末端は褐色を帶ぶ、翅透明、虹樣の彩色を現はす、雄の雌と異なる重なる點は、其觸角長き旋毛狀を呈し、之に銀白の部分を有するにあり、體長一分五厘乃至二分。

幼蟲 體は暗灰色、頭圓く、二個の單眼を具へ、大腮は割合に大にして內方に曲る、觸角に箒狀毛あり、腹部は大にして尾端に至るに隨ひ次第に細小す、尾節は二個に分れ、各其末端に氣門を開き、其周圍に放線狀の剛毛を裝ふ、體長三分。

經過 年數回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春二百乃至三百の卵子を

氣門ありて其直下に肛門あり、體長七分五厘。

經過 年二回の發生、普通幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化し、六月上旬羽化す、蚊は卵子を苗代に產下す、其數三百內外なり、卵は黑色長楕圓にして一端に三角形の附屬物あり、七月下旬乃至八月上旬蛹化し、約二週間を經て、羽化す、其性甚だ遲鈍にして低く飛翔す、幼蟲は粘土・濕地又は日蔭を好み、晝間は泥中・地中若くは地物の下に住し、夜に至り稻・麥の根際を嚙み切り大害を加ふ、故に此名あり。

驅除法 蚊は飛翔遲鈍なるを以て、其羽化の時期を見計ひ網を以て捕獲すべし、苗代に蕃殖したる場合は、前述の「ひげながみづあぶ」と同樣の方法を行ふべし、

(二)、おほきりうじがゞんぼ *Tipula longicauda* Mats.

被害植物 稻・麥。

特徵 成蟲 體は灰色、口吻・小腮鬚及び觸角は黃色、第二及び第三節の末端は黑褐、胸背に灰褐の四縱條ありて、中央にあるものは後方に至りて細まる、稜狀部は暗黃、翅は透明にして少しく暗黃を帶び、翅底及び前緣並に緣紋は黃色、脈は褐色、平均棍は黃白、末端の頭狀部は黑褐、腹部は黃色、黑褐の一縱條あり。脚は黃

水を落し、石炭酸に水を混じ灌注すべし、又石油乳剤の十倍液を注ぐも効あり、又水は時々落して新鮮なるものを入るべし、水腐敗せざれば此害蟲の蕃殖を見ることなし。

長角亞目　Nematocera.

大蚊科　Tipulidae.

(一)、ひめきりうじがゞんぼ　Tipula parva Loew.（第十一圖 3）

被害植物　稻・麥。

特徵　成蟲　體は暗褐、頭の中央・前胸・胸側・胸背の細き二縦條・稜狀部及び平均棍は黄色、觸角は淡黄にして末端は少しく暗色を帶ぶ、各節の末端は黑色、二三の剛毛を裝ふ、翅は透明にして少しく暗色を帶び、中央に近く白色の透明紋あり、脈及び緣紋は暗褐、第一及び第二腹節の兩側は淡黄、脚は頗る長く、暗黄、腿節は淡色にして其末端は黑褐、體長三分五厘乃至五分五厘。

幼蟲　體は暗灰色、頭は小にして黑き大腮と觸角とを具へ、圓柱形にして橫皺多く、尾端は截斷狀に終り、其周圍に約十二個の肉狀突起を具へ、中央に二個の

(一)、ひげながみづあぶ Stratiomyia barca Wk.（第十一圖2）

被害植物 苗代の稚稻。

特徴 成蟲 體は黒褐、雄の複眼は相密着し、顔に金色の短毛を密生す、雌の後頭及び觸角の上方に各一個の黄色大紋を裝ふ、觸角は黒色にして長く、第三節は大にして紡錘狀をなす、胸背は黒褐、稜狀部に黄色の二棘刺あり、翅は暗色半透明にして脈は黄褐、末端は透明、平均棍は淡黄、腹部は黒色、第一及び第二節の側面幷に第三節の後縁は黄色、尾端の一縱條も亦黄色、脚は黒色、脛節の基部及び跗節は黄色、體長(雌雄)五分乃至五分五厘。

幼蟲 體は長き紡錘狀、尾端に至るに隨ひ細小となる、暗色にして背上に暗黄色の四縱條を併走す、但し外側にあるものは斷續せり、頭は暗褐にして兩側に弓狀の一縱溝を具へ、其兩側に各一個の單眼あり、尾節は細くして長さ次節に二倍す、體長一寸四五分、俗に之を「なめうじ」と云ふ。

經過 年一回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春泥水其他腐敗水に産卵す、稀に苗代に發生し、苗根を浮上して大害を加ふることあり。

驅除豫防法 早春花上にある蠅を捕獲すべし、苗代にて之を發見したる場合は

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は灰黑、複眼間に光澤ある一個の黑紋あり、觸角は黃色、第三節末端の二分の一若くは三分の二は黑褐、胸背は光澤を有し灰色の三縱條あり、翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ、脈は黃褐、腹部は灰黑、初めの第三・第四節の側面は廣く黃橙色、各節の後緣は細く黃色、脚は黃褐、腿節は末端を除き黑褐、跗節は褐色、體長(雌雄)五分五厘乃至六分、東北地方に普通なり。

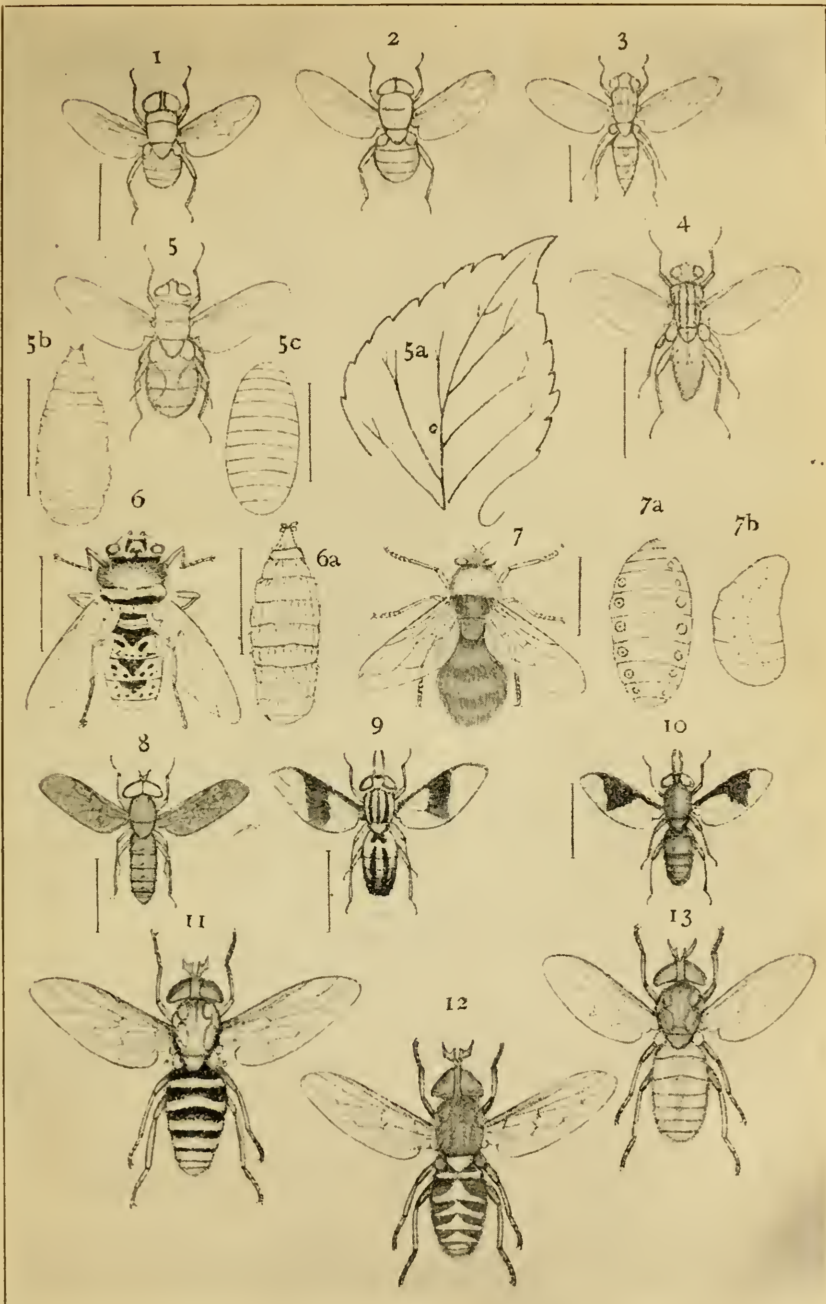
(二)きいろあぶ　Tabanus pyrrhus Wk.（第一圖1）

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黃褐、赤黃の短毛を密生す、複眼に紋條なし觸角は黃色、小腮鬚は淡黃、口吻は黃褐、胸背には縱條を有せず、翅は透明にして前緣及び脈は黃色、鱗狀瓣及び平均棍は淡黃、腹背は赤黃、中央の短き縱條及び尾端の四節は黑褐、金色の短毛を密生す、脚は黃色、脛節端及び跗節は黑褐、體長(雌雄)四分五厘乃至五分、中國地方に普通なり。

水虻科　Stratiomyiidae.

第拾圖



第　拾　圖

1. Lucilia dux Esch.　をびきんばい　(P. 60)
2. Calliphora lata Coq.　くろばい　(P. 60)
3. Stomoxys calcitrans L.　さしばい　(P. 61)
4. Sarcophaga carnaria L.　しまばい　(P. 62)
5. Sturmia (Crossocosmia) sericariae Rond.　かいこのうじばい　(P. 63)

   a. 卵　*b.* 幼蟲　*c.* 蛹
6. Gastrophilus equi F.　うまばい　(P. 65)

   a. 幼蟲
7. Hypoderma bovis Deg.　うしばい　(P. 67)

   a. 幼蟲　*b.* 蛹
8. Haematopota tristis Big.　ごまふあぶ　(P. 68)
9. Chrysops dispar F.　めくらあぶ　(P. 69)
10. Chrysops japonicus Wied.　くろめくらあぶ　(P. 70)
11. Tabanus chrysurus Loew.　あかうしあぶ　(P. 71)
12. Tabanus trigonus Coq.　うしあぶ　(P. 71)
13. Tabanus rufidens Big.　かあぶ　(P. 72)

特徴　成蟲　體は灰黑、複眼は黑綠、顏は灰黃、觸角の第一及び第二節は黃褐、第三節は黃色にして末端は黑色、口吻は黑褐、胸背に灰白の五縱條を走らす、翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ、脈は黃褐、前緣脈は褐色、腹部は黑褐、各節の後緣中央の三角紋及び側部は淡黃、脚は黑褐、腿節の末端及び脛節は黃色、體長(雌、雄)八分、中國地方に普通なり、

(九)あかあぶ *Tabanus rufidens* Big.（第十圖13）

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は暗灰色、灰色の短毛を密生す、複眼は暗黑にして少しく綠色を帶ぶ、顏は淡黃、短毛を密生す、觸角は黃色、第三節は基部及び枝狀突起を除き黃色、口吻は黑褐、胸背には判然せざる三個の暗黑縱條あり、翅は透明にして淡褐を帶び、前緣及び脈は褐色、平均棍は褐色、腹部は赤褐、腹背の中央に黑色の縱條を走らし、其中に更に灰色の判然せざる縱條あり、腹面の中央には黑褐の太き縱條を有すれども尾端に達せず、脚は黑褐、脛節は黃色、體長(雌、雄)七分乃至七分五厘。

(一〇)きばらあぶ *Tabanus tropicus* Meig.

特徴　成蟲　體は灰黑、複眼は黑褐にして少しく綠色を帶ぶ、顏は灰色、觸角は黑褐、第三節の基部は赤褐、胸背の中央に三個の灰白縱條を走らし、其中央にある、ものは細し、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黃褐、前緣は黑褐、鱗狀瓣は暗黃、平均棍は黃色にして末端の大部は黑褐、腹部は黑色、各節の後緣及び三角形の中央紋は灰白、脚は暗黑、脛節は末端を除き黃色、體長(雌雄)五分乃至六分。

双　翅　目

(七)あかうしあぶ　Tabanus chrysurus Loew.　(第十圖11)

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黑褐、頭及び顏は黃色、複眼は暗黑にして少しく綠色を帶び光澤あり、觸角及び小腮鬚は黃色、口吻は黑褐、胸背は中央に二個の黃縱條を走らす、兩側も亦黃色なり、翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ、脈は黃色、腹部は黑褐、各節の後緣は黃色、但し第六節以下は全部黃色、脚は黃色、腿節は末端を除き黑褐、跗節は褐色、體長(雌雄)八分乃至八分五厘、此は最大の虻にして北海道に普通なり。

(八)うしあぶ　Tabanus trigonus Coq.　(第十圖12)

被害動物　人畜。

黄色、但し第一節の中央にある二紋は黒色、背線は黄色、脚は黒色、中脛節及び中後の跗節は末端を除き暗黄、體長三分五厘。

經過　未だ判然せず、幼蟲は土中に棲むもの丶如し。

(四)、くろめくらあぶ　Chrysops japonicus Wied. (*C. aterrimus* Kirby.)（第十圖10）

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　全體光澤ある黒色、翅は白色透明にして少しく暗色を帶び、前縁及び中央の大三角紋は黒色、體長三分五厘。

(五)、ひげながさしあぶ　Dichelacera japonica Big.

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黒褐、觸角は暗黄、末端及び小腮鬚は黒色、白色を裝ふ、腹部は暗黄、基節は赤褐、尾節端は黒色、鱗狀瓣・平均棍及び脛節は暗黄、翅は稍ゝ透明なり、體長五分。

經過　不詳。

(六)、こしろふあぶ　Tabanus amaenus Wk. (*T. trigeminus* Coq.)

被害動物　人畜。

三節の基部は暗黄褐、顔は灰色、黑色の小點を密布す、小腮鬚は暗黄褐、胸背に三條の灰白線を縱走す、腹部は黑褐、各節の後緣は黄色、翅は暗色、灰色紋を散在す、脚は黑色、脛節の兩端は黄褐、體長三分四厘。

經過　未だ判然せざれども、幼蟲は虻に同じく朽木に棲むもの丶如し。

驅除豫防法　成蟲を捕殺すべし、朽木を取り除くべし、牛馬の場合には蓖麻子油を塗抹し置くべく、林間を旅行するときは火繩を携ふべし。

(二)、あかはねごまふあぶ Haematopota rufipennis, Big.

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、少しく大にして顔及び小腮鬚は黑色、第三觸角節の基部は赤褐、翅は赤褐を帶ぶ、體長三分五厘。

(三)、めくらあぶ Chrysops dispar F.（第十圖9）

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黑色、觸角は黑褐にして長く頭の二倍以上あり、第一節は黄色、頭は黄色、觸角上下の瘤狀突起は光澤ある黑色、胸背に四條の黄線を縱走す、翅は透明、前緣中央の三角紋及び其下方にある小紋は黑色、第一及び第二腹節は

幼蟲　初めは白色、老熟すれば黑褐にして稍〻梨形を呈し、瘤狀突起多く、又短刺を粗生す、第二節乃至第九節に至る迄各二個の光澤ある疣狀突起を裝ふ、體長七分乃至九分。

經過　年一回の發生をなす、成蟲は七月より九月に亘りて出て、牛の皮膚に産卵す、卵子孵化すれば皮下に蝕入して大害を加ふ、卵子は白色、一端は褐色、長楕圓形にして少しく扁たし、初めは甚だしく加害せざるも、第二齡以後は局部瘤狀に膨れ、其成長と共に瘤も亦大形となり、終に膿化して大害を加ふるに至る、老熟すれば地上に降り蛹化す、蛹は黑色、蛹期は四週間内外。

驅除豫防法　牛の皮膚に蓖麻子油を塗り置くべし、腫物を破りて蛆を除却し、百倍の石炭酸液にて局部を洗滌すべし、蠅は注意して捕獲すべし。

虻科　Tabanidae

(一)ごまふあぶ　Haematopota tristis Big.　(第十圖8)

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　體は暗褐、眼の上方大半は淡黃褐、下方小部分は黑色、觸角は黑色、第

ヶ月間にて老熟すれば鼻孔より出で、地上に下りて蛹化す、蛹は六週間にして羽化す、羊の此害蟲に侵さるゝや、鼻孔より一種の分泌液を出だし、頻繁に嚔をなし、同時に呼吸困難の狀を示し、鼻を地上其他種々の物體に摩擦するを以て、容易に其存在を知り得べし。

驅除法　蠅の出づる時期を見計ひ、網を以て捕ふべし、家畜房は可成白色に塗り、以て蠅の存在を知るに容易ならしむべし、蛆の寄生せる徵候を現はす場合には、嚔煙草を鼻孔に挿入し、嚔の都度其出で來たる幼蟲を殺すべし、砒石劑其他の劇劑を用ふるも蛆は容易に死することなし、蛆の發生夥しくして加害甚だしき場合は、鼻骨を切開して其内の蛆を殺すべし。

双翅目

(三)うしばい Hypoderma bovis Deg.（第十圖7）

被害動物　牛。

特徵　成蟲　黑色にして軟毛を密生す、顏は灰黃色、胸背に黑色の四縱條を負ひ、橫皺の前方に綠黃稀に白色の長毛を簇生す、稜狀部は黃色、後胸背及び腹部は黑色、後者基部の兩側は白色若くは黃色、尾端は赤黃、翅は大にして少しく灰色を帶び、脈は褐色、平均棍は黑褐、體長四分三厘乃至五分。

に入り次て胃腑に達す、後口鉤を以て胃壁に懸り液汁を吸收す、老熟すれば黑色卵形の蛹となり、馬糞と共に體外に出づ。

驅除法 主に放牧せる馬に寄生するものなれば、其驅除豫防困難なり、務めて網を以て蠅を捕へ、又金櫛にて卵子をかき取るべし、幼蟲の胃腑内にあるものを殺すには蓖麻子油を飮ましむべし。

(二)ひつじばい Oestrus ovis L.

被害動物 羊。

特徵 成蟲　體灰黃、黃白及び黑色の斑紋を裝ひ、顆粒狀の突起あり、觸角は黑色、脚は黃褐、翅は透明、脈は黃褐、鱗狀瓣は灰白、體長三分五厘乃至四分。

幼蟲　體は稍、圓錐形に近く、腹面は平たし、第二節より第十節まで各節の背上に劍狀の横隆起を具へ、其兩側に一双の瘤狀突起あり、又腹面には疣狀突起多し、初めは白色なれども次第に褐色の横紋を有するに至る、體長六分五厘乃至一寸。

經過 年一回の發生をなす、成蟲は七月より十月に亘りて出づ、蠅は胎生兒を鼻孔に產下す、幼蟲は深く鼻孔に入り其內部に寄生するを以て大害を加ふ、約九

双　翅　目

(一)うまばい　Gastrophilus equi F.（第十圖6）

被害動物　馬・牛。

特徴　成蟲　黄褐、頭・觸角・脚及び腹部は黄色、胸背に軟毛を密生し、稜狀部に刷毛狀の長毛を簇生す、翅は灰白半透明、中央の大紋及び翅端の二小紋は暗色なり、各腹部の基部は黄褐、雄にては腹部下方に彎曲し、雌にては最後の二節膝狀に曲折す、體長四分五厘内外。

幼蟲　初めは白色、馬の體内より出でたるときは黄赤色を呈す、前端細く、口に二鈎を裝ふ、體の中央部最も廣く、尾端は截斷狀に終る、各節に二列の棘狀突起列ありて後方に向ふ、體長六分乃至六分五厘。

經過　年一回の發生をなす、九ヶ月乃至十ヶ月間は寄主の體内にあり、蛹は六月より十月に亙りて出づ、成蟲は好んで山の頂上に暄を負ふ、高飛する性あり、雌は七百内外の卵子を馬の體毛に產附す、卵は黄白色にして長さ四厘内外、稍、圓柱形にして末端は斜に截斷せられたるが如し、一匹の馬に產附せらるゝ卵數は四百乃至五百、卵子孵化すれば毛間に侵入して皮膚に達し、口鈎を以て孔を穿つ、馬は之が爲めに痒みを覺え、之を舐るに當り幼蟲は舌に附着して口腔内

被害動物　家蠶。

特徴　成蟲　體は灰黑、顏は灰白にして銀光を放つ、觸角黑褐、胸背に黑色の五縱條を裝ふ、稜狀部は黃褐、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黃褐、鱗狀瓣は白色、雄には腹部の兩側に暗黃の大紋あり、全體剛毛多し、體長四分內外。

幼蟲　體は圓柱形をなし、頭部に向て尖小す、口部に二個の黑色鈎を裝ひ、尾端は截斷狀に終る、橫皺多し、體長六分乃至七分。

經過　年一回の發生にて越年す、翌春五月頃羽化し、葉下に二粒乃至三粒の卵子を產下す、一頭の總卵數は六千內外、卵子は普通葉の中肋に沿ひて產下せられ、葉と共に蠶兒の胎內に入る、十分成長すれば蠶體を辭し地下に下りて蛹化す、蛹は黑色なり。

驅除豫防法　蠅は葉上にありて喧を負ふの性あるを以て網を以て捕ふべし、蠶兒の病徵を現はすゝのは可成別に上簇せしめ、結繭後速に蒸殺して蛆の脫出を防ぐべし。

牛蠅科　Oestridae.

經過 年數回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、卵は母體內にて成長し、幼蟲となりて産下せらる、一週間內外にて一代を終る、而して生魚と共に人類の胃腑內に入り大害を加ふることあり。

双翅目

(二〇)ひめしまばい Sarcophaga melanura Meig.

被害物 同前。

特徵 成蟲 前種に似たれども、形小にして腹部の斑紋は光澤ある淡黃褐、雄の尾端は光澤ある黑色にして灰色の黃紋を裝ふ、雌にては灰色、體長三分七厘乃至四分五厘。

(二一)こしまばい Sarcophaga privigna Rond.

被害物 同前。

特徵 成蟲 「しまばい」に酷似す、形小なれども割合に太し、翅は殆ど透明にして、「しまばい」の如く暗色を帶びず、腹部の斑紋は少しく黃色を帶ぶ、體長三分五厘乃至四分。

(二二)かひこのうじばい Sturmia (Crossocosmia) sericariae Rond.

Tachina cilipes Macq. (第十圖5)

の蠅は五月、第二回は八・九月に亙りて現はる、人畜を螫し大害を加ふることあり、殊に牛馬に「ツレバノソーミア」病菌を移殖して大害を與ふ。馬の「フラフラ」病を媒介するを以て注意すべし。

驅除法　林間にありては火繩を携ふべし、蓖麻子油の臭氣は之を驅除し得べし、又家畜房にありては黄昏若くは早朝蠅の靜止する處に除蟲菊の浸汁に「アルボース」石鹼を混じ灌注すべし、又網を以て捕ふべし。

(一九)しまばい *Sarcophaga carnaria* L.（第十圖4）

被害物　肉類。

特徵　成蟲　灰色、顏は光澤ある黄色、頭頂・觸角及び下唇鬚は黑色、眼は赤褐、胸背に五個の黑縱條ありて、兩側にあるものは短し、稜狀部の中央に一個の暗色紋を裝ふ、翅は透明、少しく暗色を帶ぶ、腹部は黑色、各節に四個の灰白紋を裝ふ、鱗狀瓣は白色、脚は黑色、雄にては後脛節に黑色の房狀毛を裝ふ、體長四分五厘乃至五分。

幼蟲　「きんばい」の幼蟲に酷似す、白色にして疣狀突起を散在す、尾端の肛門下に二個の肉狀突起あり、口部の鈎は小にして判然せず、體長三分五厘乃至四分。

被害物　同前。

特徵　成蟲　灰黑、腹部は藍色、顏は雄黃褐、雌銀白色にして少しく黃色を帶ぶ、口吻鞘は赤褐、觸角は黑褐、第三節の基部は赤褐、前胸の氣門は黃色、脚は黑色、鱗狀瓣灰色、其周圍は白色、體長四分乃至四分五厘。

(一七)こくろばい　Calliphora erythrocephala Meig.

特徵　成蟲　前種に酷似すれども遙に小形、顏は赤褐、觸角は黑褐、第三節の基部は灰色、腹部は藍色、背線及び各節の橫帶は黑色、體長二分乃至三分五厘。

双　翅　目

(一八)さしばい　Stomoxys calcitrans L.（第十圖3）

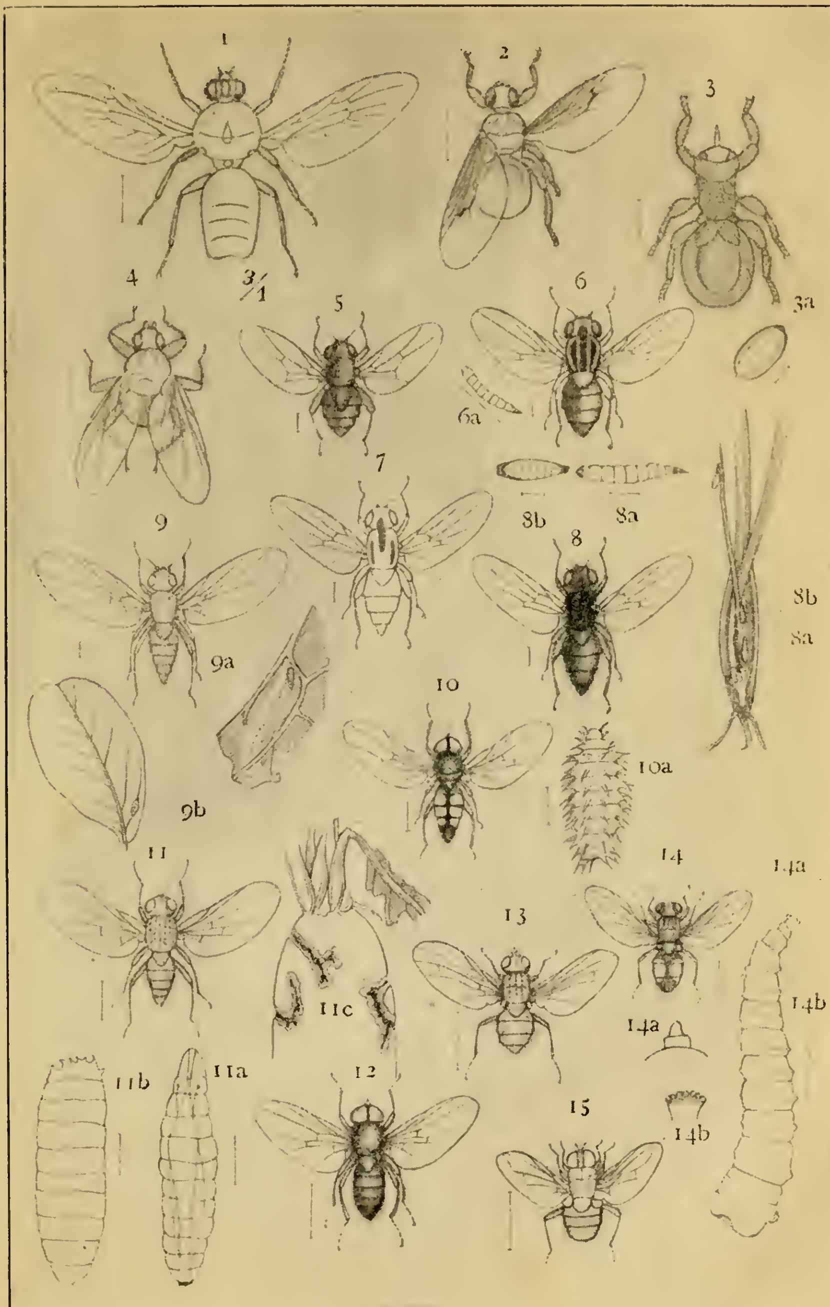
被害動物　人畜、

特徵　成蟲　灰色、頭頂に馬蹄狀の黑紋を裝ふ、顏は黃白色にして金光を放つ、胸背に四個の黑縱條を走らす、腹部は卵形に近く、之に七個乃至九個の大黑紋を散在す、脚は黑色、脛節の基部は赤褐、體長二分乃至二分七厘。

幼蟲　光澤ある乳白色、口部に不等なる二鉤を裝ひ、氣門の周圍は黑褐、尾端の周圍には肉狀の突起多し、體長三分。

經過　年二回の發生をなし、幼蟲の有樣にて、普通馬糞中にありて越年す、第一回

第九圖


1
2
3
4
3/1
5
6
3a
6a
7
8b
8a
9
8
8b
8a
9a
10
10a
9b
11
14
14a
13
11c
14b
14a
11b
11a
12
15
14b

第　九　圖

1. Hippobosca equina Latr.　うましらみばい　(P. 48)
2. Hippobosca capensis Olf.　いぬしらみばい　(P. 49)
3. Melophagus ovinus L.　ひつじしらみばい　(P. 49)
   a. 蛹
4. Ornithomyia aobatonis Mats.　あをばとしらみばい　(P. 50)
5. Drosophila obscurus Fall.　しやうじやうばい　(P. 51)
6. Chlorops circumdata Meig.　むぎもぐりばい　(P. 51)
   a. 幼蟲
7. Chlorops oryzae Mats.　いねきいろはむぐりばい　(P. 52)
8. Oscinis oryzaella Mats.　いねもぐりばい　(P. 53)
   a. 幼蟲　b. 蛹
9. Phytomyza nigricornis Macq.　こむぐりばい　(P. 54)
   a. 幼蟲　b. 蛹
10. Homalomyia canicularis L.　ひめいへばい　(P. 54)
   a. 幼蟲
11. Anthomyia flavopicta Mats.　だいこんばい　(P. 55)
   a. 幼蟲　b. 蛹　c. 被害ノ有様
12. Ophyra nigra Wied.　ひめくろばい　(P. 56)
13. Cyrtoneura stabulans Fall.　おほいへばい　(P. 57)
14. Musca domestica L.　いへばい　(P. 57)
   a. 幼蟲ノ頭部　b 氣門
15. Lucilia caesar L.　きんばい　(P. 59)

特徴 成蟲 前種に酷似すれども遙に大形、青藍色にして觸角は黒褐、脚は黒色、體長三分乃至三分五厘。

幼蟲 同じく前種に酷似すれども、尾端に赤褐の長楕圓紋ありて横置せらる、體長五分、

經過 同前。

(五)おびきんばい Lucilia dux Esch. (第十圖1)

被害物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども金綠色にして、顏及び觸角は黃色、胸背に剛毛少なし、各腹節の末端に紺色帶あり、體長三分乃至三分五厘。

幼蟲 不明。

經過 年幾回の發生をなすか判明ならざれども、小笠原島・臺灣の如き熱帶地方・に産するものなれば、少くも十數回に達すべし、前揭の地方にありては何れの時期にも見得べく、動物性の食物に大害を加ふ、早朝群をなして蜂の如き聲を發す。

(六)くろばい (蒼蠅) Calliphora lata Coq. (第十圖2)

黑色、灰白の光澤ある斑紋を裝ふ、體長二分二厘乃至二分五厘。
經過　同前、此害蟲は山間の道路に多く、都市には稀なり。

(三)、きんばい　Lucilia caesar L.　(第九圖15)
被害物　動物性の食物。
特徵　成蟲　體は金綠色、前胸背の前緣に白粉を裝ふ、複眼は赤褐、顏は上方より見れば銀白色、觸角は黑褐、翅は透明、脈は黃褐、腹部は稍く球形に近し、日數を經たるものは金黃色を呈す、脚は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、體長二分五厘乃至三分。
幼蟲　白色にして少しく黃色を帶ぶ、體は十一節より成り、尾端の氣門及び口部は暗色を呈す、體長四分。
經過　年數回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春動物性の食物其他屍骸に產卵す、蛹は初めは赤褐にして次第に黑褐となる、約十日間にて一代を終る、時々生魚と共に人類の胃腑内に入り大害を加ふることあり。

(四)、おほきんばい　Lucilia jeddensis Big.
被害物　同前。

被害動物　人類。

特徵　成蟲　體は黑褐顏は黃白、觸角及び小腮鬚は黑色、胸背に四箇の黑縱條を裝ふ、雄にては腹部の兩側に黃褐紋あり、體長(雌雄)二分乃至三分。

幼蟲　白色、長圓錐形にして尾端は截斷狀に終り、之に褐色の二氣門を有す、口部は單に一個の黑色鉤を有するに過ぎず、體は十一個の環節より成り、第三節の兩側に各一個の氣門を有し、體下には疣狀突起ありて運行に便ならしむ、體長四分。

經過　年七八回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春馬糞其他の腐敗物に產卵す、一雌の總卵數は百二十內外、約一週間にて老熟し、次で蛹化す、蛹は赤褐にて圍蛹なり、長さ一分八厘。

(三)くろいへばい　*Musca corvina* L.

被害動物　同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども、雄にては顏の兩側銀白色、胸背は光澤ある黑色にして更に濃色の判然せざる四縱條を走らす、但し光線の工合により前胸の前方は白色を現はす。腹部は黃褐、第一節・背線幷に尾端は黑色、雌にては腹部

特徴　成蟲　體は光澤ある黑色、眼は小豆樣の赤褐、觸角は黑褐、胸背は光線の工合により少しく藍色を現はす、翅は透明、脈は黄褐、光線の工合にて紅色を現はす、體長二分。

幼蟲　家蠅の幼蟲に酷似す。

經過　便所に普通なる種にして、幼蟲は糞尿を以て食とし、肥料成分を減却すれども未だ害蟲と認むべきものにあらず、其經過未だ詳かならずと雖も、病菌を傳播する重なるものなるべし。

双翅目

(一〇)おほいへばい　Cyrtoneura stabulans Fall.（第九圖13）

被害動物　人類。

特徴　成蟲　暗灰色、胸背に四本の黑縱條を具へ、腹部の中央に黑色の一縱條を走らし、褐色の光澤ある斑紋を裝ふ、觸角の中部・小腮鬚・稜狀部の末端及び脚は黄褐、時に黑色なることあり、體長三分乃至三分五厘。

經過　幼蟲は植物性の腐敗物及び馬糞を以て食とし、成蟲の有樣にて越年す、翌春屋内にありて食物に集まり大害を加ふ、又病菌の媒介をなす。

(一一)いへばい　Musca domestica L.（第九圖14）

少しく黄色を呈す、雄の腹部には一黒條を縦走す、雌は之を缺く、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲　乳白色にして少しく黄色を帶ぶ、體は圓柱形にして判然せざる十一節より成り前方に突出す、判然せる頭部なく、尾端は截斷狀に終り、其下縁に短齒を列ぬ、體長三分。

經過　年三四回の發生をなす、普通成蟲の有様にて越年し、翌春植物の根際に二百内外の卵子を産す、卵期は十日内外、孵化すれば直ちに根邊に入りて食害す、之に罹りたる蘿蔔は幼蟲分泌液のために腐敗すること速かなり、普通四週間内外にて一代を終る。

驅除豫防法　蠅の出づる時期を見計ひ網を以て捕ふべし、根際に石油乳劑の二十倍液を注入すべし、又第三回間引後石炭酸に百倍乃至二百倍の水を混じ鋸屑に浸し、根際に撒布すべし。「タール」を塗抹せる紙を適宜に切りて根際を掩ひ置くべし。

（九）**ひめくろばい**　Ophyra nigra Wied.（第九圖12

被害動物　人類。

被害物　室内の食物。

特徴　成蟲　體は灰褐、觸角は黑褐、端刺は羽狀をなす、胸背に黑褐の三縱條あり、翅は透明、少しく暗色を帶び、脈は暗黃、雄にては腹部の兩側は暗黃、雌にては全部灰褐、體長一分八厘乃至二分二厘。

幼蟲　暗色にして長楕圓形をなし、體上及び體側に肉狀の突起多し、體長四分。

經過　年發生の回數は未だ判然せざれども少くとも數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春室內の食物に集り、又時に室內に飛翔す、「いへばい」の如く大害を加へず、幼蟲は植物性の腐敗物に栖息す。

驅除豫防法　木片に鳥黐を塗り天井より吊り置くべし、又數多群をなして室內に飛翔するものなれば網を以て掬ひ捕ふべし、蠅採罎に砂糖液・酢・酒等を入れて誘引すべし、植物性の腐敗物は燒棄して除去すべし。

(八)だいこんばい　Anthomyia flavopicta Mats.（第九圖11）

被害植物　蘿蔔・蕪菁・其他の十字科植物及び荳科植物。

特徴　成蟲　體は暗灰色、胸背に判然せざる暗色の縱條を裝ふ、觸角及び脚は黑色、雄にては觸角上に一黃紋あり、雌にては複眼の內側白色なり、翅は透明、基部

及び脛節の基部は黄色、體長一分乃至一分二厘。

經過 前種と同一なるべし、前種と同時に發生したるものなれば、其差異は判然せず。

驅除法 同前。

(六)なむぐりばい Phytomyza nigricornis Macq. (第九圖9)

被害植物 十字科植物・豌豆。

特徴 成蟲 灰黒色、頭は黄色、頭頂に一暗色紋を裝ふ、觸角は黒色、翅は大にして體長より長く、脈は黄白、平均棍は白色、脚は黒色、腿節の末端は暗黄、體長六厘。

幼蟲 白色、稍紡錘狀をなせども前端は一層細小す、體長一分。

經過 發生の回數未だ明かならず、六七月頃、十字科植物及び豌豆の如き荳科植物の葉中に蜿蜒たる隧道を穿ちつゝ食害し、老熟すれば葉中に蛹化す、蛹は黒褐にして長さ七厘あり、越年の狀態は判然せざるも、恐らくは他の蠅に同じく成蟲の有樣なるべし。

驅除法 同前。

(七)ひめいへばい Homalomyia canicularis L. (第九圖10)

經過　年發生の回數は未だ判然せざるも二回なるが如し、新潟地方にありて稻を害すること少なからずと云ふ。

驅除法　同前。

双翅目

（四）いねむぐりばい　Oscinis oryzella Mats.（第九圖8）

特徴　成蟲　暗黑、少しく綠色を帶ぶ、觸角は稍〻卵形をなし、端刺に短毛あり、翅は透明、少しく暗色を帶び紫樣の虹色を表はす、平均棍は白色、脚は黑色、中肢の轉節は黄褐、體長八厘。

幼蟲　白色、少しく靑色を帶ぶ、形稍〻紡錘狀に近く、前端に黑色の二齒あり、體長一分二厘。

經過　年二回の發生、第一回は五月下旬乃至六月中旬、第二回は六月下旬乃至七月中旬、成蟲は葉内に白色長楕圓形の卵子を一粒づゝ產下す、其數七八十粒ありて數回に之を產卵す、蛹は黑褐、普通莖上に附着す、蛹のまゝにて越年す。

（五）いねあをむぐりばい　Siphonella viridiaenea Mats.

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、少しく大形にして綠色一層甚だしく、顏は灰白にして、其前緣は半圓形に刳らる、體下及び脚は光澤なき灰綠色、腿節の末端

特徴　成蟲　黄色、頭頂・前胸背及び腹部は黒色、前胸背に二個の黄縦條を装ふ、翅は透明にして少しく紅色を帯ぶ、體長一分五厘。

幼蟲　黄白色、半透明に近し、體長一分。

經過　年二回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、翌春白色の卵子を麥其他禾本科植物の葉上に產下し、穂出づれば之に移りて食害す、六月下旬乃至七月上旬蛹化す、本邦に於ては其害未だ大ならず、蛹は黄色、兩端細小す、蛹期三週間、八月羽化す、第二回の幼蟲は十月上旬現はる。

驅除法　成蟲發生の時期を見計ひ、麥圃に至り掬網を以て捕殺すべし、幼蟲を捕ふべし、幼蟲の加害せる麥葉の局部は黄色に變ずるを以て容易に認め得べし。

(三)いねきいろはむぐりばい　Chlorops oryzae Mats.（第九圖7）

被害植物　稻。

特徴　成蟲　體黄色、頭頂の一紋及び後頭は黒色、胸背には三黒條を縦走す、其中央にあるものは胸背の中部に達す、翅は透明、紫色の虹色を表はす、腹背暗黄、基部は黒色、體長八厘。

幼蟲　白色、稍紡錘狀に近く、尾端に突起を有す、體長二分二厘。

驅除法　鷄蝨と同樣の驅除法を行ふべし。

短角亞目　Brachycera

家蠅科　Muscidae

〔双翅目〕

(一)、**しやうじやうばい**　Drosophila obscurus Fall.　（第九圖5）

被害物　酒・酢・醬油・味噌等。

特徴　成蟲　體は淡黃褐、眼は赤褐、腹部は黑褐、觸角・顏・脚・平均棍及び體下は淡黃、翅は體長より長くして透明、紫色の虹色を表はす、體長七厘内外。

幼蟲　白色、細長にして頭の細小なる等家蠅の幼蟲に異ならず、體長一分。

經過　一年數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春厨房にありて種々の液汁に卵子を產下す、殊に味噌の如きは大害を被ることあり。

驅除法　鳥黐を以て蠅を捕ふべし、幼蟲の味噌其他の液汁に發生する憂ある場合は、胡椒・山椒等の粉若くは葉を入れ置くべし。

(二)、**むぎもぐりばい**　Chlorops circumdata Meig.　（第九圖6）

被害植物　麥・其他の禾本科植物。

血液を吸收す、其盛に發生せる場合は蟲糞のため毛の綠色を呈するに至ることあり又羊は痒を治せんが爲め自體を他物に摩し毛の品質を損すべし、舍飼となすときは甚だしく蕃殖せざれども、野外飼育の場合は發生頗る盛にして大害を加ふることあり。

驅除法　蛹は土塊間若くは羊糞間にあるを以て、灰汁に石炭酸の少量を混じ撒布すべし、家畜房は常に淸潔に保ち、壁板・柱等の空隙にも同液を注入すべし、毛間にあるものは胡桃葉を酢に浸漬したるものにて洗滌すべし、又「アルボース」石鹼の溶液に除蟲菊を浸漬したるものにて洗ふも効あり。

(四)、あをばとしらみばい　Ornithomyia aobatonis Mats.（第九圖4）

被害動物　鳩。

特徵　成蟲　暗黃、前胸背の中央に淡色の縱條を裝ひ、其兩側に各一個の褐紋あり、翅の長さは體に二倍す、腹部は小にして横卵形、頭部に三個の單眼を具へ、脚に三爪を有す、體長一分五厘、翅端まで三分。

經過　年發生の回數は判然せざるも、七・八の兩月頃鳩に普通なり、性甚だ活潑にして、直ちに飛去するを以て、注意せざれば捕獲し難し。

間に入りて蛹化す、蛹は球形にして二突起を有し、初めは暗色なれども次第に褐色となり終に光澤ある黑色となる、約四週間を經て羽化す。

驅除法　成蟲は普通馬の尾下臀部及び膊部に靜止するを以て、網にて捕殺すべし、蛹は光澤ある黑色を呈するを以て注意すれば發見するに難からず、尾下其他臀部に一割の「テレビン」油を混じたる蓖麻子油を塗抹し置くべし。

(二)いぬしらみばい　Hippobosca capensis Olf.（第九圖2）

被害動物　犬。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、小形にして淡色、翅脈は翅と同色にして、横脈及び其周圍のみ黑褐なり、體長一分五厘乃至一分七厘。

(三)ひつじしらみばい　Melophagus ovinus L.（第九圖3）

被害動物　羊。

特徴　成蟲　黃褐、體下は淡色、體毛及び爪は黑色、單眼・稜狀部及び翅を缺く、眼は甚だ細く、腹部は袋狀をなして膨れ、脚は太く二齒ある爪を有す、體長一分五厘。

經過　年四五回の發生をなす、老熟したる幼蟲は母體より出づるや直ちに土塊若くは羊糞下に潛みて蛹化す、蛹期三週間內外、成蟲となれば羊毛間に入りて

第八圖



第　八　圖

1. Papilio sarpedon L.　　くろたいまい　(P. 45)

   a. 幼蟲　　*b.* 蛹

2. Papilio polytes L.　　しろをびあげは　(P. 46)

3. Papilio polytes L. var. pammon L.　　しろをびあげは變種

氣によりて其居所を知り得べし、常に臭液を滲出するを以て直接手にて殺すよりも寧ろ鑷子の如きものを以て捕ふべし、粗布にて手袋を造り捕ふるも可なり。

双翅目 Diptera

蝨蠅亞目 Pupipara

蝨蠅科 Hippoboscidae

(一)うましらばい Hippobosca equina Latr.（第九圖1）

被害動物 馬・牛・犬。

特徴 成蟲 體は黄褐、頭・前胸・背の斑紋、幷に稜狀部は黄白、翅は透明、脈は黑褐にして太し、脚は淡黄褐、前腿節太く、後腿節の末端幷に脛節に黑褐紋を裝ふ、體長二分。

幼蟲 體は白色、成蟲の體內を出づるや直ちに蛹化す。

經過 一年四五回の發生をなす、成蟲は唯一匹の幼蟲を產す、六・七・八の三ヶ月間は何れの時期と雖も成蟲を見得べし、幼蟲は母蟲の體外に出づるや直ちに毛

經過 年數回の發生をなす、臺灣及び沖繩に產すれども、本州には未だ發見したることなし、蛹の有樣にて越年す、卵子は一個宛葉下に產附せらる、蛹は綠色、肩部白色なるもの多し、甚だしく彎曲し、頭部の角狀突起は大にして、胸背にある突起も亦大なり、何れの時期にありても此蝶を見得べし、其害餘り大ならず。

蝶　亞　目

鳳蝶一般の驅除法

一、網を以て蝶を捕ふべし、特に花園を設くるときは其捕獲容易なり、特に其集來する花は「くさぎ」・「ぼけ」・「らんたな」・「ふろくす」・「ゆり」等なり、成蟲は或一定の場合に必ず廻り來るものなれば、捕獲には其場所を發見すること必要なり、又雨後路上に靜止して水を吸收する性あり、又河畔の水邊或は小山の頂上に居ること普通なり。

二、蛹は常に食葉の近邊にあるを以て搜索すべし、一本の絹絲を以て自體を縊り、俗にお菊蟲と稱するものとなれるを以て、注意せば發見するに難からず。

三、幼蟲は多く葉上にありて食害するものなれば、石油乳劑の二十倍液を遠くより樹全體に灌注すべし、殊に幼時に於て一層の効あり、幼蟲は第一節の背上より黃角を出だすを以て其存在を認むること容易なり、又一種固有の臭

三節及び第五節に突起あり、體長一寸五分。

經過　年二回の發生、第一回は五六月、第二回は八九月、臺灣にありては三四回の發生をなすものゝ如し、蛹の有樣にて越年す、卵子は常に葉下に一個づゝ產下せらる、蛹は褐色にして胸背上の突起は甚だしく突出す、體長一寸二分。

(八)しろをびあげは　Papilio polytes L.（第八圖2）

被害植物　柑橘類。

特徵　成蟲　二形あり、一は帶狀に一列をなせる七個の黃白紋を後翅に裝ひ、他は中室の外方に五白紋を有す、前者は全體暗黑にして各室の末端に弦月形の小白紋を裝ふ、但し種類により紋狀の大なるものあり、後翅の內緣角に橙黃の一弦月紋を裝ひ、其上方に青色鱗を散在す、後翅裏面の各室末端に白色乃至橙黃色の弦月紋を裝ひ、第七室に二紋あり、後者にありては前翅の外半は淡色、後翅の各室は表裏共に橙黃色の弦月紋を裝ひ、第一室及び第二室に各二紋あり、體長六分乃至八分、開張二寸六分乃至三寸二分。

幼蟲　綠色、第三・第五・第七・第八・第九及び第十二節の背上に白色の綾紋を裝へる暗色の鞍狀紋あり、體長一寸三四分。

分。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、蛹は帶蛹、頭及び背上の突起は前種より稍長し、蝶は、前種と同時に出づ、卵子は一個宛柑橘の葉下に產下せらる、其孵化したる幼蟲は、初め黑色にして白紋を有するを以て恰も鳥糞の如し、百合の花に集來すること前種に異ならず。

(七)くろたいまい（あをすぢあげは）Papilio sarpedon L.（第八圖1）

被害植物　樟・桂。

特徵　成蟲　體は暗黑色、腹側に各二條の白線を縱走す、翅は黑色、前翅の中央に青色紋を縱列し、後緣に至るに隨ひ其太さを增す、後翅には三個の青色紋を縱列し、第二室にあるものは細長し、各室の末端に弦月形の靑色紋を裝ふ、後翅裏面の翅底及び第一室より第五室に至る迄各室に一赤紋を有す、體長八分、開張二寸五分乃至三寸。

幼蟲　濃褐色にして灰黃の小斑を散在す、氣門上線は黃色にして小突起より成り、氣門下線は黃褐、體の前方は肥大し、後方に至るに隨ひ次第に細小す、第二節の背上には黃條を橫走し、其兩端は黑紋に終る、頭及び尾節に突起あり、尙第

第七圖



第　七　圖

1. Papilio bianor Cram.　からすあげは　(P. 41)
   a. 蛹
2. Papilio machaon L.　きあげは　(P. 42)
   a. 幼蟲　*b*. 蛹
3. Pailio xuthus L.　あげは　(P. 43)
   a. 幼蟲　*b*. 幼蟲四齡　*c*. 蛹

被害植物 柑橘類・黄蘗木。

特徴 成蟲 體綠黄、背上に黑縱條あり、尾端に至りて終る、翅は黄色乃至淡綠黄、前翅に黑紋と黑條多く、中室に黑色の縱條と大なる黑横線あり、各室の末端には一黄紋ありて下方にあるものは弦月形をなす、後翅の外縁は黑色、青藍色の鱗毛を各室に裝ひ、斑紋の如き觀をなす、內緣角に橙黄色の大紋ありて其中央に一黑點を裝ふ、體長八分乃至一寸、開張二寸七分乃至四寸。

幼蟲 暗綠、赤黄紋を散在し、第四・第八及び第九節の背上に最も多し、第三節の兩側に眼狀紋を有し、其中央は黑色、更に黄色の細線ありて二分す、此紋の中間に馬蹄樣の四紋あり、第三・第四の兩節は最も太く、頭部を收縮するときは此の部恰も頭の如く、且眼狀紋を有するを以て特に其然るを覺ゆ、第四節と第五節との縫皺は黑色、之より各一條の細線を出だす、此線は第六節に於て最も深く彎曲し、斜走して第八節の背上に出て、銳角をなして互に相合す、第七・第八の兩節に於ける斜條の外側は黑綠、第九及び尾節も亦同樣に暗黑を呈する部分あり、尙第四節より第十一節に至る迄兩側に各一個の輪紋ありて、第六・第七の兩節に於けるものの最も大なり、頭は黄綠にして少しく暗色を帶ぶ、體長一寸二三

に七個の藍色紋と七個の黄色紋を具へ、内縁角に赤褐紋を有し、其下方に黒紋あり、體長八分乃至一寸一分、開張二寸六分乃至四寸。

幼蟲　綠色、各節の背上に一條の黑帶ありて、内に四個乃至六個の赤褐紋を具へ、第五節より尾端に至る迄氣門部に鉤狀の黑紋を裝ひ、中央に各一個の赤黃紋あり、各關節の接合部及び腹面に散在せる斑紋も亦黑色なり、頭部黃綠、四條の黑條あり、體長二寸。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、第一回の蝶は三四月より五月に亙り、第二回は五・六・七月、第三回は七・八・九の三ヶ月に跨りて現はる、蝶は卵子を一個宛葉下に產附す、卵は黃綠にして稍〻球狀をなし、數日の後孵化す、初めは黑色にして赤色の突起と白紋を有すれども、成長するに隨ひ固有紋を表はす、蛹は灰褐乃至黃綠にして黃色條あり、頭部より二個の角狀突起を出だし、胸背及び胸側にも亦各一個の小突起あり、幼蟲に觸るゝときは臭角を出だして臭液を滲出す、蝶は甚だ活潑にして百合の花に來るもの多く、時に又一定の場所に飛翔す。

（六）あげは　Papilio xuthus L.（第七圖3）

第六圖



第　六　圖

1. Papilio memnon L.　ながさきあげは　(P. 39)
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
2. Papilio helenus L.　もんきあげは　(P. 40)
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
3. Papilio demetrius Cram.　くろあげは　(P. 40)
   a. 幼蟲　*b.* 蛹

成蟲　體は黑色、翅は黑色、青藍色若くは青色の鱗毛を密生す、前緣及び翅脈は黑色、前翅後緣に近く天鵞絨樣の黑紋あり、第三・第四の脈上にも亦同樣の軟毛あり、外緣は白色、後緣の中央に青藍色の鱗毛多く、外緣は黑色、其內に青藍色の弦月紋あり、內緣角に黑紋ありて其內側は赤色、外側は白色、變種多し、體長八分乃至一寸一分、開張二寸五分乃至四寸五分。

幼蟲「くろあげは」の幼蟲に酷似す、綠色、第二及び第三節の背上に黑斜條あり、第四及び第五節の接合部に天鵞絨樣の黑帶を有する等「くろあげは」に異ならず、體長六分乃至八分。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年する等「くろあげは」と略〻同樣なり。

(五)、きあげは　Papilio machaon L.（第七圖2）

被害植物　胡蘿蔔・防風・茴香。

特徵　成蟲　體は淡黃色にして背上に太き黑線を縱走す、前翅は黑色、三列の黃紋あり、上列にあるものは三個にして、其中二個は中室にあり、中央を斜走せるものは八個、第七室にあるものは中央に黑紋を裝ふ、外緣に八個の小黃紋を横列す、後翅底の大半は黃色、翅底の內緣及び脈は黑色、外緣は天鵞絨樣の黑色、內

特徴　成蟲　前翅暗色、中室に五條、各室に一條の黑線を縱列し、第一室には二條を裝ふ、後翅は黑色、內緣の末端に近く橙黃の一環紋を裝ひ、第二室に弦月形の一橙黃紋あり、尤も種類により此紋の判然せざるものあり、裏面の各室端に橙黃の弦月紋ありて、第三・第四及び第五室にあるものは小なり、雄にありては濃色にして後翅の前緣黃白となり、體長六分乃至八分、開張三寸乃至四寸五分。

幼蟲　暗綠色、第三節の兩側に黑色の眼狀紋を裝ひ、其中間に四個の環紋あり、第七節の氣門上には各一條の斜走せる黑線あり、第八節の背上にて波狀をなす、第九節の氣門上にも亦同樣の斜條あり背面にて相合す、以上の黑線上には灰白の部分あり、尙第五節乃至第十一節の兩側に楕圓形の白紋ありて黑輪を有す、初めは黑色にして白紋を裝ふ、體長一寸七分乃至二寸一分。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、蛹は暗褐、頭部に長き角樣の二突起を有し左右に開く、胸部の突起は甚だ高からず、腹背は少しく弓狀をなし、第三腹節は廣く左右に突出し、其局部は他よりも濃色なり。

四、からすあげは　Papilio bianor Cram.　（第七圖1）

被害植物　柑橘類・黃蘗木。

（二）**もんきあげは** Papilio helenus L.（第六圖 2）

被害植物 柑橘類。

特徴 成蟲 體翅黑色、後翅第四・第五・第六及び第七室に黄白の大紋ありて、中央にある二紋は大なり、内縁角に暗紅色の弦月形を裝ふ、後翅裏面の各室に弦月形の橙黄紋ありて、第二室には二個あり、前翅裏面の中室に五個、後翅に白色鱗の三縱條を裝ふ、體長八分乃至一寸、開張四寸乃至四寸五分。

幼蟲 綠色、第三節及び第九節に光澤なき黑色の斜條を裝ひ、第五・第七及び第八節には天鵞絨樣の黑色斜條を有す、腹面は灰白なり、體長一寸五分乃至二寸二分。

經過 年三回發生し、蛹の有樣にて越年す蛹は綠色、帶蛹にして角樣の二突起を有す、卵子は黄綠にして一個宛葉下に産附せらる、卵子より孵化せる當時は黑色にして白紋を裝ひ鳥糞に似たり、第一回の蝶は四月より五月、第二回は六・七月、第三回は八・九の兩月に跨りて出て、花に集來するの性あり。

（三）**くろあげは** Papilio demetrius Cram.（第六圖 3）

被害植物 柑橘類。

(一)、ながさきあげは Papilio memnon L.（第六圖1）

被害植物　柑橘類

特徴　成蟲　多形種にして三形あり、第一種は黑色にして後翅少しく黑藍色を帶び、青鱗を撒布し、尾樣突起を有せず、第二種は黑色なれども白色の部分多く後翅に白色の六楕圓紋を裝ひ、尾樣突起を缺く、第三種は第二種に酷似すれども尾狀突起を有し、臺灣に普通なり、何れも前翅の翅底に紅色の一紋を具へ、後翅底の裏面に暗紅の三紋を裝ふ、九州地方に稀ならず、體長一寸乃至一寸三分、開張三寸五分乃至四寸九分。

幼蟲　體は暗綠にして前方に瘤狀突起を具へ、前方に赤色條あり、尙淡褐の斜條を裝ふ、其形宛然一種の天蛾の幼蟲に似たり、體長一寸七分乃至二寸五分。

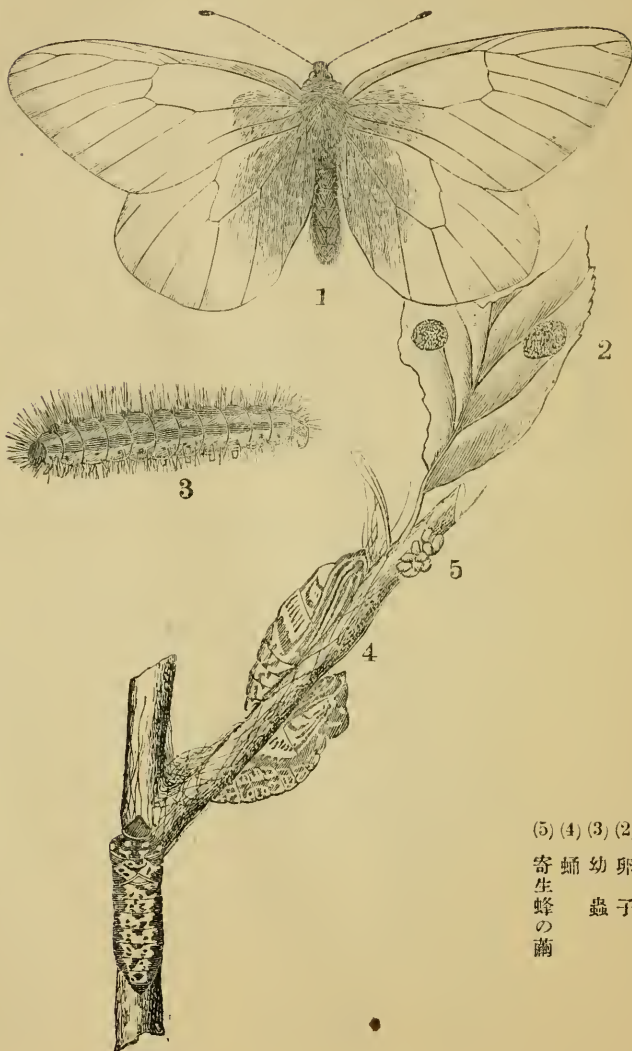
經過　年三回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、第一回の蝶は四・五・六、第二回は六・七・八、第三回は八・九・十月に跨りて現はる、卵子は黃綠にして一個宛葉下に產せらる、幼蟲は初めは黑色、白紋を裝へる「くろあげは」に似たり、蛹は帶蛹にして灰綠若くは灰褐、時に綠色なるものあり、何れも黃紋と黃條を裝ふ、九州地方に多く、好んで花に集來す、

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて枯葉の中に越年す、翌春巢より出でゝ新芽を食害し、六月上旬に至りて蛹化す、蛹は黄白、黑紋及び黄紋を散在す、氣門線は黄色、常に數個相集合し絲を以て枝上に縊らる、六月中旬乃至下旬羽化す、蝶は黄色なる長形の卵子を葉下に集合して産す、其數百數十、卵子は短き紡錘狀にして約二十五條の縱溝あり、八月中旬頃孵化したる幼蟲は食害すること少く枯葉內に數匹相集まりて越年す、冬期梢上に枯葉の垂下せるは多くは其越年せるものなり、翌春に至り溫暖の日は出でゝ食害すれども、寒冷の日は其巢に歸りて蟄居す、蝶の運行は遲鈍にして花蜜を吸收す、其害割合に大なり。

驅除法 冬期樹梢に垂下せる枯葉を採り去るべし、六月上旬乃至中旬枝上に集合して蛹化せるものを殺すべし、蝶發生の時期は網を以て捕ふべく、花に集まるの性あるを以て豫め花圃を作りて誘引すべし、幼蟲には石油乳劑なれば二十倍、魚油乳劑なれば三十倍の水を混じて撒布すべし、郭公鳥は好んで之を食す。

鳳蝶科 Papilionidae.

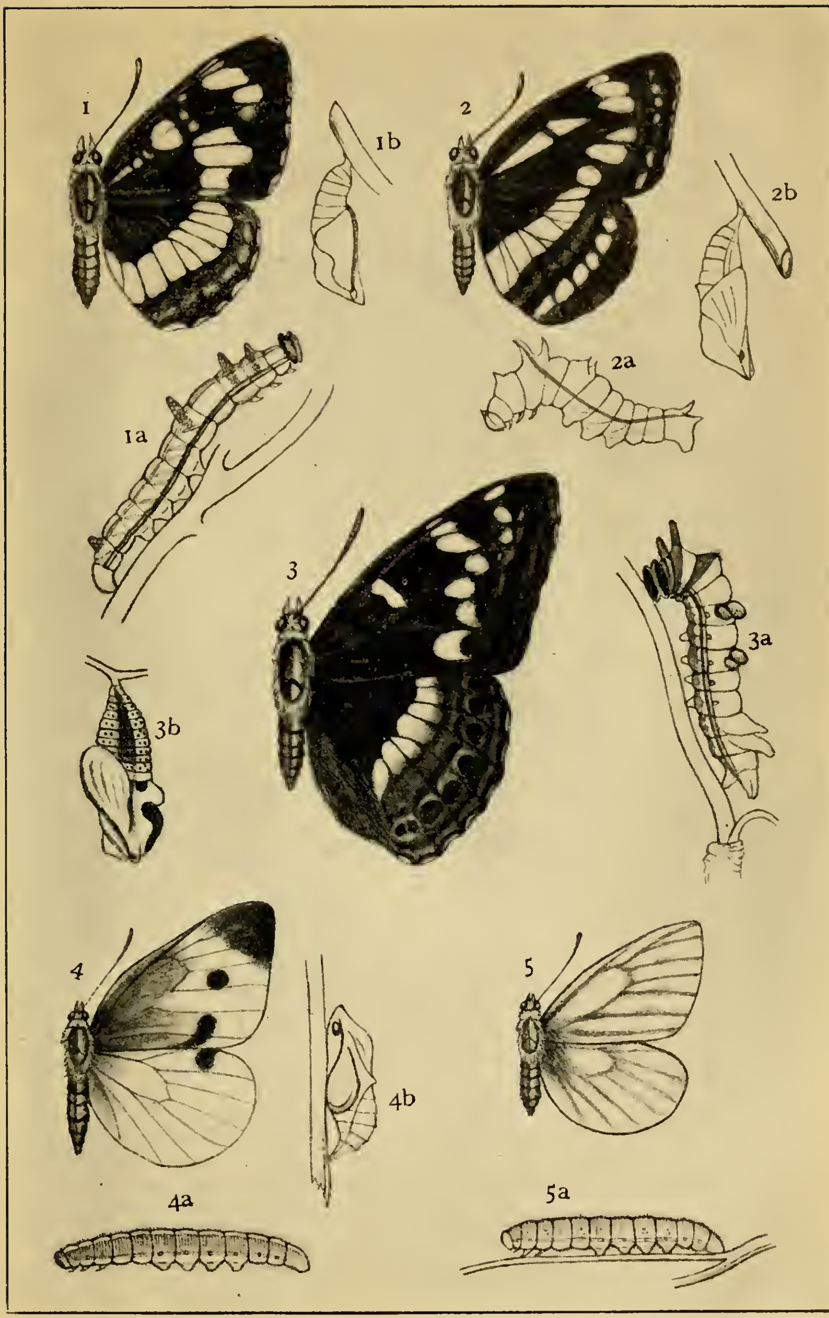
第二百七十圖　えぞしろてふ



(1) 成蟲　(2) 卵子　(3) 幼蟲　(4) 蛹　(5) 寄生蜂の繭

幼蟲　背線及び亞背線は黑褐色にして少しく紫色を帶ぶ、頭第一節及び尾節の硬皮板・氣門、脚及び其外側の瘤起は黑色・白色の長毛を密生し、背上にて黃褐の短毛あり、體長一寸二分乃至一寸四分。

第五圖



第　五　圖

1. Neptis coenobita Stoll. (lucilla F.) var. magnata Rühl. ふたすぢてふ (P. 30) *a.* 幼蟲 *b.* 蛹
2. Neptis hylas L. (aceris F.) var. intermedia Pryer. こみすぢ (P. 31) *a.* 幼蟲 *b.* 蛹
3. Limenitis populi L. おほいちもんじ (P. 32) *a.* 幼蟲 *b.* 蛹
4. Pieris rapae L. もんしろてふ (P. 34) *a.* 幼蟲 *b.* 蛹
5. Pieris napi L. すぢぐろてふ (P. 35) *a.* 幼蟲

特徴　成蟲　翅白色、前緣及び翅脈の一部は灰黑、前緣角・第一室及び第三室にある各一紋は暗黑、但し種類により此等の紋を缺くものあり、後翅は前緣に一暗黑紋を裝ひ、第三乃至第六脈の末端は暗黑、體長五分乃至七分、開張一寸三分乃至二寸。

幼蟲　少しく褐色を帶びたる綠色、兩側は少しく淡色、氣門線は黃色、氣門黑色、赤黃の周緣を具へ、全體に白色及び黑色の小點を散在し、短毛を密生す、前種に酷似す。

經過　前種に酷似す、卵子は黃色なれども少しく綠色を帶び、蛹は稍〻大なる黑紋を散在し、翅鞘緣は黃色を帶び、頭及び胸背突起の稍〻大なる等は重要なる異點なり。

驅除法　同前。

(三)えぞしろてふ　*Aporia crataegi* L.　（第二百七十圖）

被害植物　苹樹・山樝（サンザシ）（稀に梨・梅・海棠）。

特徴　成蟲　翅は白色、翅脈・外緣及び翅底は黑色、灰白毛を密生し、觸角の末端は黃白、體長八分、開張二寸三分乃至二寸六分。

幼蟲　綠色、背線·氣門線及び氣門上線は黃色、但し氣門線は斷續せり、氣門は黑色、腹面は黃綠、頭は綠褐、全面に無數の小褐紋散在し、之より黑色及び白色の短毛を密生す、體長一寸三四分。

經過　年二回若くは三回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、蛹は帶蛹にして、灰黃·綠褐若くは暗褐の諸色あり、三條の黃線あるを常とす、又體には黑褐の小紋を散在す、羽化前は白臘色を帶ぶ、頭には楔狀の突起を具へ、胸背の中央には縱隆あり、翌春四五月頃羽化し、黃色の卵子を一個宛葉下に產附す、數日に亙りて產卵するの性あり、卵子は約二週間を經て孵化す、隨つて幼蟲の出づる時期一樣ならず、第一回の蛹は普通葉下にあれども、第二回の幼蟲は老熟すれば離垣、板塀·軒下等に隱所を求めて蛹化し越年す。

驅除法　網を以て蝶を捕獲すべし、此の種は黃昏菜圃附近の叢中に集まるの性あり、花園を作り之を集めて捕ふるも亦一法なり、幼蟲には石油乳劑の二十倍液を灌注すべし、除蟲菊の粉末に四十倍の木灰を混じ撒布するも亦大効あり

蝶亞目

(二)、すぢぐろてふ　Pieris napi L.（第五圖5）

被害植物　同前。

種の樹木に注意すべし、又此等の木に豫め糖液を塗抹し置き、之に誘引して捕ふるも便法なり、糖液には醋・酒其他香氣あるものを混ずるを宜しとす、牛酪其他馬糞・牛糞等に集まるの性あるを以て注意すべし、又雌雄何れにても可なるが囮(オトリ)を用ひて誘殺すべし。

二、幼蟲には石油乳劑の二十倍液を灌注すべし、特に幼時は三十倍液にても容易に驅除し得べし、又粗布にて手袋を造り、之を以て幼蟲を捻り殺すべし。

三、時々葉下を檢し蛹を搜索して殺すべし、蛹は食葉下に垂下するを常とす。

粉蝶科 Pieridae.

(一)、もんしろてふ Pieris rapae L. (第五圖4)

被害植物 蘿蔔・蕪菁・蕓薹・蔬菜・其他十字花科植物。

特徵 成蟲 體は黑色、翅白色、前翅底の半部及び前緣は灰白、翅端及び稍〻中央にある二紋は黑色、後翅の前緣にも亦一黑紋あり、裏面は淡黃、後翅の前緣は黃色、雄にては前翅中央の二黑紋甚だしく判然せず、時に全く之を缺くものあり、體長六分―六分五厘、開張一寸八分乃至二寸一分。

開張二寸五分—二寸八分。

幼蟲　綠色、第四・第六・第八及び第九節は殆ど暗褐、第五節及び第七節の背上に綠色の二紋ありて小白點を散在す、各節の背上に一雙の疣狀突起ありて短黑毛を生じ、第一節にあるもの最も大なり、頭は前方赤褐、兩側黑色、二突起を具へ、更に少しく縊れたる二個の黃環あり、體長一寸七八分。

經過　年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年す、幼蟲は梢上にありて葉を筒狀に捲き、翌春新芽を食害す、六月下旬乃至七月上旬蛹化す、蛹は黃色にして褐色の雲狀紋と黑色の小紋を裝ふ、頭及び胸部に瘤狀突起を具へ、翅鞘は大にして突出し、第一腹部には黃褐の斧狀突起あり、體長七分、成蟲は七月中旬乃至八月下旬現はる、北海道に普通なる種類にして特に北見地方にありては數十を得ること難からず、多くは雨後道路の水を吸收せんとして來り、平時は河畔の石上に靜止す。

蛺蝶亞科一般の驅除法

一、網を以て蝶を捕ふべし、但し蝶を捕ふるには豫め花圃を設け置き花上に來るものを捕ふべし、又殼斗科植物の樹幹より滲出する液汁を吸收するを以て、此

暗色の斜條あり、頭は褐色、下方廣く上方小にして二突起を裝ひ、之に剛毛あり、體長一寸三四分。

經過　年二回の發生、第一回は五六月、第二回は七八月、第二回のものは第一回のものより翅帶廣し、稍〻老熟したる幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化しついで羽化す、蛹は灰黃色にして形前種に酷似すれども、背上に銀色紋を裝ひ、頭に角狀突起あり、蛹期二週間、卵子は葉下に一個つゝ產下せられ、綠色にして、指冠形をなし、六角形の小室を以て蔽はれ、八日乃至十日間にて孵化す、本邦何れの地方にも普通なり。

(四)おほいちもんじ　Limenitis populi L.（第五圖3）

被害植物　白楊・柳。

特徵　成蟲　翅は暗褐色にして少しく靑色を帶ぶ、白紋及び白帶を裝ふ、前翅の中室に一白紋あり、各室に一個若くは二個の白紋あり、外緣には判然せざる暗色の二橫帶を並行し、其內側に柿色の橫線を有することあり、後翅の中央に一白帶を裝ひ、其外方に柿色紋を橫列し、各其前後に暗色紋を列す、外緣に判然せざる暗色の一帶あり、裏面は柿色、內緣及び外緣は淡き暗綠色、體長七分―八分、

す、蝶は飛翔すること緩漫なるが故に、花上に於て捕獲すること容易なり、蛹は淡褐、背上に於ける龍骨様の突起は高し、兩側には褐色の綾様紋を具へ横皺多し、翅鞘の部分は甚だしく突出す、長さ五分五厘、札幌地方に普通なる種類なり。

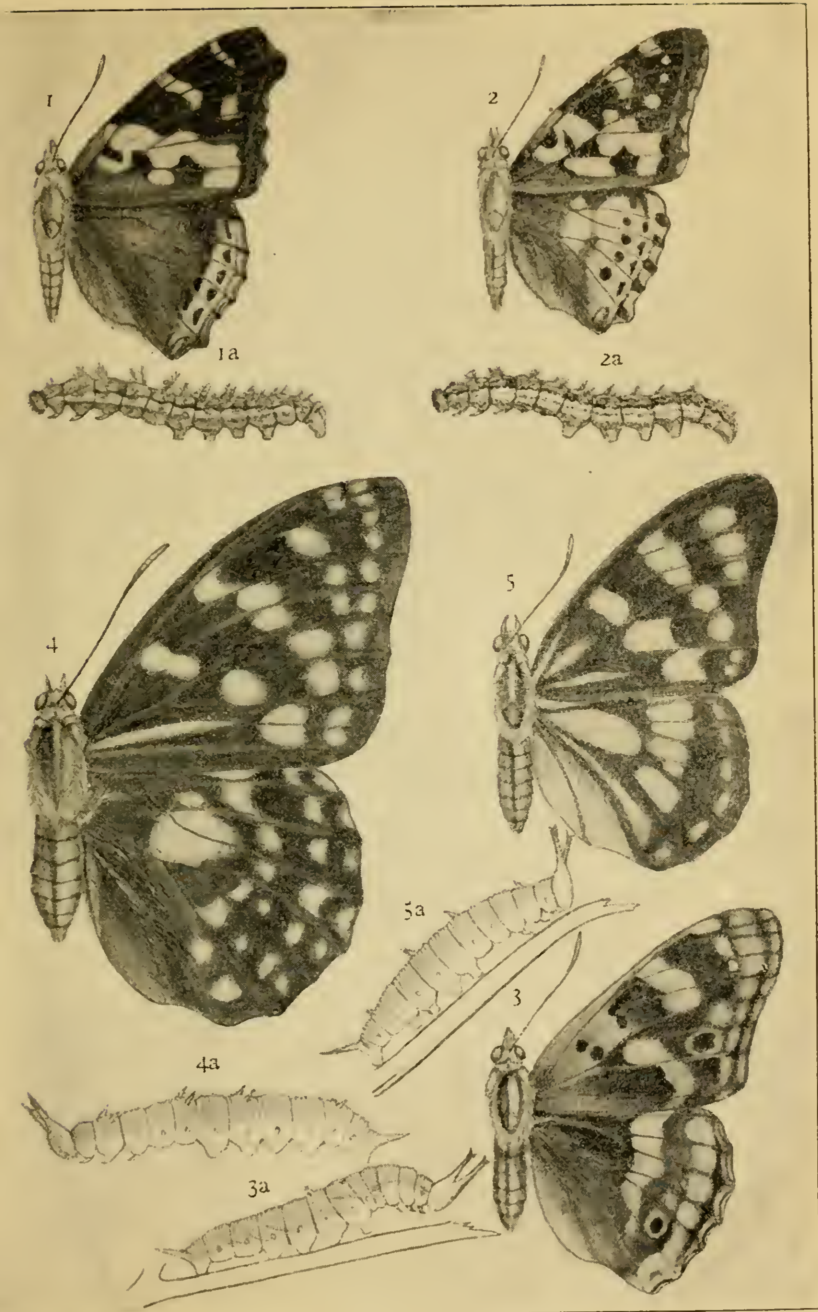
(三)こみすぢ　Neptis hylas L. (*Neptis aceris* F.) var. intermedia Pryer. (第五圖2)

被害植物　萩。

特徴　成蟲　翅は黒褐、前後兩翅を貫く三條の白帶あり、第一は中室にありて二分せられ、第二は後翅の三分の一の處を斜走し前翅の白紋に連續す、第三は後翅の三分の二の處にありて六個の白紋列より成る、第二及び第三帶の間並に外縁に近く判然せざる灰色の一横帶あり、體長四分—五分、開張一寸四分—一寸八分。

幼蟲　初めは褐色、判然せざる疣狀突起を具へ、頭に二角狀突起あり、第三齡後は體に三雙の栓狀突起(第二・第三及び第十一節)を生ず、其中前方にある二雙は棘狀をなし、後方にあるものは後方に向ふ、第三節にあるもの最も大なり、第五節に二個の肉狀突起あり、背線は白色、第三節より(第六七節に於ては脚の處迄延長す)第十一節に跨りて鞍様の白色若くは灰綠の斑紋あり、此斑紋の兩側に

第四圖



第　四　圖

1. Pyrameis indica Herbst.　あかたては (P. 24)
   a. 幼蟲
2. Pyrameis cardui L.　ひめたては (P. 26)
   a. 幼蟲
3. Apatura ilia Schiff. var. clytie Schiff.　こむらさき (P. 26)
   a. 幼蟲
4 Sasakia (Euripus) charonda Hew.　おほむらさき (P. 27)
   a. 幼蟲
5. Diagora (Hestina) japonica Feld　ごまだらてふ (P. 29)
   a. 幼蟲

多かるべし、卵は綠色にして球形、葉裏に產下せらる、蛹は垂蛹にして樹枝其他葉裏に垂下す、淡綠にして側扁、頭に二個の角狀突起あり、各節の兩側に白斜條を裝ひ、全面に白粉あり、長さ一寸一分、北海道にありては柳及び楡をも食すれども、本州にありては單に朴を食す、

(三)ふたすぢてふ *Neptis coenobita* Stoll (*Neptes lucilla* F.) var. magnata Rühl. (第五圖1)

被害植物 こごめばな(珍珠花)・えぞはぎ。

特徵 成蟲 翅は黑褐、二條の白帶あり、第一は中室にありて細く、三線と一線とよりなり前後翅を貫く、中央帶は廣くして七紋より成り、前翅の五紋に連續す、前緣角に近く三白紋あり、前翅裏面の中室には數個の白紋を裝ひ、後翅の外緣に近く弦月形の白紋列あり、體長五分―六分、開張一寸五分―一寸八分。

幼蟲 赤褐、背線は暗色、第二・第三・第五及び第十節の背上に各二個の褐色棘狀突起あり、又各節の兩側に暗色の斜條あり、淡色線によりて限界せらる、氣門上線は黃色、腹面は淡色、黃色の小紋を散在す、頭は黑褐、小黃斑あり、體長一寸三四分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春六月乃至七月蛹化し次て羽化

ども誤なるを以て玆に訂正す。

蝶　亞　目

(二)ごまだらてふ Diagora (Hestina) japonica Feld.（第四圖5）

被害植物　朴・榆・柳。

特徵　成蟲　翅は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、前翅に三列の淡青白紋横列し、內方にあるものは四個にして大に、中列に五個、外列に三個あり、翅底に二三條の白線を縱走す、後翅の中室・中央の横紋列及び內緣は淡青白、尙外緣にも白色の小紋列あり、體長七分―乃至八分、開張二寸三分―二寸六分。

幼蟲　綠色にして「こむらさき」の幼蟲に酷似すれども、頭部に於ける角狀突起は長く、上方三分の二は黑色にして其末端に至り二分す、尙第七節の背上には二個の後方に向へる黃色の棘狀突起あり、第五及び第十節の背上にも亦小突起あり、體長一寸三四分。

經過　年二回乃至三回の發生をなす、幼蟲の有樣にて樹枝上に越年し、翌春新芽を食す、第一期の成蟲は五月下旬、第二期は七月下旬乃至八月中旬、第三期は九月中旬より十月上旬、北海道及び東北地方にありては二回の發生にして、第一期は七月上旬、第二期は八月下旬乃至九月上旬なり、臺灣にては發生回數更に

被害植物　朴・楡。

特徴　成蟲　翅は黑褐色にして白色及び黄色の大紋を散在す、雄にては翅底の大半紫藍色にして其上に白色の斑紋あり、雌雄ともに後翅の內緣角に紅赤紋を裝ふ、雌にては翅の裏面帶綠黄色なれども、雄にては銀色を帶びたる部分あり、體長一寸一分—一寸五分、開張二寸五分—三寸五分。

幼蟲　體は綠色、黄白色の小顆粒紋散在し、白毛を裝ふ、頭及び尾節に二個の角狀突起ありて頭部にあるものは大なり、尙第二・第五・第七及び第十節に各二個の突起あり、老熟すれば體長二寸餘に達す。

經過　年一回の發生、前種に同じく幼蟲の狀態にて樹幹の空隙もしくは落葉下に越年す。六月乃至七月中旬に蛹化し、蝶は七月中旬より八月中旬迄目擊し得べし、常に高く飛翔すれども、時々櫟・楡其他殼斗科植物より流出する樹液を吸收せんとして下り來るを以て捕獲し得べし、卵は球狀にして稍〻球狀を呈し、網狀溝あり、常に數十相集合して枝もしくは葉裏に產附せらる、九月頃より幼蟲を見得べし、蛹は綠色にして側扁、頭部に一個の角狀突起あり、體長一寸五分。

附言　拙著千蟲圖解第四卷百四十七頁に此の幼蟲は竹を食すと記したれ

紋列あり、第二室にある一紋の中央は黑色、雄は光線の工合により美麗の紫色を現はす、雌は紫色を帶ぶることとなし、體長七分―八分、開張二寸―二寸三分、原種は略、同樣の斑紋を有すれども、其色澤は灰白なり。

幼蟲　體は綠色、黃色の顆粒突起を散在す、頭の前端に角狀の二大突起を裝ひ、末端は黑色なり、初めの四節に二條の黃色縱線あり、第六節より第十節迄各節の兩側に黃色の斜條あり、各節の接合部は黃色、尾端の突起は赤黃、腹部及び脚は少しく靑色を帶ぶ、頭は綠色、老熟すれば一寸三四分に達す。

蝶亞目

經過　年一回發生し、幼蟲の有樣にて越年す、翌春潛伏處より出で新芽を食害す、五月下旬乃至六月上旬蛹化し、二週間を經て羽化す、卵子は一個づゝ葉下に產下せらるゝものにして、綠色若くは黃綠色をなし、圓柱形にして縱隆あり、蛹は淡綠色にして各節の接合部は黃色なり、成蟲は七月中旬頃より現はれ、櫟・檞其他楡の如き樹幹より出づる液汁を吸收す、早朝道路の馬糞若くは牛糞上に靜止し、其液汁を吸收することあり、晝間は高く飛翔し時々下り來るを以て、これを待ちて捕獲し得べし、本邦何れの地に於ても普通なり。

〔10〕**おほむらさき**　Sasakia (Euripus) charonda Hew.　（第四圖 4）

（八）ひめたては　Pyrameis cardui L.（第四圖2）

被害植物　同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども小形なり、前翅三分の一は黑褐、後翅底の半部は暗褐、外半は柿色、三列の黑紋ありて其内方に更に一個の暗褐紋を裝ふ、前種よりも更に多き種類なり、體長六分乃至七分、開張一寸九分。

幼蟲　暗褐、背線黑色、亞背線黃色にして斷續す、氣門下線は太くして黃色疣狀をなす、氣門の後方に各一個の黃紋あり、腹面は淡赤褐、白色の短毛を粗生す、各節の刺は前種に似れども黃色、第二節及び氣門上に於ける刺は暗黑なり、頭黑色、顆粒狀の突起を具へ之より白毛を生ず、體長一寸四五分。

經過　同前、卵子は鷄卵形にして綠色を呈し、縱隆條を有す。

（九）こむらさき　Apatura ilia Schiff. var. clytie Schiff.（第四圖3）

被害植物　柳・白楊。

特徵　成蟲　翅は黑褐、中室は柿色、之に四個の黑紋あり、第二室に柿色の二紋を具へ、外側にあるものは其中央に黑褐紋を裝ふ、尙各室に二個若くは三個の柿色紋を有す、後翅の中央に柿色をなせるく字形の横帶を具へ、外緣には柿色の

蝶亞目

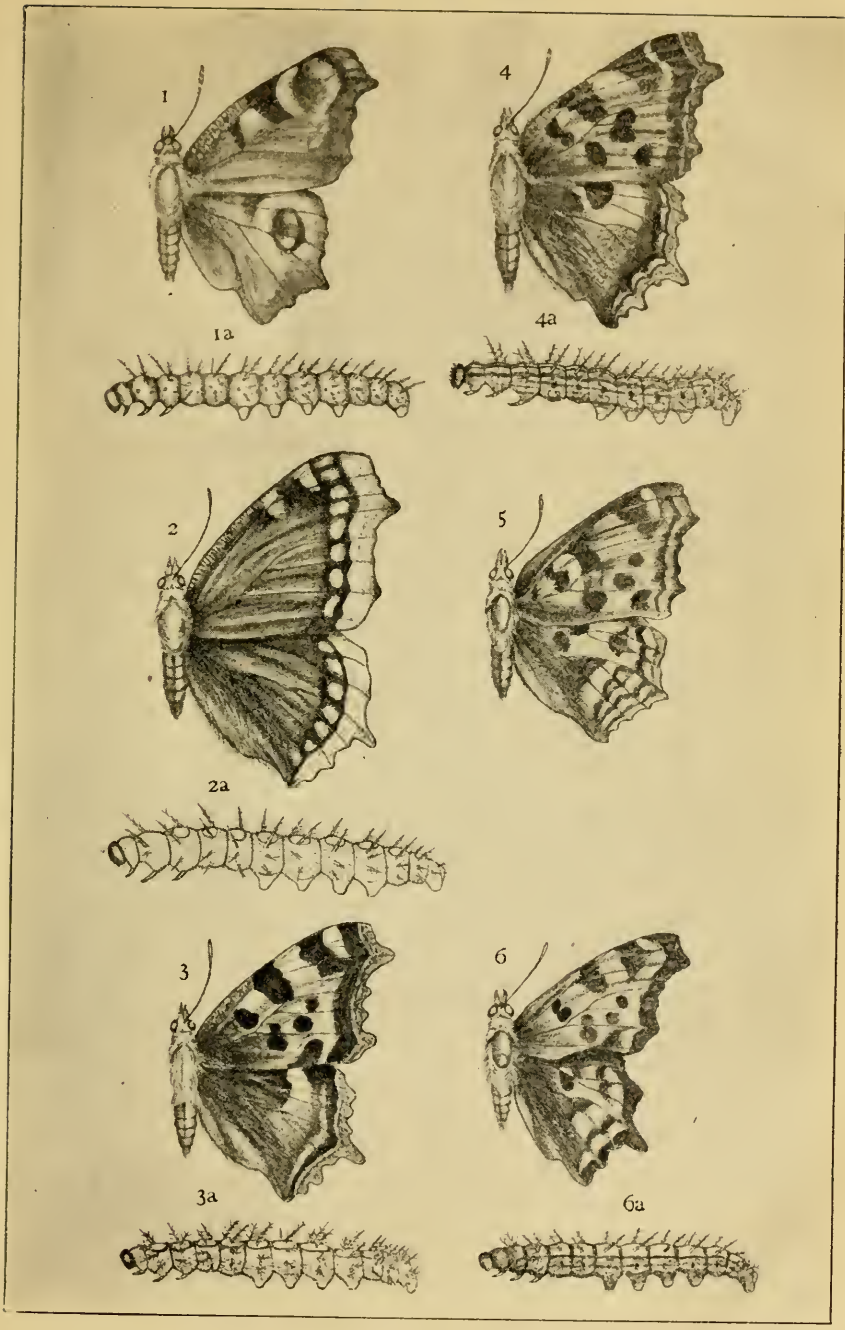
被害植物　苧麻・黃麻・ラミー其他纖維植物。

特徴　成蟲　前翅前緣角の二分の一は黑色にして、之に數個の白紋を裝ふ、中央に柿色の大紋を具へ、其内に三個の黑紋あり、翅底及び後緣は暗褐、後翅は暗褐、外緣は柿色、之に黑紋の二列あり、體長七分乃至八分、開張一寸七分乃至二寸。

幼蟲　灰黑、二個の黃色背線ありて斷續す、氣門上下線は黃色にして、上線は斷續す、腹面は黃褐、少しく赤色を混じ、中央に暗色の縱線を裝ふ、氣門黑色、周圍黃色、各節に六個乃至七個の有枝の刺ありて、背線及び氣門上下線にあるものは黃色、他は暗色、頭黑色、白色の顆粒突起を有し、之より暗色毛を出だす、脚は黑色、體長一寸五分。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春葉裏に產卵す、卵は楕圓形、暗綠にして淡色の網狀溝あり、六月中旬老熟す、蛹は灰色若くは褐色にして二列の棘狀突起を具へ、中に其金色を呈するものあり、胸背の中央に一個、兩側に各二個の稜狀突起あり、此他にも尙小突起あり、蛹は尾端を以て葉下に垂下す、第二回の幼蟲は十月中旬老熟し、次で蛹化し羽化すること前の如し、蝶は九月上旬現はれ、黃昏路上に瞳を負ふもの普通なり。

第參圖



第　　參　　圖

1. Vanessa io L.　　くじやくてふ　(P. 19)
   a. 幼蟲
2. Vanessa antiopa L.　　きべりたてば　(P. 20)
   a. 幼蟲
3. Vanessa L—album Esp.　　えるたてば　(P. 21)
   a. 幼蟲
4. Vanessa xanthomelas Esp.　　ひをどしてふ　(P. 22)
   a. 幼蟲
5. Polygonia c—aureum L.　　きたてば　(P. 23)
6. Polygonia c—album L.　　しーたてば　(P. 23)
   a. 幼蟲

るもの及び其外側にあるものは大なり、外縁廣く黑褐、後翅に三紋を裝ひ、外縁に近く二條の平行せる黑褐の波狀帶あり、裏面は暗黃色、褐色若くは黑褐の綾樣紋を裝ひ、後翅には白色のC字形紋あり、體長六分、開張一寸六分—一寸八分。

幼蟲　初めは暗綠、頭及び刺毛は黑色、成長すれば褐色、初めの六節は背上に於て赤黃殘部の各節は灰白、刺毛は白色及び黃色、兩側にあるものは體色に同じ、頭は暗色にして刺毛ある二突起を裝ふ、體長一寸一分—一寸二分。

經過　年二回、稀に三回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春新芽に產卵す、卵子は青綠色、楕圓形にして上面は平たく、縱溝あり、蛹は赤褐色にして褐紋を裝ふ、後胸背に銀色紋ありて深く凹陷せり、頭突起は平たく切斷狀に終はる、秋季發生するものは變種にして、之を var. hamigera Butl. と云ひ、外縁の凹凸更に一層深く、後翅の外縁は廣く天鵞絨樣の褐色にして、其中央に五個の黃色紋を裝、ふ、裏面は暗褐なり、本邦に普通なる種類にして、晝間は楡其他櫟・楢・栬・槲等の殼斗科植物の樹幹より出づる液汁を吸收し、黃昏路上に喧を負ひ、翅を開閉するの性あり。

（七）、あかたてば　Pyrameis indica Herbst.（第四圖1）

（五）きたてば　Polygonia c-aureum L.（第三圖5）

被害植物　大麻・葎草。

特徵　成蟲　翅は柿色、暗黑紋を散在す、後翅の第二・第三及び第四室に黑褐の眼狀紋を具へ、其中央は青藍色、裏面は淡黃褐色、褐色の小波狀紋多く、前翅の中央に褐色圍を有する三紋を裝ひ、後翅の中央には金色のC字形紋あり、體長六分、開張一寸八分—二寸。

幼蟲　余は未だ幼蟲を見たることあらざれども、しーたてばに酷似すと云ふ。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春新芽に集合して卵子を產卵するもの丶如し、夏日發生するものを普通種となし、秋季出づるものは變種にして之を var. pryeri Jans. と云ふ、色は淡色にして斑紋少く、裏面は暗色にしてあまり斑紋判明ならず、本州及び臺灣には普通なれども、未だ北海道に於て之を捕獲せしことなし、臺灣にありては年三回の發生をなす。

（六）しーたてば　Polygonia c-album L.（第三圖6）

被害植物　黃麻・蕁麻・葎草・楡・すぐり・忍冬・榛等。

特徵　成蟲　翅は柿色、黑褐紋を散在す、前翅には約九紋を裝ひ、中室の横脈にあ

札幌地方にありては七月中旬老熟し、八月上旬羽化す、山間に普通なる種類なれども捕獲困難なり、河畔の石上に靜止して暄を負ふもの多し。

(四)ひをどしてふ Vanessa xanthomelas Esp. (第三圖4)

被害植物 楡・朴・柳。

特徴 成蟲 翅は赤黄色、翅線は廣くして黒色、前翅の翅端に近き前緣に黄白紋を裝ひ、外緣に藍色鱗あり、後翅の中央に近く大黒紋を具ふ、外緣は暗褐色にして廣く藍色の弦月紋を連ぬ、裏面は黒褐色にして外半は色淡く、外緣に於ける青紫色の紋は相連りて條をなす、翅緣には凹凸多し、中室には一小黄紋あり、體長六分―六分五厘、開張二寸―二寸四分。

幼蟲 黒色、全面に黄色の小斑散在す、但し氣門に近きものは縱線をなせり、第四節より以下は各節に一褐紋を裝ふ、刺毛は黒色、腹脚は暗赤色、頭及び胸脚は黒色、體長一寸四分。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春新芽に產卵す、卵は球形にして縱橫に溝あり、初め綠色後黒色となる、六月上旬蛹化し次て羽化す、本州には普通なれども北海道には稀なり、歐洲にありては年二回の發生をなす。

方にありては甚だ普通の種類にして、往々全く柳葉を食ひ盡すことあり。

（三）ゑるたては　Vanessa l-album Esp.（第三圖3）

被害植物　柳・楡・樺・すぐり。

特徴　成蟲　翅は柿色、外縁及び斑紋は黑褐、翅端に近く白紋を裝ふ、外縁には判然せざる黄色の二波狀線あり、後翅の前縁に近く一白紋ありて第六及び第七室に跨り、其兩側は黑褐、外縁に黑褐帶ありて第三室の所にて屈折す、其外側は黄色、内側に黄色紋を列す、裏面は灰色、翅底の半部は黑褐、後翅にL字形の白紋あり、體長六分五厘乃至七分、開張二寸乃至二寸二分。

幼蟲　體は褐色、背上に二本の太き黄白縦線あり、但し各節相連續せず、兩側には黄白の綾樣紋あり、氣門黑色、刺毛は黄色にして各數本の黑色枝を出す、脚及び腹面は淡黄褐、頭は褐色にして黄紋を散在し、分枝を有する二刺あり、體長一寸七分。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春葉下に産卵するものゝ如きも卵子は未だ發見したることなし、幼蟲は喬木に住するを以て、其幼蟲の集合性なるや否やを知らず、老熟したる幼蟲の地上を匍匐するを見ることは屢々なり、

の發生を見る、札幌地方に普通なる種類にして莕草の葉を食害することと大なり。

(二)きべりたては Vanessa antiopa L.（第三圖2）

被害植物 柳・白楊・樺・楡。

特徵 成蟲 翅は黑紫色、外緣は黃色、黑褐の小紋を散在す、其內側に太き黑帶ありて其中央に藍色の楕圓紋を橫列す、前翅の前緣には黃色の小紋を並列し、外緣に近く稍〻大なる二黃紋あり、裏面は黑褐、黑色の小波狀線を密布す、外緣は白色、黑褐の小紋を散在す、中央には黃色の一點あり、體長六分、開張二寸乃至二寸四分。

幼蟲 黑色にして白色の短毛を粗生す、刺毛は黑く、第二節にあるものは分支す、頭は黑色にして顆粒突起多し、第三節より第十二節迄各一個の黃褐紋ありて第六節乃至第八節にあるもの最も大なり、胸脚は黑色、腹脚は黃褐、體長一寸七分乃至二寸。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春葉下に產卵す、卵子は綠色楕圓形にして縱隆あり、七月より九月に亙り成蟲となりて出現す、壽命長し、札幌地

蝶　亞　目

(一)くじやくてふ　Vanessa io L.（第三圖1）

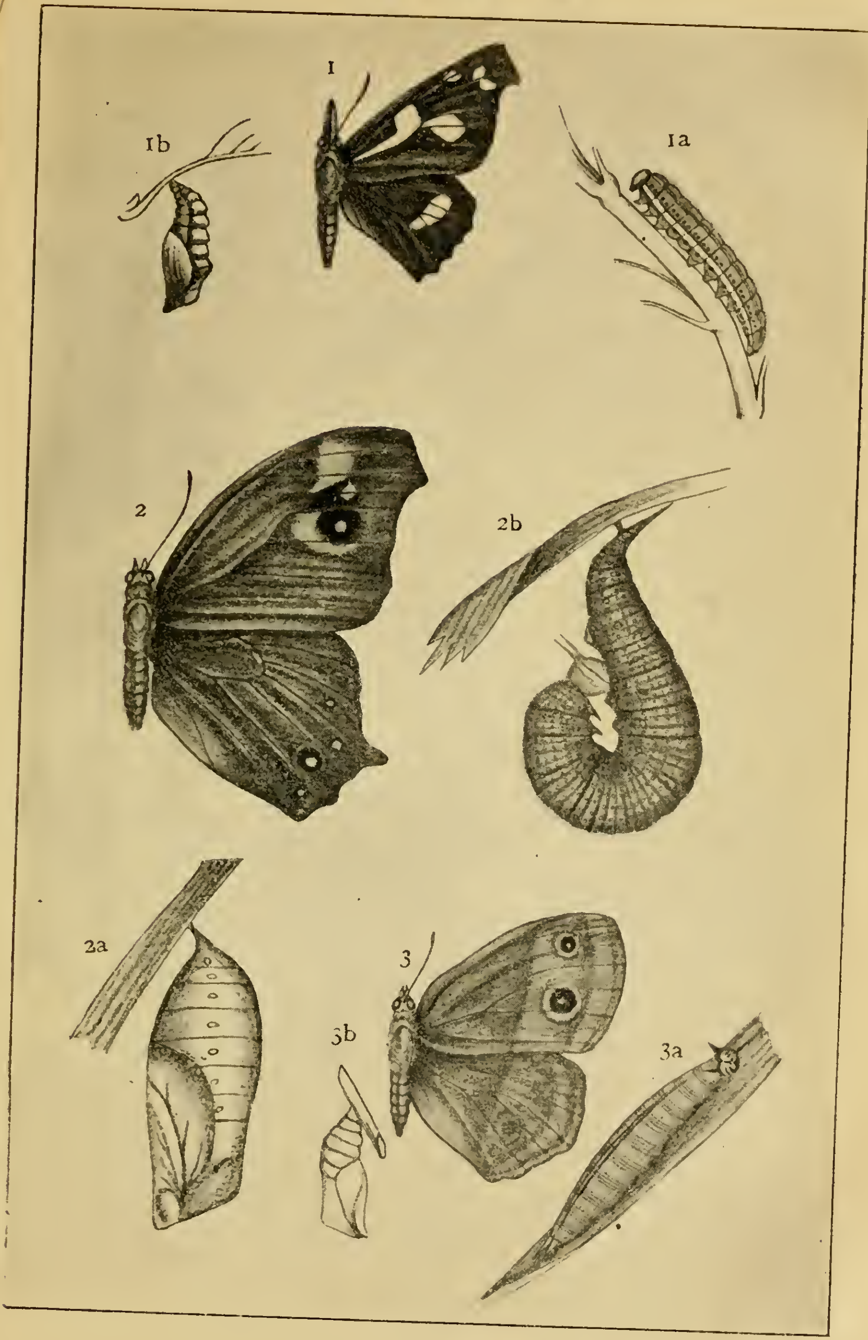
被害植物　葎草蕁麻。

特徴　成蟲　翅は美麗なる朱色、前翅前縁の基部に短黄線を並列す、中室にある一紋及び其外側にある三角形の大紋は黑色、翅端に大なる孔雀紋樣の眼狀紋あり、其内方は黄色、外方は黑色にして靑藍色を混じ、中央は赤褐、上方は黑色、又中央に近く三個の靑白紋を裝ふ、尙第二及び第三室に靑白の一點あり、後翅の外緣に近く大なる孔雀紋樣の黑き眼狀紋ありて、其周圍は廣く暗灰色、中央は靑藍色、其内方に離れて大なる弦月樣の黑褐紋あり、外緣は暗褐、裏面は黑褐、黑色の小波狀線を密走し、後翅の中央には太き一波狀線あり、體長六分、開張一寸九分乃至二寸三分。

幼蟲　黑色、小白點を散在す、腹脚は黄褐、頭及び刺毛亦黑色、體長一寸五分乃至一寸七分。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春食葉に集合して産卵す、卵子は綠色にして饅頭狀に近く縱隆あり、老熟すれば食草に垂下して蛹化す、蛹は褐色にして少しく綠色を帶び、腹部に銀色紋を裝ふ、七月より九月に亙りて成蟲

第貳圖



第　貳　圖

1. Libythea celtis Laich. var. lepita Moor.　てんぐてふ　(P. 15)
   a. 幼蟲　b. 蛹
2. Melanitis leda L.　このまてふ　(P. 16)
   a. 幼蟲　b. 蛹
3. Mycalesis gotama Moor.　ひめじやのめ　(P. 17)
   a. 幼蟲　b. 蛹

も葉を捲くことなし、體長一寸一分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は六月、第二回は八月、經過未だ判然せざるも蛹の有樣にて越年するものゝ如し、蛹は垂蛹にして葉下に垂下す、初めは淡綠にして羽化前には淡黑となる、成蟲は葉に一粒づゝ產卵す、主として竹を食し、稻を害することは稀なり。

附言 之に酷似せるものにて「こじやのめ」(M. perdiceas Hew.)と稱するものあり、其幼蟲は同じく稻及び竹葉を食す、前種よりも少しく小形にして翅に淡色の中央帶を缺き、後翅の表面に一個、裏面に七個の眼狀紋を裝ふ、前種と混同して棲息す

蛇目蝶一般の驅除法

一、網を以て成蟲を捕ふべし、 二、 蛹は葉下に垂下するものなれば注意して搜索すべし 三、 幼蟲は掬網を以て捕ふべし 四、 水田の場合にありては一反步に凡一升位の石油を滴下し、其上に幼蟲を落し込むべし。

蛺蝶亞科　Nymphalinae.

す、腹面は淡色頭は第一二節より大きく、黑褐にして黑條を具へ二突起を裝ふ、尾節には二本の太き刺狀突起あり、全體に短長兩種の白毛あり、體長一寸六分内外。

經過　年發生の回數は判然せず、九州地方にては年二回、臺灣にては春夏秋の三季間何時にても見得るを以てこれを推するに、少くも年四回の發生をなすものゝ如し、成蟲は禾本科植物殊に稻の葉上に一個づゝ產卵す、幼蟲は葉緣に沿うて食害し、老熟すれば尾節を葉に附着し垂下して蛹化す。

(二)、ひめじやのめ　*Mycalesis gotama* Moor.（第二圖3）

被害植物　稻・竹。

特徵　成蟲　翅は暗色、中央に不明の淡色帶あり、前翅に二個の黑色蛇目狀紋あり、其周圍は黃色を呈す、而して下方にあるものは約四倍大なり、後翅の裏面に六個の眼狀紋あり、體長五分乃至六分五厘、開張一寸乃至一寸八分。

幼蟲　淡綠、多數の顆粒突起を散在す、頭は黃褐、兩側に二黑條あり、後頭の中央は黑色、鬼角狀の二突起を出す、其前方は黑色、二條の背線及び各節にある四環線は白色、尾端に葉狀の二附屬物あり「いちもんじせゝり」の幼蟲に酷似すれど

驅除法　蝶は水邊に集まるの性あるを以て網を以て捕ふべし、蛹は綠色なれども、注意すれば發見すること難からず、幼蟲には廿倍液の石油乳劑を用ふべし。

蛺蝶科　Nymphalidae.

蛇目蝶亞科　Satylinae.

（一）このまてふ　Melanitis leda L.（第二圖２）

被害植物　稻・甘蔗・竹。

特徵　成蟲　翅は暗褐、前翅の第三室に大なる黑紋を具へ、其內側に黃色の弦月形紋あり、第四室に白紋ありて其內側は黑色、其上方に黃色紋あり、後翅に四個の眼狀紋を具へ、第二及び第三室にあるものは大なり、裏面は表面より少しく淡色、暗褐の小波狀線を密布す、前翅に四個の眼狀紋を裝ひ、第三室にあるものの大なり、後翅の中央に暗褐の一帶を具へ、外緣に近く六個の眼狀紋あり、第二及び第六室にあるもの大なり、變種甚だ多く、斑紋及び形狀を異にするものあり、體長五分五厘乃至六分、開張二寸四分乃至二寸八分。

幼蟲　體は紡錘狀に近く黃綠色を呈す、背線及び亞背線は濃綠色にして判然

蝶　亞　目

(一)てんぐてふ　Libythea celtis Laich. var. lepita Moor.（第二圖1）

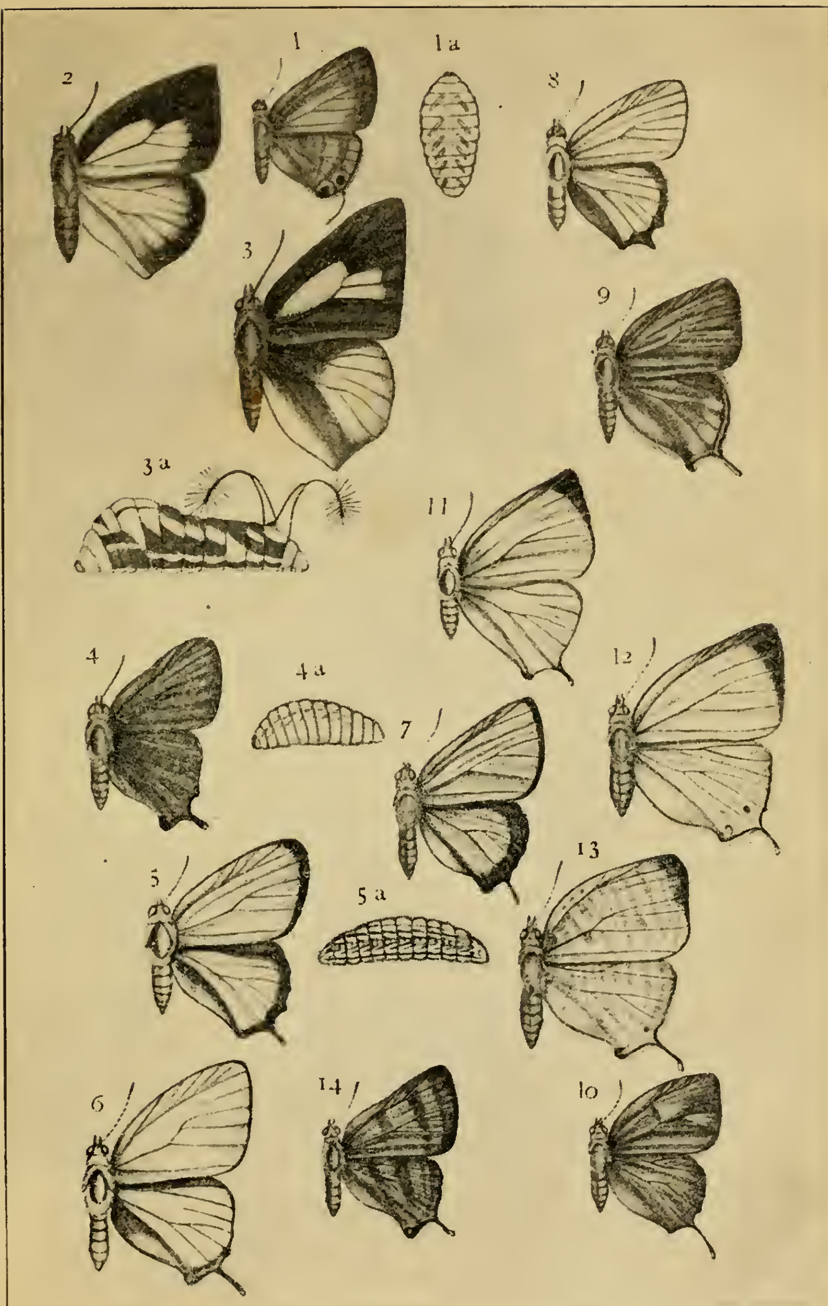
被害植物　朴・李。

特徴　成蟲　翅は暗褐にして黄赤紋を裝ふ、前翅の中央に鍵形の長紋を具へ、其外側に圓形の一大紋あり、第四、第五、第六及び第七室に各一個の斑紋ありて、後三室にあるものは白色なり、前縁角の下方は著しく突出し、鈎狀に下向す、後翅の中央に大横紋ありて內方に細まる、後緣は鋸歯狀をなす、裏面は灰褐にして、斑紋は表面と同樣なれども餘り判然せず、下唇鬚甚だしく延長せるを以て「てんぐてふ」の名あり、體長六分、開張一寸五分。

幼蟲　綠色、頭は褐色若くは黄綠色、小黑紋を散在す、背線は白色、亞背線の處に黑紋を裝ふ、氣門上線は淡紅色若くは紫紅色、氣門は黑色、腹面は淡色、天鵞絨樣の短毛を密生せる爲め「きてふ」の幼蟲に酷似す、體長一寸內外。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春三月頃より現はれ、新芽に一個づゝ產卵す、八月頃より成蟲を見る、時々甚だしく發生することあり、李の葉を以て飼育するを得べしと雖も、野外にありては朴を食するのみ、蛹は初め淡綠なるも、次第に暗色となり、翅鞘緣は淡色なり。

第壹圖



第　壹　圖

1. Lampides boeticus L.　うらなみしゞみ (P. 3)
   a. 幼蟲
2. Arhopala japonica Murr.　むらさきしゞみ (P. 4)
3 Curetis acuta Moor.　うらぎんしゞみ (P. 5)
   a. 幼蟲
4. Thecla w-album Knoch.　からすしゞみ (P. 6)
   a. 幼蟲
5. Zephyrus taxila Brem.　みどりしゞみ (P. 7)
   a. 幼蟲
6. Zephyrus orientalis Murr.　おほみどりしゞみ (P. 8)
7. 　,,　brillantina Stgr.　めすあかみどりしゞみ (P. 8)
8. 　,,　saphirina Stgr.　うらじろしゞみ (P. 9)
9. 　,,　attilia Brem.　みづいろをながしゞみ (P. 10)
10. 　,,　enthea Jans.　をながしゞみ (P. 11)
11. 　,,　jonasi Jans.　むもんあかしゞみ (P. 11)
12. 　,,　lutea Hew.　あかしじみ (P. 12)
13. 　,,　saepestriata Hew.　うらなみあかしゞみ (P. 13)
14. Deudorix (Rapala) arata Brem.　とらふしゞみ (P. 13)

尾狀突起は黑色、末端は白色、裏面は黃白、翅底及び斑紋は暗色、外緣に近く太き三帶を裝ひ、橫脈上に一紋あり、後緣角は橙黃色、四個の黑紋を裝ふ、內緣に二個の黃白斜條あり、體長三分、開張一寸二分。

經過　未だ判然せざれども、蛹の有樣にて根際に越年するものゝ如し、成蟲は五月乃至六月現はれ、第二回の成蟲は七月下旬乃至八月中旬現はる、後者にありては裏面の斑紋褐色なり、之を var. tyrianthina Butl. と云ひ、幽暗なる溪流附近に普通なり、未だ其幼蟲を發見せざれども、成蟲の萩の葉に產卵するを以て見れば、其食草たるや明らかなり。

小灰蝶一般の驅除法

一、網を以て成蟲を捕ふべし、　二、　幼蟲は石油乳劑の二十倍液にて容易に驅除し得べし、　三、　秋季根邊の不要物を集めて燒棄すべし、　四、　花に集まる性ある蝶を誘引するには花圃を仕立つべし。

燕蛺蝶科（つばめひをどしてふ）　Erycinidae.

天狗蝶亞科（てんぐてふ）　Libytheinae.

なす、其外緣に黑色の半環あり、外緣は廣くして濃色、後緣角及び第二室に黑紋を具ふ、其外側に不明なる黑帶あり、體長四分五厘、開張一寸二分乃至一寸三分。

經過 前種と同時に現はれ、同樣の害をなす、「ザイツ」氏の記載によれば、滿洲地方にありては槲を食すれども、其大部は寄生蠅に侵害せられありと云ふ、東京地方には普通なれども、札幌地方にありては前種よりも少し。

(三)うらなみあかしゞみ Zephyrus saepestriata Hew.（第一圖13）

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども、裏面に約九條の黑帶を橫走するを以て容易に區別することを得べし、體長四分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

經過 六月中旬東京地方に普通なる種類なれども、未だ其幼蟲を見たることなし、札幌地方にありては七月中旬に普通なり。

(四)とらふしゞみ Dendorix (Rapala) arata Brem.（第一圖14）

被害植物 萩。

特徵 成蟲 翅は淡き黑藍色、裏面の斑紋を透視し得べし、後翅の後緣角に圓形の附屬突起ありて眼狀紋をなす、其中央は朱色、周圍は黑色、緣毛の一部は白色、

被害植物 槲・楢・柞。

特徴 成蟲 翅は黄赤（柿色）雄の翅端の褐色なるものと然らざるものとあり、後翅の尾狀突起は黑色、其末端は白色、雌にては前翅廣く褐色、裏面は表面より少しく淡色、外緣に近く暗黃の一帶ありて後翅の同帶に連續す、其外側は黑褐、其外緣は淡黃、外緣には不明なる淡色の波狀線を具ふ、横脈上に暗黃の一短線あり、體長四分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

經過 未だ判然せず、成蟲は八月上旬現はる、札幌地方にありては槲林に普通なり、余は未だ幼蟲を見たることなしと雖も、槲の新芽を食することは確實なり

(三)あかしゞみ Zephyrus lutea Hew. （第一圖12）

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に似たれども少しく淡色にして、前翅の末端は褐色、後翅の尾狀突起及び後緣角の二紋は黑褐、裏面は淡色、前翅に四條の白横帶ありて横脈上にある二個は短し・其外側にある二帶は平行して波狀をなす、何れも其間室は濃色、外緣にある一帶は上方に於て判然せず、下方の外側に黑條あり、外緣は濃色、後翅に三條の白帶ありて中央の二帶は平行し、外緣に近きものは波狀を

經過　蛹の有樣にて越年するものゝ如し、幼蟲は新芽を食す、六月上旬頃より蛹化し、六月下旬乃至七月上旬羽化す、東京地方に普通なり。

蝶亞目

(10)をながしゞみ　Zephyrus enthea Jans.（第一圖10）

被害植物　胡桃。

特徵　成蟲　體翅暗黑色、前翅の橫脈上に濃色の一紋あり、其外側は淡色、但し種類により裏面の斑紋の表面に透現することあり、後翅の尾狀突起長く、其末端は白色、裏面は白色外緣は暗色、前翅には約七個の黑紋を裝ひ、翅底に近き二個は大なり、外緣角に近く柿色の小紋二個あり、後翅には四條の紋列ありて、前半にあるものは黑色、後半にあるものは暗灰色、內緣角は柿色にして其中央に二黑紋あり、體長四分乃至五分、開張一寸一分乃至一寸二分。

幼蟲　全體淡綠色にして判明なる斑紋を缺き、老熟すれば六七分に達す。

經過　年一回の發生、蛹の有樣にて越年するものゝ如し、成蟲は七月上旬乃至八月中旬現はる、其發生地にありては日に數十を得ること難からず、本州にては甚だ多からざれども、北海道には普通なり。

(11)むもんあかしゞみ　Zephyrus jonasi Jans.（第一圖11）

經過 年一回發生、經過未だ判然せざれども、幼蟲が槲の葉を食することは確實なり、札幌地方にありて普通の種類なれども、喬木に多きを以て捕獲困難なり、七月上旬乃至中旬に現はる。

(九)、みづいろをながしゞみ Zephyrus attilia Brem. (第一圖9)

被害植物 槲・柞・櫟・楡。

特徵 成蟲 翅は暗褐、緣毛は白色、後翅の外緣に細き白帶あり、其内方に五六個の白紋二列に連なり、尾狀突起は黑色にして長く、其內緣及び末端は白色、裏面は蒼白、暗褐の紋條あり、前翅の横脈に長方形の濃色紋を具へ、其外側にも亦一帶あり、下方に至り少しく內方に屈曲す、其外側に二列の紋列ありて、內方にあるものは短くして第二室に達す、餘り判然せず、外側にあるものは判然し、第一室にある紋は大なり、尚外緣に判然せざる暗色の一帶を具ふ、後翅の中央にV字形の一帶を有し、外側に判然せざる三帶ありて、中央にあるものは紋列をなす、後緣角に二個の橙黃紋ありて、第二室にあるものは中央に黑點を有す、體長三分五厘乃至四分、開張九分乃至一寸。

幼蟲 淡綠色にして背上に黃色の紋條あり。

く黑色、後翅の尾狀突起は少しく短し、裏面は一層濃色、中室の横脈上に暗色の短横條ありて其兩側は白色、後翅の白帶は第七脈の處にて多くは內方に彎曲す、前翅の白帶は廣し、雌は前翅の中央に楕圓形の柿色紋を有す、體長五分、開張一寸三分乃至一寸四分。

幼蟲　銅褐色、背線は暗色、各節の接合部は淡色各節の兩側に淡色の斜條あり、體長七八分。

經過　年一回發生、經過未だ明瞭ならざれども、成蟲は七月中旬より八月中旬に亙りて現はる、其數前者の如く多からず。

(八)、うらじろしゞみ　*Zephyrus saphirina* Stgr.（第一圖 8）

被害植物　槲・枹。

特徵　成蟲　雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、光線の工合にて少しく紫色を帶ぶ、外緣は黑色、後翅にありては外緣は廣く黑色、雌は全面暗色、裏面は灰白にして少しく銀色を帶ぶ、前翅の外緣に近く暗色の二橫帶あり、後翅にも亦三條の暗色帶あれども甚だ明瞭ならず、內緣角及び第二室の末端に黃紋を裝ふ、內緣角及び尾狀突起は暗色、體長四分、開張一寸一分乃至一寸二分。

（六）おほみどりしゞみ Zephyrus orientalis Murr.（第一圖6）

被害植物　槲・楢・枹。

特徴　成蟲　雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、外緣は細くして黑色、後翅の內緣は暗褐、其緣毛は灰白、雌にありては暗褐、前翅の中央に灰色の一斜紋を裝ふ、裏面は灰色、前翅の外緣に接し第二脈に達する太き一白帶を具へ、其外側に暗色の不明帶ありて其兩側は灰白、後翅にW字形の太き白帶ありて其外側に更に三白帶を有し、一は外緣に位す、內緣角及び第二室の一紋は黃赤、後者の中央に黑紋あり、體長四分五厘、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲　余は未だ幼蟲を見たることなし、「グレザー」氏の說によれば、灰色にして暗褐紋を裝ひ、各節の兩側は甚だしく突出すと云ふ。

經過　年一回の發生、六月下旬より八月頃現はれ、前種と同樣の性質を有すれども、詳細なる點に至りては未だ不明、札幌地方に極めて普通なり。

（七）めすあかみどりしゞみ Zephyrus brillantina Stgr.（第一圖7）

被害植物　槲・枹。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、色は少しく濃厚にして、前翅及び後翅緣は廣

翅鞘の部分は暗色、晩秋札幌地方にありて種々の植物に蛞蝓様の幼蟲を見るもの多くは是れなり。

(五)みどりしゞみ Zephyrus taxila Brem. (第一圖5)

被害植物　赤楊。

特徴　成蟲　雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、外緣は黑色、緣毛は白色雌は暗褐、或ものは前翅の中央に淡色紋を有す、種類により中室及び其下方の一紋は瑠璃色を呈することあり、又夏生の雄は瑠璃色の大紋を有す、裏面は暗灰色、前緣の外緣に近く一白帶あり、又外緣には下方擴大せる暗色の一帶あり、後翅には稍〻W字形に近き白紋を裝ひ、後緣角に二個の橙黄紋あり、第二室にあるものは中央に黑點を有す、外緣に近く三條の灰白帶あり、內方の二帶は太けれども餘り判然せず、體長四分、開張九分乃至一寸一分。

經過　成蟲は六月下旬—七月上旬頃より現はれ、二匹相集まりて爭鬪するを見る屢〻なり、余は未だ幼蟲を知らずと云へども「グレザー」氏の說によれば、既に七月より現はれ赤楊の葉を食すと云ふ、幼蟲は綠色にして前種に酷似するものゝ如し、年二回の發生をなす、第二回は八月の中旬に現はる。

懸け踊化す、蛹は綠色にして、翅部淡色、胸背には**スペード**樣の灰色紋を裝ふ、成蟲は八九月頃現はれ、時に道路の馬糞に集まり其液汁を吸收するを見る、臺灣地方にありては河床の濕地に群集することあり、本邦にては其數多からざるを以て未だ害あるを知らず。

(四)からすしゞみ Thecla w-album Knoch.（第一圖4）

被害植物 楡・槭(イタヤ)・苹樹。

特徵 成蟲 翅は黑褐、斑紋を缺く、裏面は暗褐、前翅に近く白色の一橫帶ありて第二脈の處にて少しく曲れり、後翅にはW字形の白帶を裝ひ、外緣には柿色紋を橫列し、各紋の內側に黑色の半環あり、外側には一黑紋を裝ひ、更に其外側に白帶あり、體長三分五厘、開張一寸。

幼蟲 綠色、各節の兩側に白色の斜線あり、體下は淡綠色にして少しく暗褐の小斑を裝ふ、一見蛞蝓(なめくぢ)に似たる所あり、楕圓形にして黑紋を有す、頭は褐色、體長六分乃至七分に達す。

經過 蛹の有樣にて地中若くは地際に越年し、翌春五月頃現はれ、八月頃迄種々の花上に來集す、成蟲は半球狀、赤褐色の卵子を葉下に二個宛產下す、蛹は黃褐、

を帶び、中央に近く濃色の一帶を有し、外緣には濃色紋を一列に連ぬ、前翅の中室に一個、後翅底に近く數個の濃色紋ありて、何れも淡色緣を有す、體長四分五厘、開張一寸。

蝶亞目

(三)うらぎんしゞみ Curetis acuta Moor.(第一圖3)

被害植物 藤。

特徵 成蟲 雌雄により彩色及び翅形を異にす、翅は黑褐にして、雄にては中央橙紅色、雌にては青白色、但し雌にては此紋小なり、又後翅の前緣及び外緣は灰白、裏面は銀白色にして小黑點を散在す、雄にては前翅の前緣角雌の如く突出せず、體長四分五厘乃至五分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲 暗綠色、頭は小にして黃褐、口部は紅褐、背線は暗綠色、亞背線は白色、各節斜走するを以て連續せず、初めの數節は膨大し、第十一節の背上には二本の管狀突起ありて其末端は暗褐、刺戟を與ふれば紫黑色にして末端白色の總毛悉く突出す、體長五、六分(名和氏に據る)。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春一個づゝ產卵す、卵子は菊花狀をなし灰綠なり、幼蟲は黃綠にして背面銀色を帶び、老熟すれば胸部に一条を

特徵　成蟲　雄の翅は藍紫色を呈し、外緣暗色、緣毛灰白、後翅の內緣に灰白の軟毛を密生し、後緣に二個の黑藍紋あり、尾狀の一附屬物を出だす、雌の翅は暗色、前翅の中央は紫藍色を呈し、後翅の外緣に近く灰白線あり、翅の裏面は灰色にして七個の白色波狀線あり、體長四分、開張一寸一分。

幼蟲　體は綠色、稀に褐色のものあり、背線は赤褐、兩側に濃綠の斜條を並列す、氣門線は灰白、頭は小にして褐色、躰は短大にして稍〻紡錘狀に近く、背上は穹狀に膨大す、脚は小にして步行の狀は蛞蝓（なめくぢ）に似たり、體長六分。

經過　本邦にありては年二回の發生をなす、卵子の有樣にて越年し、翌春孵化し、豆莢內に入りて其種子を食害し、老熟すれば葉若くは枝上にて蛹化す、蛹は垂蛹なり、七月上旬乃至下旬に現はる、九州地方には稀ならず、小笠原島には普通なり。

驅除法　網を以て蝶を捕ふべく、花圃を作り之を誘引するを可とす。

(二)、むらさきしゞみ　Arhopala japonica Murr.（第一圖 2）

被害植物　血櫧・樫。

特徵　成蟲　翅は黑褐、中室及び其下方の一面は紫藍色、裏面は暗褐にして光澤

驅除法　網を以て蝶を捕ふべし、**がゞいも・いけま**、其他の花に集來するの性あり、又水田一反歩に付豫め一升の石油を注ぎ置き、大なる竹櫛を以て捲葉を梳り、幼蟲を水田に落して死滅せしむべし。

(二)おほちやばねせゝり　Parnara pellucida Murr.（第二百六十九圖４）

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、其異なる所は頭小にして觸角少しく長く、後翅に於ける四個乃至五個の白紋は一列に並列せざることなり、體長五分五厘乃至六分五厘。

幼蟲　前種に酷似すれども、背線は褐色なり。

經過　同前、但し此の種は重に竹葉を食ひ、稻葉を害すること稀なり。

驅除法　同前。

蝶亞目

小灰蝶科（しじみてふ）　Lycaenidae.

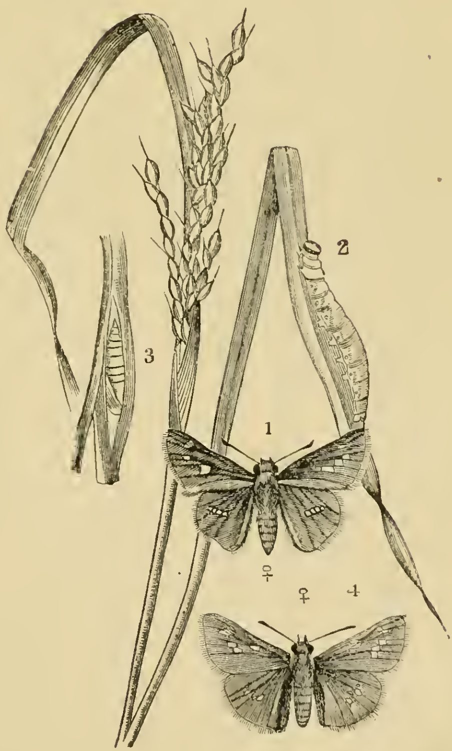
(一)うらなみしゞみ　Lampides boeticus L.（第一圖１

被害植物　いんげん・なたまめ・ふぢまめ。

第二百六十九圖

いちもんじせゝり

(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 蛹
(4) おほちやばねせゝり



經過 東京地方にありては年二回の發生をなす、幼蟲の儘越年し、第一回の蝶は六月、第二回は八月下旬より九月中旬に現はれ、葉上に一個宛卵子を產下す第一回の幼蟲は八月より九月に亙りて稻葉を食害し、第二の幼蟲は普通山間にありて竹葉を食とす、幼蟲は絲を吐き葉を綴りて巢を造り、之より頭を出し食害す、成長すれば嫩葉を綴合して其内に蛹化す、廣く全國に分布し、九州にては三回、臺灣にては四五回の發生をなす。

大日本害蟲全書 後編

理學博士 松村松年著

蝶亞目 Rhopalocera.

挵(せゝり)蝶(てふ)科 Hesperidae.

(一)いちもんじせゝり Parnara guttatus Brem. (第二百六十九圖1・2・3・)

被害植物 稻・竹・蘆。

特徴 成蟲 體翅黑褐、少しく綠色を帶ぶ、前翔には弧狀に並列せる八個の白色半透明紋あり、其第三室にあるもの方形にして最大なり、後翅には四個の白紋を裝ひ一列をなす、體長六分乃至七分、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲 體は淡綠色にして稍〻紡錘狀をなし、小黑紋散在して之より黑色の短毛を生ず、頭は大にして黃褐、兩側に黑褐色の長短二縱線を裝ふ、體長一寸餘。

大日本害蟲全書　目次終

膜翅目

食葉類

目次

目次

目次

一五　ひめくろおとしぶみ
一六　いねざうむし
一七　いねのあかざうむし
一八　ありもどきざうむし
一九　おほくちかくしざうむし
二〇　やなぎしりじろざうむし
二一　おほざうむし
二二　まつのきぼしざうむし
二三　まつのおほざうむし
二四　りんござうむし
二五　あいのざうむし
二六　おほごばうざうむし
二七　ごばうざうむし
二八　こふきざうむし
二九　ちびあをざうむし
三〇　りんごあをざうむし
三一　りんごこふきあをざうむし
三二　りんごひげながあをざうむし
三三　おほあをざうむし
三四　ふさすぐりざうむし
三五　まつのとびざうむし
三六　あしながざうむし
三七　れゐすざうむし
三八　ちやいろこふきざうむし
三九　うすあをこふきざうむし
四〇　しろこなざうむし
四一　しらほしまるざうむし
四二　あらけざうむし
四三　はひいろざうむし
四四　くすざうむし

三 すもものこしんくひ
五 にれのおほこしんくひ
七 にれのこしんくひ
九 にれのひめこしんくひ
一一 ひばのこしんくひ
一三 おほやちたもこしんくひ
一五 あかえぞこしんくひ
一七 はんのこしんくひ
一九 からまつちびこしんくひ
二一 りんごちびこしんくひ
二三 きいろちびこしんくひ
二五 やつばこしんくひ
二七 からまつこしんくひ
二九 りんごまるこしんくひ
三一 はんのまるこしんくひ

四 うめのこしんくひ
六 みつとげこしんくひ
八 ゆみばらこしんくひ
一〇 ひのきのこしんくひ
一二 やちたもこしんくひ
一四 とどまつこしんくひ
一六 ひめあかえぞこしんくひ
一八 とどちびこしんくひ
二〇 くはちびこしんくひ
二二 すぎちびこしんくひ
二四 ひのきちびこしんくひ
二六 まつかはこしんくひ
二八 くすまるこしんくひ
三〇 くはまるこしんくひ
三二 まつまるこしんくひ

目次

鞘翅目

長角亞目

微翅目

目次

大日本害蟲全書 後編

目次

各論

蝶亞目

一、卷尾に學名、和名及び害蟲の食物の索引を附し搜索に便ならしめたり、又食物の索引の章には太字を以て學名及び和名を記載し、本邦に於ける重要害蟲と比較的重要ならざる害蟲とを區別し置きたり。

一、本書の圖畫は東北帝國大學農科大學助手大國督氏の健筆に成るものなれば爰に謝意を公表す。

東北帝國大學農科大學
昆蟲學教室に於て

大正三年十二月

理學博士　松村松年識

例言

一、本書には本邦產蝶類に屬する害蟲四十五種、蠅類に屬する害蟲五十九種、甲蟲類に屬する害蟲三百十種及び蜂類に屬する害蟲四十二種、合計四百五十六種を記載せり。

一、本書には著者の所藏せる害蟲の全部を說明せり、但だ二三の害蟲編に記載せる害蟲にして學名調査のなきもの若くは其地位の判然せざるものは玆に記載せず、他日其判明するの時を待ちて發表すべし。

一、本書には臺灣產害蟲の重要なるものを記載せり。

一、本書に挿入せる圖版の總數は廿八枚、以て害蟲の代表者を網羅し得たるを信ず、唯だ同屬に係るものにして圖畵により其識別に困難なるものは省畧せり。

理學博士
農學士松村松年著（後編）

大日本害蟲全書

東京
合資會社六盟館

理學博士
松村松年著

大日本害蟲全書

後編